小川、橋本、ゴーバー登場!『ハッスル1』とは何か!?

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

紙のプロレス RADICAL

70
2004

厳窟王、威風堂々と復活!
独占インタビュー
ミルコ・クロコップ

『PRIDE・男祭り』で大ブレイク
2004年の主役を徹底特集!!
近藤 有己

桜庭戦、ホイス戦の実現なるか!
2・4には高阪剛戦が決定!!
田村 潔司

サクを破った最強の遺伝子
次の標的に近藤有己を指名!
A・ホジェリオ・ノゲイラ

さらば剛力! 引退記念インタビュー
ゲーリー・グッドリッジ

マット界の視聴率キングが
K-1 MMA本格開戦宣言!
谷川 貞治

空前のドタバタ三昧『猪木祭り』
大混乱のすべてを明かす!

堀辺正史&ターザン山本が
大晦日格闘技戦争を徹底検証!

ついに発表!
紙プロ大賞2003
語録で振り返る2003

ストーンコールド来日決定!!
WWE『RAW』上陸直前濃密情報

ヴァーッとクァーッと
健介ファミリー勢揃い!
佐々木健介&北斗晶
with
健之介くん&誠之介くん

なんとでも言ってくれ! 俺は逃げない!!

紙のプロレス RADICAL 2004 NO. 70

俺たちはハッスルする!!

発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

格闘技世界大戦前夜!!

CRO COP

現代のアレクサンダー大王
威風堂々の東方遠征

2・1PRIDE.27 & 2・15PRIDE武士道 連続出場か!?

独占インタビュー

ミルコ・クロコップ

「征服」
CONQUER

今、私の辞書には
この言葉しかない!

聞き手/堀江ガンツ　撮影/乾晋也
designed by hisa（Two Three）

MIRCO C

プロ失格？ 万全の状態で出るのがプロだろう

ミルコ・クロコップ、2・1『PRIDE・27』に出場！

『猪木祭り』の"ドタキャン"騒ぎで、ある意味、大晦日決戦の裏主役的な話題を振りまいたミルコ。その後、代理人を努めていたミロ・ミヤトビッチ氏を解雇し、電撃的なフリー宣言を行った彼が選んだリングはやはり『PRIDE』だった。

聞きたいことは山ほどある。しかし、トレーニングも佳境を迎えた試合前、しかも国会議員となり多忙を極めるミルコだけに、なかなか連絡がつかず、一時はインタビュー不発かと思われた。それでも、関係者の協力によって、締め切り直前になんとかミルコと電話を繋いでもらうことに成功！

待望のミルコ・クロコップ独占インタビューをお届けします！

—ミルコさん、お忙しいところすみません！ 2・1『PRIDE・27』に出場が決まったということで、インタビューよろしくお願いします。

ミルコ　OK。ただし、申し訳ないが、短めにしてくれないか。あまり時間を奪われたくないんだ。

—わかりました。では早速お聞きします。昨年、選挙に当選して、クロアチアの国会議員になられたそうですけど、やはり生活は大きく変わりましたか？

ミルコ　ああ、もちろん変わったよ。一番の違いとしては非常に忙しくなったことが挙げられる。これは議員になる前から予想はしていたことだが、まだ慣れていないこともあり面食らった部分はあるね。だから今は、練習時間をなるべく多く取るために、時間のマネージメントにとても気を配っているよ。

—国会議員になったことでファンが一番の心配しているのは、政治活動が試合に影響を及ぼさないかということなんですけど、その点はいかがですか？

ミルコ　今でも私にとって最も大事なのは厳しいトレーニングをすることであり、リングで闘うことだよ。だから政治活動によって、試合に影響が及ぶような状況には絶対にしたくない。ただ、国会議員になり忙しくなったことで、以前と比べ脳みそが常にフル回転しているような、無駄を省くために集中力が増しているような、適度な高揚感があるので、今のところ逆にいい影響を与えてくれているように感じるよ。

—では、試合まで2週間を切りましたが、現在の状態はいかがですか？

ミルコ　いまプーラ（クロアチア南部の都市）でキャンプを張り、調整の最終段階に入っているんだが、仕上がりには満足している。早く闘いたい。自分の中にアドレナリンが充満しているのを感じるんだ。

1月7日付のサンケイスポーツ一面には、ミルコのサインが入った代理人ミロ・ミヤトビッチ氏への絶縁状が公開された。それにしても、格闘家がマネジャーを解雇しただけで一面とは異例の事態。ミルコのバリューは急速に巨大化している。

—今回の対戦相手はロン・ウォーターマンですが、彼と闘おうと思った理由は何だったんですか？

ミルコ　誰でも良かったんだが、『PRIDE』側から何人かの候補が出され、ビデオを見てすぐに決めた。

—ウォーターマンの印象は？

ミルコ　力が強そうだね。

—それだけですか（笑）。何か作戦はもう立てているんですか？

ミルコ　………私の試合を見ていないのか？ 自分の距離を保って、打撃でKOする。それだけだ。

—し、失礼しました！ 今回はウォーターマン戦のあと、2・15『武士道』にも連続出場する可能性もあるという話を聞いて驚いたんですが、なぜ連戦を考えたんですか？

ミルコ　試合の中でコンディションを作っていきたいと思ったんだ。ただ、それは2月1日が1ラウンド決着で怪我がなければの話。とにかく目の前の一戦に集中する。

—大晦日の『イノキボンバイエ』を欠場する要因となった背中のケガの状態はもう大丈夫なんですか？

ミルコ　年末から治療に努めていたので、もう問題はない。そもそも『イノキボンバイエ』の欠場を決意したのも、自分にとって最も重要な2004年のシリーズに向けて大事を取ったということなんだ。だからこそ、ドクターストップというものに、今回初めて従う気持ちになった。今まではドクターの指示をこんなに素直に聞いたことはなかったが、息子が生まれ、国会議員としての責任が加わり、そしてミノタウロに一瞬の隙を突かれて逆転負けをした直後でもあるという、今までになかった状況下で違和感を感じたので、ドクターストップに従ったんだ。

—しかし、『イノキボンバイエ』を直前でキャンセルしたことによって、一部ではミルコさんに対して、「逃げた」とか「プロ失格」といった声が上がっているのですが、それについてはどう思いますか？

ミルコ　プロ失格？ 万全の状態を見せるのがプロじゃないのか？

—まぁ、そう言われると「ごもっとも」としか言いようがないんですが（笑）。

ミルコ　それに私のどこに逃げる理由があるんだ!? 逃げるわけがないだろう。まぁ、でも色々なメディアを見たけど、（『イノキボンバイエ』は）大変だったらしいね、他

ミルコが参戦回避した『猪木祭り』には、宿命のライバル、ヒョードルが参戦。2年前にミルコが同じく『猪木祭り』で闘った「新日本プロレス最強の男（日テレ認定）」永田と対戦。ミルコの21秒には及ばないが、62秒で完勝した。それにしても2試合合計83秒の永田って一体……。

ヒョードルvs永田戦は寸分狂いなく予想通りだった

人事のようで申し訳ないけど。

――ホントに他人事みたいですね（笑）。日本では「そもそも高山善廣とやるつもりはなかったんじゃないか」というような憶測も飛んでいるんですけど、その辺りはどうなんでしょうか？

ミルコ　闘う気はあったよ。自分が「プロレスラー・ハンター」と呼ばれていることは知っているし、日本のプロレスラーでもっとも活躍しているのは彼だということは聞いていたから、プロモーターが対戦を組みたがるのもわかるしね。

――では今後、再びこのカードが組まれたら闘うつもりはありますか？

ミルコ　もちろんある。彼はガッツがあるし、前へ前へ出るアグレッシブな闘いぶりも悪くない。ただ、それが私に通用するかどうかは別の話だ。

――もうひとつ。PRIDE王者ヒョードルが、ミルコさんの代理人であったミロ・ミヤトビッチ氏と契約を結び、『イノキボンバイエ』に出場したことについてどう思いますか？

ミルコ　（ミロには）グッドラックといいたい。彼との関係はフィニッシュだ。私とヒョードル両方の代理人になるなんて話はやはり誰が聞いてもありえないよ。ヒョードルはミノタウロと同様、私の最大のライバルじゃないか。その彼の代理人も努めるなんて、いったいどちらの味方をするつもりなんだ？　ライバル同士の代理人が同一人物なんて考えられないだろう。

――そりゃそうですよね（笑）。ヒョードル選手の『イノキボンバイエ』での試合はごらんになりました？

ミルコ　見たよ。

――感想は？

ミルコ　予想通り。見る前に考えていた展開と寸分の狂いもない。

2・1『PRIDE.27』でのミルコの対戦相手は、日本ではまだ無敗のウォーターマン。20キロ以上の体重差に加え、ノゲイラを遥かに上回るテイクダウン能力を持つだけに、ミルコにとっては最も苦手とするタイプだ。はたして、この試練を乗り越えることはできるのか？

――そうですか（笑）。ちなみに大晦日には3大会あったわけですけど、全部ビデオでごらんになったんでしょうか？

ミルコ　まだ全部は見ていない。

――曙vsボブ・サップ戦はご覧になりましたか？

ミルコ　その試合は見た。やはりこれも予想通りの結果だったね。たった一ヶ月の練習で通用するほど、K・1は甘いものじゃない。たとえ相手がボブだとしてもね。でも、相撲の頂点を極めた人間が、新たにK・1に挑戦するという勇気は手放しで敬意を表したい。会ったことはないが、彼のそういった姿勢に対しては共感すら覚えるよ。

――ああ、ミルコさんも同じように、K・1から総合に挑戦したわけですもんね。では、2004年を迎えて、ミルコさんの今年のプランをお聞きしたいんですけど。

ミルコ　PRIDEの頂点に立つ。それだけだ。

――それはやはり、PRIDEヘビー級グランプリ優勝宣言ということですか？

ミルコ　もちろん。

――でも、ミルコさんは『K・1ワールドGP』のようなトーナメント制度を批判していましたよね？　だから、すんなりグランプリに出るというのはちょっと意外だったんですけど。

ミルコ　勘違いしてもらっては困るが、私はトーナメント自体は否定していない。1日に3試合も行うことをナンセンスだと言っているんだ。だから今回のPRIDE・GPは、決勝こそ2試合しなければならないが、それまでは1大会で1試合。しかも、2ヶ月に一度のペースというのだから、自分にとってはベストの試合間隔。私のための日程なんじゃないかとも思うよ（笑）。だから必ず優勝してみせる。もちろん、ノゲイラへのリベンジもここで果たすつもりだ。

――やはり、ノゲイラ戦での敗北というのは、それだけミルコさんに大きな影響を与えたということですか？

ミルコ　もう気持ちの切り替えはすんでいるが、試合直後は、正直言って例えようがないくらいのショックを受けたよ。間違いなく自分が勝っていた試合なんだ。しかし、1Rで決着をつけられずに、2Rでミスを冒した。それがすべてだ。同時に1Rに私の攻撃であれだけダメージを負いながら逆転した彼の技術と精神力に敬意を表したい。ただ、次は120％私が勝つよ。もう二度とリング内で一瞬たりとも気を抜いたり、相手をみくびることは二度とない。そう息子の寝顔に誓ったからね。それを証明するためにも、必ず『PRIDE』を征服してみせるよ。

――「征服」ですか。

ミルコ　そうだ。いま私の頭には「征服（Conquer）」、この言葉しかないよ。これは古代マケドニアの英雄、アレクサンダー大王が好んで使った言葉であり、私の最も好きな言葉でもある。私の野望はこの一言に集約されているんだ。

――わかりました。では、2・1ロン・ウォーターマン戦、そしてその後の『PRIDEヘビー級GP』での活躍期待しています！

「PRIDEを征服する」

ノゲイラ戦後、国会議員にまでなったクロアチアの英雄は、自らを"征服王"アレクサンダー大王に例え、力強くそう宣言した。『PRIDEヘビー級GP』とは、まさにミルコにとっての東方遠征。かつてオリエントを征服し、大帝国を築いたアレクサンドロス同様、ミルコもグランプリを制することで、格闘技界の大王に君臨するのか？　2004年もやはり、ミルコ・クロコップから目が離せない！

「征服」はアレクサンダー大王が
好んだ言葉であり
私の最も好きな言葉でもある

世界の強豪16人の熾烈な潰し合い!
『PRIDEヘビー級GP』日程発表!!

4月25日 さいたまスーパーアリーナ（予定）GP開幕戦
6月20日 さいたまスーパーアリーナ（予定）GP準々決勝
8月 さいたまスーパーアリーナ（予定）GP決勝

ヒース・ヒーリング vs ガン・マッギー

山本宜久 vs マーク・ケアー

生き残るのは誰だ!?
シ烈なヘビー級GPサバイバル戦開催!!

イゴール・ボブチャンチン vs ダン・ボビッシュ

LA ジャイアント vs セルゲイ・ハリトーノフ

2・1『PRIDE.27 凱旋』は

PRIDEヘビー級グランプリへの序曲だ!

中村和裕 vs ドス・カラスJr.

柔道vsルチャ異次元スーパーマッチ

ミルコ・クロコップ vs ロン・ウォーターマン

体重差23キロ！ 欠場明けのミルコは大丈夫か!?

ムリーロ・ニンジャ vs アレクサンダー・大塚

久々登場のアレク、超難敵に挑む

ヒカルド・アローナ vs ディーン・リスター

アブダビ頂上対決実現か!?

©BookerK

関西の皆さん、今度こそミルコが来ます！

PRIDE.27 凱旋 大阪城ホール

2004年2月1日（日） 開場:14:00 開始:15:00

［チケット］

VIP［専用入場ゲート、グッズ付き］100,000円

RRS:30,000円 スタンドS:17,000円 スタンドA:7,000円

［問い合わせ］DSE 03-5464-1531

今年開催される『PRIDE』ヘビー級GP。その序曲となるサバイバルマッチが『PRIDE.27』で行われ、常連ファイターからニューフェイス、そして地獄から這い上がってきた男——〝今年の主役〟を狙う強豪たちが続々と参戦！

まず、『PRIDE』常連ファイターからは、ボブチャンチン、ヒーリングが出陣。ボブチャンチンは〝マグマの遺産〟ボビッシュとの豪腕対決に臨むが、ヒーリングは、UFCのガン・マッギーと対戦する。マッギーは2メートルを超える長身ストライカーで、UFC王座にも挑戦した経歴を持つ実力者。この一戦は、『PRIDE』とUFCの看板を懸けた闘いでもある。

〝大巨人〟はマッギーだけではない。ZERO-ONEのリングから、身長210センチのLAジャイアントが登場。この大巨人はLAボクシングジムで練習に励んでおり、「柔術が得意」と豪語。対するのは、〝ロシア軍・最強〟と呼ばれる現役軍人ハリトーノフ。昨年の『武士道』で日本白星デビューを飾っているロシアン・トップチームの秘密兵器は、「ヒョードルを超える逸材」と、パコージンが太鼓判を押す。

そして、マニア最大の注目は——〝霊長類最強〟と呼ばれた男——マーク・ケアーの約3年振りとなる『PRIDE』復帰戦だろう。ケアーはアメリカで放送された自身のドキュメンタリー作品で、〝薬物依存〟に苦しみ、肉体ばかりか精神をも崩壊した姿をさらしていた。地獄からの生還即サバイバル戦と道は険しいが、観る側からすればこれほどドラマ性に溢れた闘いもない。ケアーはGP出場権だけではなく、人生をも懸けてヤマノリに挑むのだ。ミルコの二連戦プランに目を奪われがちだが、GPの〝生き残り〟を懸けてそれぞれがシノギを削ることになった大阪の陣だけに、4月に火ブタが切って落とされるGPを占う意味でも見逃せないと言えるだろう。

2・15PRIDE武士道 其の弐
日本vsシュートボクセ
3vs3全面対抗戦決定!!

見せろ、火事場のクソ力!
リアルプロレスラーが王者に挑む!!

美濃輪育久 vs ヴァンダレイ・シウバ

グラバカの火薬庫が初参戦
予告通りシュートボクセ狩りに挑む!!

郷野聡寛 vs マウリシオ・ショーグン

3人目の日本代表は
前・修斗王者、五味隆典か!?

五味隆典 vs ジャドソン・コスタ

日本人を食い尽くす気か!
シウバ軍団上陸!!

過酷な2連戦強行!?
ミルコの出場も濃厚!

マッハが初の"グレイシー狩り"敢行!!

桜井
マッハ速人 vs ホドリゴ・
グレイシー

リトアニア武士道初参戦!

滑川康仁 vs エギリウス・
ヴァラビーチェス

日本ヘビー級の秘密兵器
横井宏考がサバイバル戦に出陣!!

DEEPvsパンクラスミドル級王者対決!!

上山龍紀 vs ヒカルド・
アルメイダ

本戦以上のカードが出揃った!

PRIDE 武士道

其の弐

横浜アリーナ

2004年2月15日（日）

［チケット］

VIP［専用入場ゲート、グッズ付き］50,000円

RRS:23,000円

スタンドS:13,000円

スタンドA:6,000円

［問い合わせ］DSE 03-5464-1531

【その他予定カード】

マリオ・スペーヒーvsマイク・ベンチッチ

高瀬大樹vsクリス・ブレナン

「日本vsグレイシー」をコンセプトに開催された昨年10月のに続き、『其の弐』となる今回は、「日本vsシュートボクセ、3vs3全面対抗戦」が決定した。

シュートボクセ軍の大将はもちろんこの男、ヴァンダレイ・シウバが登場！　その相手には、大晦日の『男祭り』でランペイジに惜敗したものの、アグレッシブな闘いで沸かせた美濃輪育久が抜擢された。

美濃輪にとってシウバは、ミルコと並んで「最も闘いたい」と公言していた相手。願ってもないビッグチャンスが『PRIDE』2戦目で早くも巡ってきた格好だ。その美濃輪にシウバ戦への意気込みを求めたところ、帰ってきた答えは、一言。

「神風！」

……………言葉の意味はよくわからんが、とにかく凄い自信だ！　はたして美濃輪は、神風特攻隊のように玉砕してしまうのか、それとも神の守りにより奇跡を起こすのか？　火事場のクソ力に期待したい！

続いて、かねてから「ニンジャ、ショーグン狩り」を宣言していたグラバカの郷野聡寛が希望通りショーグンと対戦。そしてもう一試合、ジャドソン・コスタの相手は「X」と発表されたが、本誌は前・修斗ウェルター級王者、五味隆典と交渉中という情報をキャッチした。五味は群雄割拠のこの階級でも、「国内最強」との呼び声が高い実力者。実現すれば格闘技ファンの注目を集めることは確実だ。

さらに、締め切り直前に入って来た情報によれば、「3vs3」以外にもマッハvsホドリゴや、上山vsアルメイダのDEEPvsパンクラス王者対決、日本ヘビー級の切り札・横井宏考の参戦といった、たまらないカードを続々プランニング中。おまけにミルコの参戦までありえるのだから、これはもう『PRIDE』本戦以上だ。というわけで、関東近郊在住のファンは、横浜に全員集合！

YUKI KONDO

12・31『PRIDE男祭り』でBTTの首領(マリオ・スペーヒー)に完勝!!

シウバを倒すのはこの男かもしれない!!

パンクラスライトヘビー級王者、『PRIDE』マットで鮮烈デビュー!! かねてから『PRIDE』への出場が期待されていた近藤有己が大晦日の『PRIDE男祭り』に満を持して参戦。ブラジリアン・トップチームの首領マリオ・スペーヒーと闘った近藤は得意のヒザでドクターストップに追い込み、文句なしの勝利! 試合後、あらためてシウバとの対戦をブチあげた近藤を直撃!!

聞き手/橋本宗洋　構成/松澤チョロ　撮影/森“モーリー”鷹博　designed by matsu (Two Three)

パンクラス　ライトヘビー級王者

近藤有己

——大晦日は見事な勝利でしたね。

近藤　ありがとうございます。

——相手のスペーヒーはブラジリアン・トップチームのボスみたいな存在ですけど、近藤さんはオファーが来て即決したって感じだったんですか?

近藤　そうですね。まあいろいろ考えもしましたけど。

——それは、どういう要素で?

近藤　勝てるかなって(笑)。

——で、「勝てるだろう」と?

近藤　まあ、勝てる可能性もあると。

——ちなみに、対戦相手は何人か候補がいたりしたんですか?

近藤　あったり、なかったり(微笑)。

——どっちだよ!(笑)。でも、スペーヒーって体重は100キロ近いわけじゃないですか。その辺は気になりませんでした?

近藤　やっぱり、それもありますけど、今回は自分の挑戦っていうだけじゃなくて、パンクラスの挑戦っていうのがあるなっていうのは感じてて。ただ自分がやりたいっていうだけで試合して、結果が出なくてどっちらけじゃダメだなっていうのは自分なりに考えてました。

——負けて「勉強になりました」では済まないっていうような。

近藤　そうですね。

——ジョシュ戦ともちょっと違う感じだったんですか?

近藤　ジョシュ戦は、ボクが気づかないところっていうか、終わってみたら意外とボク1人の問題ではなかったなと(微笑)。

——昨年の菊田戦2回と今回のスペーヒー戦でパンクラスのロゴTシャツを着てきたっていうのも、その辺が関係してるんで

「シウバと打ち合ってみたい。
ボクは打たれるつもりは
ないんですけど（笑）」

すかね？

近藤　菊田戦の時は、なんとなくですね（微笑）。ただの絵作りです。

――絵作り！（笑）。「パンクラスを背負う」って気持ちは？

近藤　そう思われるふうな感じで（笑）。ただ今回に関しては間違いなくそう（パンクラスを背負う）ですね。

――近藤さんにとって、パンクラスを背負うって、どういう意味があるんですか？

近藤　正直、自分で背負い込むっていうよりも……みんなが背負わせてる（笑）。

――ダハハハハ！

近藤　言葉が凄いマズいッスね（笑）。その……自分が「俺に背負わせろ」っていうもんじゃなくて、自然にそうなるものっていうか。ボクがいくら「背負いたい」って言っても、ペーペーのなんでもない選手だったら、誰も注目しないだろうし、誰も背負ってると思わないですから。ボクがどう思うかより、そういうふうに見られることがパンクラスを背負うっていうことだと思いますね。だから、ボクは背負いこんで重いっていうことでもないんですよね。

――試合そのものは、いかがでした？　攻められてるところも含めて近藤さんの試合だったなって感じがしたんですけど。倒されても〝ケツで立ってる〟状態にしても、タックルをガブッてのパンチにしても。

近藤　そうですね。体重差っていうのも感じなかったですね。「あ、こんな感じか」っていう。

――12キロ差でも普通にできたと。

近藤　もっと力の差を感じるのかと思ったんですけど、それはなかったですね。ボクの中では、10何キロ差っていうのは体重差ではないっていうところまでいけたなっていうのはありましたね。

練習内容ですか？　ismとボクシングと、あとはサーフィンです

――凄えなぁ。『ＰＲＩＤＥ』って体重が10キロ差以上あると4点ポジションの打撃の有無を選択できますけど、迷わず……。

近藤　（遮って）迷わずっていうか、『ＰＲＩＤＥ』に出るみたいな話になった時に、北岡（悟）と「4点ポジションっていうのがあるんだよね」って話になって。「有りに決めると客がワーッてなって、やらないとショボいと思われる」って言うから、「じゃあやるしかないっしょ」って（笑）。

――自分の武器が増えるって考えではなかったんですか？

近藤　練習でもやったことなかったんで。不安もあったんですけどね。

――でも、結局それで勝ちましたからね。

近藤　だから終わった後「4点ポジションにして良かったね」って言って（笑）。

――近藤さん、ここにきての成長ぶりが凄いですよね。昔は「寝技が苦手」って言われてたのが、菊田、スペーヒーと連勝して「柔術系に強い」ぐらいのムードになってきてますからね。

近藤　そうですね。あのタイプには、いま自信ありますね。だから、今度は打撃系の選手とやってどうだろっていうのがありますね。意外と打撃系の選手との対戦がずっとないんですよ。

――あ～、そうですよね。

近藤　そこで、いかに違う自分の力が出せるかっていうのが試されてくるなと。

――成長度合いって話だと、ちょっとずつ上がってきた感じですか。それともここ半年ぐらいで一気にきた感じで？

近藤　まあ、去年、一昨年から、ちょっとずつは上がってるんですけど。去年は一段グッと上がったような感じがボクの中でもしますね。自分の中の意識も変わっていったし。選手として一段レベルアップ……みんなレベルアップはしてると思うんですけど、その中で、ちょっと伸び盛り（笑）。

――10年やってまだ伸び盛り（笑）。

近藤　それは感じましたね。

――意識が変わったっていうのは、どの辺なんですか？

近藤　試合の要所要所のところですね。あんまり面白い話じゃないんですけど……。

――大丈夫です（笑）。

近藤　このポジションを取らせるか取らせないか、テイクダウンをさせるかさせないかとか、腕一本差すか差させないかっていう、ホント細かいところの意識ですね。いままでは結構「まあいいや」ってのがあったんですけど（笑）。

――以前は組まれてポジション取られて負けるパターンもあったし、勝つ時もポジション取られまくって、倒されまくっても逆転っていう形が多かったですよね。それが最近は「テイクダウンさせない」「ポジション取らせない」に変わってきましたし。その辺の独特な技術は誰かから習ったものなんですか？

近藤　まあ、自分なりの研究と……それ以上は聞かないでって感じですね（微笑）。

――練習はｉｓｍとボクシングと……？

近藤　そんなもんです。あとサーフィン。

――サーフィンは趣味っていうより練習としてやってるんですか。

近藤　遊びですけど、「練習だ」って言った方が聞こえがいいじゃないですか（笑）。

――なんだそれ（笑）。でも実際役立つことはあるんですか？

近藤　ありますね。結局、ヘタなんで、うまくいかないことが多いんですよ。そうすると、「なんでうまくいかないか」っていうことを考えるんで。

――気持ちの部分での練習っていうか。

近藤　ｉｓｍの練習だと、もう、うまくいかないことがなくなっちゃうんですよ。後輩と練習することも多いし、ケチョンケチョンにやられるとか、そういうことがないんで。でもサーフィンに行くと、ケチョンケチョンにやられて、うまくいかないっていうことが凄く多いんで、なんでうまくいかないかを考えますよね。それが凄い大きいですね。

――『ＰＲＩＤＥ』は会場のムードもお客さんの数も凄いですし、この間の『男祭り』は地上波のゴールデンで放送されたわけですけど、そういうのは意識しました？

近藤　そうですね。感じますけど、いわゆるプレッシャーとかにはならないですね。お客さんがいっぱいいるから緊張することもないし。テレビに出てるからって緊張することもないですね。リングが広かろうが狭かろうが、やることは一緒なんで。だから何も感じなかったですね。感じないっていうか、感じるけど気にしないっていうか。

――普段会わない人たちと顔を合わせる機会も多かったと思うんですけど、誰かと話されたりとかってしました？

近藤　ほとんどないですね。控室が違ったんで。田村選手とちょっと「お疲れ様です」って言ったぐらいで（笑）。あと試合終わって、シャワー室で会ったときに、お

ワガママなヒザ小僧でマリオを粉砕!!

近藤有己、衝撃の『PRIDE』デビュー

10キロ以上の体重差がありながら、近藤は4点ポイントからの頭部への蹴りを認めたため会場は大歓声。開始直後から執拗にテイクダウンを狙うマリオだったが、近藤は抜群のバランス感覚でなかなか倒されず。なんとかテイクダウンに成功したマリオだったが近藤は逆に腕十字を仕掛けるシーンも。その後、マリオの足関節狙いを凌いだ近藤は、タックルにきたところをがぶって得意のパウンドを繰り出すなど試合は終始、近藤ペース。最後はグラウンドで上になった近藤が強烈なヒザ蹴りを叩き込むとマリオの目尻から大流血。近藤が、なおも顔色一つ変えずヒザやら顔面パンチを放つと、レフェリーがドクターチェックを要請。骨の近くまで傷が達していたためドクターストップが宣告され、近藤が『PRIDE』デビューを飾った

いうのはありましたね。

――あ～、そうですよね

互い勝ってたんで、「おめでとう」「ありがとうございました」みたいな。

――髙田本部長に「お前は男だ！」とか言われませんでした？（笑）。

近藤 なかったですね（笑）。

――今回の勝利は、ファイターとしての実績っていう意味でも、人気っていう意味でも大きかったと思うんですけど、その辺の手応えみたいなものって結構感じます？

近藤 感じますね。今回はいままでになく反響があったんで。ボクの周りもそうですし。たとえばボクの家族の、そのまた周りまで凄い反響があるみたいで。家族の１人１人がヒーローになった、みたいな（笑）。

――家族まで（笑）。

近藤 家族もそれを感じるらしいんですよ。いろんな人から連絡きてるみたいで。

――やっぱり地上波効果っていうのは大きいんでしょうね。急に親戚が増えたりとかしませんでした？

近藤 それはなかったですけど（笑）。ボク自身はあんまり人付き合いも上手じゃないんで、そんなに感じなかったですけど。

――田舎に帰ると特にそういうのを感じるかもしれないですね。

近藤 そうですね。今回、試合が終わってから、会場からそのまま車で実家に帰ったんですよ。

――実家って新潟ですよね？　さいたまスーパーアリーナから新潟まで直で？（笑）。

近藤 はい。特にケガもなかったんで。

――それも凄い話だなぁ（笑）。

近藤 で、実家に帰ったら結構凄いことになってて。いままでも格闘技やってるのを知ってはいるけど、見たことないっていう人がいっぱいいたんで。

――その辺の反響とかは、近藤さんとしては望むところなんですか？

今回は今までになく反響がありました。家族１人１人がヒーローになったみたいな（笑）

近藤 そうですねぇ……。

――そうなりたいなのか、面倒臭いのか。

近藤 どれだけ有名になっても、そっとしておかれるんだったら有名にはなりたいですね。

――基本的にはそっとしといてほしいと。

近藤 な～んにも声かけられないのが一番ですね。ビデオ屋でエロビデオ借りてても、なんにも言われないような（笑）。「あ、近藤」って素振りもされない。

――されますよ、有名になったら（笑）。

近藤 だったらいいです（笑）。

――最近、道で声かけられたりしました？

近藤 ここ最近多いですね。でも……相当愛想悪いですよ（笑）。

――そんなこと断言してどうすんですか（笑）。でも実際、街中で「あ、近藤選手ですよね？」みたいな感じになったらどうするんですか。

近藤 すれ違って、もう過ぎ去ってるのに、「近藤選手！」って言われると、振り向かなきゃいけないじゃないですか。それが嫌でそのまま行っちゃったりとか。

――振り向くのが面倒くさいと（笑）。

近藤 振り向いても凄いふてくされてたりとか。べつにムカついてるとかじゃなくて、苦手なんですよね。

――ああ、反応の仕方が。

近藤 わかんないんで。

――変なとこで声かけられたことはないですか？　それこそエロビデオ借りようとしてる時とか（笑）。

近藤 ありましたよ、昔。

――キャバクラで声かけられたとか。

近藤 キャバクラとかは、別に恥ずかしくないです。

マリオに勝利した近藤は「次はシウバ選手と闘いたいです」とマイクアピール。パンクラス王者とPRIDE王者のドリームマッチの実現はいつになる!?

――なんで!?

近藤 いや、キャバクラとかだと逆に愛想いいですから。

――ダハハハハ！

近藤 それに、ああいうとこって声かけやすい状況じゃないですか。ちゃんと対峙してるから。前、道で肩を突っつかれたことがあったんですよ。そういうタイミング悪いのはダメですね。

――じゃあ、近藤さんにとってメジャーになるっていうのは、どんなものですか？

近藤 ……まあ、やっぱりパンクラスをメジャーにすることですね。自分がメジャーになることで、パンクラスをホントの超メジャーにしていきたいっていう。

――じゃあ、ファンの存在っていうのは？

近藤 感謝ですね。

――声さえかけてこなければ感謝すると（笑）。そういうチヤホヤされることで充実感を感じる人もいると思うんですけど。

近藤 自分はダメですね。「近藤選手ですか？」って言われるじゃないですか。「じゃあお前、誰だよ？」って思うんですよ。

――お前も名乗れと（笑）。

近藤 ホントですよ。でも１回凄い律儀な人がいて、駅のホームでいきなり名刺出してきて「こういう者なんですけど、近藤選手、応援してます」って。

――礼儀正しいですねぇ（笑）。

近藤 凄い礼儀正しくて。「関係者の人かな？」と思ったら普通のファンで（笑）。

――じゃあ今度から、近藤選手に声をかける人は名刺持参で（笑）。

近藤 そうですね（笑）。

――これからメジャーになっていくと、そうい面倒くさいことって、いろいろ増えてくると思いますけど、その辺はどう考えてます？　いろんな番組に出たり、「きっかけ

はフジテレビ」ってやらされるかもしれないですけど（笑）。

近藤　大事なことだと思いますね。ファンの受け答えっていうのも、やっぱり大事なことだと思いますね。そんな言うほど大変だと思ってるわけじゃないですけど。

――クイズ番組とか、バラエティー番組とかも機会があれば。

YUKI KONDO

近藤　出ますね！　……お声がかかればですけど（笑）。ボクでよければ出ますよ。

――そうなんですか。絶対「嫌だ」って言うと思ってましたよ。

近藤　あ、ホントですか？

――いろんな意味で討って出る感じになってるんですね。

近藤　そうですね。

――そういう意味では、菊田さんは『FLASH』に撮られちゃったこともありますけど（笑）。

近藤　あぁ、そういうのもありますね（笑）。

――菊田さんの場合は彼女がアイドルだったっていうのも大きいと思うんですけど、そういう可能性も出てきますよね（笑）。

近藤　それは……それは、ちょっとツライですねぇ（笑）。

――でも、そういうことを除けば人気とか知名度が上がるってことはいいことだと。

近藤　それはもう、そうですね。絶対いいことだと思います。見てくれる人がどんどん広がっていくと思うし、やっぱり自分らのやってることを見てもらいたいですから。コアな世界で終わらせたくはないですね。……結構、いいことやってると思うんですよ（笑）。

――ダハハハハ！　もっと自信持って言ってくださいよ（笑）。

近藤　だから、知らない人はもったいないと思うんで。そういうところでもっと知ってもらいたいっていうのはありますね。

――その辺は自信がついてきたからなんですかね……3、4年前って、そういうこともあんまり気にしてなかったような気がするんですけど。

近藤　そうですね、あんまり。

――その変化っていうのはどこから出てきたんですか？

近藤　見られることの自分の中の位置付けみたいなものが明確になってきたっていうか。見られる側として、何をするべきかみたいなことが、結構明確化されてきて。そ

うすると、じゃあ何を提供するべきかっていうのがわかってきて。

――さっき「いいことやってると思う」って言ってましたけど、格闘技のどの辺がいいもんだなって思います？

近藤 やっぱり闘いの部分ですかね。街中でケンカしてるのとは訳が違うんで。合法なんで、思いっきり闘えるし殴れるじゃないですか。そういうとこですね。一番近いようで、なかなか遠い世界じゃないですか。

――ケンカにしてもそうはないし、ましてとことんまで殴り合うってのは……。

近藤 ないですよね。そういう意味でも遠いし。そのリングに憧れて、その舞台に立つっていう意味でも、やっぱり遠いと思うし。技術と身体を磨き抜いた究極の闘いっていうか。人間が究極の力を出し切るのを見れるっていうのも、格闘技の凄くいいところだと思うんですよ。

――「シウバとやりたい」っていう発言も、「見られる」ことへの意識の変化から出てきたものなんですか？

近藤 そうですね。やっぱり、求められてるものに応えたいし、面白く自分自身もやりたいし。みんなにも「面白いな」って思ってほしいっていうか。面白いことを、「楽しいな」って感じる世の中にしたいっていうか（笑）。

――世の中まで変えていきたいと？（笑）。

近藤 格闘技が凄い盛り上がって、自分の好きな選手がいて「これとこれが試合したら楽しいな」っていうことって結構あると思うんですね。それがもっと広まれば。

――そういうのって、きっかけは最初に船木さんに勝った時じゃないですか？ 勝った近藤さんに対する反応が少なかったんで「どうすれば認められるんだ」ってずっと考えてきたのかなって思ったんですけど。

近藤 あの時は「考えてるふう」でしたね（微笑）。考えてるふりをしてるだけで、特に悩んでもいないんですよ（笑）。

――ダハハハハ！ じゃあ、ホントに最近っていうか、ここ1年ぐらいなんですね。

近藤 そうですね、そういうふうに思うようになったのは。

――あとはホントに「シウバとやってみたい」っていう自分自身の興味で？

近藤 そうですね……やっぱ打ち合いですよね。

――まあ、最近そういう打撃戦ってなかったですもんね、近藤さん。

近藤 打ち合いというか、まあ、ボクは打たれるつもりはないんですけど。かわして打つっていう。やっぱり経験っていうか。想像の中の世界じゃ強くなれないから、体感しなきゃいけないんで。

――大会の後に榊原代表も「確実に1歩前進した」みたいなことは言ってたんで、もう近いんじゃないですか？

近藤 そうですね。

――近藤さん的には、もういつでもOK？

近藤 はい。

――2月の『武士道』はシウバも出るみたいですけど、そのタイミングでも可能性があるということですか？

近藤 そうですね、なきにしもあらず。なきにしもあらずんば……。

――虎児を得ずと（笑）。スペーヒーに勝ったことで、トップチームからもマークされはじめたみたいですよ。ホジェリオやブスタマンチも闘いたいって言ってたみたいだし。やっぱり向こうは親方がやられてるわけですからね。その辺の選手との対戦っていうのはどうですか？

近藤 わかりました。

――わかりました！（笑）。

近藤 やるつもりでいます。郷野選手も言ってましたけど、ブラジリアン・トップチームとの対抗戦って形も面白いですね。

――パンクラス対トップチームですか？

近藤 はい。今回こういう結果で、トップチームに目を向けさせたっていうのも大きいなって思いますね。いままでだったら無視されてたかもしれないところなんで。

――榊原代表いわく、近藤さんとは複数回出場契約を結んだっていうことなんですけど、そうなんですか？

近藤 知らないです（笑）。契約云々はまったくわかんない。

――「出ろ」って言われた時に……。

近藤 いや、「出ろ」とはもう言われないですけど。

――ああ、「やる？」って感じで言われるんですね（笑）。

近藤 そうですそうです。

――ああ、「出ろ」じゃなくて「やる？」って言われた時に考えると。

近藤 そうですね（微笑）。

――希望ってあるんですか？ このぐらいまで休んで、いつ頃試合とか。

近藤 まあ、2月いっぱいはなしで。3月以降だといいなと思うんですけど。

――そこも変わりましたよね。前は適当に「いつでも大丈夫ッスよ」とか言ってたじゃないですか。ちゃんとその辺のプランニング、コンディション作りもちゃんと考えるようになったなっていう。

近藤 いや、最近、弱腰なんです（微笑）。

近藤、お前は男だ!!

12.31 マリオ戦で着用したパンクラスTシャツをサイン入りでプレゼント!!

『PRIDE男祭り』での入場時、そして今回の撮影でも着用したパンクラスロゴ入りTシャツを1名様にプレゼント！ もちろん、近藤選手のサイン入りだ！ 宛先はP159参照ッ!!

――そんなことはないでしょうけど（笑）。

近藤　ちゃんと準備期間が必要だなって感じるようになりましたね。

――それだけ大事な試合をこれからやってくんだっていう。

近藤　そうですね。いまは約1ヶ月で2試合して、ちょっと疲れてるんで。その現状をしっかり見て、それをちょっとずつクリアしながらやっていくっていう。年間365試合っていうのが自分の目標なのは変わらないんですけど。

――じゃあ春ぐらいまでには1試合。

近藤　はい。

――今年は外に討って出るっていうのが大きなテーマになりますか？

近藤　まずはシウバとの対戦を実現させる、そしてそれに勝つという……それですよね。それを半年以内に。その後はわかんないです（笑）。

――わかんないですか（笑）。

近藤　やっぱりジョシュ・バーネットにもう1回挑戦しないと。それぐらいですね。

――シウバ戦も半年以内で考えてるんですね。前哨戦とかなしで？

近藤　ボクの一存では決められないですけど、ボクはもう次はシウバ戦をお願いしたいですけどね。そこはどうなるかこれからの話し合いになってくるんで。まあ、シウバが試合を受けてくれるかもあるし。

――近藤さんは「ダブルタイトル戦にしてもいい」みたいなことを言ってましたよね。

近藤　そうですね、でもシウバが元々その体重じゃないんで、無理矢理落として云々っていうのもあれじゃないですか。だから、別にそこまでは考えてないですけど。

――自分のイメージでシウバに勝つパターンっていうと、どんな感じですか？

近藤　勝ちパターンは、シウバのパンチを避けれて、ボクがパンチを入れる。相手のパンチが来る前に自分のパンチが入れば勝てますね。負けるパターンっていうのは、相手のパンチを避けれない（笑）。

――シンプルですね（笑）。結構その辺は細かくシュミレーションしてそうなるんですか？　それとも大雑把なイメージで？

近藤　まだ大雑把ですね。それに、いまのところ五分五分ぐらいなんで（笑）、これから煮詰めていきたいな、と。

――シウバ戦も楽しみですけど、他にも『PRIDE』でしか闘えない選手っているじゃないですか。桜庭選手であったり、田村選手とか。過去には闘いたい相手として、その2人の名前を挙げたこともありますけど、日本人対決っていうのは意識してませんか？

近藤　そうですね、いまはあんまり意識してないですけど、そういうふうになったら面白いな、とは思います。

――吉田選手とかも？

近藤　そうですね、そういうチャンスがあれば、バンバン闘ってみたいです。

――よく言われる、日本人とは闘いたくないみたいな感覚っていうのは、近藤さんは全然ないんですか？

近藤　（即座に）ないですね。

――「同じ日本人の顔は殴れない」みたいな感覚は……。

近藤　ないですね（キッパリ）。たとえば、自分の親父がリングに上がってきたら、思いっきり闘いますね。

――マジで!?

近藤　ボッコボコにしてやりますよ（笑）。

――何か帰省中に嫌なことでもあったんですか（笑）。

近藤　いや、そういうんじゃないですよ。嫌なことがあったから、それを晴らすために闘うわけじゃないんですよ、自分のスタンスとして。だから相手が親父だろうと関係ないっていう。

――それだけ闘いは純粋な世界だと。

近藤　そうです。たとえば自分に子供ができたとして、そいつが大人になってリングで向かい合ったら、全然気にしないで殴れるぐらいのつもりですね。

――ダハハハ！　自分の子供でもボッコボコにしますか（笑）。

近藤　しますよ！　そいつが格闘家としてリングに上がってくるんだったら殴りますね。それはマジで思います。まあ、子供がいないんで、ホントの感覚がわかんないんですけど。独身で子供がいない、いまの自分が考えるには、それぐらいの感覚です。

――実に近藤さんらしいですね（笑）。今年は近藤さんにとってホントに大事な年になると思うんで、シウバも含めてみんなボッコボコにするのを楽しみにしてます！

【1月15日／パンクラス事務所にて収録】

YUKI KONDO

こんどう・ゆうき■1975年7月17日、新潟県長岡市出身。1996年1月28日vs伊藤崇文でデビューし、5戦目で鈴木みのる、1年半後に船木誠勝を破り第5代パンクラス無差別級王者に。03年11月30日両国大会では菊田早苗をKO、第3代ライトヘビー級王者に輝く。大晦日、日本中の注目を一気に集めた日本屈指のストライカーにしてパンクラスのエース。180cm、88kg

PANCRASE 2004 BRAVE TOUR

日時■2月15日（日）16:00（開場15:00）
会場■大阪・梅田ステラホール

メインイベント
【フェザー級戦】5分3ラウンド
前田吉朗vsアレッシャンドリ・ソッカ
【ウェルター級戦】5分3ラウンド
伊藤崇文vs星野勇二
【ウェルター級戦】5分2ラウンド
北岡悟vs男！ 徳岡
【ライト級戦】5分2ラウンド
大場裕司vs渡辺智史
【ウェルター級戦】5分2ラウンド
花澤大介13vs宮田卓郎
【フェザー級戦】5分2ラウンド
田上洋平vs藤本直治

問■パンクラス　03-5792-0815

PANCRASE 2004 BRAVE TOUR

日時■2月6日（金）18:30（開場17:30）
会場■ 東京・後楽園ホール

【ミドル級戦】5分3ラウンド
国奥麒樹真vs三崎和雄
【パンクラスvs世界　3vs3大将戦】ライトヘビー級戦　5分3ラウンド
渋谷修身vsアート・サントーレ
【パンクラスvs世界 3vs3 中堅戦】ミドル級戦　5分3ラウンド
石川英司vsネイサン・クォーリー
【パンクラスvs世界 3vs3 先鋒戦】ウェルター級戦　5分3ラウンド
大石幸史vsヒース・シムズ
【スーパーヘビー級戦】5分2ラウンド
セハクvs高森啓吾
【フェザー級戦】5分2ラウンド
志田幹vs砂辺光久

問■パンクラス　03-5792-0815

Information

近藤有己セミナーやります！

会場■フィットネスショップ水道橋
住所■東京都千代田区美崎町6-13　寺本ビル4F
fighting spirits（フィットネスショップ格闘技スタジオ）
日時■2月22日（日）
時間■14:00～15:00
講師■近藤有己（パンクラスism）
内容■打撃セミナー、寝技セミナー、マル秘特別裏技セミナー
（「お尻で立つ」とは???などの解説！ 必見！）、オフィシャルグッズ特別発売
セミナー受講料■¥3000
定員■限定30名
問■フィットネスショップ水道橋　03-3265-4646

若き天才同士の一戦は近藤が豪快すぎるKO勝ち!

○vsフランク・シャムロック

[12:43 KO]
1996.09.07　東京ベイNKホール

今から考えれば夢のようなカード。試合は激しい打撃戦となり、近藤が左ハイでフランクをリング外へ吹っ飛ばしてのKO勝利。後にUFCも制したフランクを破ったことは、近藤のアメリカでの高評価にもつながっている。ちなみにこの日のメインは「明日また生きるぞ！」でおなじみ船木vsルッテン戦『コロシアム2000』といい、近藤はなぜか船木惨敗の日に激勝するのだった。船木が近藤をなかなかエースと認めないのは、もしかして…。

#01

#02

デビュー半年でトップに完勝!
そしてみのるは風になった……

○vs鈴木みのる

[15:00　2-0／判定]
1996.06.25　福岡国際センター

デビュー5戦目（不戦勝もあるため実質4試合目）で当時はトップ選手だった鈴木を破り、近藤は“驚異の新人”の名をほしいままにすることになる。ロストポイント差なしのジャッジ判定だったが優劣は明らかで、15分の試合時間の間、近藤は鈴木にほとんど何もさせなかった。この大会を報じた週プロ増刊号が、表紙にキャッチコピーを打たず、近藤vs鈴木戦の写真と試合結果だけを載せたことからも、その衝撃が分かるというもの。

みのるに続き船木も撃破!
デビュー1年3ヶ月で王座に君臨

○vs船木誠勝

[15:12　腕ひしぎ逆十字固め]
1997.04.27　東京ベイNKホール

デビューからわずか1年3カ月でのタイトル奪取という驚異的な記録を打ち立てた一戦。一進一退の攻防の中、近藤が腕十字を極めると、船木はしばらく耐えた後にゆっくりとタップ。エース・船木が“完全実力主義”を自らの敗北で示したような試合でもあった。だが、試合後の近藤に、ファンは冷淡な反応。これを機に、勝ち負けだけでない真のエースの座を、近藤は模索することになる。実際は「そこまで深く考えてなかった」らしいが…。

“ヒクソンの一番弟子”をわずか22秒で秒殺!

○vsサウロ・ヒベイロ

[1R:0:22　KO]
2000.05.26　『コロシアム2000』東京ドーム

ヒクソンvs船木が行われた『コロシアム2000』では第一試合に出場。相手は柔術界でもトップ選手のヒベイロということで下馬評は圧倒的不利だったが、結果はわずか22秒の大番狂わせのKO勝ちとなった。ヒベイロのタックルに近藤が左ヒザをカウンターで合わせ、ダウンしたところへ怒涛のパンチ連打。まったく表情を変えないまま柔術王者を血ダルマにした近藤の姿は、新しいタイプの日本人ストライカー誕生を予感させた。

#04

#03

見てみ、この実績!　今こそ振り返ろう

近藤有己 BEST BOUT 10

『男祭り』でついにブレイクをはたした近藤だが、もともとは96年のデビュー当時から“驚異の新人”と騒がれただけあり、多くの名勝負を残している。今こそ、その軌跡を振り返ろう

文／橋本宗洋　designed by matsu（Two Three）

#05

嵐のような打撃ラッシュでUFCに鮮烈デビュー

○vsアレシャンドレ“カフェ”ダンテス

[3R 2:28　TKO]
2000.09.22　『UFC27』アメリカ・ニューオリンズ

UFC初進出となったこの試合、近藤はアメリカの観客に、その不可思議かつ底知れぬ強さを見せ付けた。ブラジルの柔術家カフェを相手に、1、2Rは押されっぱなしの展開。テイクダウンを奪われ、パウンドを防御するのが精一杯だった。だが3R、攻め疲れも見えるカフェに対し、一向に動きの落ちない近藤はスタンドで打撃ラッシュ！　後ろ回し蹴り、ヒザ蹴りと連続で叩き込んで大逆転KO勝利を収め、大会中で最高の歓声を浴びた。

#06

UFC王座奪取ならず、されど確かな爪痕を残す!

●vsティト・オーティズ

[1R 1:52　ネックロック]
2000.12.16『UFC-J』ディファ有明

昨年、ランディ・クートゥアーに敗れるまでライトヘビー級最強の男として君臨したティトとも対戦。試合開始直後、近藤はいきなり飛びヒザ蹴りを繰り出し、これがヒットしてティトがダウン！　だが、組んでからはティトの独壇場。パワーで勝るティトは立ち上がろうとした近藤の首をひねり上げ、フロントチョークで決着。無残な敗北を喫した近藤だが、飛びヒザのインパクトは大きく、UFCゲームのオープニング映像にもなっている。

#07

グラバカの火薬庫を血祭り!
菊田が無念のタオル投入!!

○vs郷野聡寛

[3R 0:52　TKO／タオル投入]
2001.12.01　横浜文化体育館

当時、破竹の勢いで勢力拡大中だったグラバカとの“全面対抗戦”で行われた一戦。寝技を苦手としていた近藤に対し、連勝中の郷野は「寝起きでも勝てる」と豪語したが…。郷野が何度投げてもスルッと立ち上がる近藤。ならばと引き込んで得意のハーフガードから攻略を狙った郷野だったが、パウンドの格好の餌食となってしまう。最後はマウントパンチ連打で菊田がタオル投入。郷野は試合後、眼窩下壁骨折で長期欠場を強いられた。

#08

恐怖の“がぶりパウンド”、近藤スタイル完成!

○vs百瀬善規

[2R 3:51　ギブアップ／顔面パンチ]
2002.07.28　後楽園ホール

この年5月、幻の大会『プレミアム・チャレンジ』で判定負けした百瀬へのリベンジ戦。ここで見せたフィニッシュは、近藤というファイターのオリジナリティと怖さを象徴している。タックルをガブッた体勢のまま（つまり自分の腹の辺りにある）相手の顔面にパンチを連打。普通ならこれは“痛め技”程度なのだが、近藤はそのままタップを奪ってしまったのだ。まさに規格外。近藤の拳は、凶器そのものと言えた。

#09

26キロの体重差をものともせず白熱の名勝負に

●vsジョシュ・バーネット

[3R 3:26　チョークスリーパー]
2003.08.31　両国国技館

パンクラス旗揚げ10周年記念大会のメインで行われた、久々の無差別級タイトルマッチ。相手は約26キロも重いジョシュだったが、近藤は差し合い、殴り合いといずれも小細工なしで真正面からぶつかり、パンチをクリーンヒットさせる場面も。ジャーマンで投げられた直後に立ち上がってヒザをブチ込む大チャンスもあった。結果的にはマウントパンチからのチョークで敗れたものの、その堂々たる戦いぶりで近藤の株はむしろ上昇した。

#10

菊田の寝技を完封、パンクラス頂上対決を制す!

○vs菊田早苗

[3R 0:08　KO]
2003.11.30　両国国技館

近藤の評価を決定づけることとなった一戦。最初の対決（5月）はドローに終わったが、ここで近藤は驚異的な成長ぶりを見せる。日本屈指の組み技師・菊田のテイクダウンをことごとく防御、スタンドでは、差し合いからコツコツとパンチ、ヒザを入れてダメージを与え、最後は得意のパンチ“ブルート（左フック）”で悶絶KO！　試合後は大晦日興行参戦＆シウバとの対戦に名乗りを上げ、その活躍は『男祭り』参戦へとつながっていく。

12・31『PRIDE男祭り』ではセフォー弟にサクッと勝利!

"赤いパンツの頑固者"
2004年の野望を語る!

一番やりたいのはホイス!
桜庭戦? わからない!!
あと、小川戦ってどう?

田村潔司

"田村vs桜庭戦"遂に実現か!?……。昨年暮れ、DSEサイドは大晦日の『PRIDE男祭り』で田村潔司vs桜庭和志戦実現に向け交渉していることを公表。ファンを期待させたが結局、実現せず。DSE榊原代表は「今年中には是非」と手応えを感じている様子だったが、当の本人、田村の胸中は? 渦中の男、田村潔司が2004年の野望を語った!

聞き手/中村カタブツ君
構成/松澤チョロ
撮影/森"モーリー"鷹博
試合写真/菊池茂夫
designed by matsu (Two Three)

2・4
U-STYLE
1周年大会で
高阪剛と
対戦決定!!

桜庭戦？　もうない話したってしょうがないから！ なきゃない方がいい！（キッパリ）

――さあ、「明けましておめでとうございます！」ということで、新年はいかが過ごされましたか？

田村　大久保ちゃんと一緒に初日の出を見たんだよね。

大久保　は、はい……。

田村　年末の試合終わって、何だかんだで1時～2時ぐらいになったでしょ。で、メシ食って、一回ジムに大久保ちゃんと朝方帰ったら、ちょうど初日の出が出てたっていう。

――そんなバタバタした新年でしたか（笑）。

田村　新年会でも一緒で、大久保ちゃんは一人でSPEEDメドレーを歌ってマイク離さないの。

大久保　は、はい。勝手に入れられて歌わせられました。

田村　あ！　人のせいにするんだ！

大久保　ああ、嬉しかったです……。

田村　でも、なんか去年から今年に掛けては最悪でしたね。誕生日（12月17日）、クリスマス、暮れと、全部男と一緒だったんですよ！　誕生日の時は『PRIDE』の榊原代表とか男4人が祝ってくれたんですよ！

――ちなみに、そこにはケーキはあったんですか？

田村　ありましたよ！

――ワハハハ！　最低ですね。

田村　クリスマスもマネージャーと一緒で……その時はケーキはなかったけどね。もう最悪の年末でしたね。

――ずっと男祭りでしたか（笑）。

田村　アッハハ！　そうそう。誕生日から、ずっと男祭り。

――HPの日記にも書いてましたけど、試合が決まるまで中途半端な状態がずっと続いて酒も飲めなかったみたいですね。

田村　あぁ、ボクの日記ね（と言ってプリントアウトした田村日記を奪って読み始める）。へぇ～、凄いなぁ。

――なんで自分の日記を読んで感心してるんですか？

田村　いやいや、こうやって、いろんな情報とか調べてるんだって思って。嫌だなぁ。

――「嫌だなぁ」って、自分で書いてるんじゃないですか？（笑）。

田村　そっか（笑）。

――で、「中途半端な状態」っていうのは桜庭戦のオファーが来て悩んでたってことでいいんですよね？

田村　まあまあ、その辺はもういいじゃないですか。

――そこが一番聞きたいんですよ。みんなそこでヤキモキしてたわけですから。

田村　それは違う。ボク言っときますけど……………（沈黙）。

――長い沈黙ですね、早く言ってくださいよ（笑）。

田村　だからね、桜庭戦云々よりも、最初から年末の試合には出るつもりはなかったんですよ。それなのにボクが、なんか凄い焦らしてるようなイメージで捉えられてるけど、ボクはもうハッキリとお断りをしてるわけですよ。

――最初から出ないと？

田村　そう！「もういいです」と。U―STYLEが終わってアバラが折れて、その時点で無理だと断ってるわけですよォ。なのに、ボクが何か焦らしてるようなイメージで赤パン頑固者って言われちゃって。

KIYOSHI TAMURA

――記者会見でも榊原代表は「マスコミの皆さんも包囲網を作って後押ししてください」って言ってましたからね（笑）。

田村　そうそう。ヒドイよなぁ……。でも、そういうイメージでもいいかなって。

――どっちなんですか？

田村　まあ、基本的には素直な子だということで（笑）。

――まあでも、桜庭戦のオファーが……。

田村　（遮って）もうない話したってしょうがないから飛ばしましょう！

――ダメですか？　見てみたい気はするんですけどね。やってくれるんだったら。

田村　なきゃない方がいい（キッパリ）。

――難しそうだなぁ（笑）。ただ、今回みたいに準備期間もない中で決まるぐらいだったら、なかったほうがよかったですね。やる以上はちゃんと盛り上げてやってほしいなとは凄く思いましたね。

田村　うんうん。

――田村さんとしても、もしやるんだったら、これまでの歴史から何からキッチリ追って徐々に温めて行く方がいいでしょ？

田村　（突然大きな声で）わからない!!

――ワハハハ！　わかりました。そういう中でロニー・セフォー戦はなぜ受けたんですか？

田村　う～ん、圧力。圧力以外の何物でもない。政治的圧力。

――圧力に屈したわけですね？（笑）。

田村　そう。だから、ボクはいい子なんで

こんな田村は見たことない！ 12・31『男祭り』田村潔司ダイジェスト

大会3日前にレイ・セフォーの弟・ロニー・セフォー戦が発表された田村。吉田戦では新テーマ曲で入場して驚かせたが、この日は白いベンチコートにお馴染みのテーマで入場。隣にいるのは大久保ちゃん

体重差が10キロ以上あるため、体重が軽い田村に4点ポイントからの打撃の選択権が与えられたが、田村はこれを認めず。開始まもなく、田村は外掛けでアッサリとテイクダウンに成功

すぐさまマウントに移行した田村は上からプレッシャーをかけ続ける。ほとんど寝技の経験のないロニーは必死で下からパンチを繰り出し抵抗。実は、このパンチがかなり効いていたとのこと

すよ、凄く。

――でも聞いたところによると、そのロニー・セフォー戦の決定も、田村さんはマスコミから聞いて知ったんですよね。

田村　そうそう。たしか28日だったかな？『佐伯祭り』があった日だ。最終的には、別のプランもあったんですよ。別のプランかロニー・セフォーでどうだ？って話が来てて、どっちになるか、連絡待ちだったんですよ。

――田村さん的には、その2パターンでオッケーを出していたわけですね。

田村　まあまあ、しょうがないかなって。2パターンあったんだけど、両方ダメになるかもしれない可能性もあったんで。ただ、7割8割方セフォーの方でまとまりそうな話を聞いてて、その時点で、もう28日でしたから。「決まりましたね」って言われて「えっ、決まったの？」って感じで（笑）。

――大変でしたね。なんか試合前は体重109キロということぐらいしか相手のことはわからなかったんですよね。

田村　そうそう。

リングを降りようとする田村に、関係者からマイクが渡され困惑の表情を浮かべる田村。会場に詰めかけたファンは、噂された桜庭戦について田村が何か言うんじゃないか？　との期待感に包まれたが……

――田村日記では、「セフォー戦が決まったみたいですけどいかがですか？　う～ん、どうでしょう！（ミスター風）」って1人インタビューをやってて、日記を読む限りでは気楽そうな感じだなって。

田村　う～ん、どうでしょう？（ミスター風）

――もういいですよ（笑）。

田村　でも、そこまで時期が迫っちゃうと調整のしようがないからね。いままでの貯金でやるしかないんで、もう開き直るしか

コツコツと上からパンチを当て続け、一瞬の隙を見い出した田村が一気に腕十字に移行すると、総合初挑戦のロニーは、たまらずタップ。田村は、わずか2分20秒で勝利を収め2003年を締め括った

田村は、「総合初めてのセフォー選手に暖かい拍手を」と対戦相手を称え、「ボクは総合とUスタイルをやっているんですけど、これからも純粋に強くなるために練習を続けます」

全試合終了後、リング上でファンと共に年越しイベントを行った。ここで、どの選手よりも早くリングに上がり高田本部長と握手をかわしたのが田村だった。非常に珍しいシーンだ

その後も、カウントダウンまでリング上で続いたファン感謝イベント。108人の選ばれた『PRIDE』ファンが次々とリングに上がり選手と握手。田村もシルバ、ソラール等と共に笑顔でファンサービスに努めた

なかったですよね。

—ただ、セフォー戦は結果的にはサクッと終わりましたよね？

田村　まあ、結果的には。でもね、初めて闘う選手っていうのは、やっぱり資料もないし、体重もあるんで怖いですよ。それにK—1の選手ってことで打撃はあるでしょ。その辺で見えない恐怖感との闘いがあったから。だけど、倒せば何とかなるかなって思ってたんで。

—実際、何とかなりましたね。

田村　でもね、下からパンチ打たれて「カーン！」って当たって、頭にタンコブ出来てたんですよ、次の日。

—あ、そうだったんですか!?

田村　だから、正直言うと効いてて、「これはヤバイな」って。「マウント取って下からのパンチでKOされたらカッコ悪いなぁ」って思って（笑）。

—カッコ悪いですよね（笑）。

田村　なにげに効いてたんですよ。あれはちょっと危なかったな。まあでも、初めて『PRIDE』に出て良かったなと思った瞬間でもありましたね（笑）。

—「初めて」って（笑）。だから、試合後も、あんなに上機嫌だったんですか？　普段やらないマイクアピールまでして。

田村　いや違う。あれも「やってください！」って言われて無理矢理だから。だって喋りたくないもん。

—実況席の髙田本部長も、「田村選手がマイクを持つのは珍しいですよ」って言って驚いてましたし、観客も桜庭戦について何か言ってくれるんじゃないかと思って期待してたんですけどね。

田村　だから、それは政治的圧力だから。マイク持たされたのもそう。もう全部人のせいにする！　大久保ちゃんみたいにカラオケ勝手に入れられたっていう。

—勝手に入れられてマイク持たされたから歌っただけだと？（笑）。

田村　そうそう（笑）。

—でも、どうですか？　今回は大晦日に三大会あったわけですけど。

田村　う〜ん、まあ格闘技界を大きく考えると民放3つもやって、なんて言えばいいのかな？　そんな話ないでしょ、もう。

—民放三局でっていうのは、さすがにもうないでしょうね。

田村　だから、「格闘技って凄いんだな」っていうイメージを世間に植え付けられたことは凄いプラスになるんじゃないかなって。猪木さんじゃないけど、対世間ってことを考えれば、格闘技界で引き抜いたり引き抜かれたりっていうゴタゴタも話題的に考えれば、ありかなって思うし。

—前回のインタビューでは田村さんは『猪木祭り』を観に行く」って冗談ぽく言ってましたけど、どっか別の大会に出たいとかっていうのはなかったんですか？

田村　それは別に。出る時は出るでしょうし、出ない時は出ないから。あんまり、そういうのは頭にはなかったですけどね。

—大会云々は別として、誰か闘いたい相手が違う大会に出るんならば考えるっていう感じですか？

田村　まあ、いまだったらホイス。

—大晦日の試合後にも「ホイスとやりたい」って言ってましたけど、そのカードは是非実現して欲しいですね。

田村　ホイスとはやりたいッスね。

—この間のホイスは強かったですよね。

KIYOSHI TAMURA

田村　でもあれは吉田選手が動揺したんじゃないですかね？

—やっぱり突然、道衣を脱ぎだしたんで動揺はしたと思いますよ。

田村　あれは絶対動揺すると思うな。

—表情を見ても、リング上で明らかに動揺してましたからね。

田村　ねっ！

—田村さんは道衣着てても着てなくても、どっちでもいいですか？

田村　着てたらかなわない。勝てない。

—着てたら勝てないですか？

田村　だって柔術の選手でしょ、もともと。

—まあ、そうですね。ということは、やるんだったら着てない状態でやりたいと？

田村　着てない状態でやりたいっていうか、着てる状況でやろうとは思ってなかったですね。

—でも、基本的にホイスはこれまでUFCも含めて道衣を着て闘ってきましたから、今回脱いだからって、これからも脱ぎ続けるかどうかはわからないですよね。

田村　あ、向こうが着てたらってことね？

—もちろんです。誰も田村さんに道衣を着て試合しろとは言いませんよ（笑）。

田村　じゃあ、向こうは着てても大丈夫ですよ。いや、大丈夫だと思います（笑）。

—自信はあると。いずれにせよ、いま現在一番闘いたいのがホイスなんですね。

田村　はい。

—それにしても、大晦日は凄い上機嫌でしたよね。試合後も「気分がいい」って言ってましたもんね。

田村　そんな上機嫌だったかな？

—だって全試合終了後のイベントも一番乗りでリングインして笑顔で髙田本部長と握手してたじゃないですか。いままでの田村潔司だったら考えられないかなぁって思うほど、積極的な感じだったですね。

田村　あれは作戦だから（笑）。

—作戦？　そういうわけのわかんない照れ隠しはやめてくださいよ！（笑）。

田村　だから、素直な気持ちですね。でも、髙田さんの前では萎縮しちゃんです。それに髙田さんも機嫌が良かったじゃないですか。リング上でもニコニコしてましたからね。

—良かったですよね。

田村　でしょ？　でも、たしかに気分は良かったですね。

—単純に勝ったからっていうのが一番大きかったんですかね？

田村　単純に勝ったからですかねぇ？　なんかね、去年はもう12月9日で一区切りが付いたかなって思ったんですよ。

—U—STYLEでの藤井戦が終わって今年は終わったかなと感じてたと？

田村　そうそう。でも大晦日に試合が決まっちゃったから、それが終わらないと一区切りしないでしょ？　だから、その嫌なモヤモヤが取れたんじゃないですかね。

—テーマ曲も元に戻しましたし。

田村　元に戻されてましたね。

—また、そういう言い方をする（笑）。大久保ちゃん方式で勝手に入れられたと？

田村　そう。でもホントあれはボクが指定したんじゃないんですよ。勝手に戻されてたの。大久保ちゃん方式で（笑）。でも、ちょっと話は逸れますけど、ブッキングしてる人は大変でしょうね。

—人ごとみたいに言ってますけど、田村さんを口説き落とすのはホントに大変だと思いますよ。

大晦日の『男祭り』は、
初めて『PRIDE』に出て
良かったと思いましたね（笑）

田村　アッハハハ！　いやいや、ボクのことだけじゃなくて、もうすべてですよ。ヒョードルの問題とかノゲイラとかも含めて。だって結局、高山の試合もダメになったんでしょ？　高山が一番可哀想かもしれないですね。

――あそこまで引っ張られて結局試合がなかったわけですからね。で、ブッカーも可哀想だということですけど、そうおっしゃるんであれば、早めに一肌脱いでやったらいいんじゃないですか？

田村　そう。だから、そういう意味でボクは早めに答えを出したんです。

――お断りと。

田村　そう。「出ない」と。

――なのに諦めの悪いブッカーたちがしつこかったわけですね（笑）。

田村　そうッスねぇ。もうこうなっちゃうと……いや、選手としては嬉しいんですよ。嬉しいんですけど、政治的な圧力はやめてくれってボクは言いたい！

――さっきから何なんですか、その政治的な圧力って（笑）。

田村　まあ、心情的にツライ部分ってあるじゃないですか？　そういうこと（笑）。相手方の気持ちもわかるから。そうなるともう、どっか海外に逃げるしか方法はないですね。こういう状況になっちゃうと。

――芸能人の様に年末年始はハワイにでも行った方がいいと（笑）。

田村　そうそう（笑）。話は変わるけど、『猪木祭り』って、もうやらないの？

――4月にラスベガスでやるとか話は出てますね。どうやらプロレスみたいですけど。

田村　へぇ～。

――『猪木祭り』に出たいんですか？

田村　いやいや、そういうんじゃないですけど。まあ、いろいろ噂を聞くんで。あとK－1も総合の大会をやるんですよね？

――やりますよ。たぶん5月ぐらいに。

田村　5月は空けとこう！

――3月末の大会でも総合の試合をやるみたいですけどね。それとともにヒクソンを主体にしたヒクソン祭りみたいなものも計画してるらしいです。

田村　ヒ、ヒクソン祭り⁉

――ヒクソンが出てくれるなら協力しますよっていう形みたいですけど。

KIYOSHI TAMURA

田村　あぁ～、なるほど！　でも凄いよね。

――だから、選手にとっては、いい環境だと思うんですよね。田村さんは契約上、他の大会には出れるんですか？

田村　出れますよ。ボクはワンマッチ契約なんで。

――じゃあ、他の大会っていうのも、いい話があれば十分可能性はあるわけですね。

田村　全然ありますね。

――曙とかとはやりたくないですか？

田村　曙？　う～～～ん……。

――150キロ近く体重差はありますけど（笑）。

田村　でも、向こうが受けないでしょ？

――いまのところ総合よりはK－1ルールでって感じですからね。

田村　曙は何ができるんですか？

――そりゃ相撲ですよ（笑）。でも田村さんも相撲やってたじゃないですか？

田村　かなうわけないよ！　やっぱ無理

髙阪戦は金貰って見せられる試合だと思うんで、後悔しないよう早めにチケット買って下さい！

だ！（笑）。

——でも、これからは総合も大会が増えて、いろんな方向性や対戦相手を選べると思うし、どこの大会でも田村さんみたいなネームバリューのある選手は欲しがるでしょうけど、そういう中で田村さんは今年はどんな年にしたいなと思ってるんですか？

田村　まあ、幸いウチのU－FILEはある程度、格闘技ができる選手もいるし、そういう若い選手にチャンスを与える意味で声をかけてもらうのは全然嬉しいとは思いますし、ボク自身は一応フリーっていうニュートラルな立場ですけど先はわからないです。ただ『PRIDE』にいままで5回上がらせてもらったんで、そういう部分では持ちつ持たれつっていう感じがあるんで、候補というか優先的にはやっぱり『PRIDE』になるとは思いますけど。

——やっぱり、そうなりますよね。

田村　ただ、ボクも気まぐれなんで、某編集長みたいに失踪しようかなって思う時もありますね（笑）。

——ワハハハハ！　そんなことしたら人でなしって言われますよ（笑）。

田村　まあ、言われていいですよ。言われてナンボだから（笑）。

——頑固者を返上して、赤いパンツの人でなしになると（笑）。

田村　でもボクは頑固じゃないんですよ。こだわり者なんですよ。

——意固地じゃないんですか？

田村　意固地でもある。まあ簡単に言えば気分屋。

——もしかして分裂病ですか？（笑）。

田村　いやぁ、そうかもしれないなぁ。でも結構、価値観みたいなのはズレてきますよね。たいしたことがたいしたことじゃなくなるというか。

——それは立場が上になってくると？

田村　まあ、立場が上になったりとか、いろんな経験してきて。振り返ってみると別にそんなことぐらいで悩まなくてもいいじゃんみたいなのってあるじゃないですか？　まあ、二十歳ぐらいで会社が潰れたりとか、そういう経験があるんで。

——UWFが潰れたり、Uインター時代とか、いろいろありますからね。

田村　そういう経験があると多少免疫ができるから、変な開き直りというか、そういうのが出てくるんで。だから、ボクが新日本に出てない時に試合干されたりとか、もうこの世界にいられないっていう状況を経験すると、もう別にいいじゃんっていう。もう存在がなくなってもいいじゃんって。

——もの凄い開き直りですね。

田村　でも、やることはちゃんとやんなきゃいけないなと思うんですよ。極端なんですよね、ボクは。まあでも、ボクはもともとオールラウンドプレーヤーなんで。立って良し寝て良しでなんで（笑）。

——なんでもやりまっせと（笑）。まあ、去年もそうだったし、今年もそんな感じでいきそうなんですね。

田村　はい。今年もそんな感じで。でも若いこれからの世代の人はチャンスでしょうね、いい意味で。

——でしょうね。では、こういう状況の中で田村さんは、U－FILEの選手たちを可能な限り、バックアップしていってあげたいわけですね。

田村　そうですね。バックアップって言っても、もう若いのは若いので、みんな切磋琢磨して練習してるし。ボクはきっかけ作りです。U－FILEにいると多少そういう試合に出れる可能性は高いっていう。

——いわゆるU－STYLEの道もあるし、また総合の道もありますしね。

田村　総合、プロレス、U－STYLE。あとグラップリング、打撃もあるし。それで、いまはスタイルEっていうエンターテインメント部門を拡張しようと思ってて。佐々木（恭介）を筆頭に。その中に佐伯さんを交えて。

——佐伯さんがエースですか（笑）。

田村　それはないな（笑）。でも、この前の『佐伯祭り』で、男色ディーノさんって出たでしょ？

——結構評判良かったんですよね。

田村　うまかったですね。それで、冗談っぽく「佐伯さん、ディーノとやりますか？」って言ったら「あぁ、やりますやります！」って言ってたから、この次のU－FILEの大会では佐伯vsディーノが決まるかもしれません（笑）。

——デブvsホモ！　観たいような観たくないような微妙な感じですけど（笑）。そういえば、今度、2月4日のU－STYLEで田村vsTK戦が決まったみたいですね。

田村　情報早いですね。

——いや、佐伯さん自ら、「TK戦の話を聞いてくれ。むしろ、その話だけでいい」って電話をかけてきましたから（笑）。

田村　あ、そうなんだ（笑）。

——髙阪さんとは以前『紙プロ』で対談してもらいましたけど、遂に実現するわけですね。この試合は凄く楽しみですよ。

田村　決まりましたかぁ……（タメ息）。

——それはどういうリアクションなんですか？

田村　いや、頑張ります！

——やりたくないわけじゃないですよね？

田村　いや、やりたくなくはない。ただ、U－STYLEをもうやりたくない。

——はぁ!?　なんでですか。

田村　まあまあ、いろいろ大変なんで（笑）。でも、髙阪とだったらいい試合できると思うんですよ。藤井戦もそうだったんですけど、金貰って見せられる試合だと思いますから。あとで後悔しないように早めにチケット買ってください！

——今度はいきなり宣伝ですか（笑）。さすがにTK戦だったら後楽園も埋まるでしょうしね。

田村　でもね、金原じゃないけど、ボクのボヤキを聞いてくださいよ！　新しい企画を立ててくださいよ！

——そんなにボヤキたいことがたくさんあるんですか？

田村　あるある。昨日も朝方4時半ぐらいに坂田から電話があって、40分ぐらい話したんですよォ。

——朝4時半!?

田村　普通かけてこないですよねぇ。まあ、そう言いつつも40分ぐらい喋っちゃったんですけど（笑）。でもアイツ、喋りながら『みんゴル』やってますからね。

——『みんゴル』？

田村　プレステ2で『みんなのゴルフ』ってあるんですけど。

——はいはい。でも失礼ですね、先輩を相手にして（笑）。

田村　でしょ？　「お前、やりながら喋ってんの？」って聞いたら、「集中してやりすぎると結果が良くないんで、なんか他の

ことしながらがいいんですよ」って（笑）。

――それで田村さんに電話をしてきたと。

田村　そうそう。ボクで気を紛らわそうかなっていう（笑）。

――恐ろしい男ですね（笑）。田村さんは怒らないんですか？

田村　全然怒らないですね。

――大人ですね（笑）。でも40分も喋るって実は寂しがり屋なんじゃないですか？

田村　う～ん……そうかもしれない。まあ、ちょっとボクのボヤキを聞いてもらってるっていうのもあるんですけど。

――どんなボヤキなんですか？

田村　いや、それは言えません（笑）。

――『PRIDE』は政治的圧力がひどいんだよ」とかですか？（笑）。

田村　違う。恋の話です。

――ワハハハ！　向こうは素敵な彼女がいますからね。

田村　そうそう。ムカつきますよね。

――坂田さんは暮れの試合で負けちゃったことに関してなんか言ってました？

田村　あの日、控室が同じだったんですよ。で、試合が終わってからボクの前に来て、ちっちゃ～くなって座るんですよ。肩もやられてるし、「ちょっと落ち込んでるのかなぁ」って思ってたら、「今度さ、一緒に練習してあげてもいいよ」って言い出すんですよォ！

――怖ろしい男ですね（笑）。で、田村さんはなんて答えたんですか？

田村　「じゃあ、よろしくお願いします」でしょ、その流れならね（笑）。

――面白い先輩後輩関係ですね。まあ、そんな感じで、いろんなグチやらボヤキたいこともあるとは思うんですけど、先月で34歳になったわけですよね。

田村　34になりました、はい。

元リングス2人の日本人対決が実現!!「髙阪の怖いとこ？　顔と胸毛」

会見にU-FILEのジャージ姿で登場した田村。本人に確認したところ、別に練習から直行したというわけではなく「いや、これは、ちゃんと会見用に選んだ格好」とのこと。田村にとっては、こだわりの正装なのだ。『紙プロ』の田村Tシャツはもちろん着ていなかった

5年ぶりの対決が、〝U〟の一周年を飾る!!

1月19日、都内ホテルで行われた記者会見で『U-STYLE』旗揚げ一周年大会の概要と、田村潔司vs髙阪剛戦をはじめとする3カードが発表された。両者はリングス時代に3度激突しており、結果は1勝1敗1引き分け。4度目の対決が、2月4日・後楽園ホールで行われる。

『U-STYLE』初参戦となるTKは「このスタイルの試合自体に興味があった。光栄だと思って受けさせていただいた」と、参戦への経緯について語り「勝敗ももちろんなんですけど、重きをおいているのは中身なんで、中身でいかにリードできるか、自分の全部を出し切って勝負したい」と、4戦目となる対決への意気込みを語った。

田村も、TKを『U-STYLE』というスタイルに順応できる、数少ない選手のひとり」と高く評価し「ボク自身、試合をするのが楽しみなので、見ているお客さんにも楽しみながら見て欲しい」と、ファンへ向かってメッセージを送った。

TKによると「田村さんとの試合は、いつも自分に何かを残す。最初の対戦では、自分に足りない所をイヤと言うほど思い知らされて悔しい思いをした。次の闘いは30分ドローという結果で、初戦を終えて自分が努力してきたことが間違いじゃないんだと思えた。3度目は勝ちましたけど、お互いにボロボロの状態だったんで、勝ちを拾ったという感じしかなかった。もう1回闘いたいと思っていた」と、自身にとっての〝田村潔司戦〟について熱くコメント。

これに対して田村は「TKの怖いところ？　顔。顔の次？……胸毛」と、報道陣の質問をかわしつつ「髙阪は、相手の技を受けた返し技がうまい選手ですね。どっちが先を読んでいくか、流れを持っていくかの勝負になると思う」と、試合の展開について語り「ボクは出来るだけ試合を楽しみたいんで、長～～くやりたいです。無制限？　無茶言いますねぇ（笑）。でも、いいかもしれない」と、『U-STYLE』初の時間無制限対決も辞さないことをブチあげた。

さらに田村は、当日発表された上山龍紀vs大久保一樹の同門対決について「将来の展望が見えるような試合展開になると思う。将来はあの2人が柱になる」と期待をかけつつ「あの2人がみっともない試合しちゃうと先がない」と、大久保ちゃんが食事を取れなくなりそうなプレッシャーもかけていた。

田村とTKが最後に対決したのは99年1月。あれから5年経った今、両者はどんな闘いを見せてくれるのか？　きっと、Uオタクのジョシュ・バーネットが涙するような〝U-STYLE〟が見られるに違いない。奥深いUの深淵をのぞくきっかけになる〝伝説の試合〟になることは必至だ。国内でも最上級の技術を持った2人が、Uのリングでそのすべてを出し切る様を見届けよう！

見てみぃ、この佐伯さんの顔ッ！　U-STYLE史上最高とも言える一戦を実現させた満足感に満ちている表情である

PRO WRESTLING U-STYLE
旗揚げ一周年大会

2/4（水）東京・後楽園ホール
試合開始 19:00（開場18:00）

【決定対戦カード】

田村潔司（U-FILE CAMP.com）vs 髙阪剛（チームアライアンス）

上山龍紀（U-FILE CAMP.com）vs 大久保一樹（U-FILE CAMP.com）

滑川康仁（フリー）vs 木村直生（EVOLUTION）

※全6試合を予定

【参戦予定選手】

三島☆ド根性ノ介（総合格闘技道場コブラ会）、原学（格闘探偵団バトラーツ）、佐々木恭介（U-FILE CAMP.com）ほか

【チケット料金】

VIP ¥10000／指定A ¥7000／指定B ¥5000／指定C ¥4000

【チケット販売所】

チケットぴあ（03-5237-9999）、ローソンチケット（03-5537-9999）、イープラス（eee.eplus.co.jp※パソコンも携帯電話も同じアドレス）、後楽園ホール（03-5800-9999）、チケット&トラベル T-1（03-5275-2778）、フィットネスショップ水道橋（03-3265-4646）、チャンピオン（03-3221-6237）、書泉ブックマート（03-3294-0011）、大山アメリカン（03-3962-6443）、U-FILE CAMP（044-932-0282）
※チケットぴあ（ファミリーマート、セブンイレブン、サンクス）、ローソンチケットは全国各地の窓口で購入可能

すべての問い合わせはDEEP事務局（052-339-0303）まで

――そろそろ考えてることとかあると思うんですけど。

田村　もう何もないです。もう隠居。

――なんで隠居するんですか（笑）。

田村　隠居したいです。いま稼ぐだけ稼いで、あとはもう好きな人と一緒に時間を過ごせればいいかなぁ。

――笑わせますねぇ、なにが好きな人と一緒の時間ですか（笑）。

田村　ロマンチックなんだもん、俺。

――年末、ずっと男祭りだったからですか？（笑）。でも、エンターテインメントの方にもチャレンジしてみたいなっていうのもあったりするんですか？

田村　う～ん……まあ、そっちの方が気が楽なんだけどね、本音を言うと。遊び感覚っていうか……そういうと失礼かもしれないけど、ちょっと遊びを入れてできるでしょ。大阪プロレスとかもそうだけど。だから、そっちの方は試合を創り上げたり、試合を演出したりするところからはじめるから、それも面白そうだと思うんだけど、さっきも言ったように、そこまでの余裕がないというか。

――いっぱいいっぱいなわけですね？

田村　そうそう。それだったら、格闘技用の練習をしたいかな。

――そういうエンターテインメントの方も昔からの発言を聞いてると、"やったら自信あるぞ"ってところはありますよね？

田村　できなくはないと思うんだけど、そうやって期待持たれて試合見られると嫌なんだよなぁ。そういうのもダメなんですよ。

――田村さんは『ハッスル1』を観に行かれてましたよね？

田村　はい、行ってました。

――編集部の松澤チョロがたまたま近くに田村さんがいて、「大久保選手と、もう1人素敵な連れの方と一緒だったんで挨拶するのも失礼かな」って思ったって言ってましたけど（笑）。

田村　いや、違う違う！　あれはこれ！（親指を立てて）。

――男の中の男。っていうか、男だったんですか？　男色ディーノ？（笑）。

田村　そう！　何言ってるんだ、俺（笑）。

――ワハハハハ！　どういう守り方するんだか、わかんない人ですねぇ（笑）。

田村　どうでもいいですけど。でも、『ハッスル1』って評判はどうだったの？

――微妙なところですね。髙田さんと小川さんの絡みは面白かったって話はよく聞きますけど。

田村　でも、一回目は、みんな文句言うんじゃないの？　『PRIDE』のやり始めもそんな感じだったからね。でも、ぶっちゃけ試合はつまんなかったけどね。

――たしかに内容で納得させる試合が少なかったっていうのはありますよね。

田村　ただ、ああいう企画モノというか、演出は他でやってないから、どういう方向へ持っていくのかってところだよね。でも、ぶっちゃけ、あれでよくお客さんが納得するなぁって思うよね。

――さすがに大満足っていう観客は少なかったみたいですけどね。

返答に困ると「う～ん、どうでしょう？（ミスター風）」を連発した田村。リング内外を問わず、今年は、この男のハジけっぷりに期待！

田村　満足してないだろうけど、結構温かかったよね。だって、小川さんとゴールドバーグの試合なんかヤバイでしょ？　ゴールドバーグって……なにアイツ？

――「なにアイツ？」ってことないでしょう（笑）。

田村　あれだったら、ボクが小川直也と●●●い試合をやるっていうのはどう？

――あえて（笑）。

田村　あえてね。ボクも小川さんに合わせるから（笑）。

――タチ悪いなぁ（笑）。では、もし『ハッスル1』から話があったら出るつもりはあるんですか？

田村　いや、こういう流れでボクも「はい」って言いたくねえな（笑）。それにいまは余裕もないから。まあ、その辺はボヤキ企画を作ってもらうとして。

――社長としてボヤキたいんですか？

田村　いやいや、選手としてもボヤキたいし、プライベートもボヤキたい（笑）。いいことがないっていうことですね、普段。

――今年に入ってからも、いいことは何にもないんですか？

田村　多少はありましたけど、まあだから、去年のドカ～ンときた悪い運が、多少、年明けて上向いてるかなっていう感じで。

――具体的に何かあったんですか？

田村　いや特に（と言って、なぜか大久保ちゃんの胸板にチョップ）。

――ワハハハハ！　突然、何をやってるんですか。

田村　まあまあいいじゃないですか。今年は、もっとハジけたいですねぇ。

――ハッスルしたい？

田村　ハッスルしたいですね（笑）。っていうか、もっとハジ、ハッスジ……。

――ハッスルとハジけたいを合わせたいんですね（笑）。

田村　ハッジり……。

――わかりました（笑）。桜庭戦もそうですけど、今年もいろいろと期待してます！

田村　う～ん、どうでしょう？（ミスター風）

【1月14日／U-FILE CAMP登戸近くの『華屋与兵衛』にて収録】

小川さんとゴールドバーグの試合とかヤバイでしょ。ゴールドバーグって……なにアイツ？

U-FILE CAMP情報ーッ!

●登戸ジム
住所■神奈川県川崎市多摩区登戸1568
問■044-932-0282
アクセス■小田急線向ヶ丘遊園駅から徒歩5分（登戸郵便局前）

●町田ジム
住所■東京都町田市原町田1-2-3
問■042-739-1072
アクセス■JR町田駅南口から徒歩2分、小急線町田駅南口から徒歩5分

●調布ジム（西調布格闘アリーナ）
住所■東京都調布市上石原2-40-6　B1F
問■0424-80-3731
アクセス■京王線西調布駅から徒歩4分

●赤羽ジム
住所■東京都北区赤羽3-3-3
問■03-3902-3170
アクセス■JR赤羽駅より徒歩5分、地下鉄赤羽岩淵駅より徒歩1分

●大森ジム（ゴールドジムサウス東京ANNEX内）
住所■東京都大田区山王2-4-1大森駅前ビル6・7F（ゴールドジムサウス東京アネックス内）
問■044-932-0282（U-FILE CAMP登戸）
03-5718-3939（ゴールドジム）
アクセス■JR京浜東北線大森駅、山王西口から徒歩2分

キミも田村日記を読もう!
田村潔司U-FILE CAMPOFFICIAL SITE
http://www.u-filecamp.com/

男祭り PRIDE SPECIAL 2003

お前ら、みんな男だ!

12.31『PRIDE・男祭り』DIGEST

※吉田vsホイス、桜庭vsホジェリオ、ゲーリーvsフライはP130～の記事を参照して下さい

坂田、意地のギブアップ拒否も左腕を負傷

満を持して『PRIDE』初参戦をはたしたZERO-ONE Jr.二冠王の坂田亘。直前に対戦相手がハイアンからヘビー級のダニエルに変更となる不運もあり、持ち味を出すに至らず。腕十字を極められてもギリギリまでタップしなかったのは、せめてもの意地か。それにしても負傷欠場中のハイアン、元気良すぎ。

凱旋・美濃輪育久 無念のレフェリーストップ負け

パンクラスを退団し、ブラジリアン・トップチームで武者修行を行っていた美濃輪が、待望の『PRIDE』初参戦。いきなりミドル級GP準優勝のランペイジと対戦、隙あらば関節を極めにいく姿勢は見せたが、体格差とパワー差はいかんともしがたく、2R1分5秒、ヒザ蹴りを食らったところでレフェリーストップ。納得がいかない美濃輪は再戦を要求。それでも入場から退場まで全力疾走のその姿は、確かなインパクトを残した。

ニンジャ強し! 小路をヒザ蹴り一発でKO

『イノキボンバイエ』のパンフにでかでかと載っていた小路は、結局『男祭り』に出場。誰もが嫌がるニンジャを相手に真っ向勝負を挑んだが、1R2分41秒、もの凄い勢いのヒザ蹴りでKO負け。いよいよ手がつけられないニンジャは今年ついにブレイクか?

マッハ、ライト級日本頂上対決を制す

昨年10月の『武士道』をケガで欠場したマッハは、これが『PRIDE』初出場。いきなり高瀬と日本ライト級頂上対決を闘い、ハイレベルな攻防の末、判定勝ち。しかし、この組み合わせ自体が“祭り”にはそぐわなかった感が……。2・15では大爆発に期待したい!

大巨人シウバなぜか登場 ローキックとチョークに沈む

“純度100%”の『PRIDE』に突如迷い込んだガリバー、もといシルバ。その226cmの身体は、仮想・アンドレといった感じで注目されたが、ヒーリングのヒット＆アウェー戦法に大苦戦。ようやく捕まえたが、バックに回られ3R35秒、チョークで一本負け。でも頑張りは伝わった。

会場の外には、男の熱い願いが叶う(?)「男神社」が出現。『男祭り』で年越しをしたあと、即初詣ができるということで参拝には有名神社ばりに長蛇の列ができていた。

メインコメンテーターはおなじみ小池栄子。テレビではまったく触れられなかったが、彼女の目に坂田亘の闘いぶりは、どう映ったのか? それにしても素晴らしい衣装だ。

リング上でオープニングコメンテーターを努めたのは浅草キッド、そして内田恭子、高島彩両アナウンサー。タレントより遥かに人気のある女子アナを擁するフジは強い。

オープニングでは髙田本部長が、なんとスーパーアリーナの屋根の上に登場! 寒風吹きすさぶ中、「お前ら男だ!」を絶叫。お前こそ、男だよ!

ミルコに尽きる!!

MVP & BEST BOUT ダブル受賞!!

KAMI-PRO AWARD 2003

ハガキ&『紙プロHand』アンケートで読者が本音で選んだ

『紙のプロレス』大賞 2003

投票数4319票! 読者ハガキ&携帯サイト『紙プロHand』でアンケートを実施、ファンの本音のみで選出される『紙のプロレス』大賞2003!! ノー権威ながら今回で4回目を迎えることになりました。前々回は武藤敬司、前回はボブ・サップがMVPに輝き、『東スポ』プロレス大賞と同じ選出となりましたが……今年はやっぱりミルコ・クロコップに尽きる! ベストバウトもゲットし、文句なしの2冠達成だ!

designed by Tani-Yan (Two three)

戦慄の快進撃！ “妖刀”を語らずして2003年は振り返れない!!

1634 POINT

Best Fighter 部門

KAMI-PRO AWARD 2003

MVP ミルコ・クロコップ

2003年度『紙のプロレス』大賞MVPはミルコ・クロコップに決定だ!! 『紙プロ』読者よりダントツの支持を得て、ブッチギリの投票数でMVPに輝いた。今年のミルコの快進撃は凄まじかった。K-1のリングでサップを突き潰し、『PRIDE』に舞台を移しては、ヒーリング、ボブチャンチン、ドス、ノゲイラ戦と、すべての試合がイベントの重要な位置を締めたばかりか、試合内容もスリリングかつエキサイティング!! 倒れた相手にトドメを刺す人道に外れた残虐行為が、どうにも止まらない闘争心の証として、ファンから認知されるほど。そんな真のメインイベンターがMVPに選ばれるのは当然だろう。

2nd PRIZE 789 POINT アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

ヒョードルの〝氷の拳〟の前に敗北を喫し、無念の『PRIDE』ヘビー級王座陥落。リコ戦では本領発揮とならず悪夢の一年になりかけたが、タナボタで転がり込んだミルコとの暫定王者決定戦を見事な一本勝ちで制した！ 運も実力の内というが、超実力者に幸運が重なれば怖いものはない。

3rd PRIZE 435 POINT 田村潔司

敗れはしたが吉田秀彦に〝プロの洗礼〟を浴びせた一戦の反響が大量票に結びついた！ 加えて、すべてが名勝負となったU-STYLEでの激闘もマニアからの高い評価を得た。今年はいよいよ桜庭和志戦の実現も熱く期待されるなど、〝頑固者〟の動向には目が離せない。

4th PRIZE 221 POINT 高田延彦

まさしく引退してから超パワーUP!! 並みいる現役ファイターを押しのけて、高田統括本部長が堂々のベスト5入り!! 『PRIDE』シリーズの盛り上げに一役買った〝男劇場〟、マット界に波紋を投げかけた『泣き虫』の出版、ハッスル劇場などの刺激的な話題が読者の評判を呼んだ。

5th PRIZE 175 POINT 橋本真也

負傷に泣いた一年とは思えないほどの大爆進!! VTに走った新日本に〝どプロレス〟を突きつけた5・2戦争、冬木さんとの約束を守った5・5川崎には心が熱くなった。『W-1』ジョーサン戦、ハシフ・カーンの変身など、〝笑うなら笑え！〟な破壊王劇場振りもたまらなかった！

6th PRIZE 108 POINT 高山善廣

事実上の〝新日本プロレスのエース〟!! NWF&IWGP2冠を強奪し、ビッグ・サカの相手をも務めた。ミルコ戦は消滅してしまったが、一般世間も目を引く話題にも事欠かなく、今年のマット界をも牽引したのは言うまでもない。だからこその『東スポ』プロレス大賞の受賞なのである。

順位	名前	得点
7nd PRIZE	中邑真輔	92 POINT
8nd PRIZE	吉田秀彦	84 POINT
9nd PRIZE	ヴァンダレイ・シウバ	65 POINT
10nd PRIZE	近藤有己	60 POINT

下半期に大活躍！ “新星”中邑真輔、菊田、マリオの寝技師を破った近藤有己もトップ10に堂々のランクイン!! 一方、上半期MVPに輝いたヒョードルは思ったより票は伸びず。拳の負傷によるミルコ戦のキャンセル、『猪木祭り』の混沌に巻き込まれたことが災いしたか？ 皇帝閣下の巻き返しに期待だ!!

11・9『PRIDE・GP』東京ドーム大会

1263 POINT

Best Bout 部門

KAMI-PRO AWARD 2003

“魔法の寝技”が“妖刀”をヘシ折る!! ノゲイラ、再び頂点へ!

Best Bout アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ VS ミルコ・クロコップ

「ノゲイラに風車の理論をみた!」「紙一重の勝負に痺れた!」「ミルコの涙に感動した!」絶賛の声、続々——。ヒョードルの拳の負傷により、消滅したミルコvsヒョードルの“闘争本能世界一決定戦”。その代案カードが、この“妖刀”vs“魔術”なのだから贅沢にもほどがある! 試合では、神懸かり的な強さをみせるミルコの蹴撃に耐えたノゲイラが、腕十字をガッチリ極めて大逆転勝利! 最高のカタルシスを観客に与えた。試合後、悔しさのあまり、涙をうっすらと浮かべたミルコの姿も印象深かった。今年はヘビー級GPが開催されるが、ミルコのリベンジはなるか? そして、ヒョードルを交えた黄金の三角関係の決着は——? まだまだ世界最強の物語は続きそうだ!!

2nd PRIZE 789 POINT 吉田秀彦 vs 田村潔司

8・10『PRIDE・GP』さいたまスーパーアリーナ大会

『PRIDEミドル級GP参戦を大英断した柔道王を頑固者が迎え撃つという、意外性&衝撃的過ぎるマッチメイクは試合前から話題騒然!! 試合では、田村の“プロ”としての顔、吉田の負けん気の強い人間性が垣間見えるなど、前評判に違わない白熱した一戦となった。2人とも男だよ!

3rd PRIZE 485 POINT 吉田秀彦 vs ヴァンダレイ・シウバ

11・9『PRIDE・GP』東京ドーム大会

“主食・日本人”シウバの狂拳が柔道王に襲いかかるシチュエーションだけでもお腹一杯なのに、吉田の底知れぬ戦闘能力が爆発するから面白くならないはずがない。決勝戦で“宿敵”ランペイジを破り見事GP制覇を果たしたシウバの実力、その存在感も改めてクローズアップされた。

4th PRIZE 225 POINT 橋本真也 vs 金村キンタロー

5・5日“冬木弘道プロデュース”『WEW』川崎球場大会

冬木弘道追悼興行。冬木さんの遺骨を携え、電流爆破ロープに飛び込んだ破壊王と金村キンタローの一戦。冬木弘道の生き様に想いを寄せるレスラーたちが紡いだリアルな物語は、プロレスの枠を超えた闘いとして露わになり、多くの感動を関係者やファンに与えたのだ。

5th PRIZE 198 POINT OH砲 vs 武藤敬司&小島聡

5・2『ZERO-ONE』後楽園大会

新日本プロレスのプロレス・VT合同興行のすぐ隣で大爆発した“どプロレス”!! 後楽園ホールは今年一番の熱気に包まれ、メイン見たさにドームからハシゴする観客も多かった。試合後、乱入した川田利明が小川直也を襲うサプライズ! 小川は破壊王以来の好敵手を得ることになる。

6th PRIZE 146 POINT 小橋健太 vs 三沢光晴

3・1『NOAH』日本武道館大会

純プロレス屈指の好カードは、ファンの期待を裏切らない激闘! 三沢が小橋を花道ステージからリング下にタイガースープレックスで投げ飛ばすという、危険シーンも飛び出した。同日にはK-1MAX日本GP、WJ旗揚げ戦と重なったが、武道館は超満員。内容でも圧勝、という声も多かった。

7nd PRIZE 12・31『男祭り』 近藤有己 vs マリオ・スペーヒー 125 POINT

8nd PRIZE 11・9『PRIDE・GP』 桜庭和志 vs ケビンランデルマン 101 POINT

9nd PRIZE 3・26『PRIDE.26』 ノゲイラ vs ヒョードル 77 POINT

10nd PRIZE 12・16『闘龍門』 マグナムTOKYO vs ミラノコレクションA.T. 72 POINT

02年度のベストバウト部門では、プロレス方面からの選出が「ロックvsホーガン」だけという、明るい未来が見えない状況だったが、03年度は4試合が選出された。総合方面の名勝負も多かった一年の中で、プロレスがド底力を発揮したいえるだろう。今年はMVPに輝く名勝負を期待したい!!

永田裕志、ぶっちぎりでワースト二冠達成!!
ベスト劇場は破壊王×長州"コラコラ問答"!

Best Show
素晴らしいことこの上なし!! なグッド興行

順位	内容	POINT
1st PRIZE	11・9『PRIDE・GP』決勝 GP、ミルコvsノゲイラ、桜庭vsケビンなど	1452
2nd PRIZE	8・10『PRIDE・GP』開幕戦 GP、ミルコvsボブ、ヒョードルvsGG	785
3rd PRIZE	ZERO-ONE5・2後楽園ホール 武藤＆小島vsOH砲	372
4th PRIZE	K-1 WORLD MAX世界トーナメント 魔裟斗優勝	223
5th PRIZE	5・2アルティメット・クラッシュ 新日本初のVT	120

超ド級のラインナップに違わぬ好勝負の連続となった『PRIDE・GP』がワン・ツー・フニッシュ!! 新日本vsZERO-ONEの"5・2水道橋決戦"も揃って選出。新日本ドームはVT導入という、前代未聞の大実験が評判を呼んだ。ファン＆関係者の期待に応えた魔裟斗の活躍もK－1MAXを大いに盛り上げた。

Worst Bout
それだけ期待されているんですよ、きっと。

順位	内容	POINT
1st PRIZE	永田裕志vsヒョードル 12・31『猪木祭り』	879
2nd PRIZE	中西学vsTOA 6・21『K-1ジャパン』	654
3rd PRIZE	蝶野正洋vsハルク・ホーガン 10・13『新日本プロレス』	321
4th PRIZE	天山広吉vs中邑真輔 12・14『新日本プロレス』	124
5th PRIZE	新日本プロレスの全ての試合	115

「新日本プロレス大嫌い!!」な読者が多いせいか、新日本絡みの試合がベスト5を独占!! 永田はWORST2冠、2位には、なぜか立ち技初心者同士がK－1ルールで殴りあった中西学vsTOAと、新日本格闘技路線の迷走振りが露わに。蝶野vsホーガン、天山vs中邑などの大一番の悪評も目に付いた。

Worst Fighter
それだけ期待されていたってことです!!

順位	名前	POINT
1st PRIZE	永田裕志	1070
2nd PRIZE	長州 力	458
3rd PRIZE	中西 学	325
4th PRIZE	佐々木健介	201
5th PRIZE	高田延彦	122

ヒョードル戦の大失態が大量票に結びついてしまった永田!! 百戦錬磨のK-1ファイターならまだしも、"K-1素人"TOAに惨敗した中西は当然のランクインかもしれない。"コラコラ問答"でカリスマを取り戻した長州力、笑顔が素敵な健介、そして「目立ち過ぎ!」という理由で高田本部長も名を連ねた。

Worst Show
最悪!金返せ! なバッド興行

順位	内容	POINT
1st PRIZE	12・31『猪木祭り』 藤田vsメルム、永田vsヒョードルなど	898
2nd PRIZE	K-1ジャパンシリーズ	685
3rd PRIZE	10・5『PRIDE武士道』 日本vsグレイシー、ミルコvsドス	481
4th PRIZE	10・13新日本東京ドーム大会 蝶野vsホーガン、真猪木軍vs新日本軍	401
5th PRIZE	8・29『X-1』 健介、中嶋君、ボビッシュが出場のVT	326

ワースト興行といっても、それなりに興味深かったり、ある意味で面白かったりするから、もはや勲章です! とくに『猪木祭り』、K－1JAPANシリーズの破廉恥さは、観てる方が馬鹿負けするほどの面白さだった! ちなみに「観てないけど『X－1』が最悪だった!」という声が多し。たわけがっ!

Best "人生劇場"
本誌が独断と偏見で選ぶ

順位	内容
1st PRIZE	破壊王×長州"コラコラ問答" 11・18 ZERO-ONE道場
2nd PRIZE	アントン×群衆"百八つビンタ" 12・31『猪木祭り』
3rd PRIZE	高田vsOH砲"ギョロ目と泣き虫" 12・14『ハッスル1』会見
4th PRIZE	新間×ケロ"それは違う"騒動 5・2『新日本プロレス』
5th PRIZE	ドラゴン引退問題 11・4～1・4

ライガーが意味不明なプロレス論を語った「朝までプロレス」討論会も捨てがたいが、このベスト5の牙城は揺るぎないだろう。もうひとつ次点を選ぶとすれば、ヤスカクとジャンヌ・ダルクこと新日女性社員の『泣き虫』抗議嘆願書騒動。詳細は各自調査、新日本の迷走振りが改めて白日の下に晒された。

東京スポーツ制定「2003プロレス大賞」
業界最大権威の選出はこうだ!!

【MVP】高山善廣
【年間最高試合】三沢光晴vs小橋健太
【最優秀タッグ】丸藤正道＆KENTA
【殊勲賞】小橋健太
【敢闘賞】棚橋弘至
【技能賞】秋山　準
【新人賞】中邑真輔
【特別賞】坂口征二

ノゲイラ兄が技能賞部門で1票投じられた、03年度『東スポ』プロレス大賞は、新日本とノア勢が全部門を締める事態に! 前回、ボブ・サップとのMVP争いに敗れた高山善廣が、その勢いを落とすことなく03年も突っ走り、見事に大賞受賞!! 突然の復帰で下半期に大フィーバーを起こしたビッグ・サカも選出された。

識者＆関係者が選ぶ

紙のプロレス大賞2003

KAMI-PRO AWARD 2003

©中川画伯

アンケート項目

①MVP	➡最も活躍したと思うファイター
②ベストバウト	➡最も印象に残った試合
③ベスト興行	➡最も素晴らしかった大会
④ボクのわたしのMVP	➡ボクのわたしのMVPとその賞名

（五十音順）

ハッスルフリーライター

阿部タケシ

WWEFANCLUB、WWE－DVD.com、スカパー！HPで活動中。最近は「フレッド・ブラッシー自伝日本語版」を監修。

①炎武連夢
②UWA世界6人タッグ4WAYマッチ（8・30闘龍門JAPAN後楽園ホール）
③WWEレッスルマニア19（3・30シアトル・セーフコフィールド）
④ベストお誕生会ビンス・マクマホン誕生会（8・24「WWEサマースラム」試合後）

【総括】勝敗はどうあれ、記憶に残る試合が多くありましたわ。「プロレスの教科書」、ダブルクロスさんで発売されることを切に願うばかりです。ベストバウトはLow kivsAJスタイルズ（「01U$A」1・5後楽園）も入れたかったですけどね。この試合、正月からド肝ぬかれちゃいました。ベスト興行はWWEスマックダウンの神戸も挙げたかったなぁ。3連戦の最後ということもあり、観衆の盛り上がり、内容ともに完璧な興行でした。TAJIRI＆ライノ組、レスナー＆アングル＆ベノワ組vsビッグ・ショー＆エディ＆シナ組の試合は、過去の日本興行の中で、屈指の好試合と言ってもいいでしょう。ビンスの誕生日ですが、初めて誕生会がいいもんだと思いましたよ。他人の誕生日ですが。あんなメンバーで誕生会をしてもらうビンスは、世界一の幸せモノですよ。20

04年はチャンピオンらしいチャンピオンが出てきてほしいなぁ。順序良くベルトを腰に巻かれる王者ではなく、完全無欠のチャンピオンの登場に期待！　WWEに関しては、ジョン・シナ、バティスタ、ランディ・オートンがもっともっとトップグループをひっかき回してほしいなぁ。

I編集長

井上義啓

「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。ターザン、GK金沢、佐藤大編集長など、影響を受けた人間は数知れない。

①アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
②アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsミルコ・クロコップ（11・9『PRIDE・GP』東京ドーム）
③『PRIDE・GP』決勝戦（11・9東京ドーム）
④序列を叩きのめしたで賞➡中邑真輔

【総括】最近、試合を観戦していて、我を忘れることなどほとんどなかった。それにハハッと気付いたのが11・9『PRIDE・GP』である。勝負としてはヴァンダレイ・シウバvs吉田秀彦などが挙げられるが、あのミルコの妖刀を断ち斬ったノゲイラ兄の凄さとこれぞプロという最高のテクニックを高く買った。フッカーという程ではないが、「何でこんなに甘いんだろう」のオールキャストの中で「やはり最高のプロ」と独り言を言ったのがノゲイラ兄であった。中邑は本人の奮闘も大きいが、中邑を、敢

然と押し出した新日プロ・フロントの大英断を評した。今年は〝中邑方式〟で埋めていただきたい。

男気啓蒙音楽家

掟ポルシェ

ロマンポルシェ。（スーパーの店長室に親を呼ばれがちな軽犯罪コアバンド）の、スーパーの店長室に親を呼ばれない方担当。

①村上和成
②滝沢秀明＆ザ・グレート・サスケvsマッチョ★パンプ＆つぼ原人（ジャニーズJr.のテレビ番組『Ya・Ga・yah』での一幕）
③『X・1』（9・6横浜文化体育館）
④シティテレビ中野で月イチ定期視聴団体賞➡新生PWC

【総括】Hey！　ユーたち21世紀にもなってまだソーゴーなんて見てんの？　ッハアァ～、遅っっっっれてる！　時代はこれからプ・プ・プ・プロレスなんどえ～す！　……という負け惜しみボーイズの心で敢えて選んだ感動させてよ！プロレス限定大賞03。①凶器攻撃がなくてつまんねえ昨今の新日の中で唯一の血ミドロ人間兇器。トーア・カマタ並にいつ何時でも気前良く流血してくれる村上の試合にハズレなし！　俺の中では一番凄かった時の獄門党とタメ張るレベル。誰も誉めないのがおかしい。②全身にホホバオイルを塗りたくり妙に乳首をビンビンに立たせたマッチョ★パンプが原人を

引き連れタッキーの学校に殴り込み。怒りの鉄拳と化した滝沢クンはサスケの力を借りて学園の平和を守るために立ち上がった！　復讐のリングで華麗なプロレステクニックを駆使してマッチョ★パンプを集中的に叩きのめす滝沢クン（何故かつぼ原人への攻撃はほとんどなし）！そしてサスケのアシストを得てタッキーのフィニッシュホールド『カタイタ』（肩越しに当たるトペコンから相手の首あたりに馬乗りになり、そのまま相手の顔面に股間をグリグリ押しつけるようにして押さえ込む危険な技。もちろん相手は美木良介と風間トオルを足して2で割ったような甘いマスクのマチズモレスラー・マッチョ★パンプ）が決まった！　サスケのマスク越しの顔が何故か妙に半笑い気味だったのが気になったが、間違いなくタッキーのベストバウトだ！　プロレスというものがまだまだいろんな方面に届くということを知らしめた一戦。③健介がはじめて金網のリングに入ったという事実だけでおなかいっぱい（金網がグラグラ揺れるためスタッフが総出で手で押さえなければならないというオプション付き）。当然未見。だが、見ていない興行だけに幻想が膨らみ、俺の脳内でかなりとんでもないことになっているのでベスト興行に決定！　誰かビデオくれ！　あと、健介一家の今年の年賀状、マンドリルのアルバムジャケみたいでヤバすぎ。④森谷が代表で維新力がエース、その時点で充分狂っている。早くサバイバル飛田が維新力経営の『どりんくばぁ～』に放火しないかとわくわくしながら毎月ケーブルTVで観戦中。

『ザ・検証』連載中

椎名基樹

年男（not黒沢）です。死ぬ気で頑張ります！

①近藤有己
②桜庭和志vsアントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ
③8・10＆11・9『PRIDE・GP』
④ベスト・オヤジ賞➡ブスタマンチ先生

【総括】MVPの近藤は想像していたより、ビックリするくらい強かった。期待しています。ベストバウトは、最近の桜庭の試合を観ると、涙が出ます。ベスト興行は文句なし。ベスト・オヤジ賞をブスタマンチ先生に。こーゆーオヤジに私はなりたい。

元祖・アメリカ通信員

ジミー鈴木

79年の初渡米から25年、世界を股にかけカメラとペン両方で活躍するアメリカン・プロレス取材の第一人者。プロレス取材に人生を賭けるべく87年に米国へ移住。これまでの飛行距離は地球を300周を越えるジャーナリスト日本記録保持者でもある。「いま頭の中を支配するのは2月のWWE日本公演だね」と言う。

①日本＝天山広吉　米国＝ブロック・レスナー最高

殊勲選手賞（MVPと同格）➡日本＝小橋健太　米国＝ゴールドバーグ
②日本＝ブロック・レスナーvsビッグショー（横浜）、僅差の次点でHHHvsTAJIRI（代々木）
米国＝カート・アングルvs日本＝ブロック・レスナー
③日本＝『PRIDE・GP』決勝戦
米国＝レッスルマニア19
特別興行賞➡『ジャングル・ファイト』
最優秀タッグ➡日本＝大谷＆田中　米国＝ダッドリーボーイズ
殊勲賞➡日本＝アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
米国＝エディー・ゲレロ
敢闘賞➡日本＝武藤敬司　米国＝カート・アングル
技能賞➡日本＝えべっさん　米国＝AJスタイルズ
特別功労賞➡蝶野正洋

【総括】『紙プロ』は総合格闘技とプロレスの両方を扱う雑誌という部分から、両方のジャンルから公平に選んだ。昔の東スポ大賞のようにMVPを1人とせず、最優秀選手賞と最高殊勲選手賞が2人同格とした。まずMVPは日本から天山、米国からレスナーを選んだ。天山のG1優勝とIWGP獲得の際のファンの反応は評価に値する。あれだけファンを素直に感動させたシーンは最近のプロレス界にはなかった。政治的な部分で会社に損な役回りをやらされたのは本人の責任ではない。レスナーはレッスルマニアを始め数々の名勝負を行ない天下のWWEの凄さを見せつけた。最高殊勲は政治的な幸運に見事に内容で答えた小橋とゴールドバーグ。殊勲賞は難攻不落のミルコを見事に下したノゲイラと、最高の職人芸で輝き続けたE・ゲレロ。敢闘賞は明日をも知れぬ大きな爆弾を抱え奮闘した武藤とアングル。技能賞はその最高の試合内容からAJとエンターテイナーとして最高の技能を見せたえべっさん。そして人気下降で心配された新日ドーム興行に小橋やホーガンを連れてきた蝶野。接待部長として自らは犠牲になったが試合内容は立派。大恥興行となるところを食い止めた功績に対し特別功労賞を贈りたい。

本誌『ザ・検証』連載中

せきしろ

来年から絶対に頑張ります。2005年と切りもいいので。

①村上和成
②永田裕志＆棚橋弘至vs森嶋猛＆力皇猛（12・6ノア横浜文化体育館）

【総括】なにかと村上の試合は見てて、「同じ高校の喧嘩が強い先輩」くらいの感覚で応援してたら、なんと年下だということが発覚!?　ベストバウトは永田が戦闘不能になったやつ。そういうわけで、今年も懲りずにマット界大予

想！「解釈の仕方によってはどれも当たってた!?」なんてことになるかも。
●マサ斉藤がいよいよ……!?
●棚橋が今年も……!?
●ライガーが懲りずに……!?
●高山がロープをまたいだ瞬間……!?
●ヒョードルが人目を気にせず……!?
●鈴木みのるが服のサイズを……!?
●解説の船木がインカムをつけたまま……!?
●「雨だったら中止」と言われてたのに張り切ってヒーリングが……!?
●「お前が好きな子の名前を言ったら俺も言う」という言葉に騙されたミルコが……!?
●アンドレの大きさに、天国の神様がついにさじを投げた……!?

一挨塾・塾長
ターザン山本

「打倒・谷川貞治」を目標に掲げる大炎上素浪人。吉田豪にプリクラ付きのハガキを送りつけることが最近の趣味。

①田村潔司
②アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsエメリヤーエンコ・ヒョードル（3・16『PRIDE・26』横浜アリーナ）
③大晦日三大決戦
④とんびに油揚げ大賞➡谷川貞治

【総括】「自分を高く売る大賞」それが田村潔司、そういう男なのだ。是だ、是。「格闘技ポーカーフェイス大賞」これがヒョードルだ。抜群、抜群だ。「打倒紅白・大壊滅作戦大賞」それが大晦日三大決戦だ。成功、成功だ。「濡れ手に粟、とんびに油揚げ、火事場泥棒大賞」それが谷川貞治だぁ。バカ負け、バカ負けだぁ！　特別賞として、アントニオ猪木に「独り相撲大賞」をあげたい。そして俺（ターザン山本）は、「マット界貧乏くじ怨念大賞」をもらうぜ。ガッハッハッハッハッハッハッ！　押忍！

シュート活字第一人者
タダシ☆タナカ

高田馬場在住の歌うシュート活字王。「北米では〜〜」の名フレーズは、「声に出して読みたいマット界語録」のエントリーから惜しくも漏れた。

①近藤有己
②ベスト試合　小橋建太vs蝶野正洋（5・2新日本プロレス東京ドーム）
③K-1MAX魔裟斗が日本GP&世界GP制覇
④業界最悪賞➡森下直人プライド社長の自殺

【総括】①パンクラス10周年最高の幕切れ！二度の菊田早苗戦と『PRIDE』登場で本年はシウバの首を目指す。②動けない2人の試合内容ではなく、新日が創立31年目にしてやったブレンド興行UCのトリを飾った上でプロレス絵巻の素晴らしさを見せ付けた点。北欧ヘビメタのNighwishが新日中継のテーマ曲に選ばれた　③日本人が世界王者になった事実は大いに評価されるべき。年末を含めたTBSの躍進も特筆もの。④暗かった一年のすべての象徴。石井館長脱税逮捕の衝撃と表裏一体。大晦日の格闘技戦争で国民の伝統行事「紅白」に瞬間視聴率で勝利したことは明るいニュースと考えられるが、3大会が競合して、すべてプロレスではなく格闘技コンテンツだった皮肉は時代の要請なのか？　元気のないプロレス界の象徴が女子の凋落。35周年の全女は離脱、引退続出の迷走。8月31日後楽園ホールでのOZ興行が、オバサンたちの意地を見せつけて唯一感動させてくれた。WJやAtoZなど、設立段階から疑問だらけの船出だったのに、ファンだけが被害にあった格好なのが残念。闘龍門JAPANは180興行を成立させて、客筋を含めて唯一プロレスの新しい可能性を提示した。プロレスの神様賞は候補者なし。無理するなら「プロレスは無敵！」を宣言したジョシュ・バーネット。総合格闘技十周年賞はタダシ☆タナカの『誰も知らなかったプロレス&格闘技の真実』（幻冬舎）〜地球上に存在するすべてのプロレス格闘技の単行本中で最高のバイブル書だと自信あり。

©中川画伯

本誌「ほんとにジョーク連載中」
中川雅博

1977年10月3日生。天秤座。AB座。イラストレーター&親のスネ・クラッシャー。新しい家族が出来ました。北海道犬の高麗（コマ）です。インターネットをようやくつなぎました。便利！　「中吉」http://chu-kichi.jp/

①ミルコ・クロコップ
②橋本真也vs金村キンタロー（5・5WEW川崎球場大会）
③『PRIDE・25』（3・16横浜アリーナ大会）
④パーフェクト賞➡"Mr.パーフェクト"カート・ヘニング

【総括】2月10日に自分が好きなプロレスラー、Mr.パーフェクトが亡くなりました。ものスゴク落ち込みました。気力が無くなりました。毎日ビデオでMr.Pばかり見てました。もうプロレスなんてどうでもいい…と思いました。でもZERO-ONEや闘龍門やWWEを観たらやっぱり面白い！　大谷最高!!　ドッティ素敵!!　ケイン格好良い!!　自分はやっぱりプロレスが好きなんだなぁ…と再確認。

本誌「リングの汁」連載中
花くまゆうさく

マンガ家&イラストレーター。自己アピールとくになし。

②アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsミルコ・クロコップ（11・9『PRIDE・GP』東京ドーム）
③『ZST・GP』一回戦（11・23Zepp Tokyo）

【総括】時間なく一分で考えたので、こんなんです。……とにかく一本取りにいく選手に幸あってほしい。

本誌「大阪プロレスファン通信」連載中
原タコヤキ君

ちっちゃい頃の紙プロダミー編集長。現在、大阪の番組制作会社勤務。最近、ダンスに目覚め、自宅で『学園天国』を踊る日々。

①桜庭和志
②吉田秀彦vsヴァンダレイ・シウバ（11・9『PRIDE・GP』東京ドーム）
④『PRIDE・GP』（8・10&11・9）
④個人的MVP➡井上きびだんご（Tシャツアーティスト）&八木賢太郎（フリーライター）

【総括】家にスコーダーを購入した為に、これまで以上にプロレス&格闘技を観る機会が増えたものの、もうかなりお腹いっぱいです。年末のサクは、ヘラヘラしながら責任を全うするという、やはり"男の中の男"ですよね。あと、個人的MVPは、特に私生活において、大人の階段を上っているお二人にお贈りしたいと思います。ということで、今年のテーマは"責任感"に決定しました。いま。ちなみに『ハッスル1』は、どない言うてもひどい興行ですわ、あれは。

日本武道傳骨法會師範
堀辺正史

鋭い分析能力、ユーモア溢れる解説で格闘技の醍醐味を読者にお届けする「青春の大発見」者。

①ミルコ・クロコップ
②吉田秀彦vsヴァンダレイ・シウバ（11・9『PRIDE・GP』東京ドーム）
③11・9『PRIDE・GP』東京ドーム

【総括】今年の格闘技界は最初から最後までミルコ・クロコップを中心に回っていた。そのモチベーションの高さと存在感はMVPに値する。吉田vsシウバは、これまで見せなかったシウバの寝技の実力と、吉田の打撃に対する新しい興味が印象に残った。ベスト興行は今年の『PRIDE』興行すべてと言っていい。すべての大会が東京ドームに向けた"線"になっていたところが成功の秘訣。逆にK-1はすべてが"点"でしかなかったことが、12月のGP決勝（東京ドーム）に如実に現れてしまった。

スポーツニッポン記者
丸井乙生

1973年、青森県生まれの30歳。太宰治、寺山修司、淡谷のり子を輩出した青森高校〜大学の総長名が高木ブーの本名（高木友之助）だった中央大法学部法律学科を剣道三段で卒業。入社後は五輪担当で長野五輪を経験し、仙台支局で野球、ラグビーを担当。プロレス担当は4年目。スポーツ歴は25年来のスキー、剣道。ねぶた祭には毎年帰省。

①小橋建太
②三沢光晴vs小橋健太（3・1ノア日本武道館大会）、橋本真也vs金村キンタロー（5・5WEW川崎球場大会）
③ZERO-ONE★USA（1・5&6後楽園ホール）、闘龍門全般
④個人MVP➡金村キンタロー

【総括】昨年のプロレス大賞は高山が受賞したが、本来は、団体の垣根を越えた上に総合格闘技でもインパクトを残した02年に表彰すべきものだったとみている。小橋はGHC2冠王など記録に残る実績だけでなく、太陽の存在としてプロレス界に希望を与えた。彼の「一生懸命」は汚れた心を清めてくれる力を持っている。青少年の健全育成にも一役買えると思う。三沢vs小橋はハイレベルな攻防に脱帽。他選手が真似できない世界へ行ってしまった。橋本vs金村はプロレスでなければ表現できない戦いだった。橋本が故冬木さんの遺骨を抱いて有刺鉄線に飛んだ後、中村渉外部長は「あの人がうちのボスで良かった」と呟いた。私としてもプロレス担当で良かったと実感した瞬間だった。ベスト興行はU$Aか。ロウ・キーvsAJスタイルズのスタンディング・オペーションは忘れられない。ハシフ・カーンの開き直りにも乾杯。分かっちゃいるけど止められない大会だった。闘龍門は、興行に一切ハズレなしの継続的な努力を高く評価したい。個人MVPは、プロレス大賞でも敢闘賞にノミネートされた金村に。いや、本当に凄いって。WJは年明けの札幌大会の大雪中止でダメ押ししたが、MVPとは無関係。全日本・間の悪い人選手権なら優勝だったでしょう。

【編集部】

本誌鬼畜編集長
山口日昇

今年の『紙プロ』は「紙面を飾らない雑誌にするコラアー」と意味不明に吠えまくり、「ルールを守れーーーッー」と絶叫。そのまま姿を消した。"失踪する魂"（not疾走）

①高田延彦
②吉田秀彦vs田村潔司（8・10『PRIDE・GP開幕戦』さいたまスーパーアリーナ）
葛西純vs坂田亘（5・29ZERO-ONE後楽園ホール大会）
③『PRIDE・GP決勝戦』（11・9東京ドーム）

【総括】故・森下社長の一件で、一時期はその存続さえも危ぶむ声もあった『PRIDE』の熱&リボーンぶりは特筆に値する。毎大会「これ以上はないだろう」というほどのグレードぶりを見せてくれたが、次の大会にはそのハード

©中川画伯

ルを超えているのだから恐れ入る（『男祭り』はご愛敬）。その牽引車は言わずと知れた高田本部長。本人はこのフレーズは気に入らないらしいが、まさに「引退してから超パワーUP」だ。『泣き虫』を出版したことでプロレス界からはバッシング＆無視され気味だが、そのプロレス界に対しても今年は超パワーUPした熱を産み落としそうな勢いだ。いま「掻いて掻いて恥じ掻いて　裸になったら見えてきた　本当の自分の姿」ということを体現し、なおかつドラマに仕立て上げているのは高田本部長だろう。まさに〝プロレスラー〟である。そしてもう一人〝プロレスラー〟がいる。一昨年の高田戦に続き、ファンの脳裏にその存在を深々と突き刺したのが、赤いパンツの嫌われ者、もとい頑固者・田村潔司だ。敗れはしたが吉田戦は、まさにヒリヒリ感が絶頂となった異次元空間だった。この空気は真の〝プロレスラー〟にしか出せない。11・9のノゲイラvsミルコのヒリヒリ感も凄かったが、そのヒリヒリ感はもう純プロレスでは味わえない。味わえないところで何をやるかだが、田村vs吉田、ノゲイラvsミルコとは真逆の5月の葛西vs坂田戦も印象に残った。というより、悪夢のように脳裏に貼りついている。ヒリヒリ感がない中でも、葛西のサル知恵が炸裂して銭が取れる感動と笑いを立ち昇らせたが、やっぱりZERO-ONEには掘り出し物の試合があるので見逃せない。今年はプロレスも格闘技も、恥ずかしがらずに「ハッスルハッスル！」する年になるといいなぁ。

本誌・WJマグマ担当
松澤チョロ

昨年末は、ほぼ全財産が入った財布を落とし、傷心して帰宅すると今度は風呂を沸かしっぱなしで爆睡。4時間後、部屋中湯気だらけ、あまりの熱気に飛び起きるという我が人生最悪の日を経験。今年こそはと意気込むも、新年早々、昔モデルとして出たエロ本（まぬけヅラで乳を揉んでるところ）を彼女に発見され激怒されるなど出だしから絶不調！

①橋本真也
②吉田秀彦vs田村潔司（8・10『PRIDEミドル級GP』）
葛西純vs坂田亘（5・29ZERO-ONE後楽園ホール）
③『X-1』（9・7横浜文化体育館）＆『イノキボンバイエ』（12・31神戸ウイングスタジアム）
④ハッスル賞⬇辻結花

【総括】MVPは新年早々からハシフ・カーン＆SHOGUNで笑わされ、川崎球場での金村戦では泣かされ、その後も長州、高田本部長との舌戦で楽しませてくれた破壊王に。ベストバウトは吉田vs田村。2人の意地やら怒りやら、いろんなものが見れて大満足。12・7U-STYLEでの藤井戦も良かったが、普段はともかくリング上での田村はカッコ良すぎ。エプロンでしっぽを掴まれ、ずり落ちたパンツと引き替えにリングアウト勝ちを収めた葛西の頭脳プレーに一本。中年の今年も期待してます。ベスト興行は、どちらも伝説に残ること間違いなしの2興行。『猪木祭り』は大会までのドタバタも面白かったが、なんと言っても当日の大暴動こそクライマックス。まだ観てない人はPPV借りて観るべし。『X-1』はバーリトゥードもWJが手掛けるとアッと言う間にマグマ風味に。ある意味最高。他にも12・29DT後楽園で憧れの健介と対面し、あまりの感激ぶりに涙が止まらない藤沢一生の姿に思わずもらい泣き。個人賞は、尻すぼみとなった感がある女子格闘技において、4・2ウィンディ戦でのノゲイラvsミルコ戦ばりの劇的フィニッシュ、その後ケガに泣かされながらも女子初の『DEEP』＆『猪木祭り』にまで出場するなど一年を通じて話題を提供し続けた辻ちゃんにハッスル賞を。今年は海外からのオファーもいくつか舞い込んでるとのことで世界での活躍を期待したい。

本誌・現場監督
堀江ガンツ

昨年はリトアニア、ラスベガスと、会社の金で海外出張することに成功したが、今年も『PRIDE』のラスベガス大会、アントン総帥の『アフリカン・ファイト』、『モンゴル・ファイト』で世界を飛び回る予定です。世界戦略万歳！

①ミルコ・クロコップ
②C-MAvs高木省吾（10・28闘龍門　後楽園ホール）
③リングス・リトアニア大会（4・5ヴィリニュス）

【総括】MVPは文句なしにミルコ。試合における緊張感、そして立っているだけでオーラが漂う存在感、そして突き刺さるような発言の数々、すべてが完璧。手前味噌ながら、今年『紙プロ』に掲載したミルコインタビューはすべて気に入っている。ベストバウトは今年は豊作。リトアニアで見たイリホリの試合は日本人の魂を揺さぶられたし、ノゲイラvsミルコには試合後の両者のコントラストに格闘技の醍醐味がすべてつまっていたし、『DEEP』のヤノタクvsプラタは須藤元気vsバタービーンのオリジナルバージョンだ。しかし、これら格闘技のアンチテーゼとして、〝なんちゃって〟じゃない、エンターテインメント格闘技戦を見せてくれたC-MAの非凡な才能に脱帽でした。ベスト興行は、リトアニア武士道リングス大会。こんな遠い国の人々の間で、前田、高田、ヴォルク・ハンがヒーローとなっていたなんて素晴らしいじゃないか。

©中川画伯

本誌・電機追跡班
ジャン斉藤

麻雀新年初打ちの東発で立直一発国士無双オモウラを和了、「いまのは遊びということで……なかったことに（ニヤリ）」と、麻雀劇画張りの台詞をクールにキメて悦に入った28歳。

①ミルコ・クロコップ
②エメリヤーエンコ・ヒョードルvs藤田和之（6・8『PRIDE・REBORN』）
③『PRIDE・GP』開幕戦（8・10さいたまスーパーアリーナ）
④さようなら賞⬇ヴァリッジ・イズマイウ

【総括】みんながミルコに走るので、アントンを独占させていただきます！　と思ったけどやっぱりミルコ。その夢と浪漫に誰もが引き寄せられる〝マット界のM資金〟ことアントン系イベントは、日本テレビに史上最大の被害をもたらして、猪木さんは最高に面白かったけど。ベストバウトは、流血してスイッチが入ったヒョードルの鬼気迫るラッシュ（それでも無表情）、あの藤田が倒れ伏したまま呆然と宙を見つめる光景に背筋が凍った。藤田は何を思っていたのだろう。闘った者にしかわからない世界。ベスト興行は、出し惜しみのないマッチメイク、素晴らしすぎる試合内容、〝点〟とならずに次回大会に興味を繋げた『PRIDE・GP』開幕戦！　バックステージに勝手に潜り込んでいた男が選手の引き抜きに暗躍、目立ちすぎる裏方として大活躍したイズマイウに特別賞を。「『猪木祭り』に出してやる！」空手形を連発したトラブルで、どうやら二度と来日しなそうだから、イズマイウにも一度ぐらい幸せなことがあってもいいだろう。元気で！

本誌見習い
斎野政智

昨年6月に入社。悩みは会社の雰囲気に馴染めないこと。どんな話題にもリアクションが薄い残尿感たっぷり編集見習い（28歳）

①ミルコ・クロコップ
②エメリヤーエンコ・ヒョードルvsアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ（3・16『PRIDE・25』横浜アリーナ大会）
③『PRIDE・GP』決勝戦（11・9東京ドーム）
④よくぞ脱藩したで賞⬇美濃輪育久

【総括】①サップ、ヒース、ボブチャンチン、ドス Jr.を総てKOで葬れる男が、ミルコ以外にどこにいますか！　②ヴォルク・ハンが、自らに勝利したノゲイラに送った『狼からの伝言』。その内容通りに、ハンの弟子にしてリングス二冠王のヒョードルがノゲイラを破りPRIDEヘビー級王者に。リングス勢とノゲイラの抗争の歴史に幕が降ろされた瞬間、親の敵を討ったような達成感と虚無感に襲われました。③今後『PRIDE・GP2003決勝戦』を越える興行が現れるのか不安です。④イバラの道で靴を脱ぎ捨てるような生き方を選び、ブラジルで結果を出した美濃輪にしびれました。（中途半端な気持ちじゃなくて）

本誌・電気部
ささきぃ

『紙プロ』電気部所属の28歳。昨年のプロフィールに「今年こそダイエット」と書いてあるのに気づき、新年早々ブルーな気分に突入。昨年より増えた体重を、今年こそなんとかしようと思います。

①桜庭和志
②橋本真也vs金村キンタロー（5・5WEW川崎球場大会）
③4・22闘龍門代々木大会
④期待してますで賞⬇佐々木義人、石狩太一
いまさらですが技能賞⬇堀口元気、横須賀享

【総括】冷静に考えれば上半期は橋本真也、下半期は吉田秀彦。一年を通してすごかったのはミルコ・クロコップ。間を取ってサク（あれ？）。いつ何時でも面白い桜庭の試合を4回も見られた今年は、誰がなんと言おうといい年でした。文句あるか。こんな私ですいません。ベストバウトは、破壊王はもちろんのこと、対戦までこぎつけた金村を称えたい。5・5に至るまでの冬木軍を引っ張っていた姿は、痛々しくもあったけど素晴らしかった。そして今年になってもそれに比べて他の冬木軍の選手はもうちょっと退院直後のアイ・アム・プロレスラー宣言！ガンバレ（伊藤豪・黒田哲広を除く）。ベスト興行は堀口元気を飛躍させてC-MAが優勝という団体内の物語を完璧に完成させつつ、高山善廣という〝一般向き〟のスペシャルまで用意していた闘龍門代々木大会に。あらゆるプロレス団体がお手本にすべき大会だった。ホントはベストバウトにしようかとさえ考えた。MVPは複数になってしまいましたがこれからの爆発に期待したい選手たちと、マット界でもズバ抜けて巧い選手に。佐々木義人は十分面白いですが、そろそろ上を食ってしまえという期待をこめて。石狩太一は足が長い（山笠〝Z信介戦で気づいた）ので。ZERO-ONEで見せる光を全日本でも発揮してほしい。技能賞はいまさら巧さに気づいてごめんなさいのおふたりに。この2人を従えるマグナムTOKYOは幸せ者だと思います。12・16のマグナムのマイクも染みました。

SAKUMARIO

©中川画伯

本誌・パンフの達人
坂井ノブ

電気部所属ながら本誌ではWWEなども編集担当。某格闘技大会のパンフレットや「ハッスル1」のパンフレットも編集しました。WWE日本ツアーは全大会見に行きます。今年こそ『レッスルマニア』に行きたいなぁ。

①ブロック・レズナー
②エディ・ゲレロの「ズルして頂き！」な一連の試合（レフェリーのニック・パトリックも素晴らしい！）
③12・25WWE『SMACKDOWN！』クリスマス・フロム・バグダッド（次点：11・23『ZST・GP』）
ベストシーン賞⬇冬木弘道の遺骨を抱え、自ら電流爆破に突っ込んだ橋本真也
新人賞⬇モンターニャ・シウバ
どこにいっちゃったんで賞?⬇ハルク・オーガン

【総括】砂漠のど真ん中にリングを置いて、ちゃんと入場ゲートも組み立てて（木製）、客席には戦車、上空には戦闘ヘリ、入場ゲートの上にはスナイパーという厳戒態勢だった『SMACKDOWN！』バグダッド大会を選んだのは、「ベスト」うんぬんとは別次元で非常に2003年っぽい大会だと思ったので（もちろん映像しか見てませんが）。政治色120％の大会で日本人としては思いっきり違和感を感じたものの、「中指を見せてくれ！　そいつをサダムのケツにぶち込んでやれ！」というストーンコールドのマイクに米軍兵が一斉に中指突き立てて大歓声を上げるシーンや、イスラム国家でビールをガブ飲みするオースチンにアメリカを感じました。「BUSH3：16」ってプラカードも出てたけど、WWEはアメリカという国家そのものを象徴するプロレス団体になっちゃいましたね、日本のプロレス界はいまだ村社会だというのに。

アメリカ業界紙

「レスリング・オブザーバー大賞2003」

発表!!

KAMI-PRO AWARD 2003

'03北米から見た日本マット界

文/タダシ☆タナカ

昨年の総括をして選手たちを表彰するのは、なにも伝統の『東京スポーツ大賞』に限らない。ファンが勝手に発表するインターネットの書き込みから各団体が独自に功労者を発表するものまで、無数にあってしかるべきだろう。

週刊の『レスリング・オブザーバー』は82年の創刊で、関係者が読むトレード・ジャーナル（業界誌）の側面を持つことと、日本の専門誌には書かれていない日本発の情報が大量に載っていることからも、1月中旬に発表される読者の投票による年間大賞は、日本人選手が大量にランクインする国際性から注目を浴び続けてきた。

雑誌天国の日本と状況が違って、北米の場合は活字プロレス情報の売り方が二極化している。書店で買える月刊『RAW』マガジンのような団体公式のものか、舞台裏の仕組みを理解した上で楽しむ層だけを対象に、自宅に郵便で送られてくるニューズレター形式のものかに大別されるのだ。前者はディーバの水着グラビア写真が売りになるし、後者はオブザーバーのようにまったく写真を使わないで、情報量で勝負していくことになる。

ルー・テーズ十リック・フレアー賞と名づけられた03年MVPは、小橋建太が96年に続いて二度目の栄誉に輝いた。プロレスのベスト試合にも北米の関係者たちが3月1日の武道館での三沢光晴戦をこぞって選んでいること、またノアの王座を守った実績や、新日本プロレスでの蝶野正洋戦を考えれば順当だ。ほかの項目でも高得点を稼いでいることや、本田多聞ともいい試合を見せてしまえる職人能力が評価理由になっている点は、オブザーバーらしい選考基準といえるだろう。

以下の順位は別項を参照していただきたいが、極彩色なミックスと言わざるを得ない。日本人プロレスラーが3名。WWEから3名。そして総合格闘技選手が4名という結果もまた、総合が始まって10周年の1年間を象徴する縮図となった。たとえばサップは「ベスト・ボックスオフィス・ドロー（興行上のエース）」でダントツの1位になり、映画俳優として大活躍したはずのロック様を抑えて「カリスマ賞」をも獲得している。

UFCでクゥートアが40歳にしてティト・オーティズを破り統一王者になった実績が評価されるのは自然だろう。「シュートファイター・オブ・ザ・イヤー」にも選ばれている。しかし、ブラジル人のシウバがMVPで堂々の5位に入っただけでなく、総合のベスト試合「シュートマッチ・オブ・ザ・イヤー」には吉田秀彦との『PRIDE・GP』の一戦が1位だったので驚いた。単純に試合がエキサイティングで面白かったことが影響している。

そしてこのシウバやミルコへの高い評価だけでなく、「プロモーション・オブ・ザ・イヤー」に『PRIDE』が初選出されたことは画期的である。02年が石井元館長だった「ベスト・プロモーター」には、これらの選手を抱える榊原信行代表が選ばれ、フルネームが印刷されているのは壮観ですらあった。

極めつけは、プロレスと総合すべてを対象にした「ベスト興行」賞で、シアトル・マリナーズの本拠地セーフコ・フィールドに野球の試合では不可能な記録更新の大観衆を詰め掛けさせ、"超人"ハルク・ホーガンvsビンス・マクマホンの対決や、ショーン・マイケルズvsクリス・ジェリコの師弟対決で湧いた『レッスルマニア19』を凌駕して、11月9日の『PRIDE・GP』決勝大会が選ばれている。北米のマニアからは、日本マット界は総合格闘技勢躍進の1年と見られていたことは間違いないのである。

日本のプロレスではノアが全体でもポイントが高い。日本語の放送でしかないのに「ベスト・ウィークリー・TVショー」に輝き、「最高タッグ」賞が丸藤正道&KENTAだったのは喜ばしい限りだ。

ZERO-ONE勢からは残念ながら選出されてはいない。もっともアメリカ人選手が数多く登場し、興行がバラエティーに富んでいることから、海賊ビデオの人気が年間を通して高かったことは報告しておきたい。VT路線に踏み出しながら、年末には早くもプロレス回帰宣言に追い込まれている新日がボロクソな評価であることを加味すれば、通年ではZERO-ONE★U$A以下、新しい試みに次々にチャレンジしていたことは北米でも好意的に報道されている。

一方、ライバル誌『週刊フィギュア・フォー・レスリング』で、「デス・ウォッチ（死亡観察）」という小見出しで毎週詳細に報告されていたWJは、「ワースト・プロモーション」を受賞するのは予想されていた。北米のマニアたちは日本の状況をよく知っている。結婚相手のステファニー・マクマホン（最低インタビュー賞）が関係者から嫌われてることもあり、「ワーストマッチ」賞はケガが多くて不本意な一年だったHHH（過大評価賞）vsスコット・スタイナーの試合が選ばれていたが、2位には1・19『W-1』ブッチャーvsさたやんが選ばれていることからもそれはわかるだろう。エンタテインメント路線は北米がお手本なのだが、持ってきた選手がアーネスト・ホーストらではマニアは許してくれない。国内では関西弁キャラが確立していても、さたやんは総合で活躍できなかったから信用されてない悲劇でもあった。

オブザーバー大賞のユニークなところは、別欄に掲載されている部門以外にも、カテゴリーが豊富にあること。北米らしい賞のカテゴリーとしては、「ベスト・ブッカー（現場監督）」につきる。今回はWWEの二軍にあたるOVWを担当して、ブロック・レスナーらを育てたベテランのジム・コールネットに投票が集中したことで、本隊WWEの番組内容に対する批判がアンチテーゼとして出たと考えられている。アメプロの影が薄かった一年となってしまったが、それだけ総合格闘技の躍進が目立ったといえよう。投票をつのる関係で、11月末までのサイクルが選考対象になる。大晦日のテレビ戦争は競合する各ニューズレターで詳細されていたから、04年も格闘技色の強いものになりそうである。

2003 Wrestling Observer New Sletter Awards

レスリング オブザーバー

Worked match of the year

順位	試合	ポイント
①	三沢光晴 vs 小橋建太	2862P
②	KENTA&丸藤 vs 金丸&橋	2117P
③	ジェリコ vs マイケルズ	504P
④	ロンドン vs ブライアン	485P
⑤	KENTA&丸藤 vs 村浜&ライガー	397P
⑥	アングル vs レスナー	312P

Shoot match of the year

順位	試合	ポイント
①	吉田 vs シウバ	2344P
②	ノゲイラ vs ミルコ	2108P
③	クゥートアー vs ティト	1269P
④	ヒョードル vs ノゲイラ	524P
⑤	リンドランド vs バローニ	315P
⑥	田村潔司 vs 吉田秀彦	293P

Best box office draw（興行のエース）

順位	選手	ポイント
①	ボブ・サップ	4169P
②	小橋建太	1481P
③	ミルコ・クロコップ	1011P
④	桜庭和志	813P
⑤	ロック	612P
⑥	エル・デ・イホ・サント	214P

Promoter of the year

順位	名前	ポイント
①	榊原信行（『PRIDE』）	417P
②	R・ファインスタイン（RHO）	192P
③	三沢光晴（NAOH）	126P
④	ビンス・マクマホン（WWE）	55P
⑤	ウルティモ・ドラゴン（闘龍門）	23P
⑥	ダナ・ホワイト（UFC）	9P

Best major wrestling show

順位	興行	ポイント
①	11・9『PRIDE・GP』決勝戦	2822P
②	3・30 WWE『レッスルマニア19』	2217P
③	9・12 NOAH日本武道館	701P
④	8・10『PRIDE・GP』開幕戦	661P
⑤	3・1 NOAH日本武道館	426P

Best on interviews

順位	選手	ポイント
①	クリス・ジェリコ	1308P
②	ジョン・コナー	1299P
③	ロック	1106P
④	"ランペイジ"・ジャクソン	917P
⑤	C.M.パンク	575P
⑥	リック・フレアー	551P

Wrestler of the year

順位	選手	ポイント
①	小橋建太	3388P
②	カート・アングル	1770P
③	ランディ・クゥートアー	949P
④	ブロック・レスナー	908P
⑤	ヴァンダレイ・シウバ	501P
⑥	永田裕志	360P
⑦	高山善廣	301P
⑧	エディ・ゲレロ	205P
⑨	ボブ・サップ	190P
⑩	ミルコ・クロコップ	188P

Shootfightr of the year

順位	選手	ポイント
①	ランディ・クゥートアー	3046P
②	ヴァンダレイ・シウバ	2532P
③	ミルコ・クロコップ	1200P
④	A・ホドリゴ・ノゲイラ	754P
⑤	E・ヒョードル	326P
⑥	マット・ヒューズ	259P
⑦	"ランペイジ"・ジャクソン	153P
⑧	ボブ・サップ	135P
⑨	吉田秀彦	107P
⑩	ティム・シルビア	38P

Promotion of the year

順位	団体	ポイント
①	『PRIDE』	2968P
②	NOAH	2469P
③	ROH	1766P
④	WWE	668P
⑤	CMLL	593P
⑥	OVW	415P
⑦	NWA／TNA	318P
⑧	UFC	266P
⑨	闘龍門	233P
⑩	ZERO-ONE	201P

Woest match of the year

順位	試合	ポイント
①	HHH vsスコット・スタイナー	166P
②	ブッチャー vs さたやん	106P
③	HHH vs ケビン・ナッシュ	84P
④	ボブ・サップ vs ホースト（『W-1』）	74P
⑤	ハイバー vs Mr.アメリカ	67P
⑥	ジム・ロス vs コーチマン	48P

Woest promotion

順位	団体	ポイント
①	WJ	377P
②	CZW	119P
③	XRW	84P
④	WWE	84P
⑤	全日本	65P
⑥	AAA	62P

ポイントはカテゴリーによっては1位x5P、2位x3P、3位x2Pのシステムにより加算される。これ以外にもカテゴリーは豊富に存在するが、興味深い部門のみピックアップ。さたやんの面白さは北米には理解不能だったようである。

Courtesy Wrestling Observer

CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

2004 NO.70

Main-Event

K-1総合格闘技イベント立ち上げ!!
ボクも逃げませ～ん!!

格闘技大戦続行ーッ!!

Special Talk

Radical Special

Pro-wrestling Special

Columns

Another

ⓒDOUBLE CROSS 2004 本誌掲載記事、写真等の無断転載、複写、複製禁止のルールを守れーーっ!! 殺すぞコノヤロウ!

時代の強風は豊かな試練!!

『ハッスル』とは風車である!!

年末年始イベント戦争
大総括!!

月刊Y²談

VOL.13

構成／ジャン斎藤
designed by Tani-Yan (Two three)

山口　今年もハッスルするぞーっ！「スリー、ツー、ワンッ、ハッスルハッスルッ！」（破壊王ばりに腰を動かして）。

吉田　（冷たく）新年早々、カラ元気出してますねえ……。

山口　カラ元気って人聞きの悪い言い方するなよ！　ついこないだも神奈川県の富岡高校っていうところで、オーちゃん（小川直也）と講演会をやったんだよ。その富岡高校って他の高校と合併して、この4月から金沢総合高校っていう総合高校に生まれ変わるんだって。その閉校式の記念式典でオーちゃんが講演会をやったんだ。窓口の山口先生っていう人が小さい版型の頃からの『紙プロ』読者ってこともあって、俺も司会役で呼ばれたんだよ。そこで最後は校長先生を始めとした先生方や全校生徒と一緒に「スリー、ツー、ワンッ、ハッスルハッスルッ！」をやってきたからね！　こいつぁ春から縁起がいいですよ。

吉田　（さらに冷たく）中卒の会長（山口日昇のあだ名）が高校でイベントやってもいいんですか？

山口　（眉をピクリと動かし）学歴詐称で問題になってる古賀議員ふうに言えば「高校は卒業してると思ってたんですけどねぇ……」。ま、俺は大検も受けてるからね。占い師には東大に行ける頭脳を持ってるって断言されたし。

吉田　（あきれ顔で）で、その高校では『ハッスル1』と違って大盛り上がりだったってことですね。

山口　そうそう……って、だから人聞きの悪い言い方するなって！『ハッスル1』の観客もハッスルしてたでしょ！（ここで山口の携帯が鳴る）あ、ちょっと待って。うちのインチキ会計士から電話だ。

吉田　最近の読者は知らないでしょうけど、小さな版型の頃の『紙プロ』で連載を持ってた金閣寺会計士ですね（笑）。

山口　（電話に出る）もしもし。……は？いまから歌舞伎町のキャバクラに出勤せよ？……いま対談中なので、ひとりでハッスルしてきてください！　以上!!（電話を切る）。

吉田　あ、もう切っちゃうんですか（笑）。どうせなら、ついでに1年10カ月の実刑判決が下った石井館長の脱税事件について、会計士の目から見た感想も聞いてみてくださいよ。

山口　あ？　あれは裁判長が言った「巧妙な手口でさまざまな架空経費を計上し、億単位の裏金を還流させた手口は大胆かつ悪質な事件」を、現在は被告が反省してるっていう状況なんだから、そっとしとこうよ（笑）。しかし考えれば、絶対的な力を発揮してた館長が表舞台に出れないことが、大晦日の混乱につながったところもあったね。

吉田　じゃあ、『ハッスル1』のことは後回しにして大晦日格闘技戦争の話からしましょうか。

山口　いや、大晦日は凄かった！……特に『猪木祭り』！（笑）。

吉田　あれだけ日本テレビが大金を投入したのに視聴率が平均5・2%、曙vsサップ戦の同時刻には0・2%を記録しちゃったからスポンサーサイドは怒るだろうし、すでにギャラ未払いの噂が流れてますよね。

山口　それはどうか知らないけど、局としても提示されたカードがほとんど実現しなかったんだから、踏んだり蹴ったりってところだろうね。

吉田　大晦日決戦を直前特集した『スポーツYeah！』は読みました？　そこで「格闘技に興味はない」っていう日テレのスポーツ制作担当副部長がインタビューされてたんですけど、「川又（誠矢）さんから提示されたカードは高山vsミルコ、藤田vsアーツ、ノゲイラ、シウバ、

桜庭と田村がVTタッグマッチで『男祭り』で対戦するプランもあった［山口］

ヒョードルが出て、メインは吉田vs小川だったはずなのに、どうも約束と違うことが多すぎて」とかボヤいてて（笑）。

山口　客入りも主催者発表だと4311人ってことだったけど、久々にド迫力、ケタ違いの水増しってやつを見たよ。

吉田　1ケタ間違えてるって言われてますからね。しかも、あれだけ「暖房あり！」をアピールしてきたのに会場は寒かったから、唯一の売りすらなくなってたんですよ（笑）。

山口　ガハハハ！　PPVなのに試合開始が遅れたんだよね？

吉田　ああ、手配していたゴングが届かなくて遅れたんですよね（笑）。

山口　結局、当日になって大阪在住の三島☆ド根性ノ助に持ってくるように頼んだけど、三島選手も急な話だったからどうにも間に合わなかったらしいよ（笑）。

吉田　あとアリスター・オーフレイムと闘った橋本友彦（DDT）と間違えたみたいで、なぜか『猪木祭り』関係者は、いまはなき『SRS・DX』で書いてたライターの橋本（宗洋）君に連絡して「あなたの写真とプロフィールを送ってください」って言ってきたらしいですよ（笑）。

山口　ガハハハ！　ホントなの、それ？確かに橋本君は破壊王ばりの体格をしてるけど、ちょっと考えればわかることなのにね（笑）。

吉田　大会パンフレットにも、なぜか『男祭り』に出た小路晃の写真が出場選手として丸々1ページ出てるかと思ったら「交渉中の段階で掲載してしまいました」ってお詫びのチラシが挟んであったりで、いちいちズサンなんですよね（笑）。

山口　だから、もはや伝説なんだよ、『猪木祭り』は。でも、一番面白かったのは、年越しカウントダウンセレモニーの暴動寸前の騒ぎでしょ。PPV中継した『スカパー！』でも「あんな光景を流していいのか？」って問題になったらしいよ。

吉田　地上波では流れなかったですけど、完全に放送事故でしたからね（笑）

山口　この模様は『猪木祭り』のページで再録するらしいから詳しい説明は省くけど、"非常識"が売り物の猪木さんが、リングになだれ込んで来たファンに向かって「ルールを守れ！」って絶叫してるんだから、それだけでも歴史に残るイベントだよ（笑）。

吉田　そもそも選手の引き抜き問題で一番ルールを守ってない猪木さんが言うなって話なんですけど（笑）。元旦の深夜番組で猪木さんが内田裕也と対談した番組って見ました？

山口　見てないけど、相当面白そうな対談だね。

吉田　ところが、ビックリするぐらい話

Y²談出席者

↑吉田 豪

毒舌冴え渡る本誌スーパーバイザー。村上和彦先生、真樹日佐夫先生主催による、混じりっ気なし雄度100%の合同忘年会で、これまた雄度100%の力也さんとの集合記念写真。

↑山口日昇

文中でも触れられている講演会での鬼畜編集長。ちなみに今年の初夢は、キレイな女性が「のぼたん、のぼたん」と暖かくステキな声で語りかけてくるものだったらしい。ズバリ言って、死期がちかい！

月刊Y^2談

が噛み合わないんです（笑）。唯一ツボだったのが最近の格闘技界の話になって、猪木さんが「いまはいろいろプロモーションがあることで引き抜きが非常に増えて、ギャラがどんどん上がってる。これは非常によくない」とか他人事みたいに言ってたことなんですよ（笑）。

山口　ガハハハ！　俺もついこの間、明け方に偶然見たんだけど、日テレが自分の局の番組を批評してる番組があったんだ。そこで最初に出たのが『猪木祭り』（笑）。「対戦カードが直前まで決まらないのは視聴者を云々かんぬん」っていう視聴者からの投書を紹介して、キャスターがなぜそうなったかを説明するんだけど、それが苦し紛れもはなはだしいの。で、最後には「他の局と被らないような番組づくりを」とか「今後はこういうことのないようにしたい」とか、『猪木祭り』からの撤退宣言と取られてもおかしくない内容だった（笑）。

吉田　『猪木祭り』の裏話といえば、『週刊特報』っていう週刊誌にも「『猪木祭り』の舞台裏で暗躍した女帝」って記事が載ってましたよね。

山口　ああ、ブラジリアン・トップチームを始めとするブッカーで、かつてはリングスで活躍したU女史のネタでしょ？

吉田　違いますよ！　あくまでも「内山京子さん（仮名）」ですから（笑）。

山口　しかし、「『猪木祭り』と『PRIDE』を股にかけた節操のない女」とかは、この手の暴露系週刊誌が女性を扱う際の典型的表現だけど、「本人は20代と言っているが、実際は40代」っていうのは失礼極まりないよね。さすがに「20代」なんて図々しいことは言わないだろって（笑）。

吉田　それ以外にも、マリオ・スペーヒーと肉体関係があるだの、川村さんの元愛人だの、「リングスも内山女史の暴走によって掻き回されて崩壊したと言っても過言ではない」「サゲマン女帝」だのとかなり過激な表現がありましたけど、そうだったんですか？

山口　俺に振るなよ！（笑）。ともかく、誰がリークしたのか知らないけど、まだ地盤もしっかりしてない中で、誰かがちょっと目立つと足を引っ張る体質は変わらないね、この業界は。あ〜、やだやだ。

吉田　今回の『猪木祭り』は、足を引っ張られるまでもなく自滅したって感じですけどね。ヒョードルの欠場会見で「契約書をよく読んでみたら『PRIDE』に出なければいけない契約でした」って釈明したりとかで（笑）。

山口　他に負けたくないというモチベーションに火が点いちゃって、あんまり表には出せないような話も大晦日大戦には多かったわけだけど、長州力的に言えば、「『猪木祭り』は何をやりたいんだ、コラァ！」って感じだったね。それが面白かったけど。

吉田　猪木さんは「他の興行はテーマがないけど、『猪木祭り』だけはテーマがある」って言ってましたけど。

山口　何のテーマがあったのかぜひ聞きたい。

吉田　いや、「馬鹿になれ　夢をもて」っていうテーマらしいです（笑）。

山口　それは単なるサブタイトル！

吉田　ヒョードルも馬鹿になって、新天地に夢をもって出てきたわけですよ（笑）。しかし、こういう事態になっても猪木さんは「次回の『猪木祭り』はラスベガスで開催する！」って宣言するから、さすがですよね。

山口　ただ、関係者は例によって寝耳に水らしいけどね（笑）。たぶん、やったとしても、前にロスでやった『平和の祭典』みたいなプロレスの大会になるんじゃな

大晦日格闘技大戦・視聴率折れ線グラフ

18時 19時 20時 21時 22時 23時

30 30 45 00 05 10 17 22 37 42 44 56 00 11 30 40 42 47 57 05 11 17 21 34 38 46 53 58 04 05 09 16 18 23（分）

0 10 20 30 40（%）

男祭り

猪木祭り

Dynamite!!

20% 大巨人×ヒース

21% ミルコ×ノゲイラVTR

19% OH×高田

24% 吉田×ホイス開始

最高28% 吉田×ホイス

最高13% 安田敗れる

アントン×ドラゴン

22% ホースト勝つ

10% ジョシュ勝つ

22% 中邑×イグナショフ

11% 村上KO負け

6% 永田戦意喪失

10% 田村勝利

32% 曙&サップ入場

21% CM

最高43% 曙敗れる。紅白越え！

17% 桜庭×ホジェリオ

大晦日各テレビ局・番組視聴率一覧

●TBS
- 輝く！ レコード大賞（18:00〜20:50） 12.7%
- 『Dynamite!!』（21:00〜11:24） ―― 19.5%

●フジテレビ
- 『PRIDE2003男祭り』 ―― 12.7%
  （18:30〜19:20………9.3%、19:20〜21:20………17.2%
  21:20〜23:30………8.9%）
- ジャニーズ・カウントダウン（11:40〜24:40） ―― 10.5%

●日本テレビ
- 『猪木祭り』（20:00〜23:15） ―― 5.1%

●テレビ朝日
- ドラえもん（18:00〜20:50） ―― 11.0%
- 『ビートたけしの世界はこうしてダマされた』（21:00〜23:30） ―― 6.1%

●テレビ東京
- 年忘れにっぽんの歌（17:00〜21:30）10.5%
- 『奇跡を呼ぶ超空間魔術の祭典』（21:30〜23:30） ―― 2.2%

●NHK
- 『紅白歌合戦』 前半（19:30〜21:20）― 35.5%
  後半（21:30〜23:45）― 45.9%

TBS「曙×サップ」瞬間最高43%獲得時他局視聴率

●NHK「紅白歌合戦」長渕剛　35.5%
●テレ朝「世界はこうして騙された」ビートたけし　3.5%
●フジ『PRIDE男祭り』桜庭和志　3.2%
●教育テレビ『アニメ宝箱』十二国記スペシャル　1.8%
●テレビ東京『超空間魔術』マジック　1.3%　●日テレ『猪木祭り』藤田VTR　0.2%

『Dynamite!!』の視聴率紅白越えに、NHK会長が逆ギレする一幕も！ ビデオリサーチ社の視聴率調査結果は日本を揺るがすに事態となった。曙vsサップの煽り映像を入れつつ番組構成したTBSの手腕も光った。紅白だけではなく、かつての名作をズラリ並べたドラえもん、毎年恒例『レコード大賞』を敵に回し、安定した数字を叩き出した『PRIDE男祭り』の健闘も見逃せない。日本テレビは散々な大晦日。ちなみに同日11：25から2時間枠で放送された1・4新日本ドームは平均6.4%。時間帯が被ったフジテレビ『K-1バイブル』は12.2%を稼いでおり、K-1昨年のベストバウト特集に大差の敗北。新日本プロレスの厳しい現状がそのまま低い数字となって表れた。

い？　猪木さんの人生、一寸先はハプニングだからどうなるかはわからないけど。

吉田　一部スポーツ紙で報じられた「3・28さいたまスーパーアリーナ開催案」にしても、後になって会場を押さえてあるのはK-1だったことが判明しましたけど、つまり川又さんとK―1が一緒に総合格闘技なりの大会をやっていく可能性もあるわけですか？

山口　そういう見方も出てきてるね。K-1から飛び出て旗を揚げたのが川又さんだったわけだけど、今回の『猪木祭り』に天田ヒロミが出たり、高山vsミルコが消滅した後に、高山vsレイ・セフォーというカードが浮上して、高山と直々に石井館長が交渉してたから、大晦日間際にはK-1と『猪木祭り』の38度線もだいぶ武装解除されてたよ。高山vsセフォーはK-1ルールだったから、最終的に高山は飲まなかったみたいだけどね。

吉田　K-1ルールだったら飲まない方がいいですよ。村上（和成）にもそれは言いたいですけど。

『猪木祭り』最大のハイライトといわれるアントン総帥とドラゴンのエキシビジョンマッチ。あれほど拒絶していた大仁田の来場を許したり、永田も急遽駆り出されたりと、なりふり構わないラストスパートで突っ走ったアントン総帥だったが、どれも大会の起爆剤とはならず。

山口　K-1側からすれば、K-1ルールで高山vsレイ・セフォーをメインでやってたら「これもK-1」って言い方ができて、精神的に落としどころを見つけられる。もともと今回の大晦日大戦の引き金はK-1の分裂劇から始まったとも言えるけど、本番間近には、最終的にK-1と『猪木祭り』が急接近するという、真冬の怪談並の舞台裏になったよね。

吉田　最近になって新日本が「K-1に対しては真剣勝負です！」って言い出して抗争が続くことを示唆してますけど、新日本の2部リーグ案が浮上していることも踏まえて考えると、日テレの『猪木祭り』はK-1と新日本の格闘技部門が抗争する場になっていくんじゃないかって気もしますよね。猪木さんもK-1との急接近ぶりをアピールしてたし。

山口　前からK-1は総合部門もプロレス部門を作りたいって言ってたから、それも含んでそういう展開になるかもしれないね。『K-1&新日本』vs『PRIDE&ハッスル』という図式がハッキリしてきたよね。

吉田　しかし、『Dynamite!!』は瞬間最高視聴率で紅白越えを果たしたんだから、K-1もさすがですよね。

山口　うん。瞬間最高視聴率が43%だよ！　つまり、それだけの人が最後に曙がダウンしたときの、まるで車に轢かれた巨大なヒキガエルのような姿を見ちゃったわけだ（笑）。

吉田　ついでに言うと、それだけの人が曙一家の後ろに座ったターザン（山本）の姿を見ちゃったってことなんですけどね（笑）。

とにかくプロレス的には ほとんどメリットがない大晦日だった［吉田］

山口　誰も気にしてないよ、ターザンのことなんか（笑）。ただ、『Dynamite!!』は名古屋ドームの2〜3階席は解放しなかったのを見てもわかる通り、格闘技イベントとして熱や求心力があったかという点では「?」マークが付くね。でも、話題づくりや視聴率を取るテレビ番組としては完璧だったよ。これは谷川大将軍の大勝利じゃないの？　あそこまでテレビ制作側にスタンスを置くというのは、谷川大将軍にしかできない（笑）。

吉田　でも、『週刊特報』の格闘技相関図には、「石井和義→リモコン操作→谷川貞治」という、『鉄人28号』ばりの関係性が書かれてましたよ（笑）。

山口　ガハハハハ！　失礼だなぁ（笑）。あそこまでの視聴率を取ったのは素直に評価したいけどね。テレビ番組として。

吉田　なんか意味深な言い方してますね（笑）。それに比べて『男祭り』はカードも内容もちょっとマジメ過ぎたんじゃないですか？

山口　確かに比較的地味なカードが並んだよね。それでも会場は掛け値なしの超満員だったし、『PRIDE』の〝場力〟もイベント力も感じれたよね。

吉田　『ハッスル1』にはほとんど感じられなかった熱があったわけですね（笑）。

山口　おまえは高田本部長か！（笑）。『ハッスル』を見てない人が聞いたらよっぽど熱がなかったっていうふうに聞こえちゃうだろ。『ハッスル』はどことは言わないけど他の団体よりは客も入ってたし、PPVも最近のプロレス中継の中ではバツグンにいい数字だったんだから。どこかの週刊誌じゃないんだから、これからのイベントのスタート時点で、イメージをむやみやたらに悪くしようとするのはやめろよ（笑）。

吉田　じゃあ言いますけど、『男祭り』のTVで「桜庭vsノゲイラ」「田村vsセフォー」のテロップを出すのは絶対に卑怯ですよ。普通の人は絶対に兄貴のほうだと騙されちゃうはずだし。

山口　まあ、その程度のレトリックはいいんじゃない？　ダメなの？　『猪木祭り』なんて「猪木vsアリの再来」とか全部が全部、レトリックだったんだから（笑）。

吉田　そんなヒドい例と比べちゃダメですよ！　田村も試合後にマイクを持ったから桜庭戦が流れたことに触れるのかと思ったら、いきなりU-STYLEの宣伝を始めるし（笑）。

山口　みんな田村のマイクには「サクラバ」という四文字を期待したんだけどね。田村との確執が有名な桜庭だけど、「『男祭り』が話題的に押されてるから」ということで、私怨を捨てて『PRIDE』のために田村戦のオファーを受諾したんだよね。サクはやらないだろうと思ってたから、まさに男！　ミスター『PRIDE』ですよ、サクは。

吉田　逆にあの田村が簡単に頷くわけがないですよね（笑）。

山口　やっぱり田村としては桜庭戦には特別な思いがあったんだよ。当初大晦日は田村vsノゲイラ兄戦で動いてたんだよね。だけど、ノゲイラ兄が格闘技大戦のあおりを受けてなのか体調的なことなのか大晦日には出なくなった。で、田村もモチベーションが一旦下がったというか、大晦日はもう試合がないと思ってたところでの桜庭戦のオファーだったからね。

吉田　「こんなドタバタではやりたくない」「大晦日だからっていう理由でやりたくはない」と。

山口　それでも主催者サイドは朝方の5時過ぎにU-FILEのジムまで行ったりして、なんとか桜庭戦で承諾してもらえるよう交渉してたんだよ。あるときなんか夜中の2時過ぎにジムに行って、表に田村潔司の車が置いてあるんで〝あ、いたいた〟と思って、事務員に田村を呼ぶように頼ん

だら、「なんかしたんですか？　いません。裏口から逃げました」だって。主催者サイドは「そう言えって言われたんでしょ？」と言ったんだけど、「嘘だと思うなら探してみてください」って言われて、主催者サイドがマットをひっくり返したりトイレを見たりジム中を探し回ったけど……ホントにいなかった（笑）。

吉田　ダハハハハ！　さすがは赤いパンツの頑固者！

山口　一瞬のうちにジムの裏口から出て、違う車でいなくなったみたいなんだよ。違う日には、榊原代表もケーキにロウソク立てて、「ハッピバースデイ、タムちゃん♪」とか歌って誕生日を祝いながら交渉してたらしいんだけどね（笑）。

吉田　裏では大変だったんですねえ（笑）。

山口　『PRIDE』の言い分や桜庭の気持ちをわかってはいても、それでも「イエス」と言わなかったんだから、田村にとっての桜庭戦というのは我々が想像する以上に大事なものなんだろうなぁ。『Dynamite!!』の曙vsサップ、それから『猪木祭り』のヒョードルvs永田なんて特に、ファンの後押しがあって実現したカードじゃなかったでしょ。手当たり次第に声かけて無理矢理組み合わせた感がアリアリだった。だから『PRIDE』ぐらいはファンに後押ししてもらえるカードを組みたいという思いも主催者にはあったらしいけど。ファンからのアンケートを取っても桜庭vs田村戦はダントツだったし、やる以上はファンの夢を大晦日に叶えてあげたいっていう気持ちが主催者は日に日に強くなっていったみたいなんだけどね。

戦前の予想通り、格闘技戦争ブッチギリの視聴率獲得を果たした曙vsサップ。視聴者の興味を惹かせるTBSの番組構成も冴えた。今年の大晦日には再戦も噂されるが、それまで話題は継続できるのか？　それにしても曙のダウン姿は衝撃だ！　ん〜ダイナマッ!!

『Dynamite!!』は話題づくりや視聴率を取るテレビ番組としては完璧だった［山口］

吉田　少なくともロニー・セフォーは誰も望んでないですからね（笑）。

山口　もともと『PRIDE』サイドは、言い方は悪いけど、田村を大晦日に引っ張り出す餌としてロニー・セフォーの名前を出したんだよ。さっきも言ったけど田村はノゲイラ兄との試合が消滅した時点で大晦日に出るモチベーションはなくなっていたから、ロニーの話から再び大晦日に出る機運をつくろうとしたんだ。

吉田　単なる撒き餌ってことですね。

山口　タムちゃんは異種格闘技戦みたいな試合の方が趣味趣向としては合ってるから。セフォーの話をきっかけに主催者サイドが最終手段として提案したのが、桜庭vs田村のタッグマッチだったんだよ。もちろんバーリ・トゥード（以下、VT）のね。たとえば桜庭のパートナーは松井大二郎で、田村は大久保ちゃんをパートナーにするとかでいいから、2人の絡みで夢を見させてくれと。

吉田　本当に田村vs桜庭が実現するのであれば、その予告編としてはいいですよね。

山口　短い時間でも田村と桜庭が接触する場面があれば、大晦日という特殊な日時だからこそ、なおさらファンもいい夢を見れると思ったわけ。で、その案を田村は了承したんだけど、今度は桜庭が首を縦に振らなかった。「『PRIDE』は一騎打ちというコンセプトで始まったものだから、タッグマッチをやったら『PRIDE』が『PRIDE』じゃなくなる」と完全決着の一騎打ちを主張したんだ。それもよくわかるわけ。で、そうこうしてるうちに桜庭の相手として残っているのは、ノゲイラ弟とエル・ソラールしかいなくなってた（笑）。

吉田　ソラールが最初からリストアップされてた理由が、よくわからないんですけど（笑）。

山口　仁義なき格闘技大戦に巻き込まれてなくなったけど、『男祭り』には当初、ミルコ、ヒョードル、ノゲイラ兄、シウバも出る予定だった。それなら、ソラールみたいな選手も桜庭ワールドを炸裂させるための相手としてはアリなんじゃないかってことで挙がってたんだよ。

吉田　たとえば、桜庭もマスクを被ってきてマスクマン対決をやったりって感じですか？

山口　それも大晦日というお祭りムードの中なら、"純度100パーセント、混じりっ気のない桜庭ワールド"を見せるっていう意味ではいいだろうってことでね。桜庭は11月9日のランデルマン戦で足を怪我してて大晦日に出れるかどうかもわからない状態だったから、他にメイン級の試合が決まれば、ソラール戦もアリじゃないかってことだったんだよね。ソラールは『DEEP』で鈴木みのるとやったときに最後は金的狙いの膝で反則負けになったけど、50歳近いのに闘志満々だし、鈴木みのるからテイクダウンも取ってるし、未知さ加減っていう意味でも興味深かった。試合も面白くなる可能性はあったんだよね。

吉田　ホジェリオだったら、まだソラールの方がよかったかなぁ……。

山口　でも、サクだって田村戦がなくなった時点で相当モチベーションは下がってるはずだけど、自らノゲイラ弟というやりにくいシビアな相手を選んで、しかもわざわざ紅白に合わせて小林幸子ふうのド派手な衣装で入場してファン・サービスにつとめて、なおかつレベルの高い相手と大晦日のあの時間帯に血を流しながら殴り合ってるんだから、頭が下がりますよ。他の局が話題づくりやお祭りム

ード優先でやる中で、結果は残念だったけど、あの試合があったから『PRIDE』の本筋を見せたことにはなったよ。

吉田　ただ、最近の桜庭は見てるだけでも痛々しい状態になってるから、大晦日ぐらいお祭りカードにしてあげたかったですよ。

山口　そういう気持ちもあるね。でも、比較的地味なカードが並んだ中で、平均視聴率も5時間で12・7%取ったんだから、ある意味でフジテレビの勝利とも言えるよね。

吉田　結果的に猪木さんが「大晦日に格闘技の大会がある」ってことと、「だけど日本テレビの『猪木祭り』はガタガタだ」って宣伝したことになって、フジとTBSが得したような気もしますよね（笑）。

山口　猪木さんはやっぱり面白いよ。ただ残念なことに、猪木さんの発言をいちいち拾って喜んでるのは本当に少数派でしょ。一般層の人なんか意味不明だと思うんだよ、やってることも含めて。

吉田　パンフレットで「そういう意味で、今回は電気なんですよ」って話してるのを読んだり、いつもの「触ってねえです！」節が出ただけで大喜びしたりするのは、全国でも100人ぐらいなんでしょうかね（笑）。

山口　それが視聴率に現れちゃったね、今回は。大晦日戦争で格闘技バブルは終わったという人もいるけど、俺は猪木バブルが弾けたなっていう気はするね。『猪木祭り』の会場で一番盛り上がったと言われる猪木さんと藤波社長のスパーリングにしても、そのときの視聴率はよくないしね。

吉田　ちょうど真裏で『男祭り』の吉田vsホイスをやってたんですけど、緊張感の差が歴然とし過ぎちゃいましたね。

山口　互いにジャージを着ての余興的展開だったとはいえ、ドラゴンのスリーパーで絞め落とされたはずの猪木さんが担架からむっくり起きあがって、「……ということで藤波が引退します」なんてやってるわけだから。プロレス・マスコミは『ハッスル1』よりも、あっちのほうを問題にすべきなんじゃないの？　あれはいいんだ？（笑）。

吉田　猪木さんなら何をやっても許されるんですよ、結局。とにかく、プロレス的にはほとんどメリットのない大晦日だったと思いますよ。勝ったのは新日本色の薄い選手だけだし。

山口　俺は4～5年前から言ってるけど、VTや立ち技に対抗できるような選手の育成を新日本がずっと怠ってた。それにいまやっと気づいていろいろやりだしてる。それはいいんだけど、その4～5年前からも状況は刻一刻と変わってるんだよね。これだけ総合格闘技のレベルが上がっちゃうとプロレスとの二足のワラジはよほどの覚悟がないと無理なんだよ。VTとプロレス、どっちでも強さを見せてくれるのは夢だけどね。

吉田　それができるのはジョシュ（・バーネット）みたいにガチンコ側から来た選手ぐらいですよね。

山口　ジョシュにしたってプロレスで高いレベルを見せるのは難しい。プロレスはプロレスでハードルを高くしないとジャンル自体が滅びちゃうからね。そういう意味では小川直也が総合格闘技には出ないでプロレス一本に絞ってやってるのは時代を見極めてるなぁって思うよ。オーちゃんには『PRIDE』に出てほしいけども、「プロレス復興」っていうテーマを掲げた以上、それを遂行しなきゃ気が済まないっていう彼のモチベーションに嘘はないでしょう。総合もプロレスも、どっちも生半可な気持ちではできないっていうね。

吉田　その思いは届いてないですけどね。

『PRIDE男祭り』が放つスーパーカードとして実現が期待された桜庭vs田村。ガチンコタッグマッチでの遭遇も検討されたが、今回はお流れに。2人がリングで相まみえる日はくるのか……？

山口　「『PRIDE』から逃げた」とかそう言われるのもわかっててプロレス一本でやろうとしてる小川の覚悟を理解してるマスコミもないし、相変わらず叩くだけでしょ。オーちゃんは自分が『PRIDE』に出てたころと違って、総合やるならそっち一本でやらなきゃ無理。プロレスやるならそれも一本でやらなきゃ無理。そういうレベルの時代になってるんだっていうことを言ってるだけでしょ。たった3～4年でもそれくらい違うんだよってことを時代を先取りしなきゃいけないマスコミがわかってないもん。いま頃プロレス・マスコミが「小川はZERO-ONEや『ハッスル』でくすぶってないで、『PRIDE』やK-1に出ろ」なんて言ってるんだもんね。

吉田　小川が高いレベルのプロレスを提供できないせいでもあると思いますけど。

山口　『ハッスル1』への評価もキツイね、プロレス・マスコミは。

吉田　『ハッスル1』は試合以外のネタとかは抜群に面白かったですけど、肝心の試合がイマイチでしたからね。それに、プロレス専門誌としては「新しいプロレス」という打ち出し方が引っ掛かってるんだと思うんですよ。

山口　あ、「新しいプロレス」というのを連呼するのは俺もよくないと思う（笑）。

吉田　基本は古き良きプロレスで、そこにWWEスタイルの演出を加えたようなものでしたからね。

山口　『週プロ』の増刊号も、ヒステリック&マニアックに書いてあったよね。

吉田　『W-1』との差別化がされてなかったのも問題だと思いますよ。小島の試合なんか演出も同じで、むしろ『ハッスル1』の方がショボかったわけだし。会場に行った人は、どうこう言っても最後のハッスル劇場で「まあ、しょうがねえな」「これで笑ったからいいか」みたいになってましたけどね。あの状態でちゃんと締められたのはすごいと思いましたね。破壊王は試合こそ全然ダメだったけど、メイン終了後に花道を走ってきてからは最高でしたよ！

山口　あの強引なエネルギーは他の追随を許さないね。破壊王が高田本部長を蹴って、本部長が「オマエ、いま蹴ったろ」って言ったのは面白かった（笑）。

吉田　ああいう、どこまでアドリブなのかわかんない感じは面白かったですね。ただ、どうせ高田がビンス・マクマホン的な役割をやるんだったら、もうちょっとヒールに徹しないとOH砲も活きないし、さんざん煽ってから小川に投げられて上半身裸にでもされれば観客もスッキリしたと思うんですよね。

山口　高田延彦が今後プロレスに復帰するのを既成事実のように書いてるところも多いけど、これは本当に現時点では、ないよ。

吉田　つまりその部分は完全に見切り発車だと。今回、見てていちばん感じたのが詰めの甘さだったんですよ。たとえばメイン終了時のゴタゴタがあって、そのとき高田の入場テーマが鳴って花道を歩いてきたら、それだけで爆発したと思うんですよね。

月刊Y²談

山口　そういうアイディアは腐るほど出ただろうけど、イベント的にも見切り発車な部分はいくらでもあったんじゃない？　だから『ハッスル』の一番最初の会見で、記者から「1・4は、『男祭り』が大晦日にあるし、中3日の開催でDSEはプロレスどころじゃないという報道もありますけど」みたいな質問が飛んで、榊原代表が「確かにイベントの日程は詰まってますけど、プロレスということなんで問題なく運ぶと思います」って答えたことが一連の騒動の発端になってたでしょ。でもホントにその通りで、あれだけのイベントを中3日でやるのは無理だったんだよ（笑）。

吉田　ダハハハハ！　むしろプロレスだからこそ無理なんでしょうね。

山口　そう。だから『ハッスル』に対して「プロレスをナメてる」みたいな書き方をしてるプロレス専門誌もあったけど、プロレスこそがホントに大変なものだってことは『ハッスル』のスタッフが一番痛切に感じてると思うよ。なんで既存のプロレス団体が、アバウトなやり方に流れていくのかがよくわかったんじゃない？

吉田　つまり「プロレスをひとつひとつ真剣につくっていったら身が持たない」ってことですか（笑）。

山口　そうだと思う。だからWWEのすごさがホントによくわかるね。スタッフのチーム編成からイベント構成からテレビ対応から、いまの日本の団体でできないことをキチンとやって、なおかつ世界に発信してるわけだから。『ハッスル』はWWEのパクリっていう意見もあるけど、目指すところは、WWEのいいところは見習って、日本のプロレスの伝統のいい部分は残して構造改革しようということだと思うよ。それが一発目では表現しきれなかったんでしょう。

吉田　物足りなさを感じたのは、そういう理由だったんでしょうね。

山口　構造改革っていうことで言えば、「最初の客いじりがダメだった。どうせなら島田裕二が『みなさんハッスルしてますかーっ！』『今日も大入り満員で大盛り上がり！』とかやるべきだった」とか書いてたけど、あの客席のウォーミングアップタイムにしても、日本の土壌に合うかどうかもわからないし、醒めた反応が来るかもしれないっていうのも見越してやってるでしょう。

吉田　そこまで見越してたのに、なんでやったんですか？

山口　あれはラスベガスのショーをモチーフにしてると思うんだけど、『ハッスル』は、従来の日本のプロレスのように「観戦」するスタイルじゃなく、アメリカのように観客参加型にして熱をつけたいっていう意図があるようだよ。1・4はプロレス初進出のさいたまスーパーアリーナ、しかもデカイバージョンで『男祭り』と同じ会場だったけど、その客席のウォーミングアップタイム中に「大晦日、『男祭り』は超満員御礼！　今日は……？」とか「近いうちにここをプロレスファンの力で超満員にしよう」とかの文字がビジョンに出たでしょ。それもいまあるプロレス界の現状をきちんと見据えて、みんなで新たな地盤を構築していこうよっていう現れだと思うんだよね。最初は受け入れられないにしても、破壊王じゃないけど、そういうことも強引にでもやっていかないと変わらないからね。「誰vs誰」っていう打ち出しに頼るなら、それこそ三沢vs武藤とか、川田vs三沢とか、刹那的な夢のカードか初顔合わせでしか観客は入らないでしょ、いま。

吉田　まあ、カード発表しないとチケットは動かないのが現実ですよね。

山口　「誰vs誰」という勝負論を掲げて、それを「観戦」するという魅力は、それこそ『PRIDE』なりK-1が持っていってしまったんだから。それだけじゃない違う売りが必要でしょう、プロレスには。だからまずは観客参加型のイベントにして、カードがどうであれ「あの場に行きたい」と思わせなきゃダメなんだよね。

吉田　それには団体なりイベント側なりに信用がつかなきゃいけないじゃないですか。だけど『ハッスル1』は1回目でこれだけ叩かれちゃった以上、やっぱり初めにカードありきってやり方にしないと会場は埋められないですよね。

山口　叩かれたって言うけど、それはヒステリックなプロレス・マスコミと、コアなファンにでしょ。プロレス・マスコミやコアなファンは斜に構えて見るのが趣味だから、新規参入のものはホメないでしょ（笑）。『ハッスル1』の会場アンケートでは、たまにしかプロレスを見ない人や、初めてプロレスを見た人たちからは「面白かった。また見に来たい」という声が圧倒的に多いんだよ。事実としてね。あと「ふだん読んでる雑誌は？」という項目がアンケートに入ってて、「紙プロ」って書いた人からは肯定的な意見が多いみたい（笑）。

吉田　まぁ、中身はもっと練らなきゃダメだとしても、方向性としてはいいってことなんですかね。

山口　反省点、改善点は多くあるとしてもね。俺だって正直に言えば、自分が見てきたプロレスを壊されたくない、守りたいという意識は人一倍あるよ。でも、プロレスというのはもともと大衆娯楽、初心者もマニアも老若男女が楽しむことができるから大きくなったジャンルなんだから。多くの人たちが見て、その中から、奥行きのあるモノの見方が育っていくものでしょう。「広く深く」だったから、プロレスはジャンルとして成長したんだよ。新たなファン層を開拓しようとしないで、パイがどんどん狭くなってるプロレスファンのご機嫌伺いばっかりしてさ、「狭く深く」にこだわってるプロレス・マスコミは、自分で自分の首を絞めてるようなもんだよ。

破壊王は試合こそはダメだったけど 大会をちゃんと締めたのはすごい［吉田］

試合内容は低調だったが、リングが人間力を試す場所とするならば、そのハードルを文句なしの飛び越えたのがOH砲vs高田劇場。単独でも面白い3人が絡めば、想像を絶する化学反応を起こすのはある意味、当然だ。

吉田 なんだか今日は熱いですねえ、会長！

山口 （話を聞かず）それも「深く」掘り下げてると思ってるのは自分たちだけで、実際は全然深く物事を見てないんだから。これは『W－1』叩きをしたときにも感じたけど、『週プロ』なんかとくに、SWS叩きでプロレスファンを決起させた成功体験に縛られてるよね。

吉田 熱いなぁ……（笑）。

山口 （さらに話を聞かず）コアなファンもさ、プロレス・LOVEとかなんとか言うなら、新しいファン層やこれからファンになろうとする人にプロレス・LOVEを禅譲する勇気くらい持ちなさいってことだよ。マスコミも含めて、自分たちの趣味趣向に合うことや自分たちが理解できる安全パイの出来事しか認めないんだったら、お先真っ暗じゃない？ 歴史を知ってる20代後半から40代ぐらいのファンだけを相手にしたってさ、次世代のプロレスなんてつくっていけないよ。

吉田 あ、そういう既存のファンは相手にしないんですね（笑）。

山口 いや、そういう人はもちろん大事だから、その人たちを満足させるようなものをつくらなきゃいけないだろうけど、その人たちも本当にプロレスのことを考えるなら意識を変える必要もあるんじゃないかってこと………（沈黙した後、いきなり大声で）「風は町の豊かな試練です」!!

吉田 なんですか、いきなり！

山口 ……あれ、「試練」じゃなくて「資源」だったかな？ 意味的には「資源」だろうけど、言葉的には「試練」のほうがいいな（ブツブツ）。「試練」で行こう、「試練」で！

吉田 だから、なんなんですか！

山口 いやね、偶然この前さ、『プロジェクトX』の再放送を途中から見たんだよ。

吉田 （あきれながら）また偶然見たテレビの話ですか。

山口 （無視して）でね、山形県の立川町っていうところは、長年〝ダシ風〟っていう強風に悩まされてきてたんだって。農作物は育たないし、連動して町は貧困にあえいで人々の心は荒んでいくしでね。そこである人が、その町を苦しめる〝ダシ風〟にたじろぐんじゃなく、その風力を町のために利用することはできないのかと考えたわけだよ。

吉田 ほう。まさに〝風車の理論〟ですね。

山口 そこで、巨大な風車をつくろうとしたんだけど、何億もかかってしまうから不可能なんだ。それでもめげずにアメリカから巨大な風車を輸入しようとした。それも政府の許可が降りなかったりの紆余曲折があった。でも最終的に努力が実って巨大な風車を3機輸入できた。結果、立川町は風車を使った風力発電で温室栽培に成功して、余った590万キロワットアワーの電気は電力会社に売って、その巨大な風車は観光名所にもなった。経済的にも町が蘇ったわけですよ。まさに電気があればなんでもできる！（笑）。

満身創痍ながら花道を全力疾走！ パワフルな締めの挨拶といい、とにかく破壊王は元気だ！ 小川も人生初のシングルフォール負けを喫したあととは思えないハッスルぶり。このエネルギーはマット界の財産だ。

プロレスに吹いている逆風を利用するエネルギーや知恵が必要［山口］

吉田 町にとっては害でしかなかった風を有効利用したってわけですか。

山口 うん。その番組のナレーション風に言うと、「母を泣かせた風、妻を痛めつけた風、その風が希望の風になった」っていうわけだよ。それが引き金になって、北海道の襟裳町や茨城の波崎町も強風に悩まされ続けたんだけど、立川町にならって風車を導入して立ち直ったんだってさ。

吉田 つまり、プロレス界に吹いてる逆風も、風車を利用して立ち直らなければならないということが言いたいわけですか？

山口 ピンポーン。UFCやK－1や『PRIDE』が出てきてからはプロレス界には逆風が吹きっぱなしでしょ。つまり、『ハッスル』はプロレス界に立てられた〝風車〟なわけですよォォォォォ！

吉田 なんでターザン調になってるんですか！

山口 高田本部長が出した『泣き虫』もプロレス村では不要説があるけども、立川町の人々を苦しめた〝ダシ風〟でさえ、〝風車〟によってエネルギーに変えることができた。強風を無視したり敵視することだけじゃ何も生まれないんだよ。強風は確かに痛いし寒いけども、そこで引きこもったり塞いだりせずに、その強風を逆に有効利用してやろうというエネルギーや知恵が、いまプロレス界には求められてるわけですよォォォ！

吉田 だからなんでターザン調になってるんですか！ 言わんとすることはわかりますけど、相変わらず強引ですねぇ。

山口 いや、『プロジェクトX』を見ててもプロレスのことを考えてる俺が言うんだから、間違いない！（笑）。いまのプロレスマスコミとコアなファンの視野は実に狭すぎる！

吉田 まぁ、コアなファンから言わせると、能書きはいいから早く中身を充実させろってことでしょうね。『ハッスル』はまだまだ肝心の中身が追いついてないですからね。

山口 だから、ついでに強引に言うと、1・4に〝風車〟の試運転は終わったんだから、〝風車〟のこれからの稼働具合を見たほうがいいんじゃないっていうことですよ（笑）。『ハッスル』がプロレス界の〝風車〟となって、新たなエネルギーを生み出してくれればいいんだけどね。そうなれば新日本も相乗効果でもっとよくなっていくだろうし。

吉田 いや、『ゴング』によれば「プロレスは死なず。1・4ドームに5万3千人集結」ってことだし、この年末年始の興行戦争でチケット一番人気は新日本だったらしいから、新日本は心配する必要ないと思いますよ。ターザン曰く「これからは新日本の時代」らしいし（笑）。

山口 は？ どういうこと？

吉田 いや、この前のドームでターザンシートを作ったものの、イマイチ盛り上がらない試合ばかりでターザンもテンションが低かったんですけど、休憩中に猪木さんの控え室に連れて行かれてからはもうすっかりご機嫌になって、大会終了後のトークイベントで「これからはボクが新日本のアングルとか考えてかなきゃいけないと思うんだよ。かつて全日本でボクがやってきたように。そうすれば新日本の時代だよ！」って言ってたらしいですよ。これは書けない話でしょうけど（笑）。

山口 ガハハハハ！ 結局あのオッサンは「これからは俺の時代だ」って言いたいだけでしょ。いいよ、それ載せよう！ 俺が許可する。ハッスルハッスルッ!!（笑）。

【04年1月某日／編集部にて収録】

プロレスリング・インターナショナルジャーナリスト

WWE公認フォトグラファー

ジミー鈴木

超不定期押しかけ連載？

キャバレートーク

テキサス州ダラスの自宅前で、愛車のBMW540IとメルセデスE320ステーションワゴン を前に高田本を持ち中指を突き立てるジミー氏

——ジミーさん、今回はどういった目的で来日されたんですか？

ジミー 「プロレス大賞」で新年の挨拶を一気にできるし、毎年1・4ドームには顔を出してるからね。まあ、せっかく呼び出したからには何か問題発言でも（笑）。で、その前に一言。前回のインタビューで新聞社に横流しした人物って話があったけど、あれは鶴田記者じゃないよ。可哀想にかなり疑われたらしい。で、問題発言……。

——お願いします！（笑）。まずは、ジミーさんのホームページを見ると、大晦日にIWGP王者の中邑選手や永田選手が負けたことに関して、かなり憤ってましたよね。

ジミー 憤ってるっていうか、極論しちゃえば俺は新日本のそういった姿勢に大反対なんだよ。藤波さんとプロレス大賞の時に話したんだけど「この流れは食い止めようがないからチャレンジしていくしかない」って言ってたよ。

——社長の力を持ってしても、この流れは食い止められないと？（笑）。

ジミー そう言ってた。でも別物の競技に出ていったって、将棋の名人がオセロの大会で勝てってこねえじゃん！

——まず勝てないですね。

ジミー そういうことなんだけど、結局一緒に括られちゃって、負けたら将棋の名人って弱いなって言われてるのと一緒でしょ。新日がそうやって外に出て行って困るのが新日だけなら新日の責任で済むけど、業界全体がそれによって落ちるようなら他の団体がいい迷惑じゃん。だから新日が討って出るのは反対だね。と同時に中邑選手がチャンピオンの状況をつくって出したかっていうのは多分いろんな意図が裏にあったんだろうけども俺はそれも気に入らないな。中邑選手本人は何も悪くねえよ。本人も頑張ってるし。ただ、彼にベルトを預けるのは奇策ではあると思うんだけど、もうちょっと後でもいいかなって思ってるよね。いまだったら西村がチャンピオンだよ、やっぱ。

——IWGP王者は西村さんが相応しいと？　ジミーさんは前から西村さんへの評価は高いですからね。

ジミー そう。だから西村修じゃないけどプロレスラーはプロレスラーだっていうことだよ。何で将棋が碁の大会に出なきゃいけないんだよ。それで将棋ファンの夢を壊すなよって部分はありますよね。で、髙田延彦の暴露本！

——あ、そこにつながってきますか？

ジミー つながる！　でもね、あまり読む気がしなかったんだけど、この間飛行機で読んでみたら暴露本ってほどでもないんだよな（笑）。

——それほどでもなかったと（笑）。

ジミー 書き方のスタンスはザ・ロックとかのWWEスーパースターズたちの単行本に似ている。

——あ、そうですか。

ジミー だけど髙田本部長はWWEの選手じゃないよね。いまだカミングアウトをしていない現在の日本の状況化で、この本が「タブー」ということは事実だよ。まあネットで情報が溢れる中、この手の書き方でないと……単に髙田の自伝じゃ売れないだろうけど。

——売れ行きは違ってたでしょうね。

ジミー ただ、中途半端な本だよね。

——えっ？　どういうことですか？

ジミー Uインターのホモ疑惑うんぬんとか、オセロ中島との浮気疑惑うんぬんとか……まあそれは冗談として、プロレスの試合が結果が最初から決まったものだったと書いてあるのに、PRIDEでの自分の勝ち試合にかかってる八百長疑惑には触れてない。

——そこまで言いますか！

ジミー いいじゃん、プロレスをあんな風に書かれたんだから、背を向ける の辞めたよ。で、証拠はないけど、業界の噂ではそういう話が一般的だし、ネットの検索で「PRIDE　八百長」とかけてみると何百件もの結果がでてくるしね。俺はリングに上がってないから嘘かマコトか、ここでは断言できないよ。だけど、あの本を読んでそうした声から背を向けた中途半端な部分を大いに感じたよ。

——そこまで書いたら、更に倍は売れましたかね（笑）。

ジミー 書いたらみんなで拍手なんじゃない？　まあスペースの都合もあるからこの辺にしとくけど、ホームページにもっと書いとくから、まあそれはいいや。で、新日がK・1や総合の大会に選手を出すこと……これも形を変えた暴露本だと思うんですよ。

——形を変えた暴露本というと？

ジミー 行き着くとこは本部長の書いた本と、新日本が永田選手をヒョードルとぶつけてあんな結果出しちゃったっていうのは本部長の暴露本を証明してるようなもんじゃない？　本部長の本っていうのはいろいろ背後があったと思うんだけど、ぶっちゃけて言えば出産費用のために書いたんだろ？

——まあ、そうは言ってませんけどね。

ジミー でもそうなんだろ？　で、「この本は暴露本じゃありません」って言ったって昔の仲間を売ったんだろ！　売れたっちゅうのは、いかにいけないことしたかっていうバロメーターですよ（笑）。大体、暴露本なんか業界に携わった人間だったらみんな書けるんだよ。俺や他のみんなだって金は欲しいけど仲間を売るようなことはしてねえじゃん。彼は私利私欲のためやった訳でしょ。そりゃ気に入らねえよ……って、いきなり反感買うようなことをガンガン言ってるけどさ（笑）。

——出だしから飛ばしてますね（笑）。

ジミー でも『ハッスル1』はコンセプトは面白そうだな！　髙田本部長をビンスにしちゃうってのは最高だよ！

——本はダメだけど『ハッスル1』での髙田さんはオッケーだと？（笑）。

ジミー あれはいいと思うよ。もちろん、まだ始まったばっかりだから煮詰まってないっていうか洗練されてないっていうか、まだ青いよ！　でもやろうとしてることはスッゲエ面白そうな気がする。その方向は当たりだと思う。

——方向性は間違いないですか？

ジミー そう思う。髙田本部長がビンスになりきってもグレードの差はあると思うんだけど、やろうとしてることはスゲエ面白そうじゃん！　そこまで言っといて1・4はドームに行ったんだけどさ（笑）、やっぱりプロレスの記者としては本流を行きたいからね。

——ド真ん中を歩きたいと？（笑）。

ジミー ド真ん中って言うと語弊があるけど（笑）。試合自体はビデオでも見られるから、前にも言ったことあるけど俺にとっては尊敬する竹内（宏介）さんや菊池（孝）さんと話しをしながら見ることが勉強になるんだよね。そ

〝髙田本〟は気に入らねえけど、『ハッスル』でビンスになりきる本部長は最高だよ！

編集部にいると突然電話が……。「もしもし、ジミーですけど、いま日本に来てて、たまたま近くにいるんだけど、これからインタビューやんない？ ネタはいっぱいあるからさ」「わ、わかりました」。というわけで話を聞いてきました。終了後、ジミーさんは夜の課外授業（キャバレー）へ直行です！

聞き手／**松澤チョロ**

れに「泣き虫」に対する憤りがあったから自分の身をそういった所に置きたくなかったっていうのもあるし。でもね、『ハッスル1』に関してはファンもそうだけど、マスコミもボロクソ言ってんじゃん！

——ここぞとばかりに言ってますね。

ジミー　でもね、プロレスの生きる道はそういう方向だと思うんだよな。そういう意味では反感もあるかもしれないけど正しい道行ってるよ。でも髙田延彦の「これが世界のプロレスなんだ」発言、その通りだよ。あと、小川とゴーバーの試合はどんなに不細工な試合になるかってことを嫌味なヤッらは期待してたと思うんだけどさ（笑）。両方とも引っ張るタイプじゃないから。

——たしかにそうですよね。

ジミー　でも思ったより上手くまとまったんじゃない？　前回の『紙プロ』のインタビューで、小川直也がリング上で大の字になってっていう部分もできるようになってきたら、もっと良くなるのにって話をしたと思うんだけど、そういう方向に行ってる気がするよね。今回の敗戦で小川選手はグレードアップしたんじゃない？　また一皮剥けたと思うよ。

——いまだに小川さんには『総合のリングに上がってくれ』っていう声が多いんですけど、彼がやりたいのは『ハッスル1』のような方向ですからね。

ジミー　正しい道だと思うよ！　小川直也はホントに強いんだけど総合に出て無敵な訳ないんだよ。藤田選手も含めてどんな選手でも。ただ、いまの全体の雰囲気だと、小川直也が総合に出て行って黒星喫するのは凄いマイナスな訳じゃん。そんなら出ないで正解だもんな。俺は小川選手のやってることはスゲエ正しいと思う。妄想が膨らむじゃん。「小川が出ればヒョードルやノゲイラでもやっつけられる」って。プロレスの元々の夢ってそういうところにあるじゃん！　ファンタジーを守りつつ、同時に強さを感じさせながら妄想を膨らませてくれるレスラーが小川直也ってことでしょ。

——小川さんは『ハッスル』でハッスルするのが一番だと？

ジミー　俺はそう思うな。でも新日本が本腰上げてエンターテインメントをやろうとしたら、どこも太刀打ちできない素晴らしい物を創り上げると思うよ。新日本の選手なんかもWWE観てんだからさ。天山広吉も「トリプルHはカッコいいですね」とか言ってるし。

——天山さんなんかはそっちの方向にどんどん進んでいって欲しいと思ってるでしょうけどね。

ジミー　俺はI編集長とは正反対で、蝶野正洋が陣頭指揮とって、そっち方面に進んで欲しいと思ってるから。あ、一つやって欲しいことがあんだよ！

——何ですか？

ジミー　Uインターの時、髙田が北尾をKOした蹴りあるでしょ？　あれと同じことを小川直也がやりゃあいいんだよ。いきなり掟破りして髙田本部長をギャフンと言わせると（笑）。

——ギャフンと言わせますか？（笑）。

ジミー　それで「お前が北尾にやったことと同じことしただけだよ」って言ったら、小川カッコいいよな！

——『ハッスル』は日本版のWWEを目指すんじゃなくて、そういうものを織り交ぜていった方が日本の土壌に合うということですか？

ジミー　うん。俺がやって欲しいのはWWEとまるっきり同じじゃなくって、いい形での日本流のスパイスがあってもいいじゃん。髙田延彦なんかは暴露本云々でナチュラルにヒールになれるんだから、大いにそれを利用してヒールをやってくれよってこと（笑）。

——ヒールに成りきってくれた方が観客もブーイングを飛ばしやすいですからね（笑）。

ジミー　そうだろ。でも根本にカミングアウトっていう問題があるじゃん。俺としては今回の本部長みたいに1人でそれをやるのは反則だよって。

——やるんだったら、みんなで〝せ～の〟でやれと？（笑）

ジミー　そう。〝せ～の〟でやろうよって。1人で儲けんなよって（笑）。

——ジミーさんも、将来的には日本マットもWWEのようにカミングアウトした方がいいと思ってるわけですか？

ジミー　そう思うし、大体いまの情報化社会では無理があるよ。もうケーフェイは1985年に死んだって言われてるわけでしょ。大体そのぐらいでアメリカのプロレスっていうのは変わってきたんだよ。ただ、プロレス界っていうのは妄想でメシ食ってる商売じゃない？　だから、夢を壊さず、いかにカミングアウトするかっていうのがこれからの課題だと思うんだけどね。でもそれにはWWEがいいお手本示してくれてると思うんだよ。『レスリング・ウィズ・シャドウズ』とかでも裏舞台はこうなってるけど、舞台裏はこんなに凄い世界なんだよって伝えてるじゃん！　WWEはただカミングアウトしたんじゃないんだよ。「これは100%エンターテインメントの世界です」って言うだけに留まってないでしょ？　いい試合して涙が出たっていう裏のいい話もロックの本とか書いてんじゃん。舞台裏でこんな素晴らしいことがあって、リング上では芸術作品を創り上げた感動があって、試合終わったあと対戦者同士が「サンキュー」って言い合うようなそういう世界。「お前と試合できて良かった」っていう部分も伝えていかなきゃいけないよね。

——ただ単に裏舞台を見せればいいってわけじゃなく、それに負けないような芸術作品をリング上で創り上げなきゃいけないわけですよね。

ジミー　そうそう。それにはやっぱり要は新日本なんだよ。日本のプロレスの大黒柱だし、仕切ってる部分は強いから。カミングアウトじゃないけど、武藤敬司だって「プロレスは芸術作品」って言ってるわけだし、闘いの裏にある愛と感動の物語って部分をしっかり伝えればいいものになっていくと思うよ。今回はそんなとこかな。OK？

——OKです（笑）。ちなみに次の来日はいつぐらいになりそうですか？

ジミー　次は2月のWWEの時だね。それじゃあ、これから夜の課外授業に行ってきま～す！（笑）。

【1月7日／『ツチ・パヌーチ新宿店』にて収録】

2004年のZERO-ONE、『ハッスル1』から新日本、さらにはDSEの真実まで激白!!

ZERO-ONE 渉外営業部長 中村祥之

ZERO-ONEの表の顔が破壊王なら、裏の顔はこの男・中村祥之渉外営業部長である。間違いない！　今回は中村部長に2004年のZERO-ONEの動向、遂に動き出した『ハッスル1』から古巣・新日本プロレス、さらには、あまり知られていないDSEの裏側まで、ざっくばらんに語ってもらいました。

聞き手／松澤チョロ　designed by Bun-chan（Two three）

——中村さん！　昨年大好評だった『ZERO-ONE★U$A』が今年も近づいてきましたね！

中村　正直言って、ボク自身も楽しみにしてますから。

——外人選手もウリの一つですけど、ボク的にはサムライ・シローvsCWアンダーソン戦が楽しみですね。

中村　堪らないカードだよね（笑）。

——しかも「NWAvsK2」ってタイトルも付いてますけど、K2って越中さんの個人事務所ですよね。一体どんな単位なんですか⁉（笑）。

中村　何でもありだろうと（笑）。

——今年の一番のウリは何ですか？

中村　ZERO-ONE★U$Aじゃないって言われたらそうなんだけど、大阪大会に長州さんと石井選手に出てもらって、ボクが長州さんとの対戦を一番見たいのは坂田選手だったんだけど、思い切って葛西純を破壊王のパートナーにしましたんで。

——長州vsサル！（笑）。破壊王はハシフ・カーンじゃないんですか？

中村　それは当日のお楽しみで（笑）。でも長州さんが先に入場して、ハシフ・カーンと葛西が出て来たら怒るだろうね（笑）。長州さんは葛西純を絶対知らないから。長州力の前に尻尾の生えたレスラーが立つ。これはボクにとって大事件ですね。

——それは楽しみだなぁ。

中村　葛西純っていうのはホントのプロレスラーの一人だと思ってるし、ボクは大好きなんですよ。……そう考えるとボクはインディーの方が好きなのかなって思う時があるんだけど（笑）。インディーでもキャラクターで光って

長州力の前に尻尾の生えたレスラーが立つ。ボクにとって大事件

る選手は、これからも上げてみたいね。

——この間は一宮選手が、は偽本真也として登場しましたけど（笑）。

中村　あの時は試合後、橋本代表からメチャクチャ怒られましたよ。「アイツは誰だーッ!?」って（笑）。

——あ、やっぱり（笑）。

中村　ただ、選手が嫌がることはファンが観たいことだと思うんで。ボクはファンのみんなが笑顔で会場から帰ってくれたらそれで満足。そういう意味ではZERO-ONEって団体なんだけど、異色というか有り得ないものをやる場所にしたいなと。曙vsサップなんて有り得ないことをK-1もやってる訳じゃない？　誰が去年の今頃に曙vsサップを考えたか。

——誰が見ても一本取られたっていうマッチメイクでしたよね。

中村　あれこそプロレス界がやらなきゃいけなかった部分であってね。それに気付いてたK-1っていうのは、それこそ驚異だと思うんですよ。本来なら新日本がやってたようなことをK-1がやってんだから。それに負けないビッグサプライズを考えていかなきゃならないんじゃないかな。曙vsサップって、いま考えても恐ろしいもん。あんな発想を誰が持ってんだって。ボク自身も観たし、みんなも観たいでしょ。

——それが視聴率にも表れましたよね。そういうビッグサプライズをZERO-ONEでも考えていると。

中村　あそこまでお金の掛かることは無理だけど（笑）、でもそれなりには考えていきたいなとは思ってるね。あれには一本取られたどころか一年分取られちゃったな（苦笑）。

——負けずに頑張って下さい（笑）。

中村　頑張ります（笑）。その曙vsサップと同じ大会にウチからプレデターとトム・ハワードが出たけど、今は総合の方に大きなお金が出るから、これまでみたいに敢えてWWEに行かなくても、日本でプロレスをしながら総合をやってみたいっていう選手が増えてきてるんだよね。

——へぇ～、そうなんですか。

中村　トムは真剣にやってるし、勝つまでやらせてあげたいね。プレデターも含めて反対する意見っていうのも多いんですけど、これからもチャンスは与えていきたいなと。

——単純に観たいですからね。プレデターなんかはバックボーンもしっかりしたものを持ってますし。

中村　ボク自身もファンの目線で観たらプレデターが総合に出ていく姿って観たいしね。あとネイサン・ジョーンズも総合やりたいって言ってるから。

——WWEはやめちゃいましたけど、元はと言えば『PRIDE』で北尾さんと闘ってますからね（笑）。

中村　本人は「あれは俺じゃない」って言ってたけど（笑）。

12・26ZERO-ONE後楽園でリングジャックした永島専務は「仕事がないならボクの部下として働きますか?」との中村部長の挑発に「ふ、ふざけんじゃねえ！」と激怒。

——別人だったんですか（笑）。

中村　やっぱり選手がやりたいことを止める時代じゃないんじゃないかな。当然止める時もあるけどね。その代わり勝って来いよって。

——やるからには。

中村　そうそう。LAジャイアントもやりたいって言ってるね（※その後、2・1『PRIDE』出場決定）。

——もともと柔術が得意な選手なんですよね。プロレスの方は、ちょっと時間が掛かりそうですけど（笑）。

中村　だから彼には逆に総合をしばらくやらせてもいいかなって。いまウチが早急に必要な選手じゃないんでね。であれば総合の方にブッキングしてあげるのが彼のためかな。

——噂によるとアダモちゃんまで総合進出を考えてるとか（笑）。

中村　ボクの目から見て勝てそうもない選手は出すべきでないと思うし、アダモがいざやって勝てるかって言ったらそんなに甘い世界ではないからね。

——勝ったら痛快ですけどね（笑）。

中村　あれで強かったら凄いけどね（笑）。でも、まだアダモはそこまでのレベルじゃない。キックとかも一生懸命練習してますけどね。

——そういう流れもありながら、今年のZERO-ONEの方向性としては、日本vs世界という図式が中心になると思っていいんですか？

中村　対抗戦云々っていうのは求められれば考えないといけないけど、自発的に動くことはなくて、やっぱり日本vs世界っていう原点に帰ろうかなって。日本人はあまり増やす必要はないんじゃないかと。最近の後楽園は日本人中心だったから、観てて「何か違うな。これがやりたくて我慢してやってきた訳じゃないな」と正直思ってて。

——それはボクも感じましたね。でも、今は日本人選手でZERO-ONEに上がりたいっていう選手って、かなり多いんじゃないんですか？

中村　日本人だけでもアパッチ軍やら何やらで40名ぐらいいるからね。どうしてもそういう人たちのことも考えていくようになってんだけど、だったら

年末年始 ZERO-ONEダイジェスト

12・24『REBEL Z』後楽園ホール

クリスマスイブの悲劇！破壊王、再び右肩脱臼!!

イブからスタートした後楽園3連戦は初日からアクシデント勃発！　メインで新日本時代にも実現していなかった橋本と大谷のシングルが行われるも、途中、破壊王が右肩の異常を訴え、試合終了。『ハッスル1』を前に破壊王に暗雲が立ちこめた

3連戦初日に田中、最終日に大谷と炎武連夢とのシングル対決が組まれた大森。絶え間なく飛んだ「刈り上げ！」との野次に奮起し（？）田中に勝利！

3連戦にWJから殴り込みをかけたのが石井と宇和野。義人を下した後もZERO-ONE若手勢とイスを使っての大乱闘に。石井は「こんなもんか！　ブーイングが足りねえよ!」

ハッスルって言葉はDSEのためにあるんじゃないの？（笑）

アパッチvs外国人とかそういう方が面白いかな。破壊王もケガが多いし、大谷、田中、高岩の3人とアパッチとコリノの新団体『W-1』軍が闘うとかの方がいいかなって。

――WJっていうのは、あまり考えてはいないんですか？

中村　WJっていうか長州力っていうレジェンドの最後の爆発力っていうものを期待してやってる訳であって、爆発してくれなかったらやってる意味はないし、ファンも観たくないだろうし。ファンが観たくないってことはボクらはやっちゃいけない。何を言われても「ファンに媚びを売って何が悪い」と。

――ファンには媚びを売ると（笑）。

中村　選手が媚びを売るんじゃなくてね、団体が媚び売って何が悪いと（笑）。ウチはファンが求めているものを追っていったら、それなりに客が入った訳だから。某デカい団体のように「これを観せるからファンは付いてこい」ってやり方もあるけど、ZERO-ONEはファン共々やりたいことをやっていくっていう方を選ぶ。それは橋本代表も多分わかってくれてると思う。

――WJと言えば、年末の後楽園大会で「ボクの部下として働きませんか？」っていう中村さんから永島専務への発言がありましたよね（笑）。

中村　まだ履歴書は来ないね（笑）。

――来てないですか（笑）。

中村　でも、あの親父は凄くピュアなのかもしれないね。

――『ハッスル』とかでも活かしたいキャラですよね（笑）。

中村　ハッスル永島軍とか面白いんじゃない（笑）。ボクもハッスル向きなんじゃないかって思うよね。

――〝ハッスル〟って言葉は死語とか言われますけど、永島さんは世代的にもしっくりきますよね（笑）。

中村　ねえ（笑）。ボクの部下っていうよりも『ハッスル』のプロデューサーとかになったら面白いんじゃないかな。ウチは直接じゃないんで、DSEさんの方に。

――履歴書送った方がいいと（笑）。

中村　そうそうそう（笑）。

――で、その『ハッスル1』なんですけど、ZERO-ONEのプロデューサー的な立場の中村さんから観ていかがでした？

中村　反省点っていうのは絶対出ると思ってたし、賛否両論の否定派の方ってのはプロレスの凄くコアなファンだと思う。そういう人にとっては分かりやすすぎて物足りなかったんじゃないかな。やっぱりプロレスファンっていうのは自分の脳の中で、いろんな想像を膨らませた上で物事を観るじゃない？　そういう意味では『ハッスル1』っていうのは一つ一つのスキットが見えすぎたよね。ただ、一般のプロレスビギナークラスの人が観た場合は面白いという意見が多いでしょ。

――そうですね。あと、テレビ関係者とかの評価は高いみたいですね。

中村　PPVも売れてるって聞きましたからね。素人にも分かりやすく、コアなファンの頭を活発に動かしてやれるような仕掛けがキチンとできたら、ボクは『ハッスル』っていうコンセプトは好きですけどね。まあウチなんかも最初は賛否で言ったら否の団体だったんだから（笑）。

――そうでしたっけ？（笑）。

中村　だって旗揚げした時に自前の選手なんて3人ぐらいでしょ。それで興行満員にして、よく考えたら自分たちの力じゃないって気付いてなかったんだよね（笑）。

――アハハハ！　その後、猪木軍との騒動なんかが起きて、否の声もまた出てきたりしましたよね。

中村　だから、否には慣れてるっていうか。でもそれだけ世間とかファンが怒るっていうのは何かをやってる証拠ですから。怒る人もいれば笑う人もいるだろうし。それがいい感じでパーセンテージが合ってきたらいいと思うんだけどね。あとはプロレスファンの皆さんがどう思ってるか分からないけど、DSEの真剣さっていうのは、ボクは新日本でも働いてきたし、ZERO-ONEでもやれることはやってるけど、更に凄いのがDSEですよ。

――それはどういう意味でですか？

中村　DSEがプロレスっていうものに対して思い描いてるもの、どれだけ真剣にやっているかとか。自分に対して、まだ甘いなって思った。

――榊原代表の「プロレスですから」発言で、プロレスファンからはDSEは信用されていないところもあるんでしょうけど、中村さん的には、DSE

12・25『REBEL Z』後楽園ホール

小川、橋本を制しWヘッダー！〝ヤドカリ野郎〟来場！

前日、負傷した破壊王がメインに強行出場しようとすると、セミで試合を終えたばかりの小川がリング内から「またぐな！」とアピールし代打として2連戦を決行！　試合後には大ブーイングの中、登場した〝ヤドカリ野郎〟とハッスル劇場を展開

ZERO-ONE2戦目で大谷とのシングルのチャンスを得たマンモス。パワーに苦しめられた大谷だったが最後はオリジナルホールドで勝利しプロレスの教科書55ページを披露（各自調査）

金村の病気による返上のため、テング&葛西組と雁之助&黒田組の間で争われたアジアタッグ。雁之助が葛西に勝利しベルトを奪取するも、現在は無冠

はプロレスと真剣に向き合っていると感じるわけですね。

中村　それは凄く感じますよ。だってウチは一日18時間働く団体だって言われてたんだけど（笑）、DSEは24時間働いてるよ、これホント！

──さすがのZERO-ONEもかなわないですよね（笑）。

中村　かなわないよね。DSEは大晦日に『男祭り』があって大変だったと思うけど、それが終わったら4日後の『ハッスル1』に向けてスタッフ、演出チームとかも含めて、ほとんど寝ないでやってるから。

──寝る時間もないでしょうね。

中村　それに対して文句を言わないしね。休む時間があればそれをイベントに対して費やしてる。もっとこうすれば良くなるんじゃないかっていう欲っていうか、脳が活発っていうか、凄いよね。やっぱり『PRIDE』にしろK-1にしろエンターテインメントスポーツの業界で伸びてる企業じゃないですか。そういうところはスタッフも若いし頭も柔らかい。まあ、とにかく、DSEのスタッフは健康だね！

──元気が一番ですからね（笑）。

中村　同じ時間仕事してるのに向こうの方が全然元気だしね。ハッスルっていう言葉はあの会社のためにあるんじゃないの？（笑）。

──ハッスルという言葉はDSEのためにあると？（笑）。

中村　ホントそう思う。それぐらい『ハッスル』に対して真剣に動いてるし、一つのショーに対しての熱意っていうを感じる。こんなこと言いたかないけど、『ハッスル1』以上に『ハッスル2』で凄いもの観せないとDSEに対して失礼かなって。それは痛切に感じてますね。

──ファン、マスコミ含めて『ハッスル1』に対して否定的な意見が多いですけど、プロレス側から見ればDSEは格闘技側という捉え方をしてる人が多いからなんでしょうね。

中村　まあプロレス側からしたら侵略者だと思ってんだろうけど、侵略者じゃなくてプロレスを演出するチャンスをくれてる訳ですよ。ハッキリ言って、いまの既存の団体であれだけのステージを組む予算を捻出するのなんか到底不可能な話だよ！

──そうでしょうね。

中村　それに切符が売れてないからって席削ろうとしないんだもん。っていうか更に増やすんだよね（笑）。普通プロレス団体は売れないと減らすんですよ。でもDSEは「ボクらはこれをやりたいんだから、やる。それなりのものをリングで観せて下さい」って。

──究極のプラス指向ですね（笑）。

中村　そうそう。それ聞いてドキッとしたよね（笑）。ウチの若い社員にも「一番働いてるのは俺らじゃねえぞ！上には上がいるんだから腹据えろ」って伝えましたけどね。

──DSEに負けないようにウチもハッスルしていこう、と（笑）。

中村　ホントそうですよ。プロレス界もDSEのやってることに対して腹の底からプロレス論をぶつけてやっていくべきじゃないかなって気がしますね。『ハッスル』も1回や2回で結論出さずにね、DSEもウチもそうだけど、必ず『ハッスル』は成功させなきゃいけないっていう腹づもりで向かってるんで。プロレスの新しい生き方のチャンスを与えてくれてる訳だから、その期待に応えられるように、いろんな意見も採り入れて、これこそプロレスだっていうものを創り上げていきたいね。

──期待してます。ちなみに『ハッスル1』と同日に行われた新日本のドーム大会は、ご覧になりました？

中村　ちょっとテレビで観ましたけど、同じ時間にK-1をやってたんで、そっちを観ちゃいましたね（笑）。

──そうでしたか（笑）。橋本さんも小川さんも新日本は気にはならないって言ってましたけど。

中村　ウチは自分たちのやりたいことに邁進するっていうスタンスなんで。ただね、一つ言いたいのは、これは1・4ではないけど、ファンに「プロレスラーはカメ」とかって言われちゃいけないですよ。

──プロレスラーはカメ？……もしかして永田選手のことですか？（笑）。

中村　ボクも最初何のことを言ってるのかなって思ってたんだけど、永田選手のことを言ってるから、ビデオで観たら、そう言われる要因の姿があったっていうか。「プロレスラー＝カメ」って言われたら業界関係者としては怒りがありますよ。だって永田選手は「ミスターIWGP」なんでしょ？

──『猪木祭り』の煽り番組では「IWGP最多防衛記録保持者」とか「新日本プロレス最強」ってガンガン流されてましたからね。

中村　IWGPっていうのはプロレス界最高峰のベルトじゃないですか。それで「ミスターIWGP」って言われてる以上は責任ありますよ。だから、ボクら業界の人間からしたらリベンジしてもらいたい。彼がやりたくないんだったらしょうがないけど、一歩踏み出して入っていったんだから。総合に出て行くんだったら一回で終わるんじゃなくて、中邑選手みたいに何回も出ていけばいいじゃないですか。それに、

第1回目の「ハッスル1」会見でのDSE榊原代表と中村部長。榊原代表の「プロレスですから」発言に激怒したOH砲が会見場を飛び出すと残された中村部長はご覧の表情。マイクアピールといい抜群だ

12・26『REBEL Z』後楽園ホール

最終日、永島専務が登場！ 東郷＆日高がベルト奪取!!

フィナーレ、選手全員をリングに呼び込んだ破壊王は「オレたちがプロレスを守っていこうと思います!!」という力強い言葉の後、「シメは俺を倒した大谷」と指名。闘って認めたから〝トリ〟を譲った。大谷も力強く腕を突き上げて最後をシメた

永島専務がゼロワンリングに登場！　大ブーイングの中、長州からのメッセージを読み上げた。破壊王は長州との対決は約束したが「メッセージ？　あれは絶対オヤジが書いてるよ」

東郷＆日高組がNWAライトタッグ王者に輝く!! 東郷は「有言実行とはこのことだ。夢を追い続ければ、栄光を手にすることが出来るんだ!!」

永田選手は他団体のこと言う前にやることあるんじゃやない？

これは永田選手に限らずだけど、大晦日の結論は〝プロレスラーは弱い〟っていうレッテルを貼られちゃって、成瀬選手とか勝ったのに勝ったの〝か〟の字も見当たらないでしょ。

――テレビでもダイジェスト扱いでしたからね。

中村　プロレスラーが負けたのだけガンガン放送してさ、これでプロレスの人気が上がるかって言われたら間違いなく上がらないよ。一度総合に手を染めたんだったら、納得するまでやんなさいよ、と。中途半端にやるんだったら最初から出ちゃいけないと思う。ウチに上がっている坂田選手なんかも『男祭り』で負けちゃったけど、必ずリベンジするって言ってるし、やるんだったらとことんやってもらわないと。

――永田選手からは、いまのところヒョードルにリベンジするって言葉は聞かれないですからね。

中村　そういうことは言わないけど、永田選手は「『ハッスル1』の記者会見を見て腹が立った」って言ってましたよね。じゃあ観なきゃいいじゃんって話ですよ。

――気になるから観てんじゃねえのかってことですよね（笑）。

中村　誰も観てくれなんて頼んでないし、ウチは1月4日の東京ドームに対して何も批判してないから。それにマスコミさんとかも他の団体の選手に『ハッスル』のことを聞いたら批判するに決まってるじゃない。なんで決まってることを大きく取り上げる必要があるのかなっていうのは正直ありますよ。それでウチがアゲインスト喰らうんだったら、もっと何クソってなっちゃうよ。ファンが批判を言うのは構わないけど、全く関係のない団体の人間にとやかく言われる筋合いはないし、まずそんなことを言う前に自分たちでやることがあるんじゃないですか。永田選手には旗揚げ戦とか出てもらって感謝してるし、プロレスラーとして認めてますよ。だけど他団体のことをとやかく言わないでほしい。

――「永田は余計なことを言い過ぎ」って健介さんも言ってました（笑）。

中村　是か非かはファンに決めてもらえばいいことだから、それを一斉に煽るマスコミもマスコミだけど、ボクらは信念持ってやってんだから、それに対して非常に腹立たしい思いがありますよ。1月4日の東京ドームだってお客さんはたくさん入ったじゃないですか。『ハッスル』は入んなかったですよ。それは認めてます。勝ったなんて思ってないし、いつか越えてやろうと思ってますから。目標にしてるんだからいいじゃないですか。

――何も問題はないですよね。

中村　某首脳とかも「高田さんが復帰したら真っ先に永田を行かせます」とか言ってたけど、ウチは頼んでないですから。あと『ハッスル』はドームにぶつけたって言って批判してるとこもあるけど、ぶつけようとしてやった訳じゃなくて、ゴールドバーグのスケジュールの都合とか、それに全日本さんが2日と3日に後楽園が入ってて、協力を依頼するんだったら、ずらさなきゃダメなんでそうなったんだから。

――狭い業界なんで、そういう状況も把握してるとは思うんですけどね。

中村　まあ、商売の戦略としては、ファンを自分の所に取り込むにはいいんだろうけど、お願いだから、ほっといてくれって感じだよね。他のマスコミはこういうこと言ったって書いてくれないけどさ（笑）。

――それはあるでしょうね。ウチは何と言われようとハッスルしていくつもりなんでノー問題です！（笑）。

中村　ZERO-ONEももちろんだけど、今年はハッスルしますよ（笑）。よろしくお願いしま～す！

【1月16日／ZERO-ONE事務所にて収録】

『01 U$A 2004』
1.30.FRI
大阪・大阪府立体育会館第2競技場

●【ZERO-ONE vs AAA】
ピンピネーラ&チャーリー・マンソン（AAA） vs 星川尚浩&佐々木義人
●佐藤耕平&黒毛和牛太 vs Ruckus（不明・元囚人）&Prince Nana（サウジアラビア）
●【ZERO-ONE vs NWA】
高岩竜一 vs CWアンダーソン（NWA）
●【スペシャルタッグマッチ FEC vs ROH】
ディック東郷&日高郁人 vs “Christpher Street Connection” Mace&Buffy（ROH）
●スティーブ・コリノ（W-1）&大森隆男 vs トム・ハワード（UPW）&ジョニー・ストーム（W-1）
●【Spanky凱旋試合】
レオナルド・スパンキー vs ジョシュ・ダニエルズ（W-1）
●【ZERO-ONE vs 01U$A】
大谷晋二郎&田中将斗 vs Lowki（W-1）&Franky（TNA）
●【ZERO-ONEスペシャルタッグマッチ】
橋本真也&葛西純 vs 長州力&石井智宏

『01 U$A 2004』
1.31 SAT 18:00～
東京・ディファ有明

●【オープニングSPタッグマッチ W-1 vs ROH】
J・Daniels（W-1）&Jonny Storm（W-1）vs “Christpher Street Connection” Mace&Buffy（ROH）
●富豪2亀路（南の島） vs Machinder “Z”（Z研究所）
●高岩竜一&佐々木義人&浪口修 vs 佐藤耕平&バンビー&黒毛和牛太
●【UPW vs 石油王】
トム・ハワード（UPW） vs プリンス・ナナ（サウジアラビア）
●【NWA vs K2】
CWアンダーソン（NWA） vs サムライ・シロー（K2）
●【01U$A vs AAA】
Mr.Otani（UK）&Masa Tanaka（元ECW） vs ピンピネーラ&チャーリー・マンソン（AAA）
●【ストラップデスマッチ方式 W-1 vs 01】
スティーブ・コリノ（W-1）withコービー vs 葛西純（01）
●【01U$Aスペシャル 3-Keyダンス This is 01U$A】
Franky（TNA） vs レオナルド・スパンキー vs Lowki（W-1）
●【スペシャルシングルマッチ】
ハシフ・カーン（モンゴル） vs Ruckus（不明・元囚人）

ZERO-ONE2月日程
『シリーズタイトル未定』

■2月19日（木）
東京・後楽園ホール（18:30）
■2月20日（金）
千葉・東金アリーナ　サブアリーナ（18:30）
■2月21日（土）
埼玉・熊谷市体育館（18:30）
■2月27日（金）　※社会福祉チャリティ興行
東京・東村山スポーツセンター（18:00）

『MANIFESTO-1』

■2月29日（日）
東京・両国国技館（16:00）
問：ZERO-ONE 03-5730-3401

1・9『ゼロ中祭りⅣ』後楽園ホール

ジュニア8人、王者・坂田を袋叩き！　偽造王初登場!!

休憩前、ジュニア王者・坂田の挑発に応え、義人、東郷、日高、アシッド、葛西、星川、高岩、黒田が続々登場。坂田の「ベルトが欲しいなら、かかってこい」の言葉に、8人がいっせいに坂田を襲撃!!「ひとりずつ来いよ」とボヤく王者だった…

偽造王・一宮の“は偽本真也”が、（ビビリながら）本人と対決！　試合後、破壊王は「俺のマネして金かせいでるようじゃ、しっかりカタつけさせてもらうからな」と、一喝

大谷&高岩が新日時代の先輩・越中と対ケツ!!　試合後、越中は「俺たちより大谷の髪の方がよっぽどせっぱつまってるって！」と我を忘れてコメント

1・4、遂に『ハッスル』発進!!
ゴーバーに敗れるも

「誌面を飾るなって言ってんだコラァッ!!」

声に出して読みたい

マット界語録2003

"失言王"我らがドラゴンがたじろいても不思議じゃないほど、名言・珍言が続々と飛び出した2003年マット界。WJ、アントン、破壊王、髙田本部長らの、思わず声に出して読みたくなる言霊を収録したスペシャル企画で、どうぞ激動の一年を振り返ってください!!

構成／編集部

designed by matsu（Two Three）

永田…こと…ある…

これは永田選
日の結論は
ていうレッテ
瀬選手とか勝
の字も見当た
――テレビで
たからね。
中村　プロレ
ンガン放送し
人気が上がる
なく上がらな
めたんだった
さいよ、と。
ら最初から出
チに上がって
『男祭り』で
リベンジする
だったらとこ

『01 U$A 2004』
1.30.FRI
大阪・大阪府立体育会館第2競技場

声に出して読みたい マット界語録2003

アサショーリュー、ブデ、キラー・カン、ジンギスカン（ハシフ・カーン）

■1月5日　謎のモンゴル人レスラーが日本上陸！

マネージャーにミスター・ヒトを付けて入場してきた謎のモンゴル人レスラー、ハシフ・カーン。「キェ～」と奇声を発しながら出した技は、もちろんモンゴリアンチョップ!!　試合後のインタビューに答えた言葉がコレ。「ブデ」はブルー・ウルフのあだ名と思われる。「これからも見ることは出来ますか？」の問いには「フィニッシュ!!　謝謝（シェイシェイ）」と返答。破壊王、謝謝は中国語だよ!!　翌日はSHOGUNが登場、最後はパートナーの坂田亘に「坂田、成敗!!」と指示。早くも年内ベスト興行の評判高い『ZERO－ONE　U$A』2連戦だった。

財布を拾っただけ（剛竜馬）

■1月15日　プロレスバカ、ひったくりで逮捕

「ショア！」の掛け声を発しながら闘うその様が、かつては〝プロレスバカ〟と呼ばれるなど局地的な人気を博し、一方では〝極太親父〟としても、とあるジャンルで脚光を浴びた元プロレスラー剛竜馬が窃盗で逮捕された。剛は新宿駅西口の券売機前で、69歳の女性のカバンから財布をひったくったが男性会社員ら3名に取り押さえられ、警視庁新宿署に現行犯逮捕。「落ちた財布を拾っただけ」と容疑を否認していた。剛はさまざまな業界関係者に借金を申込み、自身の引退興行にも借金取りが押し掛けて姿を現すことが出来ず、不在のまま引退テンカウントを鳴らされた異歴を持っている。リング上で再び「ショア！」は聞けるのか？

選手のギャラの高騰を防ぐためにコミッショナー制度が必要（アントニオ猪木）

■1月　アントン、マット界の危機に警鐘を鳴らす

「PRIDE」の森下社長が突然の自殺、石井元館長が脱税容疑で逮捕されるなど、波乱の幕開けとなった今年のマット界。当時、「PRIDE」エグゼクティブプロデューサーで、K－1とのパイプも強いアントン総帥は、「格闘技界の機運が高まってきているなかで、こういう事件が起きている。この機運が落ちないためにも、プロレス、「PRIDE」、K－1が一致団結すべき」と、三者が力を合わせて暗雲を払うことを呼び掛け、「選手のギャラの高騰を防ぐためにコミッショナー制度が必要」と訴えた。いまとなっては「お前が言うな！」と突っ込みどころ満載の発言なのだが、アントン総帥なら何をやっても言っても許されるのである。ンムフフフ。

目ン玉が飛び出るストロング・スタイル（福田社長）

■1月20日　健介&マサ、マグマのようにWJ入団！

大方の予想通り佐々木健介とマサ斉藤のWJ入団が発表された。健介をWJへ入団させるべくロスまで追っかけて説得を試みた永島専務（ちゃっかりTVクルーも同行）だったが見事に失敗。最終的に健介を口説いたのはハワイで会談をもった福田社長だった。「ウチは闘う軍団だから間違いなく素晴らしいプロレス団体になる」「アッと思うような選手と闘わせたい。それもキチンとした、目ン玉が飛び出るようなストロングスタイルで」と、福田社長からマグマのように熱い言葉を投げ掛けられた健介は「ヴァーッとクァーッと暴れてみたい」と健介語で抱負を語ったが、この日から1年後、WJのリングに健介の姿はない……。

ここ数年はだましだましリングに上がっていた（藤波辰爾）

■1月29日　肉体改造でマッチョ・ドラゴンに変身宣言

身体の状態が思わしくなく「ここ数年はだましだましリングに上がっていた」と、とんでもないことを赤裸々に懺悔したドラゴンが肉体改造に着手した。そんな体調で「IWGP挑戦」「G－1出場」を再三ブチ上げていたこと自体が大問題だが、「110㎏の身体を98㎏まで絞る」と、マッチョ・ドラゴンへの変身に意欲満々。「それまでは人前で身体を見せない」とシリーズ不参加を勝手に宣言し、そのまま一試合もしないで年を越す〝生涯現役〟振りには脱帽だ。

長州vs天龍を見届けたい（藤波辰爾）

■1月31日　ドラゴン、WJ旗揚げ戦を観戦示唆

WJの選手引き抜き工作に対して「長州に言うこと？　ありません！」と、言葉を失うほどWJに怒り心頭のドラゴンだったが、一転して十八番のコンニャク発言が炸裂!!　「あれだけ何も知らない代表取締役をいない」「社員にまったく信用されていない」などと長州に痛烈に批判されたことさえも忘れたのか、呑気にWJ旗揚げ戦の観戦を示唆した。この社員の信用がさらに失墜しかねない観戦発言だけにとどまらず、「社長の立場では難しいかもしれないが、選手としては見てみたい気持ちがある」と、あくまで〝現役選手〟であることをちゃっかり強調。どうやらドラゴンの中では「俺たちの時代」はまだまだ終わってないようだ。

（木村健吾とは）目指しているものが違ってきている（藤波辰爾）

■2月7日　ドラゴン、キムケンのラブコールを「断る！」

「引退するとプロレスファンがCDを買ってくれなくなる」という、とんでもない理由をモチベーションに現役を続けてきた木村健吾が、遂に引退を表明。最後の相手に、かつてのライバル・ドラゴンを指名したが、当のドラゴンは「彼に悪いけど、目指しているものが違ってきている。断りたい」と、アッサリ拒否！　これまで散々「ジャンボとやりたい」「俺だって三沢とやりたい」「前田とKOKルールでやりたい」「猪木さんの引退相手は俺しかいない」など、思うがままに対戦を口にし続けたドラゴンだが、ひとつも実現しなかったばかりか、総じてむげに却下された恨みをキムケンにぶつけたのだろうか？

オーバー40をやってもいいんじゃないか（藤波辰爾）

■2月13日　ドラゴン「シニアリーグ」開催を提唱

棚橋弘至が開催を提唱している「U－30リーグ」（30歳以下の選手で争うリーグ戦）に、50歳を間近に控えたドラゴンがなぜか過剰反応!!　なんと「O－40リーグをやってもいいんじゃないか」と仰天プランをブチ上げた。棚橋が新日本活性化のために提唱したプランを、自らの居場所確保のために利用するという、社長とは思えないエゴ丸出しのマイ・ウェイ振り。この男のおかげで吉江豊も「O－130（オーバー130キロ）でどうだ？」と悪ノリ。ドラゴンの勝手な提案によって新日本は迷走状態に陥るどころか、吉江案は「O－300（ボンド）」とかたちを変えて〝商売敵〟ZERO－ONEのリングで実現に至るから、本当に余計なドラゴン発言なのであった。

アポゥ!（橋本真也）

■2月23日　破壊王、三冠奪取!

全日本武道館のメインで激突した破壊王vsグレート・ムタ。激闘の末、第31代王者に輝いた破壊王は「馬場さん、アリガトーッ!!」と絶叫し、試合後のコメントで「全日本、根絶やしだ、根絶やし!」と、対抗戦への意気込みを語った。続いて周囲のZERO-ONE軍に「かけるなよ、オマエら、頭にかけるなよ」と牽制しながらビールで乾杯。さらに「橋本さん、ベルトに顔を近づけて下さい」の言葉に応えた破壊王は、なんと「アポゥ」と、全日本の象徴・馬場さんのモノマネを開始!　破壊王は「こういうことやると、また誰かに怒られるんだよな」と、ちょっぴりボヤキつつも、カメラマンから「橋本さん、目線こちらに御願いします」の声がかかるたびに「アポゥ」「アポゥ」と、いちいち“馬場チョップ”をかまして応えていた。頭からの流血も止まらないのに、どうしてもサービス精神旺盛な破壊王……。素敵だ!

1・4、遂に『ハッスル』発進!!
ゴーバーに敗れるも

WJがド真ん中に座った（長州力）

■3月1日　WJマグマ、満を持して始動！

旗揚げ前からWJのスローガンとして長州が連呼していた「プロレス界のド真ん中を行く」発言。横浜アリーナで行われた旗揚げ戦はNOAHの武道館大会と重なったことも影響してか客入りも芳しくなく、メインの長州vs天龍戦も幕切れにブーイングも飛び交ったが、試合後の長州は「俺自身は周りがどう思うが、これでWJのド真ん中に座ったという確信と自信を持った」となぜか満足げ。しかし、この日から一年経たずにWJは崩壊の危機に直面し長州とド真ん中を争った選手達も次々と離脱。結局、長州、福田社長、永島専務だけでなく、若手から他団体の選手まで多用し、『東スポ』のマット界流行語大賞に選ばれた〝ド真ん中〟という言葉が今年のWJのMVPと言えるだろう。ちなみに健介家では〝ド真ん中〟は禁句になっているとのこと。

小島、オマエ誰だ!?（小川直也）

■3月2日　ZERO—ONE両国大会、試合後の大乱闘！

メインで武藤敬司&嵐組を破った破壊王&大谷晋二郎組。破壊王の握手を無視した大谷は、スキをついていきなりドロップキック！　これを合図に名前がカードに入っていなかった小島聡、ZERO-ONE軍、全日本軍、高山善廣、小川直也も入り乱れる大乱闘に!!　鎮火後も、破壊王の「大谷、ケンカ売ったからにはわかってんだろうな!?　全日本、根性ナシ!!　来いオラーッ!!」というマイクをきっかけに大マイク合戦がスタート。小島の「テメェら、まとめてやっちゃうぞ、バカヤローッ!!」に対して破壊王の「俺もいっちゃうぞ、バカヤローッ!!」という、これまた素晴らしい名言が飛び出した後、暴走王が思い切りタメを効かせて放ったのがこの一言。「小島」と、しっかり相手の名前を呼んでいながら「お前誰だ」と続く不可思議かつ強引で〝らしさ〟も兼ね備えたバランス感覚は、他の人間にはマネできない秀逸さである。後日、小川からは「出てこい、このオレンジ!!」という、これまた小島を指した言葉も登場。

電機が動きます！（アントニオ猪木）

■1月1日〜12月31日　成田空港などで計13回発言

火力、水力、原子力などを一切使わずにわずかな磁力で電気を発生させる永久電機。完成すれば「世界中が俺を追いかけ回すことになります。プロレス記者の皆さんとはもう会えない。ンムフフフ」という、科学の定説を覆すドリームプロジェクトとして、アントン総帥が情熱を傾けていることは本誌読者なら御存知のはず。昨年はアントン総帥が放つ「いよいよ動きます！」との掛け声だけは勇ましかったものの、非常に残念ながら完成には至らなかった。本誌が報道しているだけで、他の媒体からは『泣き虫』のごとく無視されており、すっかり狼少年化している大発明。はたして奇跡のXデーはいつになる？　ンムフフフ!!

パパ、お仕事よ（冬木薫夫人）

■3月19日　冬木弘道、ガンで死去

〝理不尽大王〟冬木弘道が、ガン性腹膜炎により入院先の横浜市民病院で亡くなった。橋本真也と5・5川崎大会での電流爆破決戦を約束したわずか8日後のことであった。一昨年4月、直腸ガンの診断を受け、手術後にWEWを旗揚したものの、9月にガンは肝臓に転移、昨年2月には腸閉塞で入院。それでも最後の最後まで、観客に命懸けのプロレスを見せつけた。死の3時間前、昏睡状態の冬木を見舞いに訪れた『東スポ』の記者に、「闘っている姿を写真に撮ってください」と、昏睡状態の冬木の姿を写真に撮るよう記者に呼びかけた理不尽大王の妻・薫夫人。破壊王の「リングで闘っているより格好いい」という進言を受けて理不尽大王だけでなく薫夫人も、プロレスラーの妻としてマット界の歴史に記される志高い姿を見せた。

ジャパンは賞味期限切れ（角田信朗）

■4月6日　角田、K—1ジャパンにダメ出し！

今年前半のK—1で最も物議を醸した角田信朗競技統括プロデューサーの一言。4・6K—1ジャパン山形大会、ジャパン軍vsビースト軍という非常に大雑把な括りの対抗戦が行われた。このときの、とにかくパワー重視ででかいヤツをかき集めてくるというビースト軍のコンセプトが、今年のジャパンの方向性、果てはK—1全体の方向性を決定付けたと言っても過言ではない。それはさておき、2勝2敗で迎えた大将戦で、武蔵がいつものごとく判定までもつれ込む不完全燃焼マッチで結果は引き分け!!　しかも相手は〝『PRIDE』の門番〟ゲーリー・グッドリッジ（大健闘だったけど）。そんな武蔵に角田プロデューサーが大噴火!!　誰もが喉まで出かかっていた禁断の言葉を遂に吐いたのだった。ちなみに、この一言が引き金となって角田はラスベガスで武蔵と引退試合を闘うハメに。

『01 U$A 2004』
1.30.FRI
大阪・大阪府立体育会館第2競技場

声に出して読みたい マット界語録2003

バカが伝染るから早く終わらせる（藤田和之）

■4月11日　藤田、中西をバカ菌扱い！

5・2東京ドーム大会でVT初出陣となる中西と対戦する藤田和之は、「あんまり長くやるとバカが伝染るから早く終わらせる」と、バカよりもタチが悪いバカ菌扱い！　中西が「バリートゥード（※発言ママ）は、プロレスやる前の練習でやっている。プロレスはVTの上にある！　俺が藤田のステージに降りていってやるんだ！」と、独自の理論を自慢げに口にしたことを伝え聞くと、「アイツはバカだから間違っている！」と、頭が悪いことを理由に中西理論を思い切り否定。どっちが正しいかは読者の皆さんの判断にお任せするが、中西が〝バカ〟かどうかについては……（以下省略）。

これが私の顔なんです！（ザ・グレート・サスケ）

■4月13日　宇宙初の覆面議員誕生！

岩手県議会盛岡選挙区で、我らがザ・グレート・サスケがなんとトップ当選をはたした！　喜びを束の間、一般週刊誌でAV出演疑惑などを暴露されるなど苦境に立たされたが「いやいやいや、あれはボクじゃないですよ！」と、証拠はないがらもキッパリ否定。日本中で議論が勃発した〝マスク問題〟には「これはマスクではない！」と反論！　会見及びTV出演の際には「カメラの位置はどこですか？」とわざわざ確認し、カメラ目線で「これが私の顔なんです！」とアピールしまくるなど、持ち前のプロ根性でスキャンダルを跳ね飛ばした（のか？）。

やりかたがわからん！（藤波辰爾）

■5月1日　ドラゴン、パチスロに挑戦

新日本OBバトルロイヤル、パブロ猪木のワンマンリサイタル、パチスロ大会、電撃ネットワークのパフォーマンスなどの驚愕企画（永久電機の始動も喧伝されたが結局未公開）が目白押しとなった5・2ドームの前夜祭興行5・1「猪木のファン感謝デー」。まさしくアントン系イベントの真髄が発揮されたわけだが、ドラゴンも負けじと本領発揮！　よせばいいのにパチスロにトライし「やりかたがわからん！」とわめき散らせば、タイムアウトがアナウンスされてもゲームに興じる〝ドラゴンの耳に念仏〟振りも披露。プロレス史上初のドーム2連戦、社長の出番がパチスロを打つのみだったから驚愕だ！

いつもよりマットが固くなってます（田中リングアナ）

■5月2日　新日本、初のバーリ・トゥードマッチ開催

驚愕のプロレス・VT二部構成!!　「誤魔化しは嫌だ！」という上井執行役員が陣頭指揮を執り、新日本プロレス初のVTが行われた。プロレスとVTの違いについてとくに説明があったわけでもなく、ケロこと田中リングアナは公式HPに「新日本プロレスで行っている格闘技戦で慣れている部分もある」と、まったく呑気なことを書いていたが、呑気さ余って「VTをやるときはマットのスプリングを外すため、いつもよりマットが固くなってます」などと、まったく余計なことをカミングアウト!!　ズバリ言って5・2ドームは、公開暴露イベントみたいなもんだったのである。

それは違う!!（田中リングアナ）

■5月2日　新間氏、魔性のリングジャック！

NWF王者高山がIWGP王者永田を破ったメイン終了後に大事件が発生！　場内FMラジオで新日本批判を延々と繰り広げていた新間氏がリングに上がり、「NWFの方がIWGPより上であることを証明した。よってIWGPを封印して頂きたい!!」と大演説！　すかさず次期IWGP挑戦者に決定したばかりの天山が突っかかるが、新間氏は「歴史を知らない人間は黙っていろ!!」と一喝！　新間氏にマイクを渡したはずのケロちゃんまでもが「それは違う！　違〜うっ!!」と詰め寄ったりしたから、どうやら新間氏の〝ゴッドアングル〟が炸裂した模様。この日、LYOTOに鉄拳制裁を見舞ったアントン総帥といい、筋書きのない闘魂劇場万歳だ!!

奥さん、遺骨貸してください!（橋本真也）

■5月5日　破壊王、男気大爆発！

WEW川崎大会で破壊王・橋本真也が故・冬木弘道さんとの約束に応え、初の有刺鉄線・電流爆破デスマッチに挑んだ。上半身裸の、いつものコスチュームのままリングに上がった破壊王は、冬木さんの妻・薫さんから冬木さんの遺骨を受け取ると「スイッチ入れろ!!」と叫び、自ら有刺鉄線に飛び込んで被爆!!　冬木さんの紫のガウンでリングに登場した金村も破壊王の蹴りを真っ向から受け、有刺鉄線バットを振り回してダメージを与える。それでも「容赦はしない」と語っていた破壊王の攻撃が金村の記憶をなくさせるほど痛めつけ、とどめの垂直落下式DDTで完全勝利を奪った。破壊王は、被爆行為の意味を訊ねられると「一緒にやるっていう約束だったから、それだけ」と、静かに答えた。

1・4、遂に『ハッスル』発進!!
ゴーバーに敗れるも

(大森は)挙動不審でキショイ(鈴木健想)

■5月22日　健想"仁義なき口撃"

後楽園大会前に永島専務が「今度の後楽園で健想が何やら不穏な動きを画策しているようです」と親切に予告していたため、当日行われた健想vs高智戦が注目されていたが、ここで健想は自ら寝そべり高智に3カウントを献上するという無気力ファイトを披露。マイクを持つと「てめえ、長州倒すとか言ってるけど長州のイエスマンじゃねえのかよ。大好きなんじゃねえのか。オレは騙せねえぞ。この小長州!」と突然の健介バッシング。続けて「ストロングスタイルなんて昭和が作ったつまんねえ宗教なんだよ!」と大暴走。この後も暴走モードの健想は大森に対して「挙動不審、キショイ」、長州を「ツチノコ」、福田社長は「ガマガエル」と、見たまんまに一刀両断。興行不振が続くWJを少しでも良くしようとする健想なりのアクションだったらしいが、自体は好転せず健想は約3ヶ月後、WJを離脱。念のため言っておくと、健想がいう「小長州」とは西口プロレスで活躍する長州小力のことではない。

ボクは"アングル"という言葉が大嫌い!!(角田信朗)

■6月4日　TOA消化器噴射に角田激怒!!

いまや、どんなプロレス団体よりも強烈にアングルの押し売りをしているK—1だが、6・4の記者会見直後には角田信朗競技統括がこんなセリフを吐いていた!! ビースト軍として来日した"マウリ族最強の戦士"TOAが、サップへのライバル意識を剥き出しにして消化器噴射!! これに武蔵との因縁対決という、ガチンコアングルで引退したばかりの角田が激怒した。会場中を真っ白にしてセットを破壊したTOAに「いくらプロだからってパフォーマンスすりゃいいってもんじゃない。谷川さんにも厳重に言いたい。僕はアングルという言葉が大嫌い!!」と吐き捨てた。その怒りが通じたか、結局TOAの対戦相手は中西学となり、いまだサップ戦は実現していない。

プロレスの教科書100ページ、記念すべき100ページだ(大谷晋二郎)

■6月14日　大谷、涙でプロレス教科書を朗読!

大会当日の朝、大谷の実母・恵子さんが交通事故で亡くなった。いつもと変わらぬ熱い試合を見せた後、大粒の涙を流しながら大谷は「プロレスラーが暗い顔してて、誰がプロレスを好きになるんだ。やってる奴らが楽しくなくて、誰がプロレスの楽しさを伝えられるんだ。俺はプロレスラーだ。プロレスラーには、プライベートなんかない。つらいけど、つらくなんかねぇよ」と続けた。最近はやや乱発されすぎている感もある「プロレスの教科書」だが、初登場は6・6ZERO-ONE千葉大会。佐藤耕平のマイクアピールに対して「プロレスの教科書37ページを読んで勉強してこい」からすべては始まった。同日、同じく耕平に対して大谷から「しょっぺぇマイクしてんじゃねぇよ! お前はアレクか」という名言もあり。

『藤波ワールド』の構想を練っている(藤波辰爾)

■6月18日　ドラゴン仰天企画発進!!

失言を事前に防ぐため社長室の扉に「直接の取材はご遠慮願います」との貼り紙が張られるなど、社長のくせに箝口令を敷かれていたドラゴンが長く不気味な沈黙を破り、「総合格闘技が活発する新日本で、本来あるべきプロレスの姿を見せたい」と、無我のコンセプトをそのままシフトしただけとしか思えない「新機軸のプロレス興行『藤波ワールド』(仮想)」を発進させることを激白した。ドラゴン・ボンバーズ、無我と続いた尻切れドラゴン興行シリーズの延長戦を大いに予感させるにあきたらず、「『藤波ワールド』で新日本をサポートしたい」と連携を謳いながら、「自分は新日本のシリーズには出ない」という矛盾した発言も相変わらず。じつは9月旗揚げを予定していたなど、まったくあてにならないドラゴン時計も『藤波ワールド』では絶賛稼働中なわけである。とりあえず、気を長〜くして来るべき世界を待とう!

本当に演出じゃないんです!(谷川貞治)

■6月29日　大巨人シウバの大暴走!

今年のK-1ジャパンは試合こそ盛り上がらないものの、試合後のコメントが爆発的に面白かったりする。6・29 K-1ジャパン横浜アリーナ大会で実現した武蔵vs"アマゾンの大巨人"モンターニャ・シウバの一戦は、そんな今年のK-1を象徴する一戦になった。2R、突如モンターニャが大暴走!! 武蔵を押し倒してマウントパンチ!! 凄い勢いで突進してきたセコンドの制止を振り切って、「うがぁ〜!!」と叫びながらコーナーに登ってアピールしたモンターニャに、またしても男・角田が激怒した。「競技統括としては(モンターニャを)二度と出しません。それが通らなければ僕は辞めます。こういうことがあると、見ている人の半分は『あーあ」と疑う。僕は虫酸が走るぐらい、こういうのは大嫌い!」と凄まじい剣幕で怒り狂った。当然のごとく報道陣や関係者の誰もが谷川氏を"黒幕"と考えたが、本人は「あれは演出じゃないんです」と力強く断言! この後、モンターニャに対して無期限出場停止処分が下るも、武蔵が再戦を希望すると処分はあっさり撤回となり、9月には再戦が行われた。結果的には、「本当に不本意ではあるが、信念をねじまげて、モンターニャの処分を"角田預かり"として保留にする」という角田氏の発言が演出のように思えてくるから不思議だ。

(WJは)俺の力を持ってしても満員にならなかったな(ケンドー・カシン)

■7月5日　カシン、WJ青森大会をプロモート

地元から、ほど近いWJ青森武道館大会をプロモートしたケンドー・カシン。メインで長州とタッグを結成したカシンは自ら勝利を奪い地元ファンの大歓声を浴びながらリングを降りると、控室では「俺の力を持ってしても満員にならなかったな。WJに悪いことしたな」と悔やむ素振り。さらに「連係が上手くいかない。(長州は)昨日、飲み過ぎなんだよ」と、長州に対しても変わらぬカシン節を炸裂させた。再登場の可能性について聞かれた長州は「どうですかね? アレも気まぐれなとこあるから。まあ縁があれば上がってくれるでしょう」と返答。この後、カシンのWJ参戦は実現していないが、やはり縁がなかったのだろうか?

長州力、くせえよ!(天龍源一郎)

■7月8日　天龍、消臭力をブチまける!

この日、10年振りにタッグを結成した長州と天龍。矢口組相手に思わぬ苦戦を強いられた長州組だったが最後はリキラリアットで勝利。リング上で長州の差し出す右手を浮かない顔で握った天龍はバックステージに戻ると「何だ、この損な役回りは!俺は第二の浜口や谷津にはなりたくねぇんだよ。バカヤローが。ファッキン長州、くせえんだよ!」とトイレから持ち出した消臭力をぶちまけ大荒れ。そんなこと思っていても口に出せるのは天龍しかいないだろう。さすがミスター・プロレス。

徳島にはCNプレイガイドはないで!(フクタレコード店長)

■7月11日　伝説再び!?『OH祭り』開幕!

ある意味で『LEGEND』や『猪木祭り』を超えるカオスを生んだ『OH祭り』。なにしろ最終戦の会場だった富士急ハイランドを押さえていなかったことが開幕戦直前になって判明するズサンさ!! 大会チケットはCNプレイガイドで先行発売とのことだったが、徳島大会に協力したフクタレコードの名物店長は「徳島にはCNプレイガイドはないで!」と絶句したという。どうしてこうなったのか? 奇っ怪過ぎる真夏の騒動!!

全日本はいつ潰れるかわからない。いま稼がなくて、いつ稼ぐんだ!(ケンドー・カシン)

その『OH祭り』徳島大会に当日、15時から開催されていた全日本大阪大会を終え、スティーブ・コリノのパートナー・Xとしてケンドー・カシンが突如登場!バツグンのカシン節とともに、場内は大きな盛り上がりを見せた。

『01 U$A 2004』
1.30.FRI
大阪・大阪府立体育会館第2競技場

お前は男だよ！（髙田延彦）

■『PRIDE』シリーズ

『PRIDE』で大爆発した髙田延彦"男劇場"！ 今年の流行語大賞に文句なしに輝いた男の中の男の言葉だ!!

輸送上のトラブルのためベルトは到着してません（WJリングアナ）

■7月20日　マグマベルト、届かず！

一回戦で長州、準決勝でウイリアムス、そして決勝で現在WWE所属の鈴木健想を下し、見事初代WMG（ワールド・マグマ・ザ・グレーテスト）王者に輝いた健介。健介が勝利者トロフィーを受け取り感極まって涙を流すと、リングアナから「申し訳ありませんが、輸送上のトラブルのためベルトは到着しておりません」と絶妙のタイミングでアナウンス。観客からは失笑がこぼれたものの、ご機嫌な健介は控室に戻ると奥さんの北斗、愛息の健之介＆誠之介と抱き合い顔をほころばせた。そこへ、たまたま通りかかったドン・フライを「ドンさん！　ドンさん！」と呼び止め、WJ旗揚げ戦当日に生まれた誠之介君をドンさんに抱っこさせると家族みんなで記念撮影。健介ファミリーには、この調子で2004年もヴァー！っと突っ走っていただこう。

クロアチアで一緒に練習しよう（ミルコ・クロコップ）遠いからヤです（桜庭和志）

■8月10日　桜庭、ミルコのラブコールを断る

桜庭が3度目のシウバ戦試合直前、ミルコの合同練習の誘いをアッサリ断っていたことがあきらかになった。プライドが高いミルコが珍しく直々に申しつけたが、移動嫌いで「埼玉が限界」という桜庭が拒否するのは目に見えていた。たとえ実現しても、「サクラバ、試合は戦争だ！」「戦争に行ったことがないのでわかりません！」と噛み合わないやり取りが続きそうであるが、夢のスパーリングを一度は見てみたいものだ。

Uを背負ってるんですよね。それってどうなんですかね？（吉田秀彦）（ニヤニヤ）

■8・10　灼熱の『PRIDE・GP』で"UWF vs柔道"が実現！

"UWF vs柔道"超異次元対決が話題を呼んだ田村潔司と吉田秀彦の『PRIDE・GP』一回戦。試合内容も抜群の好勝負となったが、両者のプライドが交錯した前煽りビデオも最高だった！　田村が声を裏返して「柔道は柔道なんで……。総合で金メダルを撮れるかと言ったら違う問題なんで」と土俵の違いをアピールすれば、吉田は「Uを背負ってるんですよね……それってどうなんですかね」とニヤニヤ喋る!!　こうして場内の興奮は最高潮に達したが、田村の脱力系ニューテーマ曲が流れた途端に誰もがズッコけたのであった。ポワワ〜ン♪

契約書にサインしな！ビッグボーイ！（マイク・タイソン）

■8月15日　タイソン、K—1ラスベガスのリングに姿を現す！

8月のK—1WORLD・GPラスベガス大会のサップvsキモを生観戦したマイク・タイソン。試合後、石井元館長に手を引かれながらリング上に登場、サップを挑発するという奇跡のような光景が繰り広げられた（公判中の脱税事件では検察側が、この行為に大激怒）。「オレは今はリングの外にいるが、今すぐにでも闘えるぜ」「外から見ているだけじゃなく、オレもリングに上がって今すぐここでやってやる！トランクスを持って来い！」と吼えまくった。この後日、タイソンがK—1の契約書にサインしてボクシング以外はK—1がプロモートする試合に出場することが決まった！　タンクトップ姿で契約書にサインするタイソンの写真が公開されたが、夏休みの宿題を必死に片付ける子供のように見えてしまう味わい深い一枚だった。

俺様はVT界のロナウド!!（イズマイウ）（それを伝え聞いて）アーーッハハハハハ!!（ブスタマンチ）

■9・13　奇跡のアマゾン興行『ジャングル・ファイト』開催

『ジャングル・ファイト』の素晴らしさを語るために本誌NO.65に登場した"闘魂ストーカー"イズマイウ!!　言葉の一つ一つが珠玉だったのはバックナンバーを参照していただければ丸わかりだが、なんと「ブラジルの大村昆」的存在だった彼は、「ブラジルではサッカーといえばロナウド！　VTといえば俺様！」とも誇らしげに語った!!　事実を確認すべくブラジル出身のムリーロ・ブスタマンチに伝えたところ、ブスタマンチは涙を流しながら大爆笑!!　笑ってばかりで真実を答えてくりゃしれない。教えてブス先生！

ホントにすいません（武蔵）

■9月21日　武蔵、ジャパンGP優勝をはたすもリング上で謝罪

ジャパンのエースが、ジャパンGP優勝後に平謝り!?「正直、スマン!!」の一言を言ってしまったがために、「リング上で謝るバカがどこにいる」とアントンに罵倒され、ファンから嘲笑（一部では絶賛!?）されてしまった健介と比べると、9・21K—1ジャパン優勝後の武蔵のこのセリフは過小評価されている。観客の大ブーイングに両手を合わせて頭を下げたチャンピオンの姿は、K—1ジャパンの地盤沈下を象徴する今年のハイライトシーンだった。"闘いの海抜0メートル地帯"となったジャパンは、谷川プロデューサーが送り込むゲテモノ軍団にすっかり蹂躙されてしまっている。

坂口家は奥さんが一番怖い！（真壁伸也）

■9月14日　"世界の荒鷲"、カムバック

ビッグ・サカがまさかの復帰!!　柔道衣を身にまとい、次男で人気俳優・坂口憲二をセコンドに帯同して高山＆真壁と対戦し、ドームではサップをも豪快に投げ飛ばした！　業界的にはビッグ・サカが復帰を決意したときに発した「やっちゃるか!!」あたりがこのサプライズの象徴的な語録されているが、本誌的には"毒舌王"高山ですら「俺はそこまで言っていない」と引いたという、真壁の坂口一家・暴露コメント「あの家は奥さんが一番怖い！」をぜひとも推薦したい。

三島・星のマーク・ド根性ノ助（髙田延彦）

■10月5日　『PRIDE』に新ステージ登場！

引退してから超パワーUP!!　ということで爆進中の髙田本部長は、その語り口も怒濤の破壊力！　新たに発足する『PRIDE』の新舞台『武士道』の会見で、自称・『武士道』ADの佐伯『DEEP』代表が「弁当管理まで一生懸命やります！」と鼻息を荒くすれば、「佐伯代表！　弁当管理だけは譲れない！」と絶妙な切り返し。さらには三島の名前を「三島・星のマーク・ド根性ノ助」と読み上げるなど、つのだ☆ひろ、もしくはタダシ☆タナカもたじろく舌好調ぶりをみせた。ちなみに同会見で「さすがにネクタイを締めて出席しようとした」佐伯代表は、ワイシャツのボタンが締まらずアッサリ断念。

1・4、遂に『ハッスル』発進!!
ゴーバーに敗れるも

声に出して読みたい マット界語録2003

安田、オマエは悪じゃ!!（西村修）

■髙田劇場もたじろぐ無我劇場

「最後に勝つのは正義だ！」などと説法する、現代では風化寸前のヒーロー＆時代劇調マイクが絶好調の〝無我〟西村修。魔界倶楽部の柴田には「そなたは悪ではない。正義じゃ!! 魔界を辞めて無我に入りなさい！」と宗教じみた勧誘も敢行！　試合をせずともマイクだけで観客を沸かせる無我劇場は、来年も目が離せない！

福岡、大阪としょうもない試合があった。自分がいたら、あんなことはさせなかった（石井和義）

■10月20日　東京地方裁判所　石井元館長第8回公判

石井元館長が法廷の場で7・13K―1福岡大会（フランシスコ・フィリオvsマイク・ベルナルド戦、メインでドロー）、10・11K―1大阪大会（フランソワ・ボタ、ボブ・サップが反則暴走）にダメ出し。「あの試合（福岡、大阪）に関しては、僕が納得できない。自分だったらマイクを持って『観客は納得してない、延長戦をやれ』と言う」と続けた。検事は「ファイトマネーがかかるんじゃないの？」と厳しく突っ込んだが、元館長は「気持ちの話です。やらせます」と断言。「K―1は命がけの真剣勝負なんですか？」という、裁判所で行われた厳しい〝フェイク疑惑〟追求に、元館長は「完全管理でやっています」と、これまた毅然とした態度で断言。石井元館長の語る言葉は、裁判所でも全く変わらず。己の信条を貫き通した男がそこにいた。

猪木さんがブチ壊すんです（藤波辰爾）

■10月30日　ドラゴン、ジャニーズに陰口を叩く

10・13ドームの不入りに大激怒したアントン総帥から「今度コケたら内閣総辞職！」と、社長降格を突きつけられたかたちのドラゴンは「できる選択の中で最高のものをやった。何か言われてもビクつくことはない」と、自分は試合すらしてないくせに胸を張って逆ギレ。ゲスト出演した『KinKi Kidsのオールナイトニッポン』でも、「ウチの創始者のアントニオ猪木さんがまた横槍を入れてね。こっちが決めたカードをブチ壊すんです」と、リスナーのほとんどを占めるジャニーズファンに理解不能な陰口を叩く始末。“現役続行”“社長留任”を死守するためなら、アントンの炎上に火を注ぐどころかガソリンをぶちまけても一向に構わないという、ドラゴンの本性が改めて白日の下に晒されたのであった。

皆さんのこたいにきたえるよう頑張ります（曙）

■11月6日　元横綱、K―1に電撃参戦！

K―1電撃参戦を発表した横綱の曙が11・18K―1MAXで初めてリング上に登場した。タキシードを着てゴンドラで降りてくるという結婚式さながらの演出にも度肝を抜かれたが、ガチガチに緊張した曙の口から飛び出した発言にはもっと度肝を抜かれた。つっかえながらも覚えた台詞をイッパイイッパイで暗唱する曙だったが「期待に応える」の「き」と「こ」が入れ替わり、「固体に鍛える」という意味不明な挨拶に。横綱らしいスケールの大きな間違い。

自分の気持ちに区切りをつけたい（藤波辰爾）

■11月6日　狼少年ドラゴン、またしても引退宣言!!

アントン総帥から「失敗したら内閣総辞職」と宣言されていた11・3横浜アリーナ大会を終え「こちらの意見はしっかり言う」と、アントン総帥の滞在先であるパラオに向かったドラゴンが報告した〝自分の考え〟とは「自分の気持ちに区切りをつけたい」という、事実上の引退宣言！　帰国後の会見でも「引退と受け止めてよろしいですか？」と報道陣から念を押され「そう受け取っていただいてかまいません」と身を引くこと激白したが、会見の最後を「引退はしますが、これまで同様、前進し続けていきたいと思います」と締めくくったとおり、またしてもこれまで同様〝引退撤回〟に向けて前進するとは、世界中の誰もが想像できたのであった。

去る者は追わず！（髙田延彦）

■11月9日　髙田、事実上の〝猪木追放〟宣言！

『猪木祭り』をフジテレビで中継することを示唆しながら、日本テレビに走ったアントン総帥は『PRIDE・GP』に姿を現さず。この行動に対し髙田は「去る者は追わず！」と言い放ち、『PRIDE』の大晦日興行参戦をファンの後押しを受けて決定。事実上の〝猪木追放〟＆〝対『猪木祭り』宣戦布告〟をブチあげた。一方のアントンは「『ジャングル・ファイト』でサル（去る）を持ってきたのに引っ掛けたのかな？　ンムフフ！」と一笑に伏したが、「どうでもいい」ことこそ「どうでもよくない」のがアントン総帥。ここから魔性の逆襲が始まるのであった！

取った！　ノゲイラ腕取ったよおおおお！（髙田延彦）

■11月9日　ノゲイラ、ミルコの〝妖刀〟をへし折る！

王者ヒョードルの負傷欠場により行われた『PRIDE』ヘビー級暫定王者決定戦ノゲイラvsミルコ。この一戦は、本年のベストバウトと呼び声も高い白熱した試合内容となり、解説の髙田本部長は、ノゲイラがミルコから一本を極めた瞬間「腕取ったよぉぉぉお！」とターザンばりに大炎上!!　『猪木祭り』のエースとして参戦が取り沙汰されたミルコを潰せた喜びでは？　と勘ぐられるぐらいの騒ぎようだったが、ノゲイラの〝神技〟にすっかり魅せられた本部長であった。

ケガしてる選手は1月4日に向けて全力で治せ！（藤波辰爾）

■11月13日　「所属全選手参戦計画」浮上

ドラゴン、選手に理不尽要求！　1月4日の東京ドーム大会で「リストラ査定マッチ」「選手が一致団結しての原点回帰」をテーマにした「所属全選手参戦計画」が浮上。このプランを実現するべく「ケガしてる選手は1月4日に向けて全力で治せ！」という、ある意味で無茶苦茶な指令をくだしたのは、我らがドラゴンである。負傷中の選手からすれば、治せるもんなら治したいのはやまやまなのに決まっているのだが、傑作なことにドラゴン自身が病気を治せず欠場するんだから、ほとほといい加減な会社なのである。

なぁ〜にがやりたいんだコラッ！　紙面飾ってコラ!!（長州力）なにがコラじゃ、コラアッ！（橋本真也）

■11月18日　橋本vs長州〝コラコラ問答〟！

2003年のペアでの名語録大賞といえば、なんと言っても長州と破壊王のコラコラ問答（©スポニチ・丸井さん）に尽きるだろう。『東スポ』での罵倒合戦を経て、ZERO―ONE道場で行われていた破壊王の会見中に単身殴り込みをかけた長州は破壊王と向き合うと、道場に響き渡るようなデカイ声で「なぁ〜にがやりたいんだ、コラッ！　紙面飾ってコラァッ!!」と一発目の「コラッ！」を炸裂させると、すかさず破壊王も「なにが、コラじゃ、コラァッ！」と「コラッ！」返し。その後も2人の「コラコラ」ラリーは果てしなく続いた。12・14両国大会では煽り映像として「コラコラ問答」の様子が映し出されると、初めて見る観客から大歓声。しかし、現場ではド迫力だった2人のやり取りも会場では爆笑の渦。出来ることなら長州には「何がやりたいんだ、コラッ！」を引っさげて『ハッスル』劇場だけでも登場してもらいたいもの。ちなみに破壊王は自ら長州役を演じて1人コラコラ問答も持ちネタにしている。

横綱はトレーニングに一度も遅刻したことがないんですよ！（谷川貞治）

■11月19日　曙、公開練習

瞬間最高視聴率でNHK「紅白歌合戦」超えを果たした曙vsサップ。谷川氏がこの一戦を前に、曙がいかに本気かを物語るエピソードとして何度となく口にしたのが、この発言。感慨深げに語る谷川氏の前では「曙だって、いい大人なんだから遅刻しないのが当たり前じゃないのか？」というツッコミも無意味に思えてくるから不思議だ！　とはいえ、そういう〝世間のモノサシ〟に曙を当てはめた時のミスマッチが異常に面白かったりするのも事実だ。この他にも、曙の練習を見た谷川氏が「ホントに化け物ですね！」と絶賛した発言からも、谷川氏が曙を普通の人間扱いしてないことが透けて見えてくる。

永田
こと
あそ

これは永田選
日の結論は
ていうレッテ
瀬選手とか勝
の字も見当た
――テレビで
たからね。
中村　プロレ
ンガン放送し
人気が上がる
なく上がらな
めたんだった
さいよ、と。
ら最初から出
チに上がって
『男祭り』で
リベンジする
だったらとこ

『01 U$A 2004』
1.30.FRI
大阪・大阪府立体育会館第2競技場

声に出して読みたい マット界語録2003

正直言って、ismはどうしようもないですね（船木誠勝）

■11月30日　船木、ism解散を要求

前回の両国大会で「パンクラスは完全実力主義を打ち出してやってきました」と挨拶し、観客から「ええ〜!?」とドヨめかれると、「疑問に思う方もいるかもしれませんが、本当にそうなんです!」と言い返した船木が、再び両国を震撼させた!　「エグゼクティブ・プロデューサー」と紹介を受けた船木は、開口一番「すいません。俺、エグゼクティブ・プロデューサーじゃないんですけど。顧問です。間違えないでください」とピリピリした雰囲気を漂わせながら、「正直言って、ｉｓｍはどうしようもないですね。解散してほしいです」と、いきなり毒舌エンジンをフルスロットル!!　休憩明けに爆弾をブチ落とす意味では、船木の〝猪木化〟が始まったといえるのかもしれない。

K-1は奴隷と奴隷商人の商売（佐竹雅昭）

■自伝「真っ直ぐに蹴る」より

〝年末には、『猪木祭り』の混乱と暴露本がやってくる〟という新たな定説通り、引用するのも憚れる衝撃的な見出し&スリリングな内容で綴られた佐竹の自伝が出版された!　というわけで、詳しい説明は思いきり省略させていただくが、小さい子供の手に届くところには置かないことをお勧めします。

俺は小川じゃねえ!（白覆面）

■12月5日　全日本に謎の白覆面が乱入!

全日本プロレス武道館大会のメインイベント、川田利明&ケンドー・カシンvs橋本真也&坂田亘戦は、川田がフェースロックで坂田からギブアップを奪い、全日本年内最終戦を勝利で飾ったが、そのあと事件は起きた。ファンへのメッセージを述べるためか、川田一人がリング上に残ったそのとき、柔道着を着た白覆面の大男2人が突如乱入!　川田を袋叩きにした後、制止に入った若手を豪快なSTOでKO。観客からはブーイングと「オガワーーッ!」という声援が交錯する中マイクを握り、「俺は小川じゃねぇ!　でも、小川からメッセージを預かってきた。全日本プロレスの皆さま、目を覚ましてくださいッ!!」と絶叫。言いたいことだけ言うと、リングの鉄柱に〝オーちゃんシール〟を貼り付け、追いすがる報道陣を振りきって、無言で会場を後にした。怒りの川田は「ぜったいに、1対1でやってやるからな!」と、目をひんむいて絶叫。「俺は『来るなら来い』と言ったけど、マスク被って来ることないでしょ」と、白覆面の中身を小川と断定していた。

『正直スマン』の一言くらいあっても良かった（永田裕志）

■12月8日　健介、新日本に〝出戻り〟参戦!!

〝出戻り〟健介の参戦に人一倍噛みついたのは、〝健介がトラウマになっている男〟永田だ!　今回の仁義なき参戦を「リストラ査定マッチとか言う一方で余裕がないのにアイツを呼ぶ会社も矛盾してる!」と、まずは会社の方針に怒りを露わにし、「(健介は)『正直スマン』の一言くらいあっても良かったんじゃないの?　リングの〝ド真ン中〟に立つ勇気もねえ奴が」と、健介の迷言&WJ迷フレーズを皮肉ってコキ降ろす!　「どうせ生活が苦しいから一番ギャラが高い新日本に来るんでしょ?」と、健介一家の台所事情にまで口を挟むなど、感情剥き出しで噛みついた。こんなに面白い永田をVTで無駄使いする新日本は間違っている!

猪木さん的に言えばちっぽけなこと（藤波辰爾）

■ドラゴン、アントンの威を借りる

健介を新日本に参戦させるべく、「本当にもう一回、プロレスをやりたいのか健介の気持ちを聞いてみたい」と、軽くて決定権がないその腰を上げたドラゴン社長。健介参戦に反発を強める選手会に「批判を聞いていたらキリがない。猪木さん的に言えばちっぽけなこと」と、〝神の流儀〟を盾に無理を通して道理を引っ込めた。〝引退〟〝社長降格〟問題に直面すると〝神〟にすら逆上するくせに、都合の良いときはアントンの威を借りるドラゴンのコンニャク主義は相変わらず健在なのであった。

ボクがリストラ第一号です!（藤波辰爾）

■12月10日　ドラゴン自爆会見!

猪木事務所社長・倍賞鉄夫氏の1・4大会プロデューサー就任会見で、噂されていたリストラマッチが開催されることが発表されると、無精ヒゲを薄汚く生やしたドラゴンが暗い表情で突然登場。どうやら病気を患っているらしく、「いまの体調で試合はできない。リングに立てない以上、自らリストラしたいと思います。まずはボクはリストラ第一号です!」と衝撃発言!!　慌てたのは倍賞氏。寝耳に水だったらしく、社員に向かって「オマエら知ってたんじゃないのか!?　社長にこんなこと言わせていいのかよ!?」と怒鳴り散らし、改めてドラゴンと話し合いに臨むことになった。こうして引退話がいつの間にかリストラ&病気問題にすり替わっていき、宇宙中の誰もが予想していた展開に突っ走っていくのである。

チンタ!!（長州力）

■12月14日　長州、破壊王の愛称を絶叫

根絶やしマッチとして行われた長州軍vsZERO－ONE軍の一戦は4人vs19人という長州軍にとっては到底勝ち目のない闘いに。宇和野、矢口、石井が敗れ、残された長州がリングに上がるとZERO－ONE軍は大将の破壊王が登場。長州はパンチやラリアットで意地を見せるも、最後は負傷している右足にヒザ十字を極められレフェリーストップ。リングを降りた長州は「チンタ!!　潰し合いやるんじゃねえのか!?　このクソたわけが!　潰し合いだ、コラッ!!」と潰されたにもかかわらずマイクで絶叫。ちなみに「チンタ」とは新日本時代に長州が付けた破壊王の愛称。それにしても、なぜ「チンタ」?　推測するに「シンヤ」→「チンヤ」→「チンタ」といった感じか?　教えて長州さん!

このヤドカリ野郎!!（中村祥之）

■12月14日　ZERO－ONEのリングを島田が〝またいだ〟!

榊原代表の「プロレスということなので……(ニヤリ)」発言から、波乱の幕を開けた『ハッスル』劇場だが、その混乱に乗じてZERO－ONEのリングを〝またいだ〟のが『ハッスル』イベントディレクターの島田裕二!　島田氏といえば、第一回『火祭り』に出場するはずだったバトラーツ勢を、政治的な絡みでドタキャンさせた張本人とされており、いまだその過去を清算するには至ってない。ところが島田氏は髙田の名代としての立場を盾にZERO－ONEのリングに登場。「無事、プロレス界に戻ってくることができました〜!!」と甲高い声でアピールするんだから、中村専務に「猪木軍の次は髙田軍か?　このヤドカリ野郎!!」と怒られてもしょうがないのであった。

この続きは1月4日の東京ドームでお願いします!（藤波辰爾）

■12月31日　ドラゴン、『猪木祭り』で引退エキシビジョンマッチ

『猪木祭り』でアントン総帥と引退エキシビジョンマッチを行い、試合後には、引退のはなむけとして「道」を朗読されるも、「この続きは1月4日の東京ドームでお願いします!」と、あくまで引退を引き延ばしたドラゴン。1・4ではガウンにリングシューズを履いてアントンを待ったが、肝心のアントンはビジョンから「俺は行かない。まずは体を治して若い選手の見本となるように頑張ってほしい。引退するのはそれから」と、愛あるメッセージ。これを受けてドラゴンは「申し訳ありません。必ず万全な体調でリングに戻ってきます!」と、5歳の子供でも予想できた引退撤回を遂に宣言したが、ドラゴンには一日も早く「5年前から違和感を感じていた」という病を治して、再び引退宣言→やっぱり撤回を繰り返してほしい!　アイ・ネバー・ギブアップ!!

背ェ高ノッポのギョロ目コラ!!（髙田延彦）

■12月16日　OH砲vs髙田、大ハッスルな展開に!

「泣き虫呼んでこい、泣き虫ぃ!!」と、髙田の自叙伝的書『泣き虫』をネタにして挑発する小川に、神奈川出身なのになぜか関西弁を駆使して大炎上する髙田!　OH砲を相まみえた12月16日の『ハッスル1』会見では、「ファン待っとるぞぉ!」「背ぇ高ノッポのギョロ目コラ!!」と、10倍返しで大反撃!「ビビったか?　たじろいだか?　ポーク&チキン!」など、珠玉の語録が次々と飛び出したハッスル劇場は、今年も大爆発しそうだ!　ドゥ・ザ・ハッスル!!

ルールを守れッ!!（アントニオ猪木）

■12月31日　ファンがリングジャック!『猪木祭り』暴動寸前!!

当日まで大混乱続きの『猪木祭り』は、最後は暴動寸前の“アントン劇場”で幕を閉じた!!　全試合終了後に恒例の百八つビンタが行われたが、アントン総帥が「猪木のルールは一寸先はハプニング。なんでもあり!」と、誰でも上がってこいとばかりに呼び掛けたところ大勢の観客がリング上に雪崩れ込む!　これにはさすがのアントン総帥も前言を翻し、鉄拳制裁ポーズで牽制しながら「ルールを守れっ!」「一列!　一列に並べっ!」と大激怒!　それでもリングを降りない観客に「下がれオラ!!」と怒りのストンピングを叩き込むから最高だ!　やっぱり一番面白かったのは『猪木祭り』!　次回もいよいよ楽しみである。

1·4、遂に『ハッスル』発進!!
ゴーバーに敗れるも高田には払い腰!
泣き虫

果たして、オーちゃんはハッスルできたのか!?

小川直也

Do the ハッスル!?

E-meil INTERVIEW

賛否両論渦巻く1·4『ハッスル1』。新たなプロレスの可能性を立ち昇らせるべく、様々なオファーを蹴って『ハッスル』の舞台を選択した小川。大会前から高田本部長と舌戦を繰り広げてきた小川は乱入&疑惑のレフェリングの前にゴールドバーグに敗戦。試合後、高田本部長を払い腰で投げ飛ばし憂さを晴らした小川だったが、その心境は——?果たしてオーちゃんは、「ビビった」のか?「たじろいだ」のか? ハッスルできたのか?『ハッスル1』について30の質問をE-mailでぶつけてみました。

聞き手/松澤チョロ　試合写真/乾晋也
designed by hisa (Two Three)

NAOYA OGAWA E-meil INTERVIEW

Q.1
ズバリ言って、1・4はハッスルできましたか？

A 俺はハッスル出来たけど、お客さんは？ そっちの方が気になるよ。もし万が一、ハッスルできてない人がいたんなら、次は必ずハッスルさせてやる。覚えとけ！

Q.2
小川選手から見て『ハッスル1』で一番ハッスルしていたのは誰だと思いますか？（小川直也除く）

A 悔しいけどよ、髙田じゃねぇの？

Q.3
『ハッスル』の舞台で〝新たなプロレスの可能性〟〝純度100%、混じりっ気のない本物のプロレス〟を創り出せるという感触は得られましたか？

A 可能性200%！ 何か文句あるか？

Q.4
プロレスファン及び専門誌等での『ハッスル』の評価は批判的なものもありますが、それに対して何か思うところ&文句はありますか？

A いつも批判的なのはしょうがないね。新しい物には拒否反応を起こすのは、この業界の常なのかな……でも、批判があるってーのは見てくれてる証拠だし、俺的には、凄ーく！ いいんじゃーないの！ 目指すは『ハッスル100』！ その時にはどうなってるのかね。

Q.5
一方、プロレスを初めて見たという一般層及びテレビ関係者等からの『ハッスル1』の評判は高いようですが、この違いを小川選手はどう分析されますか？

A だから、今回の方向性に可能性が秘めてるっつーことだね。そりゃー、今までのファンも大事だけど、新規のファンも取り入れないとね。これはどの業界も考えてることだしね。まぁー、賛否両論があってよかったよ。

Q.6
PPVの契約世帯数は過去のプロレス大会で一番だったといわれる『ハッスル1』ですが、この結果をどう受け止めますか？

A 次には倍になればいいな！って思ってるよ。

Q.7
『ハッスル1』はWWEのパクリと捉えているファン&マスコミも多いようですが、そういった評価についてどう思われますか？

A どう思われようが勝手なんだけどね、でもプロレスってもともと、力道山がアメリカから持って来た物なんじゃーないの？

Q.8
『ハッスル1』の課題&不満をあげるとしたらどんな点ですか？

A あげたら、いろいろあってきりがないから、次（『ハッスル2』）にはもっといいものを見せるから楽しみにね。

Q.9
DSE榊原代表は『ハッスル1』に対して「船出としては合格点」とコメントしていましたが、小川選手が今回の大会を評価するとするなら何点ですか？

A 点数よりか次が大事！

Q.10
大会前は「気にならない」と言っていた、『ハッスル1』同日に行われた新日本プロレスの東京ドーム大会ですが、本当に気にならなかったのですか？

A ここ数年来、気にしたことないな。

Q.11
あらためてうかがいますが、様々なオファーがありながら最終的に小川選手が『ハッスル』の舞台を選択したのはどうしてですか？

A 言わなくてもわかるだろう！ プロレスの新しい可能性を秘めた舞台だと感じたからだよ。

Q.12
大晦日の『PRIDE男祭り』では、ブーイングはほとんどなく大歓声で迎えられたわけですが、その反応についてどう思われましたか？

A いやぁー、ファン層がだいぶ変わってるよ。数年前に行った時とは大違い。時代の流れを感じた。いつの間に……会場のお客さんが楽しんでたね。本来のプロレスの会場に来たみたいだった。

Q.13
今回、残念ながら集客数では負けてしまいましたが、『ハッスル』を『PRIDE』やK—1に負けないようなイベントにしていくためには、今後なにが必要だと思いますか？

A 彼らに負けない位、プロレスにしか出来ない凄いものを見せて行くよ。

12・26ZERO-ONE後楽園大会メイン終了後、リングに上がったDSE榊原代表。破壊王とは握手を交わしたが、小川は差し出す手を睨み付けた

記念すべき一発目の『ハッスル』メインでゴールドバーグと対戦した小川。ゴーバーに豪快な払い腰やSTOを繰り出し追いつめた小川だったが、高田軍・シルバの乱入、ゴーバーのジャックハマー、そして島田レフェリーの疑惑の失神＆高速カウントの前に敗北。怒りに震える小川は高田を払い腰で投げ飛ばすと「必ず、お前をリングに上げてやる！」と挑発

Q.14

『PRIDE男祭り』を観戦して一番印象に残ったのはどの試合ですか？

A 悪いけど、見ないで帰ってしまった。

Q.15

大晦日は『PRIDE男祭り』に行かれたわけですが、『猪木祭り』、『Dynamite!!』も含めて気になった試合はどの試合ですか？

A 気になったっつーより、曙vsサップは一応見たよ。興味より見ておかないと話題について行けなくなるからね。ある意味、ニュースを見る感覚だったよ。

Q.16

大会前は引き抜き騒動がボッ発し、大会当日は暴動寸前のパニックが起こり、視聴率的にも大晦日の三大会で惨敗を喫してしまった形の『猪木祭り』についてどう思いますか？

A 残念ながら、この世界は結果が全てだからね。それに選ぶのはお茶の間にいる方々だからね。俺からはコメントしようがないよ。

Q.17

某専門紙紙上で「小川はZERO―ONEや『ハッスル』でくすぶってないで、今こそ『PRIDE』やK―1に打って出て欲しい」「本人がファンの望む方向を向いていないため業界全体が盛り上がらない」という、時代とズレたor失礼極まりない論調を繰り広げていますが、そういった論調についてどう思われますか？

A まったく失礼な論調だ。まるで、ZERO―ONEや『ハッスル』が駄目な物だと決めた論点から入ってるよ。残念だけど、もっと大きな視野でプロレス界を見渡せる人がいてほしいね。

Q.18

実際、『PRIDE』ファンだけではなく、プロレスファンの間でも小川選手の総合の試合を望んでいる人はいまだに多いですが、そういった声に対してどう思われますか？

A ありがたいね。ただ、間違いなくこのままだとプロレス界は世間様に広がらなくなるね。自分の職業がプロレスラーと名乗ってやってる以上は、自分の職業を世間様に認めてもらう場所までにしないとね。

Q.19

小川選手が、総合に出てほしいというニーズに背を向け、リスクを背負ってまで「プロレスを復興」させることに真剣に取り組んでいることがファンにもイマイチ伝わっていないと思います。小川選手がそこまで「プロレス復興」にこだわるのはなぜですか？

A 俺は柔道を辞めた後、このプロレス界を選んだ。この世界と決めたからには途中で投げ出す様な中途半端なことはしたくはないよ。確かにリスクはあるけど、そんなことよりこの世界は、やりがいがあるからね。だから、ブームとか流行では動きたくないよね。

Q.20

実際、ゴールドバーグと対戦してみて、高田本部長の言うとおり「びびった」もしくは「たじろいだ」部分はありましたか？

A うるせえぞぉー！　泣き虫！

Q.21

橋本選手は『ハッスル1』後、高田本部長に対して「何をしたいのか明確に見えない。それにセリフがくさい」と言っていましたが、小川選手は高田本部長のリング上の振るまいに対して、どう思われていますか？

A いいんじゃないの。彼の考えに俺が振り回されてるのは昔からだからね（笑）。

Q.22

試合後、高田本部長に鮮やかな払い腰を決めましたが、次に高田本部長にやってやりたいことはなんですか？

A っつーより、いつかは、ブッ殺そうと思っている（笑）。

Q.23

“ヤドカリ野郎”こと島田裕二レフェリーの不可解なレフェリングに関してどう思われますか？

A アイツには、ZERO―ONEまでの恨みはないけど、次に俺の前に姿を見せたら必ずSTOを力一杯決めたいね。

Q.23

OH砲の付き人タッグの藤井克久＆佐藤耕平組をハンディキャップマッチで秒殺し、小川選手の試合にもちょっかいを出したジャイアント・シルバについてどう思いますか？

A う～ん。よくもまぁー、あんな化け物を探して来るし存在するよな。世界は広いな。あの身

高田本部長の「チキン＆ポーク。この場にいるなら出て来いや！」のマイクでOH砲が登場。マイクを持った小川は「格闘技ファンの皆様、目を覚ましてください～い」。最後はやっぱり大乱闘に

NAOYA OGAWA
E-meil INTERVIEW

小川vsゴーバー戦に乱入したジャイアント・シルバはエプロンで小川と睨み合うと、小川の後頭部に強烈な手刀を振り下ろした。２人の一騎打ちはあるのか？

12・25＆26ZERO-ONE後楽園大会で睨み合った小川と島田レフェリー。ゴーバー戦では島田レフェリーのフレッド並の失神＆高速カウントに怒り心頭。ヤドカリ野郎にSTOが炸裂するのはいつだ!?

長から振り落とす手刀は効くぞ！　アレには要注意。

Q.25 ZERO―ONEの選手も多数出場した『ハッスル1』ですが、小川選手が思うZERO―ONEと『ハッスル1』の一番の違いは何ですか？

A やっぱり、会場に来てもらえるとわかると思うけど、目に付く点では舞台関係とか照明器具等の舞台装置の差かな。『ハッスル』の方が上かな。『ハッスル』のイベントに関しては、会場に来ているお客さんもイベントに参加して楽しんでもらう、ファン参加型の興行なのかな。また、次に繋がる形になってるしね。試合内容では、あくまでもワールドワイドで、外国人もゴールドバーグを始めとするトップクラスのレスラーを揃えてるよね。ZERO―ONEは、いい意味で従来のプロレス。夢のカードと言われるカードを数多く提供してる団体だしね。現段階では対日本人が主になってるけど、これからは対外人にシフトしていくとは思うけど。まぁー、試合内容はいい意味で被らないと思うよ。

Q.26 『ハッスル1』での入場時、川田選手に大歓声が飛んだのはなぜだと思いますか？

A 知らねぇーよ。全日のファンが応援に来てたんだろ？

Q.27 今回出場しなかった選手の中で小川選手が『ハッスル』向きと思う選手がいれば教えてください！

A まずは髙田だな。いつまでスーツ着てることやら。あとは、ガファリかな……外国人に巨デブがいないのは不自然だよ。

Q.28 1年後に『ハッスル』はどうなってると思いますか？

A 『ハッスルマニア』が出来ればいいと思ってるんで、必ずそこまで持って行きたい。

Q.29 橋本選手は「行くぞーッ！　オォー！　3・2・1　ハッスル　ハッスル」との決めポーズで今年の流行語大賞を狙うと豪語していますが、小川選手もその手応えは感じていますか？　また、うまくやるコツがあれば教えてください！

A 当たり前だよ。賞は間違いなし！　第一、あのポーズは2人で決めたんだしな。ウマくやるには、そうだなぁー、腰は使わなくてもいいから、脇を締めて「ハッスル、ハッスル!!」とやることだ。それから「ハッスルしてる?」とが、いい意味での挨拶や渇を入れるときに使ってほしいよな。

Q.30 最後に小川選手の2004年のマット界での抱負を聞かせてください!!

A 先ずは、ハッスルを流行らせる（イベント&ハッスルポーズを含め）=プロレス界の復興！　それに尽きる!!

暴走王・小川直也が講演会でハッスルハッスル!

1月8日、神奈川県鎌倉市の「鎌倉芸術館」にて行われた神奈川県立富岡高校の閉校式で小川直也が講演を行った。2004年3月末に閉校となり4月より総合高校として生まれ変わる同校に、卒業生でもない小川がなぜ呼ばれたのか!? それは生徒を「ハッスル」させるために他ならない!!(司会は本誌鬼畜編集長・山口日昇)。

「ハッスルしてますかーッ!?」という小川の呼びかけに最初は恥ずかしがっていた生徒達も、小川が自らの高校生時代を振り返りながら暴走気味に教育論を語り始めると次第にヒートアップ!! 生徒達との質問コーナーでは、「『ハッスル1』を見に行きました。とても面白かったので、『ハッスル2』も見に行きたいんですが、お金がありません!! 小川さん、チケットください!!」というストレートな男子生徒のリクエストに「オーケイッ!! 富岡高校のみんなを招待します!!」と小川が暴走気味に返答すると会場内は大興奮!!

最後は、起立した全校生徒とともに「いくぞーッ! 3、2、1、ハッスル、ハッスル!!」と大合唱(もちろんポーズ付き)で講演会を締め括った。

質問コーナーでは「お姫様ダッコをしてください」という女子生徒や「腕相撲してください」という男子生徒の願いをかなえる優しいオーちゃんであった。

プロレスファンなら一生に一度、ハッスルしなければならない時がある

もちろん、ハッスルディーバも登場!!

(一度でいいのかよ!?)

3・7に備え、今号の『紙プロ』&PPV映像で『ハッスル1』をおさらいしよう! 次は横アリだ!!

まだまだ増えるぞ!『ハッスル2』出場予定選手

橋本真也、小川直也、川田利明

ケビン・ランデルマン、ジャイアント・シルバ
マーク・コールマン ほか世界の強豪たち
(以上、高田延彦率いるハッスル高田軍)、

大谷晋二郎、田中将斗、葛西純、小島聡、カズ・ハヤシ、、
マット・ガファリ、ザ・プレデター、トム・ハワード、ダスティ・ローデス
スティーブ・コリノ、Lowki、キング・アダモ

その他、アッと驚く選手が続々と参戦!!(近日発表)

「ハッスルなくして創造なし! ハッスルするぞーッ!」

『ハッスル2』横浜アリーナ

3月7日(日)開場:未定 開始:未定

[主催]フジテレビジョン
[企画制作]ドリームステージエンターテインメント
[協力]横浜アリーナ

[入場料金/全席指定・消費税込]

VIP(専用入場ゲート・グッズ付)30,000円
RRS 20,000円/スタンドS 10,000円/スタンドA 4,000円
ハッスルシート(花道横・ハッスルグッズ付)20,000円
※ハッスルシートは、ドリームステージ・PRIDEオフィシャルサイト
PRIDE携帯オフィシャルサイト・チケットぴあ・ローソンチケットのみで販売いたします

チケット/2月8日(日)一斉発売

[チケット発売所]
DSE/03-5464-1531、チケットぴあ/0570-02-9999(スポーツ専用/0570-02-9977)
高田道場/03-5749-5030
PRIDEオフィシャルサイト:http://www.so-net.ne.jp/pride/
PRIDE携帯端末オフィシャルサイト

[問い合わせ先]ドリームステージエンターテインメント TEL.03-5464-1531

OH砲に負けじとハッスルするぞ!!

3・7『ハッスル2』横浜アリーナ大会のチケットを、一般発売に先駆け『紙プロ』スペシャル先行予約受付! 電話&メール&携帯サイトで予約できます!!

ワンダフル!! チケットお買いあげの方全員に『紙プロ』特製ハッスル缶バッジ(非売品)をもれなくプレゼント!!

1.31 sat.

10:00~18:00

Tel&メール受付は1月31日(土)の一日限り!!

先行予約電話番号
03-3403-5142

先行予約メールアドレス
ticket@kamipro.com

【メールでも予約を受け付けます】上記の受付時間中にお名前、電話番号、メールアドレス、チケットの種類&枚数を書いたメールをお送りください。折り返し、予約番号を返信します。
※翌日午後7時までにメールが届かない場合は、先行予約電話番号にて確認してください。

[全ての問い合わせ先]ダブルクロス TEL .03-3403-5188

0:00~2月2日(月)23:00

携帯サイト『紙プロHand』では1月31日・深夜0時から3日間71時間いつでも予約できます!!

【携帯サイト予約受付方法】上記の受付時間中に携帯サイト『紙プロHand』にアクセス、フォーマットに従って予約してください。折り返し、予約番号&購入方法を返信します。
※アクセスが集中している時間帯は、非常につながりにくくなる場合があります。また、受付時間によっては確認メールが届くのが夜22時以降、深夜になる場合がありますのでご了承願います。
※携帯サイトでの受付は、『紙プロHand』会員限定です!!

【購入方法】
電話・メール、携帯サイト『紙プロHand』から予約した後、2月10日(火)〈消印有効〉までにチケット代金+送料500円を銀行振込にて、ご入金ください。予約をいただいたご本人の名前と、予約番号(電話受付は受付時、メールは確認メールでお伝えします。『紙プロHand』では予約完了時に画面とお客様のメールに送信いたします)、電話番号を振り込み時に必ず入力してください。
・三井住友銀行/池袋東口支店 ・普通口座 7483356(株)ダブルクロス

※山岳部・離島は除きます。詳細はお問い合わせください。
【問い合わせ先】(株)ダブルクロス TEL .03-3403-5188

予約するなら加入しないか!?『紙プロHand』アクセス方法

アクセス方法
DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶
au/TU-KA トップメニュー ▶ 遊ぶ・楽しむ or インターネット ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
vodafone ボーダフォンメニュー ▶ ボーダフォン・ライブ ▶ スポーツ・レジャー ▶ その他スポーツ ▶

紙のプロレス Hand

今年の野望？“ハッスル”で流行語大賞を獲ることや!!

DO THE HUSTLE TIME!

ディーバもハッスル！

打倒「だっちゅ～の♥」!!

橋本真也

1・16、ZERO-ONE所属選手契約更改後に行われた今年一発目の破壊王インタビュー！
今回は1・4『ハッスル1』について、『ハッスル1』で初披露となったOH砲によるハッスルポーズの由来、
そこに隠された深い意味、さらには破壊王の2004年の超ビッグな野望まで、たっぷりと語ってくれたぞッ!!

聞き手／松澤チョロ　試合写真／乾晋也　designed by hisa（Two Three）

――さあ、今回の『紙プロ』は2004年一発目ということで、橋本さんに今年の野望を聞かせていただければと思ってます！

橋本　今年もハッスルするぞ！　以上！

――「以上！」って言われても（笑）。まあ、ハッスルはしてもらいたいところですけど。

橋本　まあ野望というか、いまは俺らの意志以外のところでプロレス界の大きな歯車が回ろうとしてる部分と、歯車が噛みあわずにどっかで引っ掛かってしまってるところがあると思うんだよ。わかってんのは、このままじゃいけないってこと！

――このままじゃダメだと。それが『ハッスル1』を始めた要因でもあるわけですね。

橋本　それも大きいよな。一番大事なのはプロレスをどうするのかっていう部分。

――非常に大きなテーマですよね。

橋本　そういう意味でも『ハッスル1』の反省点は、いっぱいあるし。ただ、俺はWWEになっちゃいけないと思ってるから。

――髙田本部長がビンス的な役割を演じたり、ディーバも登場させたりで、『ハッスル1』はWWEの日本版を狙ってるんじゃないかって言われてますけど、橋本さん的には、それではダメだと？

橋本　WWEには絶対になれないんだよ。それはなぜかと言えば日本には独自の文化があるだろ。日本っていうのは材料とかヒントが与えられればアメリカのものより素晴らしいものが創れるって部分があるから。自動車産業にしても、いろんな産業にしても、どっかからヒントを得て、より崇高なものを創るのが日本だからな。

――同じようにプロレスも日本流にアレンジしなければいけないわけですね。

橋本　もちろん！　それを考えれば、やっぱり俺たちはプロレスをどうするか考えなきゃいけない。そのためにはどっかのマネをす

行くぞーッ! オーッ!!
3、2、1、ハッスルハッスル

ベイダー戦はブーイングが起こるも、メイン後、花道を激走しハッスル!

前日の会見で「ベイダーとはいつもどちらかがケガをする闘いをやってきた」と語った破壊王だったが、今回は試合前から両者共に体調不十分。なんとかリングアウト勝ちを収めた破壊王は高田本部長に向かい「次は引っ張り出す」と挑発!

るんじゃなくて、独自のものを創り上げなきゃいけないと思うし。プロレスという揺るぎないひとつのものはあるんだけど、それがいまは『PRIDE』さんとか同じ格闘技の中でも突出して出てきた中で、プロレスとはどうあるべきか？ どう生き抜くべきか？ 答えが出ないにしても俺たちは何かしら動いていかなきゃいけない。その動きのひとつが『ハッスル1』だろうし。ただ言えるのは、やり続けることが大事ってことだよ。

――そうですよね。

橋本 『W―1』の二の舞にならないようにということで、反省すべき点をしっかり認識して、次は必ずこうしよう、ああしようって話をしてるんだけど、それが一番大事なんじゃないかな。批判されるっていうのは、やっぱり注目を浴びてるからだと思うし、問題は次はどうかってこと。次こそはハッスルするぞ！ってことだな（笑）。

――期待してます（笑）。でも『W―1』との一番の違いは、橋本さんというかOH砲が"ハッスル"ポーズまで完成させてたってことだと思うんですけど（笑）。

橋本 ハッキリ言って、今年の流行語大賞狙ってるから！ いや、狙うじゃないな。流行語大賞を必ず獲る！（キッパリ）。

――獲りますかーッ!?（笑）。でも、去年の橋本さんの発言も流行語大賞のノミネート作品が多かったですからね。「根絶やし」にしろ「コラコラ問答」にしろ（笑）。

橋本 それはプロレス業界の話だろ。俺が狙ってるのは世間様の流行語大賞！

――し、失礼しました（笑）。

橋本 「ハッスル」を「だっちゅ～の」以上に流行らせるぞ!!

――たしかに「だっちゅーの」は流行語になりましたけど、ちょっと古いですよ（笑）。

橋本 あ、そうか（笑）。じゃあ「ゲッツ!!」とかな。あの辺を狙ってんだよ。まあでも、『ハッスル1』の話に戻るけど、ベタなプロレスでいいのか？ プロレスとは何たるかを逆にファンは知ってても、一般の人は「プロレスとどこがどう違うの？」って思った人もいると思う。ただ、そこを俺はハッキリさせちゃいけないと思ってるから。

――ハッキリさせちゃいけないというと？

橋本 俺なんかは、プロレスっていうのは、ある部分もっと人間味を出さなきゃいけないと思ってるけど、反対の考えのヤツもいる。考えすぎな部分はあるけど、プロレスっていうのは、すべてがアドリブだから。

――プロレスはすべてアドリブ！ 橋本さん的にはリング上の闘いは何も変えるつもりはないけど、それ以外の演出面はどんどん変えていってもいいって感じですか。

橋本 そうだな。ただやっぱり、ふざけた笑いじゃなくてね、試合に出る人間たちがそこに投身できるものにしてあげないと。「俺はこのリングだったら死んでもいいや」ぐらいのものにしないと。結局、『PRIDE』やK―1は個人のものだから。でもプロレスっていうのはみんなのもの。

――プロレスはみんなのものですか？

橋本 この言葉は非常に解釈が難しいと思うけど、『ハッスル1』を始めて、これを機にプロレスっていうものが確固たる位置を築けるかどうかっていう、それが一番の課題だと思ってる。その中で俺という人間がどういられるか。やっぱり俺も体調を作り直さなきゃいけない部分もあるし。

――手術してる余裕はないんですよね。

橋本 馬鹿なこと言っちゃいかん！ そんなことしてたら会社が潰れてしまう。俺が一選手だったらそれでもいいけどな。だから、みんななんだよ、プロレスっていうのは。競技っていうのは個人でいいかもしれない。でも俺たちは……なんだろうな？ 何してんだろうな、俺たちは（笑）。

特別付録 "ハッスル"ポーズ完全図解

行くぞー！ オーッ!!

ハッスル！

脇を締めて、思いっきり腰を前に突き出せ!

——アハハハ！ 何してるんですか（笑）。

橋本 俺たちがやってるのは、大人の仮面ライダーごっこ……というか、命を懸けた仮面ライダーごっこかもしれない（笑）。……ちゅうか違うんだよ！

——やっぱり違うんですか？（笑）

橋本 ごっこじゃなくて、俺たちは仮面ライダーになりきってんだよ！

——仮面ライダー好きの橋本さんなんかは特にそうでしょうね（笑）。リングに上がったら変身して……。

橋本 （遮って）いや、プロレスラーはみんな変身してんだよ。そういう意味ではプロレスっていうのは、簡単に解釈できるスポーツではない。バラエティ班とかが撮っちゃいけないと思うしな。

——ドキュメンタリー班とかですかね？

橋本 いや、ある意味、エンターテインメントであり、ドキュメンタリーであり、バラエティでもある……そういうのも含めてプロレスだと思うから、ひとつに絞っちゃいけないんだよ。だから真剣なヤツもふざけたヤツも、みんな変身して仮面ライダーになりきってんだよ。それで、やるからには、みんなが本気で真剣に仮面ライダーなんなきゃダメだ！ そういうことだよ。まあでも、ハッスルなんて古い言葉が、またいまになって使われるようになったってのも凄いよな。大体、ジジイが言う言葉なんだから（笑）。

——ある意味、リバイバルですよね（笑）。

橋本 必ず流行らすぞ！ いままでも「オー、エイチ、ホーッ！」とか、いろいろあったけど、今度は「ハッスルハッスル（腰を振りながら）」だからな。三本締めとか一本締めとかあるけど、ウチは「ハッスル締め」だから（笑）。それに、やるからには「1、2、3、ダー！」を抜くからな。

——「ダーッ！」を抜いちゃいますか!?

橋本 これからは「3、2、1、ハッスルハッスル！（腰を激しく動かしながら）」。

——その勢いなら「ダーッ！」を抜けるような気がしますね（笑）。

橋本 だろ？（笑）。それにな、ハッスルするっていうことは人も幸せにするんだよ。みんなでハッスルすれば日本も豊かになると思うし、いまはハッスルが足りないから大国に負けてしまうんだよ。これからは老若男女、ハッスルハッスル！（笑）。

——アハハハハ！ ハッスルすれば日本も豊かになるわけですね。

橋本 死んだらそれまでよ。ハッスルせずに生きるより、ハッスルして死のうぜ！

——死んじゃまずいですよ！（笑）。

橋本 あ、そっか（笑）。

——ちなみに、あのポーズは小川さんと2人で考えたんですか？

橋本 2人で試行錯誤しながら考えたんだけど、腰振りは小川がどうしても嫌だとって言うから無理矢理説き伏せたんだよ。「バカヤロー、ハッスルは腰からだ！ 人間は腰からだ！」って言ってな（笑）。

——アハハハ！ 人間は腰から！（笑）。

橋本 ゲンコツを握るのは感情！ そして腰を振るのは本能！（笑）。それがハッスルの意味や！ 腰を振るのが恥ずかしいっていう女の子もいるかもしれない。そういう女の子は「ハッスル」に合わせて腰を回せ！

——あ、ありがとうございました（笑）。

【1月16日／ZERO-ONE事務所にて収録】

不可解な島田レフェリーの裁定に激怒した破壊王は花道を激走しリングインし高田本部長を蹴り上げると続けて小川は払い腰！ その後、ゴーバーから挑発された破壊王はわけもわからぬままこれを受諾？ どうなる『ハッスル2』!?

次号予告

あの川田利明が遂に『紙プロ』登場!!

2・22全日本武道館大会で破壊王との三冠戦が決定した川田利明が次号『紙プロ』に初登場！ 果たして川田は何を語るのか？ お楽しみに!!

もう一丁、おまけに

ハッスル!!

ハッスル!!!

ウォリャー！ 今年もハッスルするぞーッ!!

恥ずかしがってちゃ、ハッスルできねえぞ!

ロマンポルシェ。（男気啓蒙音楽家）
掟ポルシェ
プロレスは何を破壊し何を創造すべきか。

石井館長がせっせと脱税おっと、節税しながら今日の地位を築き上げたK—1。かつて我が国のメジャースポーツだったキックボクシングを復興させ、格闘技ファン人口の拡大に貢献したのは言うまでもない。そして今や格闘技の大会名になんでもかんでも『1』が付いているのも「ある意味これもK—1みたいなもんッスよ。ホレ、『なんとか1』って付けとくとなんかメジャー感漂うっしょ？」といったようなユルいサブリミナル効果を期待してのことだろう。『プライド1』、『レッスル1』（なかったことになっているらしい）、『X—1』（なかったことになっているらしい）、M—1（泥酔した中川家兄が反町隆史をシバく）など、とにかく『1』さえつけときゃ間違いないといわれる昨今、ついに「1の中の1」とも言うべきプロレスイベントが産声を上げた。その名も……『ハッスル1』！

で、なんの因果か知らんが、その解説席に座らせていただいた訳である。通常プロレス観戦といえば、酒でも飲みながら口汚いヤジを飛ばして周囲の人間にちょっとだけウケりゃいいものだが、完全シラフでしゃべらなきゃならない上にヤジがオフィシャルな声明になってしまう……これはヤバイ。しかも全部選手に丸聞こえなので、後で女子便所に呼び出されてボコボコにされるかも……こ、殺されるぞ俺！　生まれて初めて命の危険を感じながらプロレスを観るハメになった。

炎武連夢をゼロワンの加護ちゃん辻ちゃんだと評して「お願いだからこっちの二人は卒業しないで！」と涙したり、いつも通りの適当トーク全開でガンバらせていただいたが、シリアスな試合で真面目なコメントを求められると急激に空々しい言葉を並べ立てるという悪癖も同時に露呈。エンゲルバーグだかフレンドパークだかなんだとかいうガイジンの試合ぶりについて話を振られると「ヘアメイクが武藤似ですね」ぐらいのことしか言えず、後は何か聞かれても明らかにグダグダ。最近のプロレスについて国内外問わずよくわかってなく、本気でアツくなっていないのがバレバレだった。

まぁ、しかしだ。あれほど好きだったプロレスなのに今やそれほど興味が持てなくなったのは何故なのか？あまり客入が芳しくなかったことからも察することが出来るように、それが俺一人の問題ではないのもまた事実だ。さりげない責任転嫁……いや、俺こそが会場の空席を代表した声であるべきだ。プロレスに興味が持てなくなった原因を現在のプロレスのせいにして治癒していかなければ、『ハッスル1』の会場を満杯にすることは出来ない。

ここからは、あの日あの場所で送り手として『プロレスに関わった者として』少し真面目な話を書くので、どおくまんの『花の応援団』で十本に一本泣かせものがあるような感じでお付き合い願いたい。

現在のプロレスがつまらなくなったといわれるのは、プロレスの主流であるストロングスタイルの敗北を意味しているように思う。格闘技的な実力の世界が『プライド』などで結実するとともにストロングスタイルの「ストロング」が失われ、誰も望まない「スタイル」だけが残ったからだろう。もちろん猪木世界が実力云々の魅力だけで成り立っていなかったことは百も承知だが、裏切りや嫉妬、本物の憎悪をリング上で構成するのは人間の心がある者にはそうそう出来ることではない。『混沌』と書いて『アントン』と読むデタラメ世界の素晴らしさが猪木以外に表現できないのは当たり前だと言える。

橋本真也が標榜するプロレスとは、99

触らないで。これは私だけの物だから。変わらないで。今の貴方が好きだから。

『ハッスル1』に関する無条件の全面否定の声は、外部からプロレス村にやって来た私にはこう聞こえる。世間のプロレスに関する認知度は団体関係者、ファンが思っている以上に恐ろしく低い。一般の老若男女が反応するプロレスラーといえば故力道山さん、アントニオ猪木、故ジャイアント馬場さん、故ジャンボ鶴田さん、長州力……。テレビ地上波のゴールデンタイムで見た、もしくはプロレス入り前に他競技で実績のあったレスラー、つまり昔の選手しか知らないのだ。スポーツ取材を生業とする新聞社においても、プロレス面を熟読する社員がどれだけ少ないことか。一般読者は野球に詳しくなくとも野球記事は斜め読みする。しかし、プロレス記事はすっ飛ばされることが多い。サッカーの街角評論家が激増する一方で、プロレスファンはマニアと呼ばれるようになった。一般層の温度差が広がっているのは、歴然とした事実だ。

世間へのアプローチ方法には二通りある。貫くことと、働きかけることだ。

例えば、ノアは純プロレス道をまっしぐらに走っている。一朝一夕には出来ないハイクオリティの試合を提供。リング外の話題より、試合内容の充実に力を注ぐ。他競技と並ぶスポーツとしての分野確立の道を歩んでいる。新日本はスキャンダルをリング内で飲み込む逞しさがある。全てをひっくるめてプロレスとするのも、正攻法の一つ。ファンが安心して見ることができる「変わらない貴方」は、地道に貫くことで浮上の目をみる。個人的にも、小橋には変わって欲しくない。

積極的に世間へ働きかけるには、何をおいても

『W-1』と同じように会場ではビジョンを使って様々な演出が行われた『ハッスル1』。客席にカメラを向け「君たち恋人同士？」、「プロレス愛してる？」といった客いじりで場内はハッスルハッスル!?

者が見た
スル1

『ハッスル1』PPV中継の解説者を務めたのは、ZERO-ONE中継でもお馴染みスポニチ・丸井さんと、なんと本誌でコラム連載中の掟ポルシェ！　2人の目に映った“純度100%、混じりっ気のない新しいプロレス”『ハッスル1』とは？

年の1・4で身をもって味わった混沌とした感触の再現だ。あの時、橋本が思い知ったのは、ストロングスタイルの底力というよりは約束破りの怨念が支配する猪木世界の底力だっただろう。しかし、この人間感情の暗黒面を忠実に再現するには、橋本は人が良すぎるように思う。橋本の試合は一連の小川戦を除いては実はストロングスタイルの頃から何も変わっていない。「破壊なくして創造無し」と声高に叫んだ橋本自身の試合は破壊されていないのである。

新間寿氏がいみじくも言った「闘魂とは人の誠意を踏みにじる覚悟である」という言葉を良く理解し、人の誠意が介在しにくいリングを作ることまでは出来ているように思うし、それ自体は称賛に値するが、肝心の橋本自身の試合は親分体質から滲み出た誠意が感じられすぎる（それはそれで橋本真也の人間的魅力でもあるのだが）。逆に誠意が踏みにじられることを前提に出来れば苦労はないが、それではプロレスで死人が出てしまう。猪木的なプロレスはバーリ・トゥードの登場により逆説的にもの凄く高度なものになってしまい、見る側にもやる側にもわかりにくいものになっていることだけは確かだ。その中で同じく1・4の舞台裏で生死の境を彷徨った村上和成だけが完全なる悪役として、表情だけでも誠意を消し去ることに成功しているのは興味深い。

『ハッスル1』はWWEに代表される現代的アメプロのパッケージに日本的なストロングスタイルプロレスのソフトが納められていて食い合わせが悪かったと思うが、今後プロレスが復興するための方向性もいくつか示唆している上では貴重だった。マスカラスを筆頭としたルチャ軍団の呑気さもそのひとつである。単なるノスタルジー礼賛ではない。強さに特化しない逆・ストロングスタイルなものに、明日のプロレスの活路が一筋あるということ。マスカラスが齢60歳を越えて乳首に皺の寄った肉体で勝ってしまうのは無理がある。しかしその説得力の喪失は、「本気になったら誰が一番強いのか？」のレベルでプロレスを観なくてもいい安心感の獲得でもあるのだ。覆面をかぶった60過ぎのジイさんが、バーリ・トゥードのセオリーとかけ離れたメキシカンストレッチで試合を構成し、フライングクロスチョップで勝つという「誰にでもわかるウソ」。豪快なツッコミどころの提示はカミングアウトという言葉の無粋さを簡単に殺す。ルチャの選手は隙だらけで突っ込みやすいから愛されやすいのだ。

プロレスがこれからまた広く民に愛されていくためにはストロングスタイルが崩壊して久しい昨今では、「わかりやすい隙」をどれだけ提示できるかという方向にシフトした方が良いのではないかと思う。猪木的な針の振り方に限界が生じたら馬場的な針の振り方に一度戻すべきなのだ。あの頃のプロレスが楽しかったのは、ウソの脆さが派手だったからではないか。ジャンボ鶴田の痙攣しかり、ラジャライオンの木偶ムーブ然り、ジョー樋口の失神しかり（でも島田裕二の失神は別！）。プロレスでしか見せられない体を張ったウソをふんだんに試合に盛り込んで、大人から子供まで誰でも気づくツッコミどころを用意することが肝要なのだと。

プロレスの敗北をストロングスタイルの敗北と見るならばまだプロレスに勝機はある。橋本真也が新しきプロレスを標榜するならまずストロングスタイルを捨てられるかどうかなのではないだろうか。いや、日本プロレス界全体がストロングスタイルを捨てる時期に来ているのかもしれない。ファイトスタイルとしてのストロングスタイルを見る度に思うのは、プロレスラーが色物を演ずることへの嫌悪感を根強く持ち、リアリスティックに強者を演ずることに未だに縋り付いている、その違和感だ。だからといって笑い者になれと言っているわけではない。ブッチャーやシークのような凄すぎて笑ってしまうぐらいの異常なムーブを期待しているだけなのだ。とりあえず新日本プロレスのレスラーが全員海外修行出発↓帰ってきたら全員怪奇派にギミックチェンジ！　ぐらいのことを断行されたら、俺は自腹で最前買って観に行く。その意味で藤波が近年試合の度に異常な量の鼻血を吹き出すのは新日怪奇派時代を先取りしていると思う。社長はやっぱりプロレスというものを知り尽くしているなぁと本気で思った次第。1・4が終わってこそ言える……リスペクト、ドラゴン！

解説者が

解説者はハッスルできたのか!?

スポーツニッポン

丸井乙生

村からプロレス王国へ 方法論の違いを見極めろ

知名度が必要になる。『ハッスル1』にはそれがあった。バラエティ番組でも威力を発揮する橋本、柔道銀メダリストの小川、いろいろ大変な高田。この3人の知名度は抜群だ。

対世間については、過去2回の『WRESTLE―1』も挑戦したことだった。従来のプロレスにはないド派手な舞台装置は画期的だった。しかし、先駆者は批判を浴びるのが世の常。ファンがアレルギーを起こしてしまった。リング内に演出の手が介入したことがプロレスラーを、プロレスを軽んじている雰囲気を作ったのではないか。

『WRESTLE―1』になくて、『ハッスル1』にあったものはストーリー性だった。OH砲vs高田の舌戦は、ようこそ死語の世界へ。「泣き虫呼んで来い」に始まり、©天山の「チキン&ポーク」。「背ぇ高ノッポのギョロ目」に至っては、郷愁さえ感じてしまう。大会名「ハッスル」にしても、会社の上司でさえ発しない言葉だ。舌戦で笑えるのもプロレスの特権。知名度抜群の3人が青筋立てて怒鳴りあうのだから、一般層もうっかり振り返ってしまう可能性は高い。

ただ、今のままで大絶賛はできない。アンダーカードの一部に現在のファンのツボを突くマッチメークを入れなければ、アレルギー症状は治まらないだろう。闘う必然性が見えるカードも必要か。あとは、DIVAの質を確実に上げて欲しい。

全日本の暗い話題に包まれていた川田が『ハッスル1』の華やかな演出で登場した瞬間、解説席で感じたことがある。力量ある選手には世間の表舞台に立ってほしいと。プロレスが「みんなの物」に戻るためには、貫くにしても働きかけるにしてもハッスルして突き抜けていくしかない。

ギョロ目もたじろぐ ハッスル1劇場

恥ずかしがらずに振り返るぞぉ!

開催発表記者会見から大会当日、そしてメイン終了後まで、髙田vsOH砲のハッスル劇場が異常な熱を帯びた『ハッスル1』。総合格闘技などの強風に押され、プロレスの存在自体が揺らいでいる時代に、鉄のビジョン、新たなる存在意義をつくるべく発進したが、その実験的な大会では何が起こっていたのだろうか? ビジョンでも流された控室の模様も含めてすべて紹介!!

聞き手／ジャン斉藤　試合写真／乾晋也　designed by hisa（Two Three）

試合開始前

驚愕のハッスルブース!! 解説は掟ポルシェと丸井記者だ!

解説を務めたのは、ZERO-ONE伝道師のスポニチ丸井記者と、なんと掟ポルシェ!!「沈黙が怖かった」と後日談を残していた掟ポルシェは、機関銃のように喋りまくり、「川田選手は一言多いんですよ！ それが原因で高山選手と冷たい試合に……」などと、まったく余計なことまで言い出したけど、ハッスルしてたから問題なしだ！

巨大ビジョンでカップルいじり!!

ビジョンにカップルが映し出されると「2人は恋人？」と質問、恋人関係が判明すると「いいねえ～お幸せに！」という文字返答！ 観客全員に「Do theハッスル！」と叫ぶことを呼び掛けて、声が小さいと「寒ッ！ 寒すぎるよ～」と、さらに会場を凍りつかせない文字も飛び出したが、観客参加イベントとして力を尽くした。

「今年中に満員御礼しよう!」『ハッスル2』はどうなる!?

プロレス初進出となったさいたまスーパーアリーナ。4万人を収容できるスタジアムバージョン──イベント規模に合わせていつくものステージ設営が可能──だったこともあり、かなり寂しい全景（主催者発表23327人）となったが、「今年中に満員御礼しよう」と呼び掛けるなど、次回への向けてもっとハッスルな演出が行われた。

第1試合 4WAYダンス

『ハッスル1』の幕開けはバラエティ感溢れる4WAYダンス!

『ハッスル1』の記念すべきオープニングマッチは、葛西純、MIKAMI、キング・アダモ、Lowkiらによる4WAYダンス！ MIKAMIが持ち込んだラダーをアクセントに、ZERO-ONEのリングと変わらないハッスルファイトを披露したアダモちゃんたち。最後はアダモとMIKAMIがラダー争奪戦の最中、Lowkiがキークラッシャーで葛西をフォール！

第2試合 ゼブラーマン登場

キッチリ白黒つけたぜ! ゼブラーマンがプロレスデビュー!

あの水木一郎が熱唱する主題歌に乗ってリングインした哀川翔主演映画のスーパーヒーロー。パワーと跳躍力を活かしたゼブラ・ファイトで日高郁人を下し、白黒つけたぜ！　花道を引き上げる途中に花道が爆発、シマウマが消えた！　そして、ビジョンに控室に引き上げたゼブラーマンの後ろ姿が。マスクに手をかけて外したが素顔は映らず……その正体は!?

第3試合 小島組vsドスJr.組

“みのるの宿敵”48歳ソラール、ドス・カラスJr.が飛来!!

小島のおなじみ「いっちゃうぞバカヤロー！」に合わせてビジョンに文字が踊る！　全日本からコジ＆カズ・ハヤシも参加、ドスJr.＆ソラール組と対戦した。『PRIDE・男祭り』にも出る気満々で来日していたソラールは、バーリでできなかったうっぷんを晴らすがのごとく活躍。やっぱり『ハッスル』のほうが合ってるよ！　最後は小島のラリアットに沈んだが、ルチャの醍醐味をしっかりとお届けした！

OH砲vs髙田 控室ハッスル劇場

第4試合 炎武連夢vsリアル・ドンキーコングス

ドンキーゴングス大咆哮!! 顔面ウオッシュにビジョンも吠える!?

『Dynamite!!』で秒殺勝利を飾ったプレデターがハッスル凱旋！　いつものように客席に雪崩れ込みながら暴動入場!!　相棒ランデルマンも非凡なプロレスセンスをいかんなく発揮し、プロレス者を唸らせる動きを披露。すっかり銭が取れるプロレスラーに成長している。炎武連夢は『OH祭り』に続いての敗戦となったが、クオリティの高さは相変わらず。大谷の顔面ウオッシュに合わせて「オイ！オイ！オイ！」とビジョンも吠えた！

調子も何もよ、『泣き虫』読んでんだよ(小川)

「1月4日は東京ドーム」の文字が炎上して「1月4日はドゥ・ザ・ハッスル」にチェンジしたり、特大ビジョンは様々な活用がなされたが、一番歓声（というか爆笑）を誘ったのは「OH砲vs髙田・ハッスル控室劇場」の模様が中継されたときだ!!　英語のやり取りは編集部の手により超訳されております。

【ハッスル髙田軍・控え室】

髙田　（チキンを食べながら）しょっぱいな、コレ!!

ゴーバー　Hey!（どうしたんだ、ミスター髙田？）。

髙田　This is no good chikin!（聞いてくれよ、ゴーバー。このチキン、クソ不味いんだよ！）。

ゴーバー　Bad chikin? Where is good chiki. n?（不味いのか。じゃあ美味いチキンはどこにあるんだ？）

髙田　うーん、美味いチキン？　美味いチキンはな　It's in the ring! chikin is OGAWA!（それはリングにいるぜ！　小川直也というギョロ目のチキン野郎だ！）。

髙田＆ゴーバー　（パロム1の変身ポーズのように腕を絡ませ）Do the hustle!

【OH砲・控室前】

アナ　いよいよ決戦と時を迎えました。先程30分前に小川選手はここ、さいたまスーパーアリーナの会場に入りました。試合直前です。さっそく伺ってみましょう。

【ノックして控室に入る】

アナ　失礼します。小川選手、いらっしゃいました。

【読書にふける小川】

アナ　何か読んでいますね。えー、それでは試合に向けてインタビューしてみたいと思います。小川選手、いよいよ決戦ですが調子の方はいかがですか？

小川　うるせえよ。調子も何もよ、『泣き虫』読んでんだ、いま。

アナウンサー　そ、そうですか。

橋本　お疲れさん！

アナウンサー　おっと橋本選手がやって参りました。

橋本　なに読んでんだ？

小川　いやぁ、『泣き虫』読んでんですよ。くだらない本ですけどね。

橋本　茶碗蒸しかぁ？

【何とも言えない苦笑いをする小川＆アナ】

アナ　……さて、お2人が揃ったところですね、今回の『ハッスル1』についてお伺いしたいんですけれど、いかがですか？

小川　『ハッスル1』？　オメェ今時ハッスルなんてどこで使ってんだよ？　死語だよ死語。いい加減にしろよ、ホントに（口を尖らせて）。

アナウンサー　ぜひですね、「ドゥ・ザ・ハッスル」っていうのをですね、お2人にやって頂きたいんですけれど、お願いできますか？

小川　「ドゥ・ザ・ハッスル」ってオマエ、アレか？　髙田の犬か？

アナウンサー　そういうわけじゃないんですけど、やっぱり象徴的なものなのでぜひお願いしたいんですよ。お願いできますか？　それではいきましょう！　ドゥ・ザ・ハッス……。

【小川が一撃喰らわす！　倒れるアナウンサー】

小川　何が「ドゥ・ザ・ハッスル」だ、オマエ。いい加減にしろ、オマエ。アアン!?　いいか、俺たちのハッスルは違うんだよ。エエ!?　いきますよ橋本さん。

橋本　（カメラ目線で絶叫）ハッスルするぞぉーーっ！

小川　よっしゃあ！

OH砲　3！　2！　1！　ハッスルハッスルゥ～！（ポーズのやり方はP72参照）。

橋本　ッケアラッ!!（声にならない奇声を発して）。

小川　来いコラァ！　わかったか！

第5試合・高田延彦指名試合
大巨人登場

大巨人が大またぎ!!『男祭り』から『ハッスル1』へ

大会前日、同会場で行われた会見に髙田が乱入！　OH砲に「『男祭り』で見つけたハッスル向きの人間。相手を用意せえ」と投入宣言したのがジャイアント・シルバ！（その模様もビジョンでキッチリ紹介。キレた小川、シルバの巨体に隠れる髙田は最高だ！）。大巨人は藤井＆耕平とのハンディキャップマッチを軽々とクリア!!

第6試合・高田延彦指名試合
破壊王vsベイダー

破壊王、皇帝戦士に消化不良の勝利……

右肩を絶賛負傷中の破壊王が、『週プロ』によると「心臓に問題を抱えている」らしいベイダーと"手負い"同士の対決。本部長指名試合として、髙田がリングサイドから見守る中、破壊王は消化不良のリングアウト勝ちを拾った。観客からは一斉にブーイング。破壊王は「こんな体調で納得できない。もう一回やらせてくれ！」。控室に引き上げようとする髙田に「必ずこの人にタイツを履かせてやるからな」ともアピールしたが、髙田は何の反応も示さず歩を進めた。

ハッスルDIVA

掟ポルシェ大炎上!! DIVAコンテスト!

イエローキャブの野田社長プロデュース！　始まる前から掟ポルシェが股間を押さえて悶えていたという、休憩明けに開催された「ハッスルDIVAインターナショナル」には3人のDIVAが登場!! ハッスルタイムと称されたショーでは花道で衣服を脱ぎ捨てビキニ姿に!! 掟ポルシェの狂喜の声がブラウン管にこだました！

OH砲vs髙田 控室ハッスル劇場

暴走王、『泣き虫』を踏みにじるの巻

【ハッスル髙田軍・控室】

髙田（ミットを持ち身構えて）ビル！　これがチキンの頭だと思ってブン殴れ！

ゴーバー　ウガー！

【豪快なフックでミットを吹っ飛ばす！】

髙田　OH〜〜〜〜！

【大袈裟に痛がる髙田】

髙田　You,re monster?（スゲエぜ！　オマエは男の中の男、いや、怪物の中の怪物か？）

ゴーバー　Ha‐‐‐‐!

髙田＆ゴーバー　Do the hustle!（バロム1の変身ポーズのように腕を絡ませ）。

【OH砲・控室前】

アナ　ヤッベー、先程ですね、小川選手を怒らせてしまって非常に入りづらいんですけれども。えー試合直前ということですのでインタビューして来ます。失礼致します。

【控室に入る】

小川　ハッ、ハッ、ハッ、ハッ（ランニング気味に足踏み運動）

アナ　いや、大変非常に気合が入ってる模様です！

小川　ハッ、ハッ、ハッ、ハッ（非常にイヤらしい流し目でアナを見入る）

【カメラが小川の足踏み付近をとらえると、引き裂かれた『泣き虫』の表紙を踏み続ける光景が!!】

第7試合
マスカラスvsローデス

マスカラス一族が華麗に飛来!! アメリカンドリームは大流血!

マスカラス、ドス・カラス、シコデリコJr.が夢のトリオを組んで、ローデス、コリノ、ハワードと対戦。コリノが出しゃばりマスカラスvsローデスは一向に実現しないまま、マスカラスの空中肉弾でコリノの敗北！　コリノは負けた腹いせにローデスを殴り倒して仲間割れ！　ローデスのブーツを奪って顔面を殴打し流血させたが、ローデスもクルクルと両手を回して腰をシェイク。ハッスルな大反撃!!

第8試合・高田延彦指名試合
川田vsコールマン

"デンジャラスK"見参!『ハッスル』にそぐわぬ硬質な激闘!!

コールマンが豪快なフロントスープレックスで川田をマットに叩き付け、続けてのジャーマン狙いでバックに回ったところを川田が前転してヒザ十字!!　そのままヒールホールドに移行するとコールマンは悶絶!!　レフェリー和田京平が試合をストップ!!　試合後、川田が珍しく手を差し出すと、コールマンもこれに応じて再戦をアピール。

メインイベント・高田延彦指名試合

小川直也vsゴールドバーグ

先に入場した小川は、爆音と煙とともに登場したゴーバーの前に立ちはだかり、ロープを挟んで視殺戦！ “ヤドカリ野郎”こと島田レフェリーが小川を制止するが、ヤドカリレフェリーの言うことにもちろん暴走王は聞く耳持たず。

試合の中盤、2人の攻防で巻き込まれたヤドカリが失神!! 小川はSTOでゴーバーをマットに叩き付けたが、島田氏は意識が戻っているにも関わらずヤドカリ寝入り。イヤらしい演技に小川はブチ切れ！

そのスキを突かれ、ゴーバーのスピアーの餌食となった小川。逆襲しようと、ロープに飛んだところをリング下のシルバに足を引っ張られる！ ギョロ目をヒン剥いてシルバに詰め寄ったが……。

シルバとの一悶着のスキを突き、ゴーバーのスピアーが再び炸裂ッ!! 大見得を切りながら咆哮し、フィニッシュを予告!! ヤドカリは失神したふりしながらチラチラと盗み見……。

見てみぃ、この角度!! 小川の巨体を軽々と担ぎ上げ、必殺のジャックハマーが炸裂！ 小川を完璧にマットに沈め、ゴーバーはヤドカリを引きずりカウントを要求!!

見てみぃ、この跳躍力！ カウントスリーを叩いたヤドカリレフェリーは、とても失神していた人間とは思えない勢いをみせた！ 小川は人生初のシングルフォール負け！

試合終了と同時にリングに上がった高田は、ゴーバーを祝福。倒れ込んだままの小川を、ズボンのポケットに手を入れながら見下ろす仕草も見せていたが……突如、場内に歓声と爆笑が巻き起こる！ 破壊王がもの凄い勢いで花道を全力疾走、あっという間にリングインしたのだ！ あの全力疾走は凄かった！

これが『ハッスル』だ！ 怒りの破壊王!!

【破壊王が花道ダッシュしてリングイン！ いつの間にか右手にはマイクを握っている！ そして髙田の背中を思い切り蹴った！】

橋本 オイコラ！ 髙田コノヤロウ！ 何でこんな汚いマネすんだ、コノヤロウ！ マジメにやってんのにコノヤロウ！

髙田 オイ、オマエ蹴ったなコノヤロウ！

【観客大爆笑】

髙田 ポーク&チキン、コノヤロウ！ オマエら何やってんだ、コノヤロウ！ プロレスにな卑怯千万もあるかバカヤロウ！ アアン!? 小川！ ちょっと聞けや！ オマエまさかなあ、油断して負けたなんて寝言言うんじゃねえだろうなバカヤロウ。（矛先を変えて）橋本！ オマエの試合、ブーイング出てぞ、ブーイングが！

【髙田に大歓声！ 不気味に微笑む破壊王】

髙田 オイ！ オマエら今まで何やってきた！ 世界のプロレスっていうもんはこういうもんだ。見とけ！

橋本 オイ、コノヤロウ。俺らはな！ 日本のプロレスに誇り持ってんだコノヤロウ！ アメリカアメリカばっか言ってんじゃねえ、コノヤロウ！

【観客歓声】

橋本 （ゴーバーに向かって）なんだハゲ！ コノヤロウ！

【観客爆笑】

髙田 （マットに倒れ込んでいる小川を見てニヤリと笑う）。

髙田、いま笑ったろ!?（小川）

小川 （倒れ込んだまま）オイ、髙田、いま笑ったろう!? そんなに俺が負けて、嬉しいかぁ!?

髙田 （爽やかにニヤニヤ笑う）。

【観客爆笑】

小川 汚ねえ手ェ使いやがってコノヤロウ！ レフェリー、ヤドカリ野郎（＝島田裕二）じゃねえかコノヤロウ！

【観客爆笑&拍手】

小川 だいたい何だ、そのデケェ（ジャイアント・シルバ）のはよ！ オイ！

シルバ （緊張感のない間の抜けた顔で小川を見る）。

小川 テメェブッ殺すぞコノヤロウ、オイ！

【観客大爆笑】

髙田 小川、オマエ、ゴーバーに負けたんだろうコノヤロウ。俺をな、リングに引っぱり出すなんて寝言言ってんじゃねえよコノヤロウ。アアン!? 橋本！ 小川！ ポーク&チキン！ いいか聞けテメェらコノヤロウ！ エエ!? 『ハッスル』から逃げんなよコラァ！

小川 うるせぇコノヤロウ！

【小川、髙田に掴みかかり、払い腰で投げ飛ばす！ リング上は大乱闘！ 髙田はゴーバーと花道に避難する】

髙田 オイ……！ 俺に手ェ出したなコノヤロウ！

【会場大爆笑】

髙田 ポーク&チキン！ ちょっと聞け。お前らな、『PRIDE男祭り』で熱感じたんだろ？ その熱をな、『ハッスル』のこのリングで、創り出してみぃコノヤロウ！ わかったかオラァ！

ゴーバー ハシモーロ！ You, re Next.（次はオマエだ、ポーク！）。

橋本 （ロープを挟んでゴーバーに詰め寄り）ゴーバー！ フィニッシュ！ カモォーーーーーン！

小川 オイ、髙田ァ！ 聞いとけよ！ 必ずな、お前をリングに上げてやる。覚えとけコノヤロウ！

【歓声&拍手。髙田は花道の奥に消える】

橋本 ……会場の皆さん、俺はプロレスを愛してます。だからぁ！ 今度はこのアリーナ、超満員にしてやるぞオラァ！ 今日はありがとうぉ！

小川 すいません（本当にすまなそうに観客に謝る）。もう、こうなったら次回必ずハッスルしますぅ！

【大拍手】

小川 今日は悔しいけど、明日から必ずハッスルするために、みんなでお願いします！ ご起立お願いしま～す！

【観客起立】

橋本 俺たちが考えた、髙田のやってる『ハッスル1』のポーズは臭い臭い。俺らのマネして今年一年頑張って下さい。まずはよぉく見てて下さい。一緒に宜しくお願いします。ハッスルするぞーー！

小川 オー！

橋本&小川 3！ 2！ 1！ ハッスルハッスル！（ポーズの仕方はP72参照）

【観客大声援】

橋本 どうだオラァ！ 恥ずかしがるな。恥ずかしがるな。お前ら一年ハッスルしろオラ！ それではご一緒にお願いします！ お前らもやれコノヤロウ！（起立しない観客を指差して）。

【観客大爆笑】

小川 やれよぉ、ちゃんと。

橋本 オラァ、そこもやれコノヤロウ！（実況席の掟ポルシェ&丸井記者を指差して）。オイ、みんなハッスルするぞオラァ！

小川 ハッスルするぞーーー！

観客 オーーー！

橋本&小川&観客 3！ 2！ 1！ ハッスルハッスル！

橋本 ありがとうお！

俺はプロレスを愛してます！

“暴走王”を粉砕した“超人類”ゴールドバーグ吼える!!

GOLDBERG IS BACK!!!!!! 一昨年の『Dynamite!』で日本初上陸を果たし、全日本と「W-1」のリングで暴れまくり、昨年はWWEにも登場して世界ヘビー級王座を巻いた“超大物の中の超大物”ゴールドバーグが日本のリングに帰ってきた!! 本誌は、大晦日『PRIDE男祭り』のリングで小川直也相手に大乱闘を繰り広げた翌朝……つまり元旦の朝イチで、わずかな時間ながらゴーバーとの接触に成功!! 本誌では54号以来の登場となる「超人類」の雄叫びを聞け!!

BILL GOLDBERG

聞き手／坂井ノブ　撮影／松本崇　試合写真／乾晋也　designed by hisa（Two Three）

――このインタビューが２００４年最初の仕事ですか？

ゴーバー　そうだ。一年の初めから仕事が出来るんだから、とても光栄だよ。

――こちらこそメチャクチャ光栄です！　さっそくですが、去年の最後の仕事を振り返っていただけますか？

ゴーバー　ＯＫ！

――『ＰＲＩＤＥ』のリングで小川直也選手と大乱闘を繰り広げて観客に大きなインパクトを残しました。

ゴーバー　観客に喜んでもらえてたらいいね。プロレスラーが『ＰＲＩＤＥ』など総合格闘技の観客から歓声をもらうのはとても難しいことだろ？　まったく種類が違うものだからな。でも、オレ自身は総合格闘技が大好きだから、ああいう乱闘で印象を残せたら嬉しいよ。

――観客は間違いなく受け入れてたと思いますよ。小川選手には、どういう印象をお持ちですか？

ゴーバー　オガワの噂はずっと聞いていたんだ。バルセロナ・オリンピックで銀メダルを取ったんだろ？

――ええ。世界選手権でも4回優勝してます。

ゴーバー　柔道家として高い能力を持った選手だと思うので、そういう部分は尊敬している。だが、どんな相手だろうとぶっ倒す！　それがオレの仕事だし、そのために日本に来たんだからな。ただ、普段アメリカで闘っている選手とはタイプが違うので〝試合のアプローチ〟は変えたいと思ってるよ。オガワのスタイルはＷＣＷ時代のユージ・ナガタに近いかもしれない。おい、ところで昨晩のユージの試合はどうなったんだ？

――残念ながらエメリヤーエンコ・ヒョードルに62秒でＫＯ負けしました。

ゴーバー　（悲しげな表情で）ＯＨ、ＮＯ……。Ｉ　ＬＯＶＥ　ユージ……。彼とは仲が良かったんだ。ＷＣＷ時代、彼とはたくさん話したよ。新参者だった俺は彼から学んだものがいっぱいあるんだ。

――残念な結果に終わっちゃいましたが、試合まで1週間ぐらいしか準備期間がなかったですからね。

ゴーバー　それは問題だ！　まあ、プロモーターに「出ろ」と言われて「ＮＯ」とは言えなかったんだろうな。

――それも問題のような気がしますけどねぇ。小川選手や永田選手のスタイルは、アメリカのプロレスのスタイルとはまったく違うと思いますか？

ゴーバー　全然違うね。

大晦日の『PRIDE男祭り』では小川直也とドツキあいの大乱闘を繰り広げ、シャツを脱いで大ハッスル!!「YOU ARE NEX!!」と絶叫したゴーバー。「これが世界だ!!」というハッスル高田軍・高田総統の言葉通り、乱闘も世界レベルのド迫力!!　撮影／菊池茂夫

BILL GOLDBERG

――彼らは「プロレスとは格闘技である」ということを常々言ってるわけなんですが。

ゴーバー　日本においては、それは正しいんだろう。だが、アメリカの場合はもっとショー的な要素が強いんだ。アメリカのショー的な要素を日本のプロレスが取り入れてみるのもいいと思う。

――あなたは「ハッスル」シリーズで、どういうプロレスを日本の観客に見せたいと思っていますか？

ゴーバー　日本のファンに「これぞゴールドバーグ」という試合を見せたいね。オガワをムチャクチャにしてやるよ。

――それは、格闘技的な要素の強い試合をするということでしょうか？　それともショーマンシップの強い試合をするということですか？

ゴーバー　その両方を見せたい。ショーではあるけれども、ある程度は格闘技的な要素がある試合をしたい。俺には格闘技の経験があるから、他のレスラーとは少し違った闘い方が出来るはずだ。

――煽り映像の中では、アメリカで髙田延彦本部長と合流してましたよね？

ゴーバー　ナイスだったよ。彼こそプロレス界の〝レジェンド〟だから、一緒に闘うことが出来て光栄だね。彼のことは、昔からプロレスラーとして知っている。いい友人のように話をさせてもらったよ。

――その髙田本部長ですが、いまプロレスの仕組みの部分にまで踏み込んだ自伝を出版されて、日本のプロレスファンから大ブーイングを浴びてるんですよ。

ゴーバー　（驚いた様子で）そうなのか？　じつは、オレもアメリカで同じことをやってしまったんだ。

――おおっ！　そうだったんですか⁉

ゴーバー　真実を伝えることは必要なことだ。一部の人は受け入れるし、一部には受け入れられない人もいるだろう。ある程度は裏側を知ってもらってから見に来てもらうことも必要だと、オレは思うよ。

――そういう告白をした後でもアメリカの観客はゴーバーさんに大声援を送ってますね？

ゴーバー　日本のファンでもアメリカのファンでも、オレが思ってることを言って受け入れてくれることは本当にありがたいね。観客はバカじゃないし、リング上で何が起こっているかをちゃんと知ってくれているよ。日本のファンがオレを尊敬する気持ちを持ってくれていることにはサンキューと言いたい。

――約1年半前に日本に来た時のゴーバーさんは、アメリカではフリーのような立場でしたよね？　昨年の『ＷＲＥＳＴＬＥＭＡＮＩＡ19』直後からはＷＷＥを主戦場にしているわけですけど、ハウスショーには出場していないんですよね？

ゴーバー　ＹＥＳ！　将来的には、もう少し出場試合を減らしていこうかと思ってるんだ。

――2月のＷＷＥ『ＲＡＷ』の日本ツアーにも、あなたの名前がラインナップされていなかったですね。

ゴーバー　オレが日本で上がるリングは「ハッスル」シリーズだけだ。こうしてオレが日本に来れるのはＤＳＥと契約しているからだ。ＷＷＥとの契約には日本での試合については含まれていない。俺は日本のファンのために、プロモーターとの契約を全うしたいね。

――ＷＷＥとしてのパッケージで日本に来るよりも、「ハッスル」のリングに個人と

試合前半は関節技の応酬を繰り広げた小川とゴーバー。しかし、試合途中に“ヤドカリ野郎”島田裕二レフェリーが失神!!その隙にジャイアント・シルバが小川の足を引っ張るという謀略三昧!! そんな試合展開でも、ゴーバーのスピアーが小川のドテっ腹に突き刺さり、堂々のジャックハマーが炸裂!! 観客の溜飲を下げた。じつに絵になるフィニッシュだ！

どんな相手でもブッ倒す!!
それが俺の仕事だからな

んだ？

ゴーバー　全然違うね。

おおっ！　そうだったんですか!?

るよりも、「ハッスル」のリングに個人と

俺は痛いのが大嫌いなんだ！
誰にも負けたくないんだ！

して上がることに価値を見い出しているという部分もあるんですか？

ゴーバー　ＹＥＳ！　オレ個人を呼んでもらえるということに価値があるんだ。それはとても誇りに感じているよ。オレという個人を信頼してくれて契約を結んだ以上、オレもそれに応えて日本では「ハッスル」のリングに専属で上がるんだ。忠誠や義理は大事だよ。

――なるほど。日本では、いままで4試合をやってるんですが、どの試合が自分では一番良かったと思いますか？

ゴーバー　（即座に）コジマ&タイヨウ・ケア！　ベリー・ベリー・ベリー・グッドだ！　彼らにはきっとビッグ・ビッグ・フューチャーが待っているだろう。運動神経もいいし、試合をしていて面白かったよ。コジマも素晴らしいと思ったが、タイヨウ・ケアにはとても大きな将来性を感じたね。

――ご自分でもやはりそう感じてるんですねぇ。日本のファンも同じ見方をしてますよ。あの2試合は、どちらもゴールドバーグ選手がひたすら圧倒してたようにも見えたんですが、彼らはどのへんが良かったですか？

ゴーバー　彼らは動きがいいし、プロレスがとても上手い！　いろんな動きが出来るし、とても技術があって、若いし、学んでいこうという意思と才能を感じた。今度、試合をすることがあったら、電車ではねるような試合をしてやるぜ！

――えっ、それはどういう意味ですか？

ゴーバー　別にオレたちは時間給で働いてるわけじゃないからな。パーッとやって、サッと帰るよ。オレは痛いのが大嫌いだから（キッパリ）。誰かに潰されるぐらいなら、他人を潰す！　それがオレのスタイルだ。

BILL GOLDBERG

びる・ごーるどばーぐ■身長192cm、体重128kgの"超人類"。日本では「ゴーバー」と呼ばれることが多い。NFLで活躍後、WCWのパワープラントで特訓を積んで97年にデビュー。以来、連戦連勝でWCWヘビー級王座を奪取。WCW崩壊後、昨年3月にWWE入りを果たし、9月PPV「UNFORGIVEN」ではトリプルHを破り世界ヘビー級王座を奪取、12月PPV「ARMAGEDDON」でトリプルHに奪回された。WWEではハウスショーに出場せず、バックステージからは常に不穏な噂が伝わってくるアンタッチャブルな"超大物中の超大物"だ!!

——でも、そういう考え方ってプロレス界では思いっきり嫌われないですか？（笑）。

ゴーバー 気にしないね。べつに同業者に好かれることが仕事じゃない。まあ、確かに嫌われるよ。でも、オレは絶対に負けたくない。誰にも負けたくないんだ。

——たしかに、ゴーバーさんが苦戦してたリック・スタイナー戦、クロニック戦は、あまり評価は高くないんですよね。

ゴーバー スタイナー戦の時は移動がキツかったよ。オレが住んでるサンディエゴ～サンフランシスコ～ナリタと飛行機を乗り継いで、ヨコハマまではヘリコプターで移動して、すぐに試合だったからな。あの時は前の月からずっと映画に出演していて、スケジュールがタイトだったんだ。

——とても試合に向けての準備が出来るような状態ではなかった、と。先ほどゴーバーさんも言ってましたが、列車ではねるような試合の方が僕らも興奮するんですよね。それこそ1対4というシチュエーションだったり、エリミネーション・チェンバーで強化ガラスをキック一発でブチ破るような試合の方が（笑）。

ゴーバー たしかにそういう試合が多いな。ここ半年ぐらい、普通に1対1のシチュエーションで試合するというのは記憶にないぐらいだ（笑）。

——そういうシチュエーションでこそ自分が光ると思いませんか？

ゴーバー 1対1の試合の方が楽でいいよ（笑）。でも、不利な状況を克服した時の方が得るものは大きいだろ？

——それが観客に気持ちよく伝わるわけですよね。昨年3月からWWEに上がってますけど、前回『紙プロ』に登場した時はWWEのことを「チープな対応をしやがった！」と激怒してましたよね（笑）。

ゴーバー 最近は、ちょっとマシにはなったかな。オレはキッズの模範になるような試合をしたいと思ってるんだ。ヤツらがオレの前にいくら金を積んだとしても、趣味の悪い下品なことは出来ない。

——たとえば、バッシャム兄弟（注・『SMACKDOWN!』で活躍中の双子のマゾ兄弟。試合前にムチで叩かれて恍惚の表情を浮かべる。ちなみにタッグ王者）みたいなことはしたくない？

ゴーバー 誰だ、それは!?

——あ、ご存じない!? 失礼しました（笑）。ちなみに、あなたにとってビンス・マクマホンはどんな人間ですか？

ゴーバー 素晴らしいビジネス・パートナーだ。彼がプロレスをマネージメントする第一人者だと思うし、試合をする機会もたくさん与えてくれたことは感謝してるよ。個人的にも尊敬している。

——でも、今後も日本で試合をするのは「ハッスル」のリングになるわけですね。

ゴーバー まだ今日は1月1日だから、今年はどうなるか分からないけどな。当面は「ハッスル」のリングで大暴れすることを約束するよ。

——なるほど、今日は元旦にも関わらず朝早くからありがとうございました。

ゴーバー こちらこそ、ありがとう。ハッピー・ニューイヤー！

【2004年1月1日、都内ホテルにて収録】

HELL YEAH!!

構成／坂井ノブ
写真／George Napolitano
designed by matsu (Two Three)

2/5〜2/7 WWE『RAW』presents
"ROAD TO WRESTLEMANIA"

STONECOLD 来日決定!!

GIMME A

たとえ試合はしなくても、ストーンコールドがそこにいる限り日本大会は間違いなく爆発する！

〝ストーンコールド〟初来日！　頭の悪い新日本ファンは「バカじゃねえの？　オースチンはとっくに新日本に来日してますよ〜！」とか言ってるかもしれないが、〝ストーンコールド〟として来日するのは初めてだろうが！　……と興奮せずにはいられないほど、この初来日は大事件だ。

説明するまでもないが（What⁉）、ストーンコールドはプロレスの概念そのものをガラリと変えた男である（What⁉）。人相悪いし（What⁉）、言葉は汚いし（What⁉）、常にビールをガブ飲みしてるし（What⁉）、いつも中指立ってるし（What⁉）、粗暴で凶悪なんだけど（What⁉）、僕らのスーパーヒーローだ（What⁉）。ストーンコールドはいつだってかっこいい。団体オーナーのビンスを張り倒し、マイク・タイソンに中指を突き立て、大型トラックで会場に突っ込み、放水車でビールをぶっ放ち、WWEの社長室に牛糞をぶちまける……やりたい放題！　試合をしてない最近でさえ、エリック・ビショフのスーツのポケットにピザをネジ込んだり、やることなすことすべてがクールだ！

ストーンコールド以降はWWEの中でプロモ（スキット）の比重がグッと大きくなった。96年にストーンコールドとなって以来、様々な流行語を生み出し、誰もが真似したくなるポーズを決め、試合以外の部分でも観客を虜にしてきた。必要とあらばギターを抱えて歌まで歌う。サングラスのモデルチェンジしかせず、「アイム・●ョーノ！」で何年も食ってる黒いカリスマと異なる点は、脚本家や演出チームとの連係が秀逸だということもあるが、飽きっぽいファンに消費され尽くす前に自分から新しい〝何か〟を生み出す真のエンターテイナーであるということだ。

WWEファンは、たとえ日本大会の演出がチープだったとしても悲しむ必要はない。そこにストーンコールドがいる限り、日本大会は絶対に面白くなるはずだから。

（文／坂井ノブ）

現在、ストーンコールドはリング上で試合を行っていないが、GM（ゼネラル・マネージャー）やシェリフ（保安官）といったポジションで毎週、画面に登場して大暴れ！　首の負傷でセミ・リタイヤ状態にあるとはいえ、日本でも必殺技“スタナー”が炸裂するのは確実！　日本ツアーは全会場で「ホスト」としてラインナップされているぞ！

『RAW』presents ROAD TO WRESTLEMANIA 全対戦カード、決定！

▼2/5 広島・広島サンプラザ（19:00開始）

ホスト：ストーンコールド・スティーブ・オースティン

- 【世界ヘビー級選手権】 ケインvsトリプルH
- 【レジェンドvsレジェンド・マッチ】 “HBK”ショーン・マイケルズvsリック・フレアー
- 【インターコンチネンタル選手権】 ランディ・オートンvsRVD
- 【テーブルマッチ】 ババ・レイ&ディーボン・ダッドリーvs ギャリソン・ケイド&マーク・ジンドラック
- クリス・ジェリコvsテスト
- バル・ヴィーナス&ランス・ストームvs マット・ハーディー&クリスチャン
- 【WWE女子選手権】 リタvsモリー・ホーリー
- ハリケーンvsリコ（withミス・ジャッキー）

※この他、エリック・ビショフ、ステーシー・キーブラ、バティスタが登場予定

▼2/6 大阪・大阪城ホール（19:00開始）

ホスト：ストーンコールド・スティーブ・オースティン

- “HBK”ショーン・マイケルズvsケイン
- 【世界タッグ選手権】 ババ・レイ&ディーボン・ダッドリーvsリック・フレアー&バティスタ
- クリス・ジェリコvsランディ・オートン
- リコ（withミス・ジャッキー）vsテスト
- バル・ヴィーナス&ランス・ストームvs ギャリソン・ケイド&マーク・ジンドラック
- RVDvsクリスチャン
- 【ミックスドタッグマッチ】 ハリケーン&リタvsマット・ハーディー&モリー

※この他、トリプルH、エリック・ビショフ、ステイシー・キーブラが登場予定

▼2/7 埼玉・さいたまスーパーアリーナ（18:00開始）

ホスト：ストーンコールド・スティーブ・オースティン

- “HBK”ショーン・マイケルズvsトリプルH
- 【世界タッグ選手権】 ババ・レイ&ディーボン・ダッドリーvsリック・フレアー&バティスタ
- RVDvsランディ・オートン
- バル・ヴィーナス&ランス・ストームvs ギャリソン・ケイド&マーク・ジンドラック
- 【WWE女子選手権】 リタvsモリー・ホーリー
- クリス・ジェリコvsクリスチャン
- リコ（withミス・ジャッキー）vsテスト
- ハリケーンvsマット・ハーディー

※この他、ケイン、エリック・ビショフ、ステイシー・キーブラが登場予定

今月の新作DVDも各1名様プレゼント 大会前に予習しよう！

昨年の『レッスルマニア』を最後に試合からは遠ざかっているストーンコールド・スティーブ・オースチン。しかし、GMに就任してからも宿敵エリック・ビショフを相手に痛快な暴れっぷりで『RAW』の主役の座は誰にも明け渡していない。今月の新作「ストーンコールド・セッド・ソウ」は見るものの心を瞬時でシビレさせるオースチンの暴れっぷりを幻のECW時代から遡って追体験できる大傑作だ！　オースチンが過去の激闘を自ら語るなんて最高でしょう？　この作品にはオースチンの全盛期がテンコ盛り。ビール飲んでるだけじゃないんですよ！「オースチン3：16」の起源も、これを見て復習しとけば間違いなし！　DVDの読別編集作品なので値段もお手頃で嬉しい限り。もう一本は『SMACKDOWN！』のPPV大会「NO MERCY」。ビンスvsステファニーというマクマホン家の抗争が最高！　実の娘を相手を徹底的に痛めつけるビンスの姿は狂気の沙汰！　どちらも絶賛発売中！

「ストーンコールド・セッド・ソウ」DVD ¥2800　本編62分　日本のファンが知らないオースチン満載！

「ノー・マーシー」DVD¥3800　本編168分（特典17分）。PS2ソフト「エキプロ5」体験盤〝赤〟ver. 封入！

※このページのプレゼント応募方法はP159を参照!!

何時男、叙似位&派乱暴のF.B.I.Presents

ネタバレ通信

Vol.11

祝・オースチン来日！でも舞台裏は大混乱？

何時男　日本大会のカードが発表されましたけど、やっぱりブッカーTは来ませんでした（笑）。

叙似位　第一弾で発表されたカードには入ってたんですけど、ストーンコールド来日決定と同時に変更されたカードから消えてましたね。アメリカのネットでも「ブッカーは日本に行けるの？」って噂でしたよ。

派乱暴　**ポール・マッカートニー**とかと同じ理由で来日できないみたいですから。難しいでしょうね。

何時男　でも、日本に来てるけど**トリプルHがマッチメイクされてない**大会とかあるでしょ？

叙似位　大阪でですね。たぶん、乱入要員ってことなんでしょうけど。当日にオープニング・プロモで試合を組み替えたりするんだと思いますよ。12月の韓国もそんな感じでしたから。**ベビーvsベビーの不自然なカード**もいくつかあるし、まだ変更はあるんじゃないかなと僕は見てます。

派乱暴　きっと試合当日に配られる対戦カード表には事前に書き込んであるんでしょうけどね。

何時男　今回も試合の勝敗まで書いてあるかもしれないから、『紙プロHand』で試合前に速報しましょうか？（笑）。

叙似位　また取材拒否される団体が増えちゃいますよ！　シェイン・マクマホンにも来てほしいなぁ。

派乱暴　でも、今回はストーンコールドの来日が決まるまで気分が盛り上がらなかったですね。

派乱暴　来日発表と同時に伸び悩んでたチケットが**一気に売れたみたい**ですよ。日本の企業も、かなりオースチン来日を水面下で働きかけてましたから。

叙似位　ツアープロモーターだったトータル・スポーツ・アジアが外れて、**どこが仕切ってるんだか分からない**波乱の幕開けでしたからね。開催発表記者会見もやらなかったし。

何時男　当初、主催に名前を連ねてたはずの**フジテレビも、いつの間にか降りちゃいましたよね。**

叙似位　フジは次の『SMACKDOWN!』の来日には相当力を入れてるって噂を聞きますけどね。

何時男　ということは、4月以降も『スマックダウン』は続くんですかね？　そっちに期待しましょう。

叙似位　ただ、個人的にオースチンは「アメリカでしか観られない人」でいてほしかったなぁというのも正直なところなんですが。

何時男　いまや、そのポジションはブッカーTのものに（笑）。

叙似位　でも、ストーンコールドを超える存在が出てこないと『RAW』もやばいですよね。そんな中、ベノワが、どうやら『RAW』に移籍するらしいです。ベノワの試合ってハズレがないから、『RAW』に純粋なレスリングの攻防を持ち込もうっていう狙いですね。

何時男　いま、『SMACKDOWN!』にプロレスがうまい選手が集中してますからね。

叙似位　だからこそ、この移籍はアリでしょう！　去年はケインに期待してましたけど、マスクを脱いだだけでイマイチだったしなぁ。

派乱暴　ケインが日本向けに出したメッセージって読みました？

何時男　キョードー東京から来たプレスリリースですよね。

派乱暴　**「新しいケインを日本のファンに見てもらえることを、とても楽しみにしています」**とか、〝モンスター〟ケインに何が期待できますか？って質問に**「秘密です」**って答えてるんですけど（笑）。

叙似位　まったく怖さが伝わって

WWEファンクラブのHPがリニューアル！注目記事が満載だ!!

WWEファンならWWEファンクラブに入るべきだ！　会員特典としてRAWマガジンが隔月で送られてきたり、WWE日本大会のチケットが優先予約出来るのは毎月ここで紹介している通り。さらに、1月からはWWEファンクラブのホームページもリニューアル！　会員限定ページ「SUPERSTARS ISSUE」（左写真参照）がオープンした。「RAWマガジン日本語版」には掲載されていない情報やインタビューなどがこの「SUPERSTARS ISSUE」に随時UPされる。TVでは見ることが出来ないスーパースターの素顔を垣間見ることができる？（もちろん日本語で）。1月16日にはカート・アングル、RVD、ブロック・レスナーの記事がいきなり登場しており、衝撃エピソードが満載だ！

本国ではSMACKDOWN!マガジンの創刊に伴い、今後はRAWマガジンに『RAW』の選手しか登場しなくなってしまうわけだが、このページさえチェックしておけば、『SMACKDOWN!』の選手の情報もまんべんなくカバー出来るはず。とにかく日本のプロレス団体のオフィシャルものと違う点は、団体側がすでにカミングアウトした情報をリリースしている点に尽きる。大人のファンでも大満足出来るコクと深みのある記事を楽しもう！　日本のプロレスマスコミじゃ満足できない人は必読だぁぁぁぁぁ！

こない（笑）。

何時男　プロモーションになってないですよ、あれ！（笑）。**なんで鬼畜キャラが普通に敬語でしゃべってんだろうな？**

派乱暴　WWEを知らない人が読んだら、**「あ、普通の人じゃん」**って思われそうですよね。

叙似位　むしろマイナスでしかないような（笑）。今回の日本ツアーはホントに**脇が甘い**よなぁ。

ゴーバーvsレズナー？『WM20』の大胆予想!!

叙似位　この雑誌が発売される頃には終わってますけど『ROYAL RUMBLE』はゴーバーが優勝するという噂ですね。そこで『WRESTLEMANIA』で『SMACKDOWN!』王者の**レズナーを指名する**っていう説があります。

派乱暴　たしか両者は『SURVIVOR SERIES』で接点がありましたよね。

叙似位　『RAW』でベルトを奪回して、レズナーと統一戦をやるんじゃないかっていう説もあります。あとはビンスvsストーンコールド、ミック・フォーリーvsトリプルHですね。

何時男　カート・アングルは？

叙似位　おそらく**ブレット・ハート**とやるんじゃないですかね。ブレット自身**「カートとならやってもいい」**って言ってるらしいですから。もしくは、**カナダ人ならOK**ってことらしいです。

派乱暴　それは「アメリカ人は信用できない」ってことですか？（笑）。

何時男　でも、純粋に見たいのは**ビンスvsブレット**ですよね。

叙似位　そうなんですよ！　アメリカにも、まだまだブレットを擁護するファンはいるみたいで「WWEに上がらないでほしい」とか言ってるファンもいますけど。

何時男　どこにでもいますよね、そういう**キモチ悪いこと言う連中**って。ホントのファンならビンスを殴り倒すシーンを期待するでしょ!?

叙似位　「関わってほしくない」とか言ったって、そういうカードほどWWEはやりますからね（笑）。

派乱暴　TLCマッチもあるって噂、聞きませんか？

叙似位　あります、あります！　もともとTLCマッチって『WM2000』が最初でしたから、『WM』20周年大会でやる意味はあると思うんですよ。エッジも『RAW』に移籍するかもしれないし、ジェフも復帰するし、期待したいですねぇ。

何時男　いやぁ、毎年この時期になると『WM』のカードでワクワク出来て楽しいですね！

【1月某日／都内某所にて収録】

まず、このページはWWEのネタバレ情報が満載であることを警告いたします。ネタバレ上等な方だけお読みください！　ストーンコールドの来日決定も、いち早く携帯サイト『紙プロHand』でアップされるなどネタバレ情報網は徐々に拡大中！　今月も裏ネタ密売シンジケートが極上のネタバレを誌上で思いっきり公開します。

F.B.I.とは？■「踏み込んだところまで・バラしちゃって・いいかな？（いいとも！）」の略。『SMACKDOWN!』のマフィア系3人組「F.B.I.」（フル・ブラッド・イタリアンズ）にあやかって命名。プロレス業界に潜伏する何時男（なんじお）、桁違いのパワーで情報をかき集める叙似位（じょにー）、裏方さんの派乱暴（ぱらんぼ）の3人組だ。

噂FILE

●クリス・ベノワが『RAW』に？　エッジの復帰も『RAW』が濃厚？

クリス・ベノワの『RAW』移籍説が持ち上がり、多くの波紋を呼んでいる。どうやら目的は、ベノワを『SMACKDOWN!』王者にするのではなく、『ROYALRUMBLE』前に『RAW』に移籍させ、ランブル戦で勝利後『WRESTLEMANIA XX（以下WMXX）』でトリプルHと対戦させるためということらしいが、果たして……。また、エッジが復帰後どっちのブランドに所属させるか、という内部紛争が巻き起こっているらしい。首の手術を受けるため戦線離脱したとき、エッジは『SMACKDOWN!』の選手だったが、『RAW』制作チームがエッジを引き抜くため、懸命にバックステージで奮闘しているという。ちなみに『RAW』チームとスマックダウンチームの対抗意識は、ハンパじゃないらしい。

●ロック様、ダンキンドーナツを語る！

ザ・ロックがFOXテレビの“On Air with Ryan Seacrest”に初出演した。ドゥエイン・“ザ・ロック”・ジョンソンとして紹介されたロックは、新作映画“Walking Tall”のプロモーションのために登場。番組中、物語の鍵となる大きな棒をブンブン振り回しているシーンを流した後、スタジオに登場したとてつもなく大きな棒にサインをし、観客の熱狂的ロックマニアへプレゼントするアドリブを行なった様子。一方番組は、肝心の映画についてコメントを求めたが、親指を上げて「迫力満点だぜ！」とキメたのみ。まったく質問の答えになっていないのだが……。その内容は果たして？　また、ダンキンドーナツが大好きでたまらないロック（ダイエット・コーク付だと「文句なし！」らしい）は、ダンキンドーナツをモリモリ食べながら観覧していた観客から、ドーナツ詰め合わせを何箱もプレゼントされる一幕も。そこでロックは「そういえば昔ダンキンから、俺様の名前にちなんだドーナツを売りたい！ってオファーがあったぜ！」というエピソードを披露。しかし、あまりメリットが見出せなかったのか、申し出を断ったそうだ。ロックにちなんだ食べ物の代表といえば「PIE」だが、その意味は女性の●●。今から商品化実現を切に願うばかりだ。っていうか、飲食しながら観覧する人間が客席に居ること事態、信じられないことなんだが。

●「WMXXウィークエンド」開催！

『WMXX』の前夜祭的イベント「ウィークエンド」の開催が決定。その全貌が一部発表された。ひとつはニューヨーク・デイリー・ニュースの提供により、NYのあるストアでサイン会を行うという。詳しいスケジュールは、デイリー・ニュース紙上とWWE.comで3/7に発表予定。また、先日の『RAW』ナッソー・コロシアム大会の際、3月13日に「WWEスーパースターズと往年の選手と過ごすスペシャル・ディナーパーティ」の開催が発表された。同時に初の殿堂入り記念夕食会も行う予定で、ファン参加も可能だという。ファン参加の殿堂記念夕食会は1996年11月以来。チケットは2月上旬に販売されるとのこと。さらに、『WMXX』の朝に行なわれる恒例の「Bacon,Bagels&Biceps Brunch（ブランチ・トークショー）」を催す予定。これは元来WWEトラベルパッケージで申し込みWMXXにやってきたファンに向けたイベントだったが、今回初めて一般ファンにチケットが販売される。チケットは2月上旬に販売予定だそうだ。食ってばっかりのイベントなのは気のせいか？

●ゴールドバークが大プッシュされる!?

ゴールドバーグが『WMXX』までに今まで誰も受けたことがないような大プッシュを受けるらしい。なんでも、「WMXX」でブロック・レズナーに勝利し、”勝利以上に大きな意味”を手に入れるという。そんな噂にファンは「『RAW』と『SMACKDOWN!』のベルト統一!?」と今から妄想しっぱなし！　しかしそんなゴールドバーグは『WMXX』後、WWEを離れる計画を模索中だとか。WWEで“勝ち逃げ”は許されませんよ！

●「スティーブ・オースチン・ビール」いよいよ発売！

ストーンコールド・スティーブ・オースチンの銘柄ビールの全米販売計画が進行中だとか。是非日本での発売実現を切に願いたいところ。しかし、世界中で”未成年飲酒”を助長しそうな予感……。発売の詳しい情報は、判明次第このコーナーにて。

ユークス・プレゼンツ PS2『エキサイティングプロレス5』1/29発売!!

WWEの世界観を余すところなく再現するプロレスゲームの最高峰PS2ソフト『エキサイティングプロレス5』が1月29日（木）、遂に発売！　今回のクリエイトモードでは入場用と試合用の二つのコスチュームを作成できる！　設定できる技は1700種！　さらに作成したキャラクターは、シーズンモードで育成可能。ますますDEEPになって帰ってきた『エキプロ』最新作を1名様にプレゼント！　迷わず応募だ!!

もちろんDIVAだって闘います！　ブラ＆パンティ戦で脱がしちまえ！　どうですか、このクオリティ！　自分で萌えキャラ作って脱がしちゃえ！

WWEの世界観をそのままに様々な試合モードが楽しめるのも、このシリーズの醍醐味。『RAW』でおなじみのルーレットも登場だ！

PS2ソフト『エキサイティングプロレス5』（標準小売価格¥6800・税別）

※このページのプレゼント応募方法はP159を参照!!

The names of all WWE programming, talent, images, likenesses and logos are the exclusive property of WWE. c 2004 World Wrestling Entertainment, Inc. All Rights Reserved.Game and Software c 2003 THQ/JAKKS Pacific, LLC. Used under exclusive license by THQ/JAKKS Pacific, LLC. JAKKS Pacific and the JAKKS Pacific logo are trademarks of JAKKS Pacific, Inc. Developed by Yuke's Co. Ltd. Yuke's Co. Ltd. and its logo are trademarks and/or registered trademarks of Yuke's Co., Ltd. THQ and the THQ logo are trademarks and/or registered trademarks of THQ Inc. All Rights Reserved. All other trademarks, product names, company names and logos cited herein are the property of their respective owners.

健介ファミリー

健介Officeの野望、
そして遂に語られる
"ド真ん中の"真実!!

2004年は
ヴァーッとクァーッと
突っ走るぞ!!

HCWヘビー&タッグ級王者
KENSUKE

佐々木久子
(北斗晶)

佐々木誠之介

聞き手/松澤チョロ
撮影/丸山剛史
ハワイ写真/HCW提供
design by さおとめの事務所

2004年は健介ファミリーから目を離すな!! 昨年末、『健介Office』を設立した健介。マネージャーは北斗晶。応援団として健之介&誠之介という2人の子供が脇を固める『健介Office』。昨年暮れにはDDTで藤沢一生と夢の共演。1・4では永田と血みどろの殴り合い。その後、ハワイでの活躍は『東スポ』愛読者ならご存知のとおり。この健介ファミリーをハワイへ旅立つ直前に空港で直撃!!

Let's Go

佐々木
健介

佐々木
健之介

やっぱり、健介ファミリー大好きッ

A Happy New Year 2004

Kensuke Family

2004年マット界キング・オブ年賀状は健介一家に決定！ ちなみに健介は「写真屋で撮ったんだけど次の人が横にいるんで、正直恥ずかしかった」と照れ笑い。健介、最高ッ!!

茶番は結構って感じですよ。もう胸やけしそう。液キャベください(笑)

――大変です！　今日（1月6日）行われた新日本の会見で健介さんの永久追放が発表されたみたいですけど、何か聞いてます？

北斗　はぁ～、どういうこと!?（怒）。佐々木健介はフリーなのよ。だから、どこに上がろうと勝手なの、正直言って。

――フリーはそういうもんですよね。それを蝶野さんが伝えようとしたけど健介オフィスと連絡が取れなかったということで（笑）。

健介　は!?　連絡取れないって、そんなもん来てないって！（北斗に向かって）じゃあ、着信見せてやれよ！

北斗　どうぞ！（と、着信履歴を見せる）

――え～っと、蝶野さんの名前も新日本プロレスの名前も一切見当たりませんね（笑）。

健介　そこまで何で嘘をついて、新日本プロレスはキレイに見せようとするわけ？　それが不思議でしょうがない。

北斗　一切連絡はございません！　それに携帯じゃなくても、事務所、ずっと。空港に来るまで一歩も外に出てません！（キッパリ）いましたから、ずっと。空港に来るまで一歩も外に出てません！（キッパリ）

――おかしな話ですねぇ（笑）。

健介　もうホントねぇ、茶番は結構って感じですよ（吐き捨てるように）。もうね、胸やけしそう。液キャベください！（笑）。

――アハハハハ！

北斗　あんまり連絡取れないだとかいい加減なことばっか言ってたら、悪いけどアタシは蝶野正洋は大好きだったけど、木刀持って行っちゃうよ！　アタシ、佐々木健介より蝶野正洋のファンだったんだから（笑）。

――それって問題発言なんじゃないですか？（笑）。大丈夫ですか、健介さん？

健介　ハッハッハッハッ！

北斗　いつも言ってたから大丈夫（笑）。アタシはヒールだったんで同じヒールとして「やっぱ蝶野はカッコイイなぁ」って言ってましたから（笑）。それがつまんない嘘付いて蝶野正洋という人間の夢を壊さないでくれって。「チクショー！　マルティナうらやましいな」って思ってたのにね（笑）。もう前に貰った「チャコちゃんへ」ってサインも捨てるよ、悪いけど。

――アハハハハ！　新日本に対する怒りは、それくらいにして、『紙プロ』は今号が2004年の一発目になるんですが、今年ブレイク確実な健介さんに話を聞いてみようと思って成田空港まで追っかけてきました！

北斗　わざわざご苦労様です。

――いえいえ、こちらこそ、ハワイ遠征直前だというのに無理を言ってしまって。時間もあまりないみたいなんで早速お聞きします。この度、設立された健介オフィスとはどういうものなのかマネージャーの北斗さんに説明していただきたいんですが？

北斗　アタシはマネージャーって言ってもスケジュールを切るぐらいなんで。言っときますけど、アタシの仕事の携帯電話は海外でも転送されるし、自宅兼事務所の電話番号にしても連絡が取れないっていうことが一切ないようにってことを一番に考えてるんで。よっぽど会場とかで電波が通じなかったりとか以外は連絡が取れないとかはございません！

――それは十分わかりました（笑）。

北斗　アタシは、この業界でやってたことがあるから連絡取れないっていうのは凄い失礼なことだってわかるから、それだけは心掛けてるんで。自宅兼事務所の小さいオフィスだってバカにしてるかもしれないけど（笑）。

――小さいオフィスって言いますけど、佐々木家が豪邸だっていうことはファンもみんな知ってますからね（笑）。

健介　いやいや（苦笑）。食卓テーブルと事務所のテーブルは兼用なんで（笑）。

――そうなんですか（笑）。

北斗　そうなのよ（笑）。でも、そういうこと言うと生活苦しいとか言われるよ！（笑）。

健介　アッハッハッハッ！

――北斗さんは肩書としてはトータルマネージャーということでいいんですか？

北斗　はい、そうです。一応、交渉事も受けてます。人を雇うお金もございませんし（笑）。

――完璧にネタにしてますね（笑）。

健介　だから、マジでとられるからやめとけって！（笑）。

北斗　そっか（笑）。でも、例えばまったく知らない人を付けても取材陣に対してどういうふうに対応したらいいのかとかわからないだろうし、そういうのを一から教えてやってる時間がないんですよ。だって、健さんは突っ走ろうとしてるんですもん。

――WJでは、ちょっと立ち止まっちゃったところがあるんで、もう突っ走るしかないですよね（笑）。

北斗　そうそう。アタシたちは正直言ってWJで、それこそ暴露本出せるぐらい内部をよく見てきたからね（笑）。どうしてダメになったかっていうのもわかってるし。で、最終的にマネージャーとして言っちゃいますけど。

――言っちゃってください（笑）。

北斗　契約書を返されたわけですよ。だから、「健介はWJを見捨てた」とか「裏切り者」云々言う人もいますけど、なぜ契約書を返してきたかって言ったら、WJはアタシたちに対して責任を持てなくなっちゃったんですよ。正直、WJの試合の数では家族が生活していくだけのお金は出せないし、給料とかの問題も表に出ちゃったじゃないですか？

――谷津さんが先頭切って言っちゃいましたからね（笑）。

北斗　谷津さんもどうかと思いますけどぉ（笑）。そういうことに対しても佐々木健介は一言も言わないから変に誤解されるけど、契約書を返された時点でフリーなわけだし、そうなったら当然、家族会議になりますよね。

――佐々木家の家族会議ですか（笑）。

北斗　それで、とにかくWJから離れて自分でやっていこうってなったときに、この人は「プロレスをやめる」って言ったんですよ。

――引退も考えてたみたいですね。

北斗　たぶん普通の人だったら「もうちょっと頑張りなよ」って言ったかもしれない。でも、ケガをしたでしょ？　嫌だ嫌だと思ってやってると絶対またケガするの。じゃあ、今度取り返しのつかないケガをしちゃって、もう子供たちが「パパ」って呼んでも返事も出来ないようになってしまったらってことを考

DDTの健介こと藤沢一生が憧れの本人を前に思わず号泣！　12・29DDT後楽園大会で浩一郎&安生組に敗れ、なおもボコボコにされ続ける藤沢を救出したのは本物の健介だった。感激のあまり涙が止まらない藤沢を抱きしめた健介は、2・11DDT横浜大会でタッグ結成を表明し、会場からは大拍手。「雑誌で見てウチの子供も間違えてた」との健介発言を確認すべく2人が載った『週プロ』を健之介君に見せたが、さすがに間違えませんでした

Let's GO Kensuke

えたらやめさせちゃった方がいいって思って。「じゃあ、違うことを考えながら夫婦で頑張ってやっていこう」ってなったんだけど、最終的に「もう一回やろう」ってなったわけ。いろいろあり過ぎて、話せばもの凄く長くなっちゃうけど（笑）。

――いろいろあったでしょうからね。

北斗　「じゃあ、もうやるだけやんなよ！　走り出してダメだったらやめればいいじゃん」って。この人も「一気に走る」って気持ちになってるから、それを理解して付いていける人じゃないと出来ないですもん。それはアタシしか出来ないんじゃないかなって。

――そこまで健介さんの気持ちを理解できるのは北斗さんしかいないでしょうね。

北斗　それに、いままでアタシが現役でやってた時はプロレスの話はしなかったんですよ。なぜかって言ったら正統派とヒール、悪党と善玉なわけでしょ、変な言い方してしまえば。合わないもん、話したって。だから、つい最近までお互い話そうとは思わなかった。アタシは女子プロに誇りを持ってたし、自分のプロレスにも誇りを持ってた。たぶん分かり合えないってお互いにわかってたからだと思うけど、でもＷＪでいろんなことがあってから結構いろんな話をするようになって、こういう考えも持ってる人なんだなっていうのがわかって。それを全面的に出していけばそれでいいんじゃないかなって。

健介　やっぱり、ＷＪでやってきて、いままでの自分と比べると枠が広がってきたっていうか。いろんなことがあったからね（苦笑）。

北斗　ホントありすぎたよねぇ（笑）。

健介　でも間違えて外に出てることもいっぱいありますよ。俺からすれば、なんじゃこりゃ！って話も出てるし（笑）。そういう中で俺の気持ちはコイツが一番わかってるし、俺が何を考えて会社にものを言っていたか、どうすれば良くなるかってことを俺なりに考えて、どれだけ行動に移してたかっていうのは一番わかってくれてると思ってるんで。いろんな話が出てるけど、軽々しく言う人間ほど自分の行動に責任持ってなかったんじゃないですか。

大会前から「ローンの支払いが苦しいから新日本に来たんだろ」等々、暴言三昧の永田と１・４ドームで対戦した健介。両者、大流血の遺恨マッチは永田が勝利し、数日後、新日本は健介に永久追放を言い渡したのだったが……

――まあ、谷津さんとかは、いい意味でも悪い意味でも元々そういう人ですからね（笑）。

健介　ハッハッハッハッ！

――健介さんがＷＪを離れるにあたって、長州さんとの確執があったんじゃないかとか、永島さんや福田社長ともうまくいってなかったんじゃないかとか、いろいろと言われてましたけど……まあ、まったく何もないわけはないと思うんですが（笑）。

健介　ハッハッハッハッ！

北斗　ないわけはないよね（笑）。

――ただ、中嶋クンのデビュー戦にも駆けつけて花束を渡してましたし、会場では永島さんや他の選手とも話をしてましたし、うしろめたい辞め方はしてないわけですよね。

健介　そうッスね。みんなと話して俺は自分の道を決めたんですよ。そりゃもう、いいことも悪いこともいっぱいありましたよ。だけど俺はそれでいいかなって思ってるんですよ。そこでカッコ付けることは何もないしね。

北斗　ただね、アタシは、この人はなぜＷＪのこといろいろ言わないのかなって思ったこともありますよ。もう言っちまえばいいのにって。アタシの性格だと（笑）。

――北斗さんだったら、とっくに言ってるでしょうね（笑）。

北斗　とっくに言ってるよね（笑）。だけど、なぜ言わないのかって聞いたら、「リングの上に答えがあるから」って。「試合しなかったらプロレスラーの意味がない。あの時はケガをしてるから何も言わなかった」と。でもアタシ、つい最近も言ったんだけど「きっとマスコミの人たちは佐々木健介に対して何を待ってるかって言ったら、ＷＪの文句を言うのを待ってるよ」って。

健介　いや、やっぱりファンが見たいのは凄い試合ですよ。金がどうのこうのって、そんな話なんか聞きたくないだろうし。

北斗　それは違う！　それは聞きたいのよ！

――聞きたいのは聞きたいですよね（笑）。

北斗　そう。カッコいいこと言い過ぎ（笑）。結局、ケンカが見たいの。ケンカとかが好きだからアタシはプロレスが好きなんだと思う。

健介　だから俺が言ってんのは、何でもかんでも暴露すればいいってもんじゃないよってことだよ。試合なんだよ、試合！

北斗　それもわかるんだけど、妄想とか噂話とかはファンだけじゃなくて人間なら誰でも好きだから。でも、ホントのことを言わない方が面白い時もあるじゃないですか？

――そういう場合もありますよね。

北斗　知らない方が良かったってことはいっぱいあると思うし。でもね、一つ言っておきたいのは、いままでＷＪが『Ｘ―１』とか、

健介、感激！中嶋クン衝撃デビュー！

中嶋勝彦15歳が遂にプロレスデビュー！　“マッドネス”船木の記録を抜き日本人最年少デビューの中嶋君は石井智宏に敗れはしたものの、理想として名前を上げていた初代タイガーマスクを彷彿とさせる、その一挙手一投足に場内は大歓声。花束贈呈で来場した健介も「最高のデビュー戦だね。勝彦はお母さんに一番の親孝行が出来たと思うよ。ホント嬉しい！」と目頭を押さえながらコメント。長州さん、中嶋君に、もっと活躍の場を！

あのあたりから乗り切れたのは佐々木健介のおかげですよ。そうじゃなかったら潰れてたと思う。長州さんは「WJは俺がいる限り潰れない」とか「ありえない」ってよく言ってたけど、ありえないってことはありえない。

――つまり健介さんがいなかったら、とっくにWJは潰れていたと？

北斗 そう。佐々木健介がいたからもったの。どうして、その一言を永島さん、長州さん、福田さんは言わないんですか？ そこまでカッコ付けることはないんじゃないですかってアタシは言いたい。全部アタシは知ってる。暴露するんだったらアタシがする！（笑）。

――アハハハハ！ 期待してます（笑）。

北斗 ただ、やっぱりWJにも、この先上がることがあるかもしれない。……興行が組まれればだけどね（笑）。

――どうなんでしょうね（笑）。

北斗 マネージャーとして、「出てもいいんじゃない」とだけは言えない。って言っても健介オフィスはアタシと健さんと子供しかいないんだけど（笑）。

――そうでしたか（笑）。

健介 応援団長は健之介だからね（笑）。

北斗 ファンの人は裏切り者云々って取るのかもしれない。それでもかまわないけれども、アタシは当分はWJには上がるべきじゃないと思うんですよ。踏ん張らなきゃいけないでしょ、いる人たちだけで。だから、長州さんには「長州力がWド真ん中だ。長州力がWJだ」って言った、その言葉を見せてもらいたい。……これはアタシの意見ですよ。この人の意見だって思われると、またいろんなトラブルになっちゃうんで。ただ、もしいま2月とか3月に……興行組まれてないけれども「WJに上がりたい」って言ったらアタシはNOです。それはなぜかって言ったら、この人はWJのベルトを一度も巻かなかったでしょ？

試合をやろうとは全然思ってない。でも口じゃ負けないよ！

ハワイにKENSUKE見参！ 新必殺技でシングル王者に!!

1・10、健介改めKENSUKEがHCWヘビー級王座を奪取!! 試合前に蝶野の指示を受け視察に訪れていた新日本渉外担当・川名氏に北斗が水と罵声をぶっかけ会場から追い出すと、戦国時代の武将をイメージしたニューコスチュームで登場したKENSUKEは密かに開発していた新技ボルケーノ・イラプションで王者ロパーカを失神させ勝利。KENSUKEはヘビー級王座と共に、この試合に賭けられていたHCWの株51％をゲッツしオーナーに

――そういえば、腰には一度も巻いてなかったですよね。

北斗 そうなんです。本人はWJのベルトは可哀想だってなぜかって言ったら、ファンがWJを認めてないのに、そこのチャンピオンとして誰が認めるんだと。WJっていう団体がファンに認められるまでは、このベルトは巻けないって言って巻かなかったんですよ。だから、しがないオフィスのマネージャーとして言うけれども、この人が出たいって言ってもアタシは出さない。結局、いままで健さんには非情さがなかったんですよ。

――どうしても人の良さが見えちゃう部分があったかもしれませんね。

北斗 そうでしょ。レスラーとしても、人間としても。アタシを見てみろって！（笑）。

――アハハハハ！

北斗 なんでそこで笑うんですか？（笑）。

健介 正直、情に流されてきた部分は、たしかにあったと思う。

北斗 そう。人間それを忘れちゃいけないんだけれども、すべて試合でも何でも情で流されてたんですよ。だって、手が折れてて、手術になったら半年、一年出来ないよって言われても、「若いヤツが困ってる」って言って会場に行くんですよ。

――健介さんなら言いそうですね（笑）。

北斗 一回試合に行くって言った時ケンカしたんですから。「何考えてんの!?」って。アタシはその時言いましたよ。「アンタ、他人の腹をいっぱいにして家族の腹をいっぱいにしないの」って。

――それで健介さんはどうしたんですか？

北斗 この人は会場に行きました。しかも実費で（笑）。

健介 会社から経費落ちないのにね（苦笑）。

北斗 でも考えたら、たぶん、そういう男だから結婚したんだなって私は思いましたよ。「行くんだったら戻ってこなくていいよ」まで言ったんですもん、一回。

――それでも行くって凄いですね（笑）。

北斗 これも本人の口からは言わないから言っちゃうけど、給料は出なくても「お前だから我慢してくれるだろ」って。「お前だからお前だから」って言われてきて。だから人がいいのを利用されてるような気がして。最終的には「行くな」って言ったんだけど行っちゃった（苦笑）。12月のシリーズですけどね。

――あぁ、12月のシリーズはZERO－ONEとの対抗戦も決まって、健介さんはもう出ないもんだとばっかり思ってたら突然カードに名前が入ってて驚きましたからね。

健介 これはホントにねぇ、知り合いとか、いろんな人に言われるんですよ。「もう健介は恩をすべて返してきた。もういいんじゃない、自分の好きにやれば」って。

北斗 そう。もう恩は返したの。だからこそ、アタシはこの人に今年は化けてもらいたいって思ってるし、いろんな佐々木健介を出して化けなきゃいけない。今年ダメだったらダメだと思えって、そういう感じで2004年はアタシたちはスタートを切ったんですよ。だから、1人のようで2人なんですよ。いつでもついてまわってた長州さんの陰っていうのは、やっぱりもう切り離さなきゃダメ！

健介 わかってるって！（笑）。

北斗 それとマネージャーとしてもう一つ。

――はい。何でしょう？

北斗 WJの時にいろんな営業のこととかであっち回ったりこっち回ったりして、何が嫌だったかって、たぶん一番嫌だったのは練習

【健介飛び込みニュース】ハワイ大会で2本のベルトと共にHCWの51％の株をゲットした健介だったが、「プロレスと練習に集中したい」との希望により、株は北斗晶に譲渡されることに

キチ●イな男が練習がロクにできなくなったのが一番嫌だったと思うんですよ。この人は一日中でもご飯食べて、少し休んでまた練習しようって人なんで、それが見てる方も一番辛かった。だから、アタシは事務業みたいなのはアタシがやって、とにかく試合と練習に専念できる環境を作ってあげたいなって。

——事務業は北斗さんが担当して、健介さんにはジム業に専念してもらうと（笑）。

北斗 そう（笑）。WJで一番苦しんでたことをまたやらせたら可哀想じゃないですか？

——そうですね。

北斗 今回のイメチェンも2人でいろんな意見を出し合って考えたし。だから、いいんですよ。女房が出しゃばってとか、カカア天下って言われようが何だろうが、それで結構！（笑）。だって辞めたい言ってたのが、もう一回やるってなった時に、カッコ良すぎるかもしれないけど、アタシがこの人に言ったのは「アンタはアタシと子供たち3人の夢なんだ！」って。

——健介さんは私たちの夢、ですか？

北斗 そう。だから、どんなにブーイング飛ばされようが何だろうが、パパが闘ってる姿をこの子たちもちゃんと見たいだろうし、アタシたちの夢なんですよ。アタシたちは健介ファミリーとして佐々木健介をデカクしようと思ってるから。

——家族愛ですねぇ。ただ、北斗晶としてマネージャーをやるとなると、現役復帰も考えてるのかって聞かれたりもすると思うんですけど、どうなんですか。

北斗 それは年中ですよ（笑）。でも、この世界って正直言って何が起こるかわかんないじゃないですか。

——それは言えますよね。

北斗 ただ、プロレスラーとしてリングシューズを履いてリングに上がろうっていう気持ちはないです、アタシの中では。

——セコンドとして、いわゆるマネージャー的な動きをする可能性はあるんですか？

北斗 だから、それで上がりたいともいまは何も考えてない。ただね、いい加減なことは言いたくないんですよ。だって、アタシ悪いけど、さっきの連絡取れなかったたって話聞いてカチンと来たから（笑）。木刀持ってひっぱたいてやろうかって気持ちになったしね。

——それは是非やって欲しいですね（笑）。

北斗 だけど、新日本に、なんか前に女いたじゃん？ リングに上がって試合したり。

健介 あぁ、ジョニー・ローラー？

北斗 ああいうふうにしたいとは全然思わない。男の中に入ってやろうとは思わない。なぜかっていったら、出来るわけがないから。

——北斗さんならローラー以上に出来そうな気もするんですけどね（笑）。

北斗 無理無理（笑）。そういうふうには思わないけど、でも口じゃあ負けないよ！

——それは間違いないですね。それはファンもみんな思ってるでしょうし（笑）。

健介 いまだって俺はほとんど喋らせてもらえてないからね（笑）。喋るタイミングすら与えてくれないから（笑）。

北斗 それは自分で奪うもんなの（笑）。

——アハハハハ！

北斗 でも、今年は絶対、佐々木健介の年になりますから。目を離さない方がいいですよ。

——それはマネージャーとして手応えを感じてるわけですね。

北斗 それももちろんあるし、これまでは佐々木健介って自分の作ったイメージっていうのを壊せなかったと思うんですよ。

——それはあるかもしれませんね。

北斗 いままでは、佐々木健介はこうでなきゃいけないっていうのがあったと思うんですよ。強くて真っ直ぐで純粋でっていう……まあ、それが良くて結婚したんですけどね（笑）。

——あ、おのろけですか（笑）。

北斗 そこが良くて結婚しても一緒になったら違うところもいっぱいあるんですよ。

——あるでしょうね。ボクらが知らない佐々木健介っていう部分は（笑）。

健介 ハッハッハッハッ！

北斗 やっぱりアタシしか知らない佐々木健介っていっぱいあると思うんですよ。本人にも言ったんだけど「そういうところも恥ずかしがらないで出しちゃえばいいの」って。別にアソコを出せとかじゃないですよ（笑）。

——アハハハハ！

北斗 前までの佐々木健介だったら自分のイメージが壊れるっていうのは凄い怖かったと思うんですよ。正直言ってDDTに行く前は「大丈夫かなぁ」っていう顔をしてたんですよ。でも、帰ってきた瞬間に楽しそうな顔をしてたんですよ（笑）。

——あれだけの大歓声で迎え入れられたら、そりゃ楽しくもなりますよね。

健介 正直、気持ち良かった（笑）。

——アハハハハ！ やっぱり（笑）。

健介 こんな俺もいたんだなぁって。意外と俺もお茶目な一面もあるんだなって（笑）。

——アハハハハ！ もっと、そのお茶目な部分をリング上で出してもらいたいですね。

健介 俺をよく知ってくれてる人は「リング上の姿しか知らない人は損してるんじゃない」って言うんだよね。これからは、お茶目な佐々木健介を見せてやろうかなって（笑）。

——期待してます！（笑）。

北斗 これまでも、よくプロレスラー夫婦って言われてきたけど、いまになって初めてプ

今日だって俺はほとんど喋らせてもらえてないからね（笑）

KENSUKEがハワイ制圧！ シングルに続きタッグ王者に!!

シングルに続きタッグ王座も奪取！ 1月17日、カネオヘ海軍基地内で行われたHCW大会に出場したKENSUKEは日系3世の弟分ケンジロウ・カタヒラとのタッグでアフナ＆カニエラ組とタイトルマッチで激突。試合は、またもやKENSUKEのボルケーノ・イラプションが火を吹きHCWタッグ王座を奪取！ KENSUKEがハワイ二冠王に！

ロレスラー夫婦っていうか、もうアタシは引退してるけど、そういう感じだよね？

健介　うん、そうだね（ニッコリ）。

――これからはリング上でもリング外でも夫婦仲良く二人三脚と（笑）。そういえば、健介さんは『週プロ』選手名鑑の好きな有名人の欄に井上和香って書いてましたけど、それは北斗さん的には問題ないんですか？（笑）。

健介　ハッハハッハッ！

北斗　誰？　井上和香って言われても、私わかんない。私に似てるとか？（笑）。

――残念ながら、あまり似てないですね（笑）。巨乳のグラビアアイドルなんですけど。

北斗　な、なんだってぇ!?

健介　癒し系だからね（笑）。

北斗　まあ知らないから許すよ（笑）。でも、佐々木健介のことを嫌いだって言う人もたくさんいると思うけど、アタシから言わせれば話したら好きになるよ、面白いよって。

――それはわかる気がしますね。

北斗　冗談とかも凄い言わなそうで言うんですよ。つまんないけど（笑）。

健介　ハッハハッ！　一言多いよ！（笑）。

北斗　だって、本当じゃん！

健介　俺、面白いと思ってんだけど……。

北斗　いやいや、面白くはないよ。でも、そのつまんないところがウケるの（笑）。つまんなすぎてウケるってあるじゃないですか？

――ありますね。猪木さんもアントンギャグっていうか、リアクションに困るダジャレをよく言いますからね（笑）。

北斗　私は猪木さんのギャグは面白いと思ってるけど（笑）。

健介　いつもツボに入ったって言って笑ってくれるんだけどなぁ……（不満げに）。

――健介さんは自分のギャグには自信を持ってるわけですね（笑）。

健介　そうッスね（笑）。

北斗　まあでもね、今年は冗談抜きで佐々木健介から目を離さない方がいいですよ。

――しっかり追っていきますよ！

この人は冗談とかも凄い言わなさそうで言うんですよ。つまんないけど（笑）

一言多いよ！（笑）。俺、面白いと思ってんだけど……（不満げに）

北斗　「女房に助けてもらって」とか「この出しゃばり女房が」って言われてもどうぞって感じ（笑）。そういう人には、アタシの目標の人は元子さんって言いたいですね。

――目標は元子さんでしたか（笑）。

北斗　私はホントに尊敬してるもん。正直言って、坂口さんの奥さんとか、元子さんって強烈だとか言われたりするじゃないですか？

――言われてますよね（笑）。

北斗　でも、あの人たちがいるから旦那さんが光ってんだもん。アタシはそう思う。馬場さんが世間の人に、「馬場さんはホントに温厚でいい人だ」って言われてるけど、なぜかわかる？　それは元子さんが全部憎まれ役を買ってたからですよ。

――それは大きいですよね。

PROFILE

左から【ささき・けんすけ】1966年8月4日、福岡県出身。実は2人の子供以上に仮面ライダー好き。仮面ライダーショーを見るため九州まで足を運ぶほど【けんのすけ】1998年11月6日生まれ。『東スポ』情報によるとハワイで父親の活躍する姿を見て「プロレスラーになりたい」と初告白。最強の遺伝子を持つ健之介のデビューはいつ!?【ひさこ＝ほくと・あきら】1967年7月13日、埼玉県出身。インタビューを読めば一目瞭然、佐々木家で一番エライ人（？）【せいのすけ】ＷＪ旗揚げ戦が行われた2003年3月1日誕生。ＷＪとは違いスクスクと成長中

Let's GO♡ Kensuke

北斗　そんなのわかってる人はわかってる。アタシは元子さんとはお会いしたことない。話しか聞いたことない。だけど、どう考えたってそうですよ。でも、アタシたちの違うところは、別にこの人をいい人にするのに……まあアタシは元々悪党だし腹の中も真っ黒だけどさ（笑）、この人を白くするために自分が墨まで取って真っ黒になろうとは思わない。いいの、ありのままで。ウチは夫婦で悪党でいいと思う、別に。

――ナチュラルな佐々木家を見せると？

北斗　そうそう。笑っちゃうところは笑っちゃえばいいし。

健介　今年は、ありのままいきますよ（笑）。

北斗　いままでは黙って見てたところが多かったけど、これからはやっぱり2人でやってかなくちゃダメだね？　2人で1つで！

健介　バロムワンみたいだな（笑）。

――アハハハハ！　ちなみに今回のハワイは長期滞在になるみたいですけど、バカンスも満喫できそうですか？

北斗　バカンスはほとんどないです。いまはまだ言えないけど、いろんな企みがあるんで、まあ、お楽しみってことで（ニヤリ）。

――わかりました。では、応援団長の健之介君も頑張ってパパを応援してきてね！

健之介　イヤだぁ～。

健介　オイオイ、お前、応援団長なんだからな。わかってる？（笑）。

健之介　誰を一番応援すればいいのよ？

北斗　パパを応援するの（笑）。

健之介　うん、わかった。

――気をつけて行ってらっしゃい！

健介ファミリー　行ってきま～す！

【1月6日／ハワイ遠征出発直前、成田空港にて収録】

新日本（?）、みちのく、DDTにWMF！ 健介、試合スケジュール！

DDT

▼2月11日（水・祝）
神奈川・横浜赤レンガホール
試合開始16：00（開場15：00）
佐々木健介＆藤沢一生vs安生洋二＆木村浩一郎
【問】DDT　TEL.03-5360-6653

WMF

▼2月11日（水・祝）
東京・後楽園ホール
試合開始12：30（開場11：30）
佐々木健介vsミスター雁之助
【問】WMF　TEL.049-239-3520

みちのくプロレス

▼2月22日（日）
東京・後楽園ホール
試合開始18：30
佐々木健介＆新崎人生vs湯浅和也＆池田誠志
▼2月29日（日）
徳島・アスティとくしま『徳島格闘祭』
試合開始14：00
対戦相手未定
▼3月7日（日）
高知大会
対戦相手＆詳細未定
【問】みちのくプロレス TEL.019-626-1333

福田社長も遂にギブアップ!? どうなるＷＪ!!

この笑顔はもう見られない……。昨年中から何度も崩壊危機が報じられ、04年1月5日＆6日、福田社長の地元・札幌大会が最後か、と注目されていたＷＪ。そんな心配に輪をかけるように、またしてもアクシデント発生。大雪による航空トラブルで5日の大会が翌日に延期。6日はダブルヘッダーで行われた。お天道様にまで見放されてしまったＷＪだが、永島専務は「2月から3月にかけて3大会を予定している。これで最後ということはない」と強気。一方で福田社長がギブアップ宣言したとの情報も入っており、ＷＪの不安はこれからも続く……。

打倒・谷川同盟結成？
狂乱の“炎上兄弟”が
大晦日格闘技戦争を

斬る!

日本武道傳骨法創始師範
堀辺正史

毎日がプロポーズ大作戦♥
ターザン山本

命懸けの対談2004

あの堀辺正史骨法創始師範が『一揆塾』に突如乱入!　毎週木曜日、水道橋の『闘道館』でターザンが行っている『一揆塾』へ骨法・堀辺師範が飛び入り参加し、急遽ターザンとの「命懸けの対談」が実現した。テーマはもちろん「大晦日格闘技戦争の総括」。しかし、対談が続くうちに話は意外な方向へ……。“炎上兄弟”がいま初めて「サダハルンバ谷川の謎」を解く!

構成／堀江ガンツ　designed by no-gutty（Two three）

ロレスラー
退してるけ
健介 うん
―これか
婦仲良く二
さんは『週
欄に井上和
北斗さん的
健介 ハッ
北斗 誰？
かんない。
―残念な
巨乳のグラ
佐々木健介
北斗 まあ
健介 癒し
北斗 な、
さんいると
話したら好
―それは
北斗 冗談
すよ。つま
健介 ハッ
北斗 だっ
健介 俺、
北斗 いや
のつまんな
んなすぎて
―ありま
っていうか、
健介 いつ
くれるんだけ
―健介さ
てるわけで
北斗 そう
よく言いま
北斗 私は
てるけど
北斗 まあ
健介から目
―しっか

桜庭完全復活のためには高田道場を出て“特別扱い”を放棄するしかない！

ターザン 先生！ 今日はどうしたんですか！ 突然来るから、目の前が真っ白になったよォォォ！

堀辺 山本さんが『一揆塾』で恋愛論を語ってるっていうんで、ゼヒ聞かせてもらおうと思ってね（笑）。

ターザン そんな先生を前にしてしゃべることないよォ！

堀辺 しゃべりずらい？（笑）。

ターザン しゃべりずらいねぇ（苦笑）。じゃあ、今日は急遽、『一揆塾』の特別版として、先生との対談という形でやらせていただきますので、よろしくお願いします！

堀辺 はい。

ターザン 大晦日の話をいろいろしていこうと思うんですけど、まずボクが先生に一番聞きたいのは吉田vsホイス戦なんですよ。

堀辺 ああ、あれは面白かったですね。

ターザン 吉田とホイスっていうのは、一昨年の夏に一度国立競技場でやっていて、あれを見たときは「もう何度やっても結果は同じだ」と思ってたんですけど、今回は予想を裏切られたというか、全然違う展開になりましたよね？ あれはどうしてああなったんですか？

堀辺 それはいろいろ理由はあるんでしょうけど、一言で言うと「勝負に対する執念の違い」でしょうね。

ターザン 執念ですか。その執念というのは、勝負に対するホイス個人の執念なのか、グレイシーという一族の執念なのか、それともその二つは一緒なのか、どうなんですか？

堀辺 一緒ですね。というのは、今回もしホイスが負けたら、それはホイスだけの問題ではなく、グレイシー柔術全体の評価が地に墜ちてしまう。彼らはそこまで切羽詰まった状況に追いつめられていたんですよ。だから今回、長いこと付き合いのなかった兄ヒクソンがホイスの指導に当たったんです。

ターザンのライフワーク『一揆塾』は、毎週木曜に「格闘技・プロレス図書館闘道館」にて開講中。プロレスの話だけでなく、映画、哲学、恋愛論まで聞けてしまうのだ。 問い合わせ■闘道館 03-3512-2080 千代田区三崎町2-9-9 ナガヤビル5F

ターザン えぇ〜〜⁉ 吉田vsホイスの陰にはヒクソンがいたということですか！

堀辺 そう。やっぱり今回ホイスが負けるとヒクソンも困るわけですよ。だから、わざわざヒクソンがホイスのところまで行って、吉田に勝つための技術や戦術を授けているんです。

ターザン 「グレイシー柔術の危機」という状況に対して、運命共同体意識が働いて兄弟が再び結束したわけですか。

堀辺 だからおそらく、あの道衣を脱ぐという作戦もヒクソン辺りの意見がかなり入っていると思いますよ。

ターザン ホイスがそこまでやってきたのに対して、吉田はアスリート的なあっさりとした雰囲気で出てきてしまったというか、ホイスに対する警戒がまったく感じられませんでしたよね。あれはどう思いますか？

堀辺 それは前回の対戦で、短い時間で袖車の体勢に入るまで追いつめたんで、彼のホイスに対する評価が低かったんだと思います。おそらく「楽ちんだな」、「ちょっと頑張れば簡単に勝てるだろう」と。そういう気楽な気持ちで臨んでしまったんでしょう。

ターザン ということは、吉田というスポーツ的アスリートよりもグレイシーの方が、遙かに勝負に対するこだわりと執念や怨念があるってことになりますよね。

堀辺 そうなりますね。だから今回の試合を分けたのは、テクニックがどうだとか以前の問題。要するに試合に望むテンションの高さ、執念というか、怨念に近いぐらいの気持ちを持ってましたね。

ターザン 異常な怨念ですよォォ！

堀辺 だってね、今回ホイスはこの試合に備えて1ヶ月前から日本の時間に合わせて生活していたんですよ。

ターザン えぇ〜〜⁉

堀辺 日本と彼が住んでいるアメリカには時差があるでしょ？ だからその時差を計算に入れて、日本時間を換算にいれて全部生活したっていうんですよ。

ターザン それは普通に考えたら頭がおかしいというか、スポーツの世界では試合は勝つこともあれば、負けることもあるということで、勝敗に対してそこまでこだわりがないですよね？

堀辺 勝負だから負けるのは当たり前。この次に勝てばいいだろうと、そういった意味では希薄ですよね。だけどグレイシーの人たちというのは、「負けない」ということに対して異常なこだわりがある。そこが一般的なアスリートと違って、どちらかと言えば、江戸時代の武芸者とか宮本武蔵とか佐々木小次郎みたいな人たちと考え方が近いんですよ。

ターザン そういう生き方、考え方をする人は日本のいまの社会のどんなジャンルを見渡してもいませんよね？

堀辺 まあ、特殊な世界以外はいないでしょうね。でも、そこが素晴らしいんじゃないですか。

ターザン そう考えると、僕はホイスの勝利っていうのは、お見事と言うか、尊敬に値すると言うか、あるいは、見習わなければいけないと言うか、彼らの執念みたいなものは我々にないものですよね。そういった意味ではホイスは12月31日の格闘技三大興行MVPの一人であると考えてるんですけど、先生はどう思われますか？

堀辺 私もまったく同じ意見ですね。

ターザン 逆に吉田に対して

本誌NO.69で掲載いたしましたターザン山本インタビュー内に、佐竹雅昭著『まっすぐに蹴る』の発行元が（集英社）とありますが、正しくは（角川書店）の間違いです。お詫びし訂正いたします。

は、情けない、こんなものかっていう期待はずれの失望感を感じたんですよ。

堀辺　ただ、次の吉田は怖いですよ。これはハッキリ断言できます!

ターザン　その期待はどこから来るんですか?

堀辺　それは彼の落ち込み方でわかる。ハッキリ言って吉田はいま「負けた」「悔しい」「恥ずかしい」っていう敗北感にとらわれてますよ。しかもその原因は、技術で負けたというより、ホイスをナメていた自分自身にある。だから今度はホイスがやったぐらいの準備をして、吉田はやりますよ。要するに今度は吉田の方に執念と怨念が生まれてくるということですね。

ターザン　それは面白いですねぇ。でも、今度こそ「真の決着戦」という形で3度目の吉田vsホイスを組もうとしても、ホイスは逃げるんじゃないですか?

堀辺　うん、その可能性は高い(笑)。

ターザン　高い!(笑)。

堀辺　なぜかと言うと、時差ボケを計算してまでの稽古をもう一回やりたいかって言ったら、やりたくないんです。だからやらないで済むんだったらやらないでいいって考えると思います。でも、なんとかDSEに頑張ってもらって実現させてほしいですね。

桜庭と田村の決定的な違いとは何か?

ターザン　『PRIDE・男祭り』というのは、吉田、桜庭という日本人2大エースがあいにく揃って勝てなかったわけですけど、桜庭選手の場合は、吉田選手とはまた違ったショックがありますよね?

堀辺　ありますね。なぜかっていうと、桜庭はもうダメなんじゃないか、勝てないんじゃないか、そういう不安がファンの心に芽生えているということですよ。でも、このままだとまた負けますよ。

ターザン　じゃあ、試合に出ないほうがいいじゃないですか!

堀辺　あのままやってると、桜庭選手のいいイメージが壊れてしまう危険性がある。

ターザン　いや、もう壊れてますよォ!

堀辺　かなり壊れてきてますよね。そしていままで通りにやっていたら、イメージの崩壊に歯止めが利かなくなってきます。

ターザン　それに比べて田村潔司という選手は、小賢しいというか、うまく自分の商品価値を落とさないように、「ああだ、こうだ」と言いながらスネてみたり、今回も弱い選手とやってるわけですよ。

堀辺　そうですね。

ターザン　この田村的な生き方と桜庭的な人の良さで負けてしまう人間、この対比は凄く切なく思えるんですけど、どうですか?

堀辺　それは結局、2人の置かれてる立場の違いですよ。田村選手は一国一城の主じゃないですか。U-STYLEを自分で主催して自分が負けるってことはそういうことも全部崩壊させてしまうし、自分もさらにダメになってしまうと。だからあらゆる神経を研ぎ澄まして自己防衛をしているんです。ところが桜庭選手っていうのは、ハッキリ言ってしまうとサラリーマンですよね。高田道場内サラリーマン。しかも最大の功労者ということで、おそらく特別扱いを受けてるんですよ。

堀辺正史×ターザン山本

ターザン　『PRIDE』でも、ず~っと特別扱いですよォ!

堀辺　ということは、普段の練習でも特別扱いされているはずなんです。これが一番いけない!　あれだけ実績のある選手だから、周りの人間は「桜庭さん、ここはこうしたほうがいいですよ」ってわかってても誰も言えないんですよ。

ターザン　それは桜庭選手にとって逆に不幸じゃないですか?

堀辺　不幸です!　だから、こんなこと言うと高田本部長は怒るだろうけど、高田道場にいる限り彼はこれ以上強くならない!(キッパリ)。強くなりたかったら、どこかに行くしかない。例えば、ブラジリアン・トップチームだとか、シウバのところに行ったとしたら、半年でガラリと変わりますよ。

ターザン　変わります?

堀辺　変わりますよ~、あれだけの才能の持ち主ですから!　ただし、向こうに行っても「サクラバさん、サクラバさん」って特別扱いする人がいたらダメですね。「桜庭?　関係ない。俺の言うことを聞きなさい!」っていう人がいて、みっちりやらせたら、半年で大豹変して帰ってきますよ。

ターザン　でも、桜庭選手は飛行機が嫌いみたいですよ。

堀辺　う~ん、それは難しい(笑)。でも、『PRIDE』で勝ちたかったら、嫌いな飛行機に乗ってでも、どこかに修行に出るべきだと思います。

ターザン　もうひとつ『PRIDE』の問題というと、DSEが『ハッスル1』というプロレスに手をつけたんですけど、これについてはどう思いますか?

堀辺　これはあまりいいことじゃないですね。下手すると爆弾を抱えてしまったんじゃないかと思います。

ターザン　ボクもあれには無条件で反対なんですよォ!　先生はどういう意味で反対なんですか?

堀辺　『PRIDE』っていう

今度こそグレイシーの口から「ギブアップ」が聞けるかと思いきや、道衣を脱ぐ奇策でもあり、見事、吉田を追いつめたホイス。この一戦によってこの男の価値は再び急騰したと言える。

ロレスラー
退してるけ
健介 うん
――これか
婦仲良く二
さんは『週
欄に井上和
北斗さん的
健介 ハッ
北斗 誰？
かんない。
――残念な
巨乳のグラ
北斗 な、
健介 癒し
北斗 まあ
佐々木健介
さんいると
話したら好
――それは
北斗 冗談
すよ。つま
健介 ハッ
北斗 だっ
健介 俺、
北斗 いや
のつまんな
んなすぎて
――ありま
っていうか、
よく言いま
北斗 私は
てるけど（
健介 いつ
くれるんだ
――健介さ
てるわけで
健介 そう
北斗 まあ
健介から目
――しっか

高田本部長は「『ハッスル』はすべて勝敗が決まっています」と言ってほしい！

堀辺正史×ターザン山本

のは世界中からもの凄く訓練された強い選手たちが集まって、真剣勝負をやってるっていうことで評価されてきたんですよ。でも、今回のように同じ会社が正反対の『ハッスル1』も手がけるとなると、本体の『PRIDE』に影響を及ぼす恐れがあるんです。

ターザン だからボクは、DSEが『ハッスル1』をやる時はハッキリ言ってほしいんですよ。「『ハッスル1』は全試合、勝敗が決まってます」って。『泣き虫』にちゃんと書いてあるんだから。「勝敗は決まってる」って高田さんには言ってほしいんですよォォォ！

堀辺 うん。そこをハッキリ言わないと、『PRIDE』にもキズがつく。

ターザン 格闘家があれをやると下手な八百長にしか見えないんだよね。プロレスよりだめな八百長に見えますよォォ！

堀辺 そういったこととは別に、もう一つ懸念していることがあるんですけど、例えば『PRIDE』でグッドリッジが引退しましたけど、ある時ハッと見たら『ハッスル』に出てたらファンはどう思いますか？

ターザン 出るんですよ！ あれは絶対に出ますよぉ！

堀辺 出るでしょ？ そういうことになるんですよ。

ターザン あれはその受け皿ですよ！

堀辺 ということは、『PRIDE』の選手の側からしても「あ、俺たちはちょっとヤバくなったらこっちに行けるんだな」って思っちゃうってことですよ。そうすると、無理してでも『PRIDE』で闘い続ける意欲がなくなってくる。

ターザン 下請け会社みたいなもんですよ！ 悪い言葉で言ったら天下り！

堀辺 しかもその下請け会社でそこそこ数をこなしてやってると、『PRIDE』でこつこつガチンコでやってるよりも、経済を考えると逆に『ハッスル』の方がいいのかなっていう風土も生まれてくる。大多数のアメリカの選手たちはそういった合理的な考えをしていく可能性が高い。そういう形で現実に『PRIDE』のマットに影響を及ぼしかねないんです！

ターザン グッドリッジを見たらすぐわかりますよ。高田本部長が復帰することもそうですよォ！

堀辺 そうですね。だって、ファンが高田延彦を支持したのは、負けても何でもヒクソンと闘った、そこが一番素晴らしかったからでしょ？ そこから『PRIDE』っていうものが立ち上がってきたわけで、その中核である統括本部長にまでなった人がまたプロレスに復帰したんじゃ、「あれは何だったの？」って？マークが頭の中にいっぱい並んでファンの人も迷ってしまうと思うんですよ。そうするとやっぱりテンションが落ちますよね。そういった意味で、私はDSEが爆弾を抱えてしまったんじゃないかと思っているんです。

“純度100%”の『PRIDE・男祭り』の中で、突如として行われた“ハッスル劇場”。観客の反応はおおむね好評だったが、これがのちに『PRIDE』へ影響することを堀辺師範は懸念している。

サダハルンバ谷川の正体を解き明かす！

ターザン 『PRIDE』の話はそれぐらいにして、今回一番の話題は曙vsサップ戦ですよね。これは瞬間的には紅白を越える視聴率をはじき出したわけですけど、やる前の段階で2人の勝敗をどう予想していました？

堀辺 一番最初にこの2人が闘うって聞いたときは、曙が勝つかなと思いました。

ターザン ボクもそう思いました！

堀辺 ただ、直前情報とか公開練習の映像を見ると、ボブ・サップの動きが前より全然いいんだよね。

ターザン ボクはリングサイドの一番前で観てたんですけど、リングに立った時のサップの体がいつもと全然違うんですよ。筋肉のラインが綺麗に浮き出た最高のコンディション！ 非常によく練習して100%調整がうまくいったなと。

堀辺 まわし蹴りなんか見ても、アメリカでやった時のは笑

曙や永田が簡単に倒れたのは、顔面パンチの初心者や素人特有の負け方です

ってしまうようなものでしたけど、今回はちゃんと形になってるんですよ。

ターザン　だからサップが勝利した時に一番喜んでいたのは伊原ジムの伊原会長なんですよ。「サップを鍛えたのは俺だぞ！」って感じで、オレンジのトレーナー着て、あの人が一番目立ってるんですよ（笑）。

2003年はミルコ戦、キモ戦、ボンヤスキー戦の影響もあり、イメージダウンが著しく、ある意味で崖っぷちだったサップだが、完璧なコンディションで曙をKOしたことで、世間の評価は復活。今年はK－1MMAのエースとして活躍しながら、タイソン戦を目指す。

堀辺　まぁ、その気持ちはわかりますよ（笑）。サップを怒鳴ったりしてまで、強制的にやらせた人は今までいなかったでしょ？

ターザン　そう！　だってサップは正道会館の宮本選手とか、この世界に入れた恩人であるサム・グレコとかが、いくら練習させようとしても遊びほうけて練習しなかったんですよ。いま、サップはコレ（小指を立てる）にご熱心なんだから！　そのサップが伊原会長の時は真面目にやったんだよねぇ。その辺がアイツも運が強いというか、なんというか。サップに対して曙があんなふうになって負けると思いました？

堀辺　いや、思わなかったね。

ターザン　思いませんよね！　何なんですかあれは？　いろいろ敗因はあったと思うんですけど。

堀辺　一番の敗因は顔面をああいう形で殴られたことがないってことですよ。張り手と違って、ホントに脳を揺らすように顎とかを狙ったパンチですからね。

ターザン　あの巨体が簡単にマットにひっくり返っちゃいましたよ。

堀辺　やっぱり初めて顔面ありをやった人っていうのは、みんなそうなんだけど、パーンと殴られるとパッと電気を消したみたいになっちゃうんですよ。だからサップのパンチもそんなにクリーンヒットしているようには見えなかったかもしれませんけど、あれでもやられた本人は脳まで来てるんですよ。

ターザン　来てるんですか？

堀辺　来てるんです！　ヒョードルに負けた永田もそうでしょ？　初心者は顔面をこすっただけで、立ち上がってこれないんです。

ターザン　じゃあ、あれは初心者のKOシーンですか（笑）。

堀辺　ウチなんかでいうと、一番最初の白帯の次の黄色帯ぐらいですね。ド素人とは言わないけど、素人です。

ターザン　素人！（笑）。じゃあ、その素人にやらせた谷川って悪いヤツですねぇ！　ボクはイベントが始まる前に聞いたんですよ。「谷川、今日は曙が勝つんだろうな？」って。そしたらアイツ「勝ちますよ～！　でも、サップが今回なぜかメチャクチャ練習してるんですよね。おかしいな～」とか、とぼけたことを言うんですよ。無責任ですよォ！

堀辺　無責任ということもあるんでしょうけど、彼はホントの意味でボブ・サップと曙の戦力を分析してないんですよ。そういったことは『格闘技通信』で散々やってきたはずなんだけど、全然学んでないんですよね。

ターザン　学んでない！（笑）。

堀辺　どこかに吹っ飛んじゃって彼自身が素人になってますよ。

ターザン　あいつはド素人ですよォォ！

堀辺　だから彼が「こっちが勝つだろうな」と思ってマッチメイクした試合って、ほとんど予想がハズレるんですよね。

ターザン　そうそう！　桜庭が初めてシウバに負けたときも、「シウバとやって大丈夫なのか？」って聞いたら「桜庭が勝ちますよ～」ってあっさりと言ってましたよォ！

堀辺　だから、ボタとアビディの試合なんかもそうですよ。

ターザン　あれもアビディは負けると思ってボタとやらせたんですよォ！

堀辺　でも、逆転KO負けしましたよね。そういう要素があるってことを全然見てないんです。見てないから安心してそういうカードが組めるわけ。

ターザン　無神経な男だねえ！　無知ですよ、無知！

堀辺　そう、無責任より無知っ

ロレスラー
退してるけ
健介 うん
―これか
婦仲良く二
さんは『週
欄に井上和
北斗さん的
健介 ハッ
北斗 誰？
かんない。
―残念な
巨乳のグラ
北斗 な、
健介 癒し
北斗 まあ
佐々木健介
さんいると
話したら好
―それは
北斗 冗談
すよ。つま
健介 ハッ
北斗 だっ
健介 俺、
北斗 いや
のつまんな
んなすぎて
―ありま
っていうか
よく言いま
健介 いつ
くれるんだ
北斗 私は
てるけど（
―健介さ
てるわけで
健介 そう
北斗 まあ
健介から日
―しっか

堀辺正史×ターザン山本

「K－1ビックリ人間大賞路線」などでK－1ファンからは総スカンを食い、一時は人相も悪くなったと評判だった谷川プロデューサーだったが、曙vsサップの超高視聴率で、すっかりサダハルンバスマイルも戻ってきた。

て言ったほうが正解（笑）。
ターザン 谷川貞治は無知！（笑）。普通ね、自分がプロデュースして大金を投じて曙と3〜4試合の契約を交して、それだったら2004年は、曙を勝たさないことにはK－1にとってはマズイじゃないですか！ ボクは最初「勝ちますよ〜」って言うから、八百長仕込んだのかと思いましたよ（笑）。
堀辺 だから、自分の使うコマの目利きが全然効いてないんですよ。宝石商で言えば、30万ぐらいの宝石を500万で買っちゃったり、その逆だったり、そういうことを彼がやってるのが現状なんですよ。それをテレビ局の人は知らないんです。
ターザン ただ、アイツのいいところは曙と交渉して、向こうが彼を信頼して「出ますよ」と言ってしまうという、そういう人徳だけは誰よりもあるんだよねえ。
堀辺 その点については彼は昔からうまいですよ。選手を引っ張り出すのは抜群にうまいです。
ターザン 例えば、石井館長と松井館長を会わせるとか、本来、仲の悪い者を仲介して結び付けちゃう。そういう他の人にはできない才能はもの凄く持ってるんだよねえ。
堀辺 彼のプロデューサーの才能はそこで成り立ってます。そう言い切ってもいい！
ターザン そうですよね？ 魔裟斗とか武田幸三を引っぱり出してきたり、フィリオなんか普通K－1に出てきませんよ！
堀辺 そこのところをどういう手を使って操作してるのかを学べば、山本さんにもK－1のプロデューサーになれる条件が出てくるんですよ（笑）。
ターザン そんな面倒臭い事はできませんよォ！ だってそれをやるには、こっちとこっちに別のことを言わなきゃいけないんですよ！
堀辺 だから試合を組んだ後に、その条件と違ったことがでてくることがあるらしいですね。そうなった場合、どうしてると思います？
ターザン どうしてるんですか？
堀辺 すぐに電話するんですよ。「すいませ〜ん、すいませ〜ん」って。「申し訳ないです、谷川です〜、ごめんなさい！」って。
ターザン アハハハハハ！ そういうとき速攻ですよ、アイツは！（笑）。
堀辺 平謝りに謝っちゃうんですよ。そうすると相手も「仕方ないな」ってなっちゃうんです。その謝り方が中途半端じゃないから。ところが、他の人は平謝りに謝ることが恥ずかしくてできないんです。
ターザン そりゃそうですよ！
堀辺 でも、そこをひたすら謝り続けてきたことによって積み重ねてきたんですよ。
ターザン だから彼を見ていると、ボクにない才能を持ってるんですよね。だって、単なる格闘技雑誌の記者だったのが、いまやK－1イベント会社の社長ですよ！
堀辺 凄いですよね（笑）。
ターザン 凄いというか、ばかばかしいというか、ああいう成り上がり方っていうのは面白いね。ある意味では尊敬してますよ。
堀辺 実はその彼の性格と才能を作る要因となったのが『格闘技通信』だったって、山本さん知ってました？
ターザン えぇ〜ッ!? ど、どういうことですか？
堀辺 『格通』と同じベースボール・マガジン社から、レスリングとか柔道の雑誌なんかも出てますけど、レスリングはレスリングだけ、柔道は柔道だけ取材に行けばいいですよね？
ターザン 「ワンジャンル・ワンマガジン」ですよ。
堀辺 でも、『格闘技通信』って、そうじゃないんですよ。
ターザン あ、キックもあるし、空手もあるし、総合もあるし。
堀辺 そう、対立し合ってるいろんな流派とかジャンルがあるんですけど、『格通』の編集長はそれを全部、載せなくちゃならない。
ターザン はぁ〜、そりゃそうですよね！
堀辺 だから「あ、今号はキックがこんなに出てる、ウチの大会の扱いは低いぞ、谷川どうなってんだ？」って、各方面からいつもこうやって言われるのをうまく泳いでいくことを『格闘技通信』で覚えたんですよ。ワンジャンルの編集長ではこの才能は磨かれなかった。しかも、いろんなジャンルに顔を出すことによって、あらゆる格闘技人脈に顔が利くようになったんですよ。
ターザン それは凄い財産ですよ！
堀辺 だから残念ながら『週刊プロレス』ではそうならないわけ。「プロレス」というジャンルの中だけだから。
ターザン 『週プロ』なんて、プロレスというジャンルの中にK－1を持ってきただけで怒るんですからね。部下ですらイヤな顔をするんですよ！
堀辺 だから『格闘技通信』っていう媒体にいたことによって、現在の彼があるんですよ。今回もそういう人脈と才能を使って、新日本プロレスの選手を上げたりしてるでしょ？
ターザン アイツは無造作に中邑vsイグナショフ戦とかを組んでるんですよォ！
堀辺 最高に無責任ですよね（笑）。だから無知なんですよ。
ターザン だってK－1にとったらイグナショフはそんなに負けても困る選手じゃないわけですよ。一方の中邑はIWGPのベルトを持ってる現チャンピオンですよ。負けたら大変なことになるのが火を見るより明らかなんだから、ルール自体も切羽詰まったものじゃないといけないのに、谷川は何にも人の気持ちがわかってないもんなあ。で、最後にああやってヒザ合わされるわけですよ！

今こそ考えよう！
レフェリーストップ

谷川氏の性格と才能はすべて『格闘技通信』編集長時代に作られた！

堀辺　だからすぐに謝ったでしょ？　新日本のフロントの誰でしたっけ？

ターザン　上井さん！

堀辺　彼に会ったら「すいませ〜ん、こんなことになっちゃって、僕は勝つと思ったんですよ、ホントなんですよ〜」って絶対言ってますよ（笑）。

ターザン　そういえば、試合後、中邑選手に会ったら、谷川は真っ先に「すいません」って謝ったらしいですよ！

堀辺　いつもそうやって謝るんですよ（笑）。

ターザン　そんなもん謝って済む問題じゃないですよ！　結果は覆すことができないし、事実なんですよ。事実という結果を前にして謝るも何もないですよ！

堀辺　でも、謝ることが彼にとっては大切なんですよ。彼はおそらく中邑選手が勝つと思って組んだんじゃないですか。だから、「ホントにすいません」って演技じゃないんですよ。だから相手も、そこまで謝られたら、「これ以上彼を責められないな」っていう気持ちになって、「じゃあ、もう一回やらせろ」みたいな話に落ち着いてくるんですよね。

ターザン　再戦なんて約束したら、谷川の思う壺ですよォ！

堀辺　でも、そうやって彼は試合を組んできたし、だからこそ彼じゃないとああいった試合は組めないんですよ。

ターザン　かァ〜〜〜！　世の中間違ってますよォォォ！

なぜK-1 MMAはK-1本体の危機と言えるのか？

ターザン　その谷川は今年、『PRIDE』に対抗するためにK-1の総合部門を立ち上げようとしてるんですよね。要するに一挙両得っていう作戦でやろうとしてるんですけど、この作戦は成功すると思います？

堀辺　成功しないと思いますね（キッパリ）。ただし、K-1を潰していいという気持ちでやれば総合の方だけはイケる。そして、谷川氏がホントに好きなのは総合です。K-1は好きじゃありません。ノールールが好きで、ホントは『PRIDE』みたいなものが好きなんです。『K-1 MMA』といのは、彼自身がやりたいんですよ。

ターザン　でも、大体は二兎を追う者は一兎をも得ずというところがあって、人間ってのはいつもいろんなものに手を出したがるんですよね。

堀辺　そう、それはうまくいかないんです。なぜなら、K-1が総合をやり出すと、K-1を支えてきたTV視聴者を含めたK-1ファンが「別に俺たちは総合を見たくてK-1に集まってきたんじゃない」っていう意識が働くんですよ。

ターザン　K-1ファンは総合を見ないんですよね！

堀辺　だから、いままでのK-1というのは、マウント取ってごっつんこみたいな野蛮なことは見たくないという人が見てきたわけ。もっときれいなスポーツライクな試合でいいんだという人がK-1を支持してきたん

中邑とイグナショフを再戦なんかさせたら、谷川の思う壺ですよォ！

ワンダウンでKO負けを宣告され、憮然とする中邑。ルールの未整備を理由に無効試合、後日再試合が決定したが、現在長期欠場中。はたしてリベンジの機会は訪れるのか？

ロレスラー
退してるけ
健介 うん
――これか
婦仲良く二
さんは『週
欄に井上和
北斗さん的
健介 ハッ
北斗 誰？
かんない。
――残念な
巨乳のグラ
北斗 な、
健介 癒し
北斗 まあ
佐々木健介
さんいると
話したら好
――それは
北斗 冗談
すよ。つま
健介 ハッ
北斗 だっ
健介 俺、
北斗 いや
のつまんな
んなすぎて
――ありま
っていうか、
よく言いま
北斗 私は
てるけど（
健介 いつ
くれるんだ
――健介さ
てるわけで
健介 そう
北斗 まあ
健介から目
――しっか

ですよ。でも、K-1が最近、プロレスチックになったり、総合をやったりして、その人たちが去りだしてるんです。K-1を見てて中途半端なものを見せられた人は、純粋な総合格闘技である『PRIDE』に気持ちが行っちゃうんですよ。

ターザン あと、谷川がよくやるのは、デカい選手を連れてきてちっさい選手とやらせるとか、プロレスチックなものを導入しようとするんだけど、これは是か非でいくとどっちですか？ バタービーンvs須藤元気の一戦は面白かったんだけど。

堀辺 確かにああいう試合は批判されながらも、人の注目を浴びるんですよ。

ターザン 面白いですよねえ。

堀辺 確かに面白い。ああいうのは、うどんを食う時にとうがらしを入れるとか、わさびを入れるのと同じであって、刺激的なんですよ。でも、それは隠し味だからいいのであって、わさびを手掴みでどんぶりにぶち込んでも、美味しくないでしょ？ それと同じで、ああいうものはたまにしかやっちゃダメなんですよ。

『Dynamite!!』の成功を受け、今春から本格的に総合格闘技イベントをスタートする予定のK－1。はたしてこれはK－1本体へどのような影響を及ぼすのか？

K-1MMAのイベントは本体が潰れてもいいならMMAだけ成功する！

ターザン でも、いまのK-1は、ニュージーランドの何とか族とかを連れてきたり、そういうもんばっかりですよ！

堀辺 彼がそういったキワモノに走るってことは、さっきも言ったように格闘技の目利きが利かないってことと、格闘技がなんであるかを忘れだしているんです。だからああいうふうになるんですよ。

ターザン でも、それが世間的には大成功してますよ。12・31TBSの視聴率をみても谷川は天下を取ったようなもんですよ！

堀辺 それはハッキリ言ってカンフル剤です。ああいうものをやると一時的には視聴率は上がる。ただし、K-1というもののジャンルとしての永続性は、そういったキワモノをやるたびに薄れていくし、ついてはジャンルの崩壊に繋がるんですよ。

ターザン じゃあ、ヤバイじゃないですか！

堀辺 ヤバイんですよ。ああいう変わった面白いものをやれば視聴率は稼げますよ。でも、それに頼りだしたら、プロデューサーとしては才能が枯渇してるっていう証拠なんですよ。そこんところを世間は見てない。テレビ局も見てない。ああいうものに頼りだしたらハッキリ言って赤信号ですよ。

ターザン 先生、これはもう、『谷川貞治の罪と罰』っていう本を出さなきゃいけませんよ！

堀辺 あ、それはいいアイデアですね。それを書くと格闘技とプロレスのすべてがわかります。彼の性格を通して、いまプロレスとか格闘技が動いてるわけだから。

ターザン 谷川の性格に動かされてるのか……、しょっぱい業界だなぁ！ ドしょっぱいよォォォ！

堀辺 山本さん、自分で『谷川貞治の罪と罰』を書いたらどうですか？ 一番よく知ってるんだから（笑）。

ターザン ボクが書いたら、メチャクチャ書きますよォォォォ！

堀辺 それが「打倒・谷川」への第一歩ですよ（笑）。

ターザン あ〜、谷川のこと話してたら、体おかしくなってきた。先生、また整体でおじゃましますんで、よろしくお願いします。今日はありがとうございました！

堀辺 はい（笑）。

【04年1月7日／水道橋『闘道館』にて収録】

骨法整体セミナー5期生募集中!

「整体見学会のお知らせ」
現在募集中の「骨法整体セミナー」。このセミナーを受ける前に、どんなことをやるのか一度見てみたい方のために「整体見学会」を行います。興味のある方は下記までご連絡ください。要予約。
骨法整体事務局
03-3362-0010

今こそ考えよう！
レフェリーストップ
ドクターストップ
とは何か？

中邑vsイグナショフ戦での レフェリーの判断は 極めて妥当だったと 断言できます！

PRIDE、K-1 リングドクター

中山健児

聞き手／堀江ガンツ
design by さおとめの事務所

「ストップが早すぎる」「いや、あの判断は正しい」と、その結末が大いに揉めた12・31中邑vsイグナショフ戦。結局、後日「無効試合」の裁定が下されたが、大きな課題が残った形だ。そこで今回は昨年末『ドクターストップ』（BNN新社）という本を出したK－1、『PRIDE』リングドクター中山健児先生に、医者から見た格闘技、そして中邑vsイグナショフ戦の裁定の是非を聞いてみた。

ドクターとして呼ばれない時は自腹で〝密航〟してましたから（笑）

——今日はドクターから見た格闘技界というような話をお聞きしたいなと思って伺ったんですけど、この間、先生が出された『ドクターストップ！』（BNN新社・刊）を読んでみたら、中山先生はメチャクチャ格闘技ファンなんですね（笑）。

中山　そうなんですよ。結局ファンなんですよね。

——もともと昔からプロレスと格闘技のファンだったんですか？

中山　父親が格闘技好きだったんで、その流れで好きになって。僕は中学、高校6年間をずっと電車で1時間半ぐらいのところに通ってたんですけど、帰りは必ず『東京スポーツ』買ってましたね（笑）。大学時代は田舎の筑波だったからほとんどライブで観ることはなかったけど、東京警察病院に勤めたらすぐそこに後楽園ホールがあるじゃないですか。

——飯田橋と水道橋だから目と鼻の先ですよね。

中山　だからカミさんにはいつも「今日は手術があったから患者さんの状態診てから帰る」なんて言って後楽園ホールに通い詰めてたんですよ。開業してカミさんと一緒に働くようになってからはその手も使えなくなっちゃったんだけどね（笑）。

——そんないちファンのお医者さんだった中山先生が、リングドクターをやり始めたのは何がきっかけだったんですか？

中山　一番最初に知り合ったのはシュートボクシングのシーザー武志さんですね。

——それはどういう経緯ですか？

中山　僕が東京警察病院で研修してるときに、野呂田さん（野呂田秀夫＝UWF、リングス、ZST等のメディカル・アドバイザー）が僕が格闘技好きだと知ってて、紹介してくれたんですよ。それでシーザーさんが僕の外来に来てくれたんですけど、凄く腰の低い人でさ、いい人だなあって思ってね。「試合観に来て下さい」って言ってくれたんで、お客さんとして何回か観に行ったんですけど、そのときは僕の医局の大先輩がリングドクターをしていたんですよ。

——ああ、UWFとかリングスのドクターをしていた人ですよね。

中山　そうそう。でもその先輩が、あるときから突然会場に来なくなっちゃったんだよね（笑）。そしたらSBの関係者は僕がお客として来てるの知ってるから、客席にいた僕を見つけて、「先生、すいません、リングドクターが時間過ぎても来ないので、代わりにリングサイドに座っていてくれませんか？」って言ってきて、スンゲー嬉しくなっちゃってさ（笑）。それが記念すべき僕のリングドクターデビューだったんだよね。

——お客で来て、仕事させられたのに嬉しかったんですか（笑）。

中山　そりゃそうだよ。だってやってみたかったもん。リングサイドに座ってさ、夢のようでね（ニコニコ）。それ以来、アマチュアの大会なんかあると、呼ばれもしないのに行っちゃって（笑）。当時はアマチュアの大会にドクターなんかいなかったから。プロのリングですら、ドクターは事前のチェックもしないし、試合終わっても診に行くわけでもなかったんだよ。みんなにはなかなか信じてもらえないけど（笑）。でもホントにそうだったんだよね。それから10数年無我夢中で一生懸命にやってきてここまで来ました。今の形までに持ってくるまでにはたいへんだったよ。

——一昔前のリングドクターって、そんな感じだったんですか。

中山　そうだよ。ほとんどの興行は団体の関係者の知り合いのお医者さんに、「今度大会をやるからちょっと本部席に座ってくれない？」「OK」みたいな感じで、要するにただ座って観戦してるだけのことが多かったんだよね。ドクターなしで大会やって事故があったら問題になるから、医者なら誰でもただそこに座っててくれればいいって感じかな？　極端に言えばね。

——運動会のテントにいるお医者さんみたいな感じですか（笑）。

中山　そうそう、ホントにそんな感じ。今は格闘技の経験者や、純粋に格闘技を愛する医者が増えてきて、彼らがリングドクターをやってくれることが多くなって、格闘技界にもやっと医療の光が射してきたと言ってもいいんじゃないかな？

——医療の光が射しましたか（笑）。

中山　試合前の検診だって僕らが引き受けるようになってからは、必ず試合前に全員受けさせるしさ、試合後も必ず診に行くんだよ。それを最初の頃は僕一人でやってたけど、一人ではとてもやっていけなくて、色んな大会で医局の後輩や別な格闘技好きな先生を呼んできて二人でやるようになって、一通り（リングドクターのやり方を）教育し終わったら僕が一歩引いて、その先生がまた後輩を連れてくると。そういう形で弟子、孫弟子みたいなドクターが増えてきて、今みたいな状況になっていったんですよ。

——中山一門ができたわけですね（笑）。

中山　一門なんて……仲間といったほうがいいかな？　中には日本医大の外科の主任教授までいるからね（笑）。

——中山先生は以前、UWFのリングドクターもやってたんですよね？

中山　うん。第2次UWFからやったんだけど、最初はサブで、メインのドクターが行かないときに僕が行くというふうだったんですよ。メインはさっき言った大先輩がやってたんだけど、その人は札幌だとか博多とか大阪とか、盛り場があるところには必ず自分が行ってね（笑）。そうなるとサブである僕は徳島とか長野とか地方都市しか行けないことになるんだけど、やっぱり大阪とか博多の試合も見たいじゃん。だから僕なんか、自腹を切って〝密航〟するわけですよ（笑）。

——密航！　実になつかしい響きですね（笑）。

中山　あの当時、密航って流行ったでしょ？　だから大阪とか博多とかしょ

佐竹雅昭著『まっすぐに蹴る』（角川書店）では、自分がいかに危険な体調でリングに上がらされ続けていたかが長々と綴られていたが、中山先生が言うには事実と異なる点が多いという。

今こそ考えよう！
レフェリーストップ
ドクターストップ
とは何か？

っちゅう密航してましたよ。そして、そのころターザン（山本）と知り合ってね。

——密航してターザンと知り合うって、当時のプロレスファン、UWF信者そのままじゃないですか（笑）。

中山　やっぱり僕も活字プロレスに憧れてたからさ、当時はターザンのことを、プロレスの地位を引き上げてくれる神様だと思ってたから。

——ターザンが神様！（笑）。

中山　それで「いつも読んでます」って話しかけたら、向こうも、リングドクターなのにプロレスやいろんな会場でよく見掛けるから僕のこと「面白いヤツだな」って思ってくれていたらしくて、「先生、好きだねー！」って言われてね。また嬉しくなっちゃって、会場とか試合後のパーティとかで親しく話すようになって、しまいには彼の健康相談まで引き受けるようになってね（笑）。

——選手だけじゃなくてターザンまで診てましたか（笑）。

中山　医師の守秘義務があるからそれ以上言えないけど（笑）、K—1をはじめ多くの団体のリングドクターやるようになったのも、ターザンの引き立てがあったからこそなんですよ。

——あ、そうだったんですか。

中山　10年ちょっと前にK—1が始まって正道会館が東京に出てきたころ、石井館長が「メインでしっかりやってくれるドクターはいないか」ってターザンに相談したらしいんだよ。そしたらターザンが「面白いヤツがいる」って紹介してくれたんだそうで、僕はもともと『格闘技オリンピック』なんかも全部見に行ってたクチだから、また嬉しくなっちゃってね（笑）。そんな経緯でK—1も始めたんだよね。それからなんといっても一番嬉しかったのが、憧れのタイガーマスクから声が掛かったとき。

——ターザンが神様で、佐山さんが憧れですか（笑）。

中山　もうホントに憧れてたんだよね。だから声掛けられたときは大喜びですよ。その頃シューティングはお客が全然入ってなくてね。「この団体どうなっちゃうんだろう」って思いながらも、それでも僕は佐山さんの隣に座ってドキドキしてたわけですよ（笑）。生まれて初めて好きな彼女とデートするときみたいに、リングじゃなくてチラッ、チラッ、と佐山さんの横顔を盗み見たりして思いっきりトキメイてました（笑）。

——トキメいてましたか（笑）。

中山　それでシューティングは毎月、埼玉の大宮ジムでアマチュア大会があるから、まだ埼京線もない頃、電車とバスを乗り継いで「ゆの郷」まで行ってさ、好きじゃなきゃできないよ（笑）。

——ホント、中山先生が何もないところを開拓していった感じなんですね。

89・7・24博多スターレーン■船木優治vs中野龍雄（当時）の一戦は、激しい乱打戦となり中野は鼻から大流血。中野の鼻血は毎回恒例ながら、経験不足の中山ドクターは強制ドクターストップさせようとリングに乱入！　当時のUWFはそれほど激しい試合だったのだ。

中野の大流血に興奮してリングに乱入しちゃったんですよ（苦笑）

中山　そうだねぇ。だから最初は何もわからないから失敗もたくさんありましたよ。例えば、この本にも書いたけど、UWFの中野龍雄vs船木優治戦（88年7月28日、博多スターレーン）では、鼻から大量に出血している中野を見て興奮しちゃってさぁ、「これはやめさせなきゃ！」ってリングに乱入しちゃったことがあったんですよ（苦笑）。

——ドクターが乱入！（笑）。

中山　若気の至りでホントに恥ずかしい限りで、いま思えばあれもプロレスの試合なんだからねぇ。あの頃はプロレスだなんてこれっぽっちも思わなかったけど。

——野呂田先生に聞いたんですけど、当時のUWFはリング内においてはドクターは何の権限もなかったらしいですね？

中山　ある訳がないよ。だから勝手に止めたりしちゃダメだったんだよね。でも、リングドクターに権限がないのはUWFだけじゃなくて、キック団体とかもみんなそうだからね。昔見たキックの試合で、ドクターが「止めなきゃダメだ」って言っても、会長の「まだできるから」の一言で続行しちゃったのを見たことがある。それにK—1ですら、ドクターには直接試合を止める権限がなかったんだよ。でも、96年にアーネスト・ホーストvsジェロム・レ・バンナ戦がきっかけになって、ようやくドクターにもルールディレクターを通してゴングを要請できる権利を獲得したぐらいだからね。

——結構最近なんですね。

中山　忘れもしない、K—1が初めてTV生中継された日ですよ。それで、初の生中継だし、何かあっちゃいけないから、大会当日のミーティングで、ダウンしてチェックをする時の基準について入念に話し合っていたんですよ。ある人はグラブを押してグラブをグッと返せばいいとか、ある人は目を見ればいいとか言ってたんだけど、ホントは目を見ただけではわからないんですよ。目はしっかりしているように見えても、脳のダメージが回復していなければしっかりと歩けなくてよろけてしまう。つまりダメージの深さを見極めるには、身体全体を見ないといけない。特に歩かせてみて真っ直ぐ歩けないようならまだ回復していない。それをきちんとチェックするために、ダウンして立ち上がったら、選手を歩かせましょうと、ここまで確認してあったんですよ。

——どういう状況だったらストップするか、基準が確認されてたんですね。

中山　そう。そして問題のホーストvsバンナ戦。その試合でホーストが2Rにダウンして、立ち上がりはしたんだ

テレカ集めが趣味の中山先生。その膨大な量のコレクションの中には、高田延彦＆向井亜紀結婚式の引き出物など貴重なものも多数。

けど、もうフラフラで誰が見てもストップさせなきゃいけない状態だったんです。それで僕も思わず立ち上がって「危ない！　ストップだ！」って叫んだんだけど、レフェリーがちゃんとホーストを歩かせたのを見て、「よかった。これで止めてくれるだろう」と思ってホッとして腰掛けたらそのとたん、「GO！」って、試合続行しちゃったんですよ！

――続行しちゃいましたか（笑）。

中山　愕然としましたね。そしたら案の定、試合再開直後にバンナのメガトン・パンチもらって、ホーストはもっと危険な倒れ方して、みかねたセコンドがタオルを投入して終わったんです。その後の反省のルールミーティングで確認したら、やはり普段の癖でホーストの目だけを見て、身体全体を見ずにゴーサインを出しちゃったんですね。

――舞い上がってしまって、目しか見れなかったと。

中山　そう、初めての生中継だったしね。やっぱりレフェリーも人間だからさ、どんなベテランだってそういうことってあるんだよね。でも、周りにいる僕らには止める権限がないんだから、止めようがない。それじゃあ、あまりに危険だから、この試合をきっかけに、「本当に危険な時はドクターにもゴングを鳴らす権限を与えてくれ」って言って、そこで初めてレフェリーの要請なしにドクターストップが出せる権限を獲得したんですよ。

――苦難の道だったんですね。

中山　ホント、こういうドラスティックな変革って、何かアクシデントが起こらないとなかなかできないんだよね。何か事件が起こったときには、それを役立てて、物事をいい方に動かすきっかけにしようと考えていかなきゃ。常に前向きに考えなきゃ。

――取り返しのつかないことになってた可能性もありましたからね。

中山　そうですね。脳が揺れて意識がハッキリしてない状態だと、普通の状態では受けないようなパンチをさらに食らうことにもなりかねませんし。

――じゃあ、大晦日にやった中邑真輔vsイグナショフの試合なんかも、ストップが早い早くないで揉めましたけど、あのときのレフェリーの判断はどう思いますか？

中山　あの試合は会場では見れませんでしたけど、ビデオで見る限り、平君

12・31『Dynamite!!』で、イグナショフとK－1MMAルールで対戦した、IWGP王者・中邑真輔は、得意のタックルで何度もテイクダウンするも、寝技になってから大苦戦。度胸と心意気は買えるが、総合格闘技のスキル不足も露呈してしまった。

中邑選手は「できる」と言うけど明らかにできる状態じゃなかった

（平直行レフェリー）は最高の判断を下したと思いますよ。

――最高の判断ですか！

中山　それは何によって証明されるかというと、立ち上がった後の彼のふらつき。ダウンから立ち上がったことじゃなく、立った後のダメージを見ないとダメなんですよ。だからあの時の中邑選手は口では「できる」って言ってましたけど、できる状態じゃない。これは自信を持って言い切れる！

――鼻骨骨折してるぐらいですからね。

中山　眼窩骨折だって疑われてたんですよ。それから、「倒れた時点で止めるのは、いくらなんでも早すぎる」って言ってる人もいるみたいだけど、あの試合はダウンコールなしに倒れた相手に襲いかかってもいい総合ルールなんですよ。そうなると、さっきも言ったように、脳が揺れた状態でさらに攻撃を食らうのが一番危険なんだから、レフェリーは相手選手がさらなる攻撃する前に止めるか止めないかの判断をしなくちゃならないわけです。そこでレフェリーと選手両方の経験がある平君が、経験に裏打ちされた確固たる判断で止めたんだから、彼が非難される筋合いは一切ないですよ。

――確かに、相手が総合経験のないイグナショフだったから、ダウン奪ったあと攻撃してきませんでしたけど、あれがミルコだったら必ずトドメの一撃を加えてたでしょうからね（笑）。

中山　そうでしょ？　だから総合の場合、たとえワンダウンでも危険なときは即ストップしなきゃならないんです。トドメを刺されたら、取り返しのつかないことになりかねないんだから。

――ただ、ストップのタイミングはともかく、寝技のブレイクが早すぎるという批判もあるんですよ。

中山　あれ膠着ブレイクのルールを取ったんじゃないの？　それがちょっと早めではあったよね。

――なんでもK―1側がブレイクのタイミングを事前に決めてなかったらしいんですけど（笑）。

中山　でも、ここからはファンとして言わせてもらえば、中邑選手は倒してからの技術がないよね。だって総合初心者のイグナショフに毎回ガードポジション取られて、そこからパスガードできなかったし、一度は最高の状態であるサイドポジションまで取ってるのに、あっさりガードに戻されてるんだから。

――ハッキリ言って、たとえ膠着ブレイクなしにしても、中邑選手が勝てるように思えないんですよね。

中山　そうだね。だからあの試合を見た限りの結論は、中邑選手は総合格闘技をやるなら、まだまだ改良すべき点がたくさんあるし、身につけなくちゃいけない技術が山ほどあるってこと。『PRIDE』じゃまず通用しないでしょ？　そう考えると、中邑vsイグナショフっていうのは、総合の初心者同士が闘った試合と言い切っていいね。

――ズバリ言い切りますね（笑）。しかも、イグナショフがたった一ヶ月であそこまでできることを考えると、再戦しても同じ結果になる危険性がメチ

僕らの中で一番大事なのは選手の安全。だから佐竹本には腹が立つ

ヤクチャ高いと思うんですよ。

中山 同じ結果になるでしょう。だって、後半はイグナショフもタックル切ってたでしょ？ ということは、次やるころにはタックルに対する防御がもっとうまくなってますよ。

――だからこそ、今回勝っておかなきゃダメだったんですよね。ターザンなんかはそこに怒ってるんですよ。「中邑は負けさせちゃダメな選手なんだから、あんなところで止めるな」って（笑）。

中山 でも、そういう意見もわかりますよ。僕だって、ストップをかけるときは考えますもん。やっぱり僕には、この判断が大会とか団体とか選手にどういう影響を及ぼすか分かる訳ですよ。昔からの歴史を見てるし、その選手が誰と闘って、どういう戦歴でとか全部頭に入ってるんだからさ。

――ストップをかける前に、あらゆるデータが頭を駆けめぐるわけですね。

中山 そう。パパパパパって出てくるんだよね。ここで止めたらどうなるか、もうちょっと続けさせたらどうなるか。判定まで行けば絶対に勝ちなのに、出血でドクターストップ負けとかもあるわけじゃない。それだったら、あと1～2分は続けさせたりね。

――興行論も頭に入れながらやらなきゃならないんですね（笑）。

中山 そう、大晦日の時も当日はクジを引いて、僕がさいたまの『PRIDE・男祭り』に行き、名古屋の『Dynamite!!』には僕の一番弟子の湯澤先生に行ってもらったんだけど、彼も平君と一緒になって、相当悩んだみたいですよ。だって中邑選手は4日後のドームのメイン出場が決まってたでしょ？ そんな中邑選手を怪我させちゃいけない、でも、新日本サイドにもメンツや考えがあるだろうし……ってね。ここで、決して誤解してほしくない大前提として、僕らの中で一番大事なのは選手の安全ですよ。これは譲れない。そう思ってやってるからこそ、佐竹本（『まっすぐに蹴る』）にはホントに頭に来てるんですよ！ 佐竹本読んだ？

――もちろん読みました！（笑）。

中山 あれ、僕らの名誉に関わるから言うけど、嘘だからね！

――あ、嘘なんですか！

中山 ホントに腹が立つ！ 何度も言うけど、僕らの中で一番大事なのは選手の安全ですよ。そして、僕はいろんなところで機会があれば言ってるけど、頭っていうのは命に関わる一番重要な場所なんですよ。その僕が、大会後に佐竹が「頭痛い」って言ってきたら、「これは大変だ！」ってなりますよ。それをさ、「ドクターも眠かったみたいで、〝ほっとけば治るでしょ〟みたいに言われた」なんて、少なくとも俺とか湯澤君はそんなこと絶対に言わないですよ！ 格闘技の神に誓って！

（※注 佐竹雅昭著『まっすぐに蹴る』では、94年12月に名古屋で行われたサム・グレコ戦でKO負けしたあと、深夜に異常を覚えて周りの人間がリングドクターに相談したが、向こうも眠たかったようで〝ほっとけば治るでしょ〟と頼りないことを言われたが、地元ドクターが心配して連絡してくれたので助かった。と書かれている）

中山 ホントに選手がそんな状態だったら、凄い真剣になって悩んじゃうよ。僕はいつも言うんだけど、「僕が辞めるときは目の前で選手が死んだ時だ」って。そういうつもりでいつもやってる訳ですよ。だからホントに名古屋でそういうことがあったらどうするか、僕だったらまず名古屋の先生に連絡させるよ。そこの病院でCT取って、そこからまた僕に連絡を取って貰いますよ。佐竹の本ではドクターの名前は伏せてるけど、「朝まで寝てりゃ治るって言われた」なんて絶ッッッ対に言ってないですよ！ もう一カ所そういうのがあったけど、名誉毀損！ 酷すぎるよ、アレは！

――「ずっと頭が痛くて試合ができない状態だったんだけど、やらされてた」みたいなことも延々書いてましたよね。

中山 そんなこと俺たちには絶対言わなかったんだよ。CTは半年に一回チェックしてるし、HIVも一年に一回は最低、新しく参戦する選手は必ずやる。それからよその団体に出場した場合も、必ずそのあとでCT取らせてるしね。K―1のメディカルに関しては事実に反してる。調子が悪いんだったら、「悪い」って言わない選手が悪いでしょ。ちゃんと僕らに相談しないで、黙っていたんじゃわからないじゃない。

――興行主に言ったら「出てもらわなきゃ困る」ってなりますよね（笑）。

中山 だから第三者である僕らリングドクターがいるわけでしょ？ なぜ僕に言わないのか。言ったら真剣に心配して検査させますよ！

――佐竹さんはカラッとしたイメージだったのに、あの本は、もの凄くジメジメしてるんですよね（笑）。

中山 読後感も非常に悪いよね。それに比べると、これ（『ドクターストップ』）は爽やかでしょ？

――ガハハハ！ いや、ホントに、このところ暴露系の本が多い中で、久々にさわやかな、そよ風が吹くような格闘技本ですよ（笑）。

中山 愛があるでしょ？ 自分で言うのも何だけどさ、僕の本には格闘技に対しての愛が溢れてるんだよ～。

――何かニコニコしながら書いてる感じが伝わってきますよ（笑）。

中山 そりゃあ僕だって、この業界で長くやってれば、はらわた煮えくり返るようなことはいっぱいありますよ。でも、それは別に書くことじゃないと思ってるから。それなのに、佐竹本は自己正当化の言い訳のために嘘書いてるんだから、俺たちの名誉はどうなるんだって！ まあ、どうでもいいけどさ。

――どうでもいいんですか？（笑）。

中山 よくないけどさぁ（笑）。まぁ、とにかく僕の本は、格闘技が好きになる本だから、是非とも一度読んでもらいたいよね（ニコニコ）。

――わかりました。では、これからもリングドクターとしてのご活躍、期待しています！

なかやま・けんじ■1954年6月18日生まれ。筑波大学医学部卒業後、東京警察病院整形外科に入局。1991年7月、なかやまクリニックを開業。院長を務めながら、『PRIDE』、K-1、SB、空手、柔術、キックなど、格闘技全般のリングドクターとして活躍中。

今こそ考えよう！ レフェリーストップ ドクターストップとは何か？

ドクターだけが知っている秘話が盛りだくさん！ 中山ドクター著『ドクターストップ』絶賛発売中！

インタビューを読んでいただければわかるとおり、プロレス・格闘技をこよなく愛する中山ドクターが、ニコニコしながら書いた『ドクターストップ』は、BNN新社より1500円（＋税）で発売中。アンディ・フグの最期が克明に記されていたり、リングドクターしか知らない真実を多数収録！「神経を疑う裁定のレフェリー」の項も必読！

http://www.bnn.co.jp/

中山健児
ドクターストップ
止めれば「なぜ止める？」
止めなければ「なぜ止めない？」
最も過酷なポジション それがドクターだ
角田信朗

ZST·GP 1.11 Zepp Tokyo

優勝は"隙なし""遊びなし"
ZSTの天敵

マーカス・アウレリロだ!!

[アメリカン・トップチーム/ブラジル]

ZST4兄弟揃って討ち死に! されど

穴だらけの男達に大いなる可能性を見た!

マーカス・アウレリロ

小谷直之
リッチ・クレメンティ
所英男
TAISHO
矢野卓見
レミギウス・モリカビチュス
今成正和
マーカス・アウレリロ

「『PRIDE·GP』と並ぶ2003年のベスト興行」との呼び声も上がるほど大爆発した11·23『ZST·GP』開幕戦。しかし1·11決勝大会は期待のZSTエセ四兄弟が揃って討ち死にという衝撃の展開に。そんな数々のドラマと可能性を見せた今大会を検証してみよう。

構成/堀江ガンツ　撮影/黒田史夫　designed by matsu (Two Three)

「プロレスラーにとって最も大事なのは個性。強烈な個性と個性がぶつかり合うからこそ、観客を惹きつけることができるんだ」

本誌前号でインタビューしたスタン・ハンセンがそう語ったのを聞いて、思わず唸ってしまった。

「プロとは個性である」

うん。まさにそのとおり。しかもこれは何もプロレスラーに限らず、あらゆるプロスポーツ選手に共通する「プロとは何か」の真理ではないだろうか。さすが、ハンセン。虚実入り交じったスポーツエンターテインメントの世界で長年頂点に君臨し続けた男は言うことが違うのである。ウィー！

格闘技を地上波のテレビで流すとき、クドいくらいに煽り映像が繰り返され、「もっと試合流せよ！」と、言いたくなることがある。しかし、これも何も知らない（と、仮定した）視聴者に対してキャラクターやバックボーン、すなわち〝個性〟を理解してもらうためにはどうしてもやらなくてはならない作業。「個性と個性ぶつかる闘い」に見せるための労力を惜しんでいないということだ。

逆に言うと、その努力をこれまで怠ってきたのが、いわゆる純格闘技、純格闘家であるとも言える。それは何も選手のキャラ付けが弱いと言っているのではない。そのファイトスタイル、さらにはファイターとしての性格、佇まいにいたるまで、どこか、みな同じように見えてしまうことを言っているのだ。

なぜ同じように見えてしまうのか。その理由は、おそらく各選手がみな、自分の穴をなくそうとしているからということが、大きな要因としてひとつ挙げられるだろう。もちろん他にもいろいろ理由はあるだろうが、本稿ではそこまで考えているスペースもないし、考える気もサラサラないので省略！　答えは自分で考えて出せだ。それがプロレス者のルールだからな！（ターザン風言い逃れ）。

優勝が半ば義務づけられていた小谷だが、リッチの老かいな戦術に試合を支配され無念の判定負け。エースがいきなり姿を消す波乱の幕開けとなった。

開幕戦では元修斗王者から一本勝ちを奪い、勢いに乗っていた所だが、DEEP代表のTAISHOにハイキックを食らい53秒でKO負け。

ヤノタクvsモリカ因縁の（？）決着戦は、矢野が腕十字行くも力任せにマットに叩きつけられ失神！　いつもの死んだふりでなくマジ失神に場内唖然。

日本人選手で唯一のベスト４進出を果たしたDEEP代表のTAISHO。朝日昇に圧勝したことがフロックでないことを今大会で証明。佐伯代表も大喜びだった。

オンリーワンがナンバーワンになった時、ＺＳＴは完成する！

で、ＺＳＴである。「プロとは個性」というならば、小谷直之、今成正和、矢野卓見、所英男の通称「ＺＳＴエセ四兄弟」は、４人ともみな類い希なる個性を持った〝プロレスラー〟だと言える。

底知れぬ才能を持ちながらリングを降りれば「宇宙人」と言われる小谷、足関まっしぐらの今成、荒削りながら金星連発の所、そして総合に出場していることすら不思議な寝技師ヤノタク。みんな総合のセオリー通りに闘うのでなく、自分独自の技術的特長を持ったオンリーワンな男ばかりである。

しかし、個性が強いということは、長所を持っているのと同時に、穴も多いということだ。だから、昨年11月のグランプリ開幕戦では、その彼らの長所が大爆発し、４人全員が決勝トーナメント進出を決める快挙を成し遂げたが、今回は一転、４人全員がそれぞれ弱点を突かれ揃って討ち死にという結果に終わってしまった。

そして彼らに代わって勝ち上がったのは、柔術の強豪マーカス・アウレリロと、特徴がないところが特徴と言ってもいいリッチ・クレメンティ。２人共、四兄弟とは対極に位置する、隙がない選手。今回のＺＳＴ・ＧＰでは結局、〝勝ち上がる〟ということは、裏返せば〝誰とやっても負けない〟ことだという現実を見せつけられた格好だった。

そもそも優勝者を決めるグランプリという形式は、「最強ではなく、最高を目指す」というＺＳＴの理論とは相反するもの。しかし、個性溢れるオンリーワンな選手が「最高」なのかと言えば、それもまた違う。やはりオンリーワンである選手がナンバーワンの座を奪う、それこそが「最高」であり、ＺＳＴが目指しているのも、まさにそこなのだ。

だからこそ、ＺＳＴエセ四兄弟には、これからも自分の穴を埋めるのではなく、その強烈な個性に磨きをかけることで、強さを追求していってほしい。彼らには「最高」になれる可能性があるからこそそう思う。

1回戦に続いての柔術黒帯狩りに気合い満点だった“足関十段”だが、足関を警戒したアウレリロに寝技に付き合ってもらえず、不完全燃焼の判定負け。

事実上の決勝戦とも言えた準決勝のアウレリロvsモリカビチュスは、アウレリロがモリカの打撃を完封し、三角絞めで一本勝ち。

その地味な風貌、地味な実力はまさに小さなデイヴ・メネーのリッチ（同じチーム・エクストリームだし）。大金を目前にしての敗退もキャラ通りだ。

ZSTフェザー級グラップリングトーナメント（GT-F）

2004年3月7日（日）　開場15:00/開始16:00　お台場・スタジオドリームメーカー
※15:10よりジェネシスバウトを開始予定

■トーナメント出場予定選手
今成正和、所英男、ジェフ・カラン、他全8名
小谷直之、レミギウス・モリカビチュスはKoKルールワンマッチに出場

■入場料金
VIP席…¥12,000-　SRS席…¥8,000-
S席…¥6,000-　立ち見…¥4,000-
※当日購入は、一律1,000円増し。

ZSTオンラインショップ　www.zst.jp

本誌 Back Number

no.08　'94.01

特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！　20ページにも及ぶ大特集！

700yen⇒350yen　50%OFF

no.16　'96.06

特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！　マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！　糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

780yen⇒390yen　50%OFF

“燃える情念”石川雄規、初の自叙伝!!　'00.04

情念～夢一途なり～石川雄規

『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長・石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！　自称“世界一の猪木信者”石川社長が、あまねく全ての人に捧げる珠玉の一冊！　情念とは何かが分かる本である。

2100yen（送料込み）

no.13　'95.03

特集 道場破りとは何か?

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！　山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

780yen⇒390yen　50%OFF

no.17　'95.07

特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！　アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen　50%OFF

みんなで遊べる付録付き!!　'01.04

さくぼん

『PRIDE』の会場でも大人気!!　サクのすべてがよくわかる桜庭和志初のインタビュー集!　花くま先生の「サクラバの汁」、特製シールやポスター、動く必殺技「炎のコマ」「炎の人力車」、サクマシン立体組お面など付録がこれでもか! とばかりに付いています！

総238ページ

1500yen（送料込み）

no.14　'95.04

特集 神秘とは何か?

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen　50%OFF

no.19　'95.09

特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』を偲んで…　ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ＆高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

780yen⇒390yen　50%OFF

インタビューという名の鉄拳史

完売間近

紙の前田日明

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！　引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！
プロレス、UWF、そしてリングスとは何か？／大山倍達とは何か？／激白！　プライドとは何か？／特別対談　撃墜王・坂井三郎×前田「勝負師とは何か？」／特別対談　イエローキャブ社長・野田義治×前田「巨丹生とは何か？」／『バカの壁』著者・養老孟司×前田「脳みそとは何か？」他、珠玉のインタビュー＆対談が多数収録!!

2000yen（税金・送料込み）

no.15　'95.05

特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰？　山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Kーとは何か？　石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－１三兄弟（当時）インタビュー

780yen⇒390yen　50%OFF

極真魂溢れる16人を直撃!

完売間近

極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

1530yen⇒800yen　50%OFF

---

no.52 表紙 小川直也　'02.07/880yen

**見えない鎖を引きちぎれ!
小川直也リング外での暗闘!!**

- ●全身プロレスラー・高山善廣
- ●USAの渡世人ドン・フライ
- ●『PRIDE』侵攻開始!!
  ロシアン・トップチーム
- ●戦慄の『LEGEND』前夜!

no.53 表紙 桜庭和志　'02.08/880yen

**世紀のビックイベント
『Dynamite!』直前大解剖!!**

- ●ノーフィアー×無謀美・対談!!
  高山善廣×美濃輪育久
- ●独占肉弾スクープ!
  マット・ガファリ
- ●爆裂!　川村社長ガチンコ語録!
- ●偽造王の知られざる半生!　一宮章一

no.54 表紙 ノゲイラ　'02.08/880yen

**不平等の時代を克服した
英雄ノゲイラ!!**

- ●“首の皮一枚”ホイス&エリオグレイシー
- ●“青い目のケンシロウ”
  ジョシュ・バーネット
- ●純プロ頂上対談!
  武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
- ●猪木とは何か? アントン実兄・猪木快守

no.57 表紙 高山善廣　'02.11/840yen

**一瞬の11・24!!
高田延彦引退試合を大総括!!**

- ●サップと地球規模のタイマン勝負!!
  高山善廣
- ●新たなる“U”が始動!!　田村潔司
- ●悪魔の書、再び!　ミスター高橋×大槻ケンヂ
- ●“北尾戦・セメントマッチの真実”
  ジョン・テンタ

no.58 表紙 武藤&船木　'03.01/880yen

**新春特大号!!「明日、また
生きるぞ!」な対談の大連発!!**

- ●夢幻のファンタジー対談
  武藤敬司×船木誠勝
- ●Uスタイル対談　田村潔司×高阪剛
- ●Uインター座談会　宮戸×安生×鈴木健
- ●カルガリー師弟対談
  ミスターヒト×ハシフ・カーン

no.59 表紙 ヒョードル　'03.02/880yen

**吹けよ!呼べよ嵐!!
マット界新風景が見えてきた!!**

- ●いざノゲイラ戦!!　E・ヒョードル
- ●アメリカン・ドリーム
  ダスティ・ローデス
- ●爆発!!　WJマグマ語録
- ●吉田道場の秘密兵器　中村和裕

no.60 表紙 ヒョードル　'03.03/880yen

**英雄、変貌好む!!
『PRIDE』RE・BORN!!**

- ●ノゲイラ撃破!!　E・ヒョードル
- ●驚愕の格闘芸術対談!!
  武藤敬司×須藤元気
- ●あのマーシーがすべてを告白!!
  田代まさし
- ●全日本中継の真実!!　倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲　'03.04/880yen

**5・2仁義ある闘い!!
やっちゃうぞバカヤロー!!**

- ●裏番組をブッ飛ばせ!
  橋本真也×小川直也
- ●1年間の沈黙を破った!!　ヴォルク・ハン
- ●プロレス・格闘技クロスオーバー対談
  エンセン井上×金原弘光
- ●リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ　'03.05/880yen

**誰でもいいからミルコのクビを
カッ斬ってみろ!!**

- ●ヴァーと笑顔で初登場!!
  佐々木健介
- ●現役復帰間近!?　船木誠勝
- ●ホントに大爆発!!　橋本真也
- ●新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲（イラスト）　'03.06/880yen

**吉田秀彦が大英断!
ミドル級GP出陣!**

- ●「お前は男だ」劇場炸裂!
  高田延彦
- ●『PRIDE』REBORNを大総括!!
- ●憂国の虎
  ザ・マスク・オブ・タイガー
- ●芸能界一の川田番　ダチョウ倶楽部

no.64 表紙 桜庭&田村　'03.07/900yen

**灼熱の
『PRIDEミドル級GP』直前号!!**

- ●“異次元格闘技戦戦”
  田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
- ●『PRIDEミドル級GP』
  出場全選手インタビュー
- ●ミスター高橋の盟友が放つ“猪木の裏側”
- ●スマックガール・ビキニ特写!!

no.65 表紙 ミルコ　'03.08/880yen

**ヒョードル×ミルコ、
闘争本能世界一決定戦!!**

- ●“最後の皇帝”燃え上がる!
  ヒョードル
- ●“反逆の妖刀”、遂に皇帝へ!!　ミルコ
- ●吉田秀彦戦の“謎”に迫る!
  田村潔司
- ●闘魂ストーカーを捕獲!　イズマイウ

no.66 表紙 ミルコ　'03.09/880yen

**ミルコ、『武士道』電撃出陣!
もはや誰にも止められない!!**

- ●緊急独占インタビュー!　ミルコ
- ●マッハの野望を砕いた
  “赤い暗殺者”登場!!　長南亮
- ●“天才空手少年”VT秒殺デビュー!!
  中嶋勝彦
- ●『東スポ』とは何か?　柴田惣一

no.67 表紙 シウバ&吉田　'03.10/880yen

**吉田とシウバ、いざ激突!!
衣（ギ）は赤く染まるか!?**

- ●ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー!　ミルコ
- ●“柔術超獣”復活へ!!　ノゲイラ
- ●『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場
  全選手インタビュー
- ●アントン“疑惑の時代”を知る男
  加治将一

no.68 表紙 高田&桜庭&曙&猪木 他　'03.11/880yen

**人類史上稀にみる“大晦日・格闘技大戦”!!
白黒ハッキリ決めようやーッ!!**

- ●大晦日三つ巴決戦に出撃宣言!
  高田延彦
- ●曙とは何者か!?　語ろう、曙!!
- ●一年ぶりの勝利で
  ニコニコインタビュー　桜庭和志
- ●“野良犬”『紙プロ』初登場!　小林 聡

no.69 表紙 OH砲　'03.12/900yen

**大晦日・格闘技大戦&1・4プロレス戦争直前!!
年末年始もドゥ・ザ・ハッスル!!**

- ●出てこい!　泣き虫!!
  橋本真也&小川直也
- ●『泣き虫』著者登場!　金子達仁
- ●語ろうU-STYLE　特別ゲスト 田村潔司
- ●アイ アム リアルプロレスラー
  美濃輪育久

通販申し込み方法

▼バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません。

★電話注文 03-3403-5142
★メール注文（代引きになります）
kapra@kamipro.com
★郵便振替
00130-3-769154
（株）ダブルクロス
★現金書留　〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷
3-11-3-702
（株）ダブルクロス

▼郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。
※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

▼送料　1冊＝310円、2冊＝380円、3冊～4冊＝450円
5冊＝520円、6冊以上＝700円

※代引きについてはP160を参照してください。

紙のプロレスRadical常備店

- ■アイドール新宿店
- ■新宿ファイター
- ■大山アメリカン
- ■プロレスマニア館
- ■チャンピオン
- ■リングスパレス
- ■バディスラム
- ■タコシェ
- ■レッスル渋谷
- ■レッスル池袋
- ■書泉ブックマート
- ■書泉ブックタワー
- ■書泉グランデ
- ■グレートアントニオ
- ■東京イサミ

高田統括本部長特集!!

おまえ、男だ!

高田統括本部長が表紙のバックナンバー、全部ください!!

読んでみぃや! 高田総帥関連のバックナンバーはこちら!!

no.05 すべてはここから始まった!! 高田、ヒクソン戦へ……
- ●アイ・アム・プロレスラー宣言!! 高田延彦
- ●ドン荒川 vs 藤原喜明"昭和新日対談"
- ●前田日明の大好評人生相談『人生は語らず』
- ●世界格闘技連盟とは何か!? 佐山聡

'97.08 / 680yen

no.38 高田、小川に宣戦布告! ラスト オブ「もう一丁!!」
- ●プロレス界復帰を示唆! 高田延彦
- ●高田の挑戦をどう受ける? 小川直也
- ●ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル
- ●プロレススーパースター列伝・阿修羅原

'01.05 / 840yen

no.55 高田×田村!! 夢幻大の真剣勝負が実現!!
- ●「真剣勝負」発言から7年!! 田村潔司
- ●実力者、遂に『PRIDE』登場! 金原弘光
- ●メガトン級の強さと面白さ!! ボブ・サップ
- ●靖国神社で興行開催!! 佐山聡

'02.09 / 880yen

no.56 愛すべき若気の至り! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!
- ●田村戦直前!! 高田の覚悟を読み解け! 高田延彦
- ●蘇れ!Uインター伝説!! 安生&金原&高山
- ●高田×田村、観る側の覚悟!! 浅草キッド
- ●『紙プロ』に風がふくぜぇ〜! 鈴木みのる

'02.10 / 840yen

バックナンバーは電話で注文できます!!

03-3403-5142

【平日15:00〜22:00 (株)ダブルクロス】

no.15 表紙 小川直也 '99.02 / 840yen
リアル・アルティメット・クラッシュ!! 小川vs橋本"1・4事変"勃発!!
- ●あの"1・4事変"を徹底大検証!!
- ●"前田日明・最後の相手" アレキサンダー・カレリン
- ●引退記念雑談会「語ろうマサ・サイトー!」
- ●『S多重アリバイ』/佐野雄飛・編

no.16 表紙 エンセン井上 '99.03 / 780yen
格闘ノストラダムス!! エンセン表紙初奪取号!!
- ●環境問題を『紙プロ』で語る!! アントニオ猪木
- ●完全無欠の怪物!! 語ろうジャンボ鶴田
- ●相撲多重アリバイ 石川孝志
- ●マーク・コールマン

no.24 表紙 アレク '00.02 / 840yen
ノゲイラ、ダンヘン、田村、コピィロフが登場!! 伝説のKOK決勝トーナメント直前号!!
- ●リングスロシア幻想を掘り起こせ!!
- ●『紙プロ』的視点から送る「語ろう船木 vs ヒクソン!」
- ●驚ガクのUFO対談 サスケ×矢追純一
- ●ターザンが有刺鉄線デスマッチを敢行!?

売り切れ寸前!!

no.29 表紙 秋山準 '00.07 / 840yen
「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア勢フルメンバーで登場!!
- ●三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
- ●プロレススーパースター列伝 仲野信市
- ●本誌独占ジャンボ鶴田夫人 真実を語る!!
- ●TKおかん

no.30 表紙 小川&村上&アントン '00.08 / 840yen
サクvsヘンゾー戦直前! 燃えよ! 闘魂の火種!!
- ●平成のテロリスト 村上一成
- ●ケンドー・カシン暴言ファイル
- ●プロレススーパースター列伝 永源遙【前編】
- ●長州力座談会

売り切れ寸前!!

no.32 表紙 小川直也 '00.10 / 840yen
針はどちらに向くのか!? 新プロレスvs純プロレス開戦!
- ●田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ
- ●ドラゴンの大爆笑10 藤波語録
- ●プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村
- ●"和製カレリン"本田多聞

no.34 表紙 小川直也 '01.01 / 840yen
『猪木祭り』開幕ーッ!! プロレスは「闘い」を忘れたときに老いていく!
- ●UFCミドル級王者 ティト・オーティズ
- ●プロレススーパースター列伝 ミスターヒト
- ●修斗から『猪木祭り』へ! 宇野薫
- ●ボブチャンチン&オバチャンチン

no.35 表紙 サクマシン(イラスト) '01.02 / 840yen
「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号
- ●ZERO-ONE本格始動 橋本真也
- ●プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
- ●"ノアの怪物"杉浦貴
- ●UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也(イラスト) '01.02 / 840yen
新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!
- ●ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!
- ●ヴォルク・ハン——ノゲイラに狼の伝言
- ●W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
- ●吉田豪に"ドラゴンの呪い"が襲う!!

no.37 表紙 小川直也(イラスト) '01.04 / 840yen
小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻
- ●安田忠夫が借金から自殺未遂まですべてを語る!
- ●アブダビコンバット2001一大探検記!
- ●シュート活字×ファンタジー活字
- ●他に比類なきプロレスがWWFにはある!

no.39 表紙 前田日明 '01.06 / 840yen
どうなるんだ、リングス! 前田 is デッド!?
- ●前田道場新エース・金原弘光
- ●怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会
- ●壮絶なる格闘人生・藤原敏男
- ●プロレススーパースター列伝・田上明

no.40 表紙 アントン総帥 '01.07 / 880yen
猪木軍vsK-1に見たいものは"地上最強のプロレス"
- ●蘇れ!Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光
- ●熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎
- ●プロレススーパースター列伝 グラン浜田
- ●グラバカの核弾頭 郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン '01.08 / 880yen
Can you カミングアウト? "最後の黒船"WWF襲来!
- ●リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る
- ●真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!
- ●W☆INGの真実・茨城清志
- ●毒舌知能犯 秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09 / 880yen
猪木なら何をやっても許されるのか!?
- ●ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- ●"ヒャッホーの真実"辻よしなり
- ●蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- ●誇り高きルチャ戦士 ルチャカト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭和志 '01.10 / 880yen
サクと『PRIDE』のケツに火がついた!!
- ●ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー
- ●大谷晋二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
- ●金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会
- ●野武士が語るんだよな 中野巽耀

no.44 表紙 桜庭&シウバ '01.11 / 880yen
サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?
- ●その修羅場の数々! シーザー武志
- ●怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴
- ●ハンス・ナイマン&ディック・フライ
- ●闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥 '01.12 / 880yen
「K-1vs猪木軍」命懸けのエンターテイメント!!
- ●悪魔の書、現る! ミスター高橋
- ●ジェラルド・ゴルドー人生相談
- ●プロレススパースター列伝 グレート小鹿
- ●語録で振り返るマット界2001

no.47 表紙 ビンス・マクマホン '02.02 / 880yen
WWE日本侵攻5秒前!
- ●"天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!
- ●噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!
- ●第一次リングス閉幕特集
- ●プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03 / 880yen
見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
- ●奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー
- ●和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光
- ●伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン
- ●WWEを知る男 ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ&ヒクソン&小川&桜庭 '02.04 / 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!! マット界灼熱の噂!
- ●和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田
- ●アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?
- ●破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行!
- ●ビッシビシいくわよ!! 小畑千代

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05 / 880yen
サクが笑えば、世界が笑う!!
- ●「地方初世界」開始! 小川直也&橋本真也
- ●リングスロシア軍団の軌跡
- ●パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!
- ●ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

no.51 表紙 橋本真也 '02.06 / 880yen
ZERO-ONEに願いを!
- ●両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也
- ●『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子
- ●天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談
- ●新・超獣 ザ・プレデター

書評は平和ではない　書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである（ネール元インド首相の娘への手紙）

PART 2

吉田文豪人生劇場

書評の星座

「♪俺は自分のことを『泣き虫』だと思う」（高田延彦）……というわけで、今年はいよいよ橋本11年（93年発売の名盤『橋本元年』を基準とする元号）。新年早々、破壊王と高田本部長の底抜けコントで笑わせてもらったこともあって、今回は恒例のロングインタビューを休んだ代わりに、読者の方々が待ちに待っていると思われる幻冬舎の“暴露本”を書評してみようと思う。もちろん題材はタダシ☆タナカ本なんかではなく、高田がプロレスの仕組みについて告白しているあの本だ！

e-mail:go@kamipro.com

『会いたかった　代理母という選択』
（向井亜紀／幻冬舎／1500円）

講談社から幻冬舎へと電撃移籍し、奇しくも『泣き虫』と同じ担当者が手掛けることになった向井亜紀の出産本第3弾。宣伝用のネタとして、高田総本部長が「（『PRIDE』以前は）自分の試合の結果を知らずに戦ったことがなかった」と告白したことを原因とする夫婦間のゴタゴタ話が前面に出されていたのを見てあざとさを感じた人も多いだろうが、いざ読んでみると本の中にそういう話が占めるスペースはあまりにも少ない。

そもそも、過去の著書には存在した高田の馬鹿話もほとんどないから、それだけ殺伐とした状況で書かれたわけなのだろう。

それは高田本人が「ボクらの夫婦生活の中でもっとも大きな危機というか、本当に大きな大変な嵐が吹き荒れた」と会見でコメントしたことでもわかってはいたんだが、まさかここまでだとは……。というか、高田も時と場所を選んで告白しろよ！

なにしろ、よりによって3度目の代理母出産に挑み、「（代理母）シンディの不調、心ないマスコミ、無神経な医師によるドクターハラスメント、代理母出産という方法への世間の目」などの「たくさんのハードル」を前にして彼女が「数え切れない涙を流していた」とき、「高田の本に、私のまったく知らなかったことが載る」というさらなる試練が訪れたわけなのである。

「ムカイ、俺のやってきた試合の中に、プロレスがあったって聞いたら、驚く？」

「何？　青春のエスペランサって言われてたんでしょ？　ね、エスペランサってどういう意味だっけ？」

「……ムカイと知り合ってからのことだよ。UWF、UWFインター時代に」

「……プロレスって？」

「試合の勝敗が決まってる」

「なんで決まってるの？」

「だから、事前に勝ち負けは決めてあって、で、闘うんだ」

「それって真剣勝負？」

「俺は、真剣勝負のつもりでやってた」

「……つもり？　わかんない。意味がわかんない」

「勝敗は決まってて、その中で命を懸けて闘ってた」

「……」

「命を懸けるために、練習も完璧に、」

「じゃ、なんで、真剣勝負だって言ったの？　私、みんなに聞かれて答えちゃった。何十回も、何百回も、ノブさんがやっているのは真剣勝負だって言っちゃった」

「俺は真剣だった。じゃなければ、」

「本人は真剣でも、それは真剣勝負じゃないよ」

若手時代の船木が開発したらしい「真剣にやっているから真剣勝負です！」というロジックも、彼女には通用しなかった。

もう一度言うが、このとき彼女は「自分の余命が最悪二年であることを前提に、後悔しない時間を過ごしていこう」と決心し、「病院に向かって高速道路を走っているとき、『このままアクセルを思いきり踏み続ければ、十秒で、私は消えることができるんだ』という思いが頭をよぎった」ほど常に死を考え、「誰かに話しかけられたら、意味もなく叫んでしまいそうだった」ぐらい、とにかくギリギリでボロボロな状態だったのだ。

その上、離婚して以来音信不通だった「高田の実母に三十年ぶりの再会を果たし」、「どうしてもどうしても眠れなかった」から寝酒を飲んだだけで、「つらいことは代理母にすべて任せておいて、あなたたちは酒盛りですか。いい気なものですね」とHPに書き込まれたりするほど追い込まれていたわけである。

彼女の元には「子供はあなたに殺されたと思っている」「あなたに幸せになる権利はない」などの「下劣メール」が何通も送り付けられ、それを読んで「過呼吸でパニックに陥った」彼女は、「強烈な力で歯を食いしばっていた」ために「顎関節症になって、しばらく流動食生活を送ることになった」りもしていた。

写真週刊誌に「入院中、病棟のトイレ前で、点滴台を押しながら尿瓶を片手に歩き出したところ」を撮られたら、その「最低」な文章を読んだ瞬間、生理的不快感ゆえか「『ゲラ』と呼ばれるその原稿の校正刷りを手に、病室で吐いた」わけなのだ。

だからこそ、彼女は代理母出産が成功しそうになっても、「子供に『生まれてこなければよかった……。死にたい』と、言われてしまったら、一緒に山奥へ入り、土に深く穴を掘って、その中で睡眠薬を飲もうと考えている。高田には内緒だが、実はもう候補地の見当もつけてある」と考え続けていたのだろう。

そんなとき、高田は告白してしまったのである。

「何で、嘘をついたの？　どうして、プロレスじゃない、これは真剣勝負だって言ったの？」

「……それが、俺たちの生きてきた世界なんだよ。見ている人に夢を与えるために、」

「それが夢なの？　騙してでも見せたい夢なの？」

「騙してない。騙しているつもりはないよ。でなければ、あんな試合はできない。死人を出しながらやったんじゃ、」

「ごめん。私には理解できない」

この告白によって「私たちの間にできた溝は、もう二度と埋まらないような気がした」とそうなんだが、なんと「一ヶ月もまともに口を利かなかった」上に「別居の可能性」も浮上！　実際、「私が出ていきたかったが、話し合いの結果、しばらくは高田が違う場所へ移って寝起きしつつ、この家に通ってくる形をとろう」という、仮別居のような状態になったわけである。

まあ、彼女がそこまで怒る気持ちはわからないでもない。

もともと25歳でペットロスのため自律神経失調症を病み、吹き出物が顔中に200個以上できたり髪にも白髪が束で出来たりしていた彼女は、高田との結婚を両親に反対されたことで白髪が倍増。いざ結婚しても「考えることは暗く堂々巡りというひどい状態」で、高田の試合の度に円形脱毛症にも悩まされていたのである。その試合は全部「筋書きあり」だったのに……。

「毎回、毎回、試合のたびに、私、祈ってた。ノブさん

会いたかった
代理母出産という選択
向井亜紀
「生まれてくれて、ありがとう」
〈生命〉を見つめ続け、
あらゆる不条理に向かい合った3年間。
人は、こんなにも強く明るく生きられる。
感動のノンフィクション 緊急出版！
幻冬舎
定価（本体1500円＋税）

が、怪我をしませんように。ノブさんが勝てますようにって。でもさ、半分でよかったんだね。勝敗が決まってたんなら」

「……心配して損した」

「だって、そうじゃない。今、私の頭の中にあること、それはね、じゃ、あの日の試合も？　あのときの試合も？　相手の選手はどうしてたの？　あの選手も演技してたの？　って、今さら聞いてもどうしようもないことでいっぱいだよ。どこから何を信じたらいいかわからないじゃない」

「何で言ってくれなかったの？　私、胃痙攣になったり、ハゲができたり、メチャメチャ心配してたでしょ。知ってたでしょ」

「聞きたくなかった。知らなかったさっきまでの方が私、ずっと幸せだった……」

　どうやら彼女の怒りは「夫婦なのにずっと隠し事をしていたこと」にあったようなんだが、高田がこのタイミングで告白したくなった気持ちも、同じくわからないのではないのである。

　おそらく、いまどきのプロレスラーの妻であればプロレスのことも大体理解していることだろうし、そのプロレスラーにしても家庭の中でまでケーフェイを守ろうとはしないはずだろう。

　ところが昭和の新日本とUインターだけは違ったのだ。

　そんな彼女が『PRIDE』以降やけに負け試合が増えた高田を見て、どう思ったのか。高田最強伝説を信じていた以上、おそらく「ノブさんはまだルールに慣れてないだけだよ！　だって、昔はあんなに強かったんだもん！」なんて感じで、無邪気なだけに余計タチの悪いエールを送っていたことだろう。

　結婚前、島田紳助から言われた「ええか、いっつもヘラヘラした妻でおれよ。ダンナが勝って帰ってきても負けて帰ってきても、同じヘラヘラで迎えることや。勝った時、〝うわぁ、やったね〟って、派手に祝ってしもうたら、負けた時、なーんも声をかけられへん。〝あら、今日、試合だったんだっけ？〟って、たとえ、それまで泣いてても、ヘラヘラ言う。それが一番いい妻なんやからな」とのアドバイスを忠実に守り、精神的にはボロボロになりながらも、ひたすらヘラヘラしていたはずなのだ。

　高田はそんなプレッシャーに耐えかねて、このタイミングで告白する気になったんじゃないかとボクは思う。彼女は『泣き虫』出版について**「そうすることが、ノブさん流『人生の辻褄合わせ』なんだね」**とコメントしているが、それも事実だろう。

　ただ、高田が辻褄を合わせることによって、これまで合っていたはずの彼女の辻褄が合わなくなってしまったわけである。

「三十代に入った頃から、私としては子供が欲しいと思っていた。けれど、高田に、『まだ考えられない』という理由で、何回も子作りを断られてきた。一緒に産婦人科へ行くだけ行かないかと再三誘ったつもりだが、『次の試合が終わったら』とか、『来年が正念場だから』と、こちらを振り返って返事をしてくれることはなかった。あのとき……。私は少なからず女性として傷つきながらも、『この人は真剣勝負をしているのだから仕方ない。今のこの瞬間にすべての気持ちを込めなければ勝てないのだろう』と、自分を納得させていた。……あれは何だったのか」

　高田の試合が真剣勝負じゃないとしたら、納得のいかないことが次々と出てくるわけなのだ。子作りも「プロレスですから大丈夫です」（榊原代表調）だったはずじゃないのか、と。

「高田が真実を話してくれていれば、『あの子』は今、私の腕の中にいたのかもしれないと一度でも考えてしまった以上、その思いをかき消すことは不可能だった。悲しみが悔しさを燃え立たせ、高田の顔を見るのが本当につらかった」

　そのため離婚寸前ぐらいまで追い込まれたものの、最終的には**「私、ノブさんのこと、許せるかどうかわからない。けど、これから大変なことがいっぱい待ってるから、過去のことについては、思いきって水に流すよ」**と思えるようになり、さらには無事双子が生まれたことでハッピーエンド！　もし今回も失敗していたら離婚は避けられなかった気もするんだが、とにかく丸く収まったから問題なしなのだ！　向井、お前女だよ！

　……と言いたいところだが、「ノブさんの最強の遺伝子を残したい」との理由で代理母出産に挑んだはずだったのに「子供を格闘家にするつもりはない」と言い出したのは何故なのか？

　そして、子供に高田ではなく代理母の名前を与えた理由は？

　それだけではなく**「ここで書くことがどうかわからないが、ちなみに、私たちにはセックスがない。私が病気をしてから夫婦生活はなくなっている」**という衝撃告白もあったりで、夫婦間の溝はまだ完全に埋まりきっていないようなのであった……。

第5期生募集中　画期的技法公開

骨法整体は関節をボキボキ鳴らす危険な施術を一切しません。驚くことに体を「揺さ振る」だけで全身の歪みを治す、安全で力を必要としない効果抜群の整体です。

H16年4月～9月迄の第1、第3日曜日
PM1：00～PM6：00

指導は本誌でおなじみの哲人武道家、堀辺正史の直接教授。
北海道から沖縄まで続々骨法整体院開設！

月2回10時間×6カ月の集中特訓で全くの素人をプロの整体師にまで責任指導します。終了後テストに合格した者は骨法整体師の免許証が授与されます。
☆資格(高卒以上)詳しくは下記にお問い合わせ下さい！
見学要予約

手に職を！
整体で独立！

日本武道傳骨法會
KOPPO
☎03-3362-0010

住所
整体指導部
〒164・0003　東京都中野区東中野4-3-2
http://www9.big.or.jp/~koppo/
☆問い合わせ時間 PM8：00～PM10：30

北口駅前
日本武道傳骨法會
★
JR東中野駅

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

年末年始の興行ラッシュが終わっても気を抜いてる場合じゃない! 正月ボケに活を入れる注目情報が目白押し!!

あけましておめでとうございます。号を重ねる毎にページが減少してますが、濃厚な情報汁が誌面から溢れんばかりに詰まりまくってます。今月から『RADICAL情報局』の担当が斎野(見習い)になりました。よろしくお願いします!

Fight & Ticket 試合・大会情報

ジュニアの祭典開催! 未来を担うジュニア戦士は誰だ!?

由緒あるジュニアの祭典SUPER J-CUPがいよいよ開催! デビュー6年未満の若手8選手がワンデイトーナメントで優勝を争う。プロレス界のメジャー団体が一堂に会する今大会。過去3大会の優勝者、ワイルド・ペガサス(第1回&第2回優勝)とライガー(第3回優勝)に続くスーパースターは一体誰だ!?

SUPER J-CUP 4th STAGE~大阪ハリケーン2004~

■日時 2月21日(土) 試合開始17:00(開場16:00) ■会場 大阪・大阪城ホール

■チケット J-CUPシート ¥15000(完売)/RS席 ¥10000円/アリーナS ¥6000/2F・SS ¥7000/2F・S ¥5000/3F・A ¥3000/親子シート ¥10000(大人1人、子供1人のセットで2F・SS)

■対戦カード

◎大阪プロレスタッグ選手権試合 王者・タイガースマスク & ビリーケン・キッド vs TAKAみちのく & Hi69

◎大阪名物世界一選手権試合 21日以前の大阪名物世界一 vs 世界二

◎トーナメント1回戦第1試合 丸藤正道 or KENTA(NOAH) vs 葛西純(ZERO-ONE)

◎トーナメント1回戦第2試合 ガルーダ(WMF) vs 大阪プロレス代表選手

◎トーナメント1回戦第3試合 井上亘(新日本) vs 湯浅和也(みちのく)

◎トーナメント1回戦第4試合 石狩太一(全日本) vs 村浜武洋(大阪プロ)

◎スペシャルマッチ参戦選手 獣神サンダー・ライガー、ヒート、新崎人生、スペル・デルフィン、石井智宏、MEN'Sテイオー、MIKAMI、金村キンタロー、アステカ、お船、アップルみゆき

■HP http://www.osaka-prowres.com ■問 大阪プロレス 06-6636-6672

666興行第二弾&暗黒トークショー!!

耽美ゴシックレスラー・怨霊と極悪レーベル・殺害塩化ビニールのクレイジーSKBが結成したプロレス団体『666』の第二弾興行が開催決定! インディーファンの想像を遥かに上回り、さらにその心を鷲掴みした前回の旗揚げ戦。果たして今回はどんな暗黒ファイトが飛び出すのか!?

■日時 2月29日(日) 試合開始17:30(開場17:00)

■会場 東京・バトルスフィア東京 ■チケット 全席 ¥3000 ※当日¥500up

■参加選手 怨霊、ザ・クレイジーSKB、ニコライ、GOEMON、サバイバル飛田、DNA、他

"666"トリプルシックス presentsトークライブ

■日時 2月9日(月) 開始19:30(開場18:30) ■会場 ロフトプラスワン

■料金 ¥1000(飲食別) ■出演 怨霊、ザ・クレイジーSKB、他呪われたゲスト多数出演!

■HP http://666.thrustkick.com/ ■問 666オフィス 090-3805-1892

女子総合格闘技 新イベント『Love Impact』旗揚げ!

女子格闘技大会『Love Impact』が遂に旗揚げ! 女子レスラーAKINOが総合格闘技に初挑戦し、2003年スマックガール・ミドル級JAPAN CUP王者の菊川夏子と激突する! 空中技もさることながら、U-FILE CAMPでも練習を重ね関節技も得意なAKINO。"女版ミルコ"菊川を相手にプロレスラーの強さを示すことができるか!? なお強豪女子高生空手家・小林由佳も参戦決定!

■日時 2月8日(日) 試合開始16:00 ■会場 東京・ディファ有明

■チケット VIP席(最前列)¥10000/SRS(2~3列目)¥7000/RS席 ¥5000/自由席 ¥3000

■対戦カード ※試合順未定、他2~3試合を予定。

◎Love Impact総合格闘技公式ルール 5分3R AKINO(フリー)vs 菊川夏子(ライルーツコナン)/しなしさとこ(フリー)vs永易加代(パレストラ東京)/瀧本美咲(禅道会)vs筒井千尋(和術慧舟會/東京本部)/Eika(武道会館)vs有賀美由紀(禅道会)

◎特別ルール・フルコンタクト空手マッチ 小林由佳(西山道場)vs松川敬子(飛翔塾)

■問 ラブインパクト事務局 03-5545-4766

サワーと土井が激突!! SBで"男の中の男"が決定する!!

SBの頂上対決、実現!! 1月13日、都内シーザージムで行われた記者会見に出席した土井は「今年最初の大会で、いきなりアンディ・サワー戦というチャンスをあたえてもらった。僕がはじめて日本人でサワーに勝ちたい」と、強敵相手に意気込んだ。シーザー会長は「まだまだ、日本人も捨てたもんじゃないなと思った」と、頼もしい弟子にエール。シュートボクシングのトップを決定するこの一戦は、同日の『PRIDE.27』を(泣く泣く)捨ててでも行く価値がある! この日はSBのエース緒方健一も参戦。全カードは以下の通り!!

シュートボクシング『~Inffinity~ S』

■日時 2月1日(日) 試合開始17:30 ■会場 東京・後楽園ホール

■チケット RS席 ¥10000/SS席 ¥7000/S席 ¥6000/A席 ¥5000/B席 ¥4000

■対戦カード

①大田義昭(シーザージム) vs (調整中) ②松本賢治(シーザージム) vs 五味慎一郎(湘南ジム)

③植松辰弥(シーザージム) vs 菊田光正(寝屋川ジム)

④今井教行(シーザージム) vs ファントム進也(龍生塾) ⑤大石亨(日進会館) vs 伊賀弘治(龍生塾)

⑥及川知浩(龍生塾) vs 歌川暁文(U.W.F.スネークピットジャパン)

⑦緒方健一(シーザージム) vs ナーコウ・スパイン(ニュージーランド)

⑧『SB世界Sウェルター級王座決定戦』S-CUP2002ワールドチャンピオン・アンディ・サワー(リンホージム) vs SB世界ウェルター級チャンピオン・土井広之(シーザージム)

■HP http://www.shootboxing.org/ ■問 シュートボクシング協会 03-3843-1212

石川屋興行第2弾! バト魂観たけりゃここに来い!!

串焼き石川屋主催興行第2弾! "燃える情念"石川雄規の誕生日を祝って、バチバチファイターたちが越谷に集う!!

石川屋興行『HAPPY BIRTHDAY TO YUKI』

■日時 2月22日(木) 試合開始17:00(開場16:00) ■会場 埼玉・越谷桂スタジオ

■チケット SRS ¥5000/自由席 ¥3500/小中学生 ¥2000(当日販売)

■参加選手 石川雄規、原学、チョコボール向井(WEW)、竜司ウォルター、他

■HP http://www.battlarts.jp/ ■問 バトラーツ 0489-63-0005

スマックガールが ネクストシンデレラトーナメント開催!

今回のスマックガールは、2002年から2003年にかけてデビューしたライト級の新人選手8名によるトーナメント! 実力とビジュアルを兼ね備えたフレッシュなメンバーが、次代のスターの座を巡る闘いを繰り広げる。果たして第2の辻結花は生まれるのか!? なお当日には大物格闘家も来場予定!

SMACKGIRL-F~Next Cinderella Tournament & SG-F6~

■日時 2月1日(日) 試合開始13:30(開場13:00)

■会場 東京・ゴールドジム サウス東京ANNEX 7F

■チケット SRS指定席 ¥5000(完売)/RS指定席 ¥3000/スタンディング ¥2000 ※当日¥500up

■対戦カード

◎トーナメント1回戦(SGS公式ルール 5分2R) 石山絵理(フリー)vs高橋まり(パレストラ東京)/羽柴まゆみ(BBdoll)vs 川畑千秋(フリー)/舞(パレストラ松戸)vs吉田正子(NATIVE SPIRIT)/坂本奈緒子(フリー)vs705(パレストラ千葉)※浅山尚子改め

◎ワンマッチ(SGS公式ルール 5分2R) 15(所属不明)vs内藤晶子(RJW/Central)

◎SG-F6(アマチュアワンマッチ大会)

■HP http://www.smackgirl.com/ ■問 スマックガール事務局 090-1773-5647(広報・勝井)

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■猪木事務所
03-5468-5656
〒150-0001　東京都渋谷区東1-25-2　丸橋ビル4F
http://www.inokiism.com/

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002　大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025　東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011　東京都渋谷区東2-1-11
http://www.njpw.co.jp/

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033　東京都台東区花川戸2-2-8　ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org/

■掣圏道　042-544-6979
〒196-0013　東京都昭島市大神町1-2-22
http://www.seiken-do.com/

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073　東京都千代田区九段北1-5-10　九段有楽ビル6F
http://oudou.co.jp

■全日本女子プロレス
03-3493-6541
〒153-0064　東京都目黒区下目黒2-17-17
http://www.zenjo.com

■大日本プロレス
045-937-0811
〒224-0053　神奈川県横浜市都筑区池辺町4347
http://www.bjw.co.jp/

■高田道場
03-5749-5030
〒142-0062　東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com/

■高山堂　03-5464-2806
〒150-0011　東京都渋谷区東2-21-9-803号　ジェイパーク渋谷イーストスクエア
http://www.Takayama-do.com

■闘龍門JAPAN
078-333-9797
〒650-0004　兵庫県神戸市中央区中山手通2-3-18 メープル中山手201
http://www.gaora.co.jp/dragon/index.html

■ドリームステージエンターテイメント（PRIDE）
03-5464-1531
〒107-0061　東京都港区北青山3-12-9　花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride/

■バトラーツ
0489-63-0005
〒343-0807　埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp/

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047　東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063　東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■冬木軍プロモーション
045-241-6381
〒231-0048　神奈川県横浜市中区蓬莱町2―247　SSビル310

■みちのくプロレス
019-626-1333
〒020-0063　岩手県盛岡市材木町9-8
http://thegreatsasuke.com

■A to Z　03-3678-7777
〒132-0013　東京都江戸川区江戸川1-6-2
http://www.AtoZ.ne.jp

■DDT　03-5360-6653
〒112-0002　東京都渋谷区千駄ヶ谷5-26-5 代々木シティホームズ1005
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071　愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001　東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/

■GAEA JAPAN
03-5459-3101
〒150-0036　東京都渋谷区南平台6-7 MAISON南平台1F
http://www.gaea-inc.com

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061　東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net/

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004　東京都新宿区新宿2-15-13　第2中江ビル402
http://www01.vaio.ne.jp/IWAJP/

■JDスター
03-5524-2339
〒107-0052　東京都港区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP　03-5849-2341
〒121-0052　東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com/

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001　千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/

■LLPW　03-5228-4331
〒112-0014　東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号
http://www.llpw.co.jp/

■NEO　044-422-8344
〒211-0011　神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/

■SMACK GIRL実行委員会
090-1773-5647（担当・勝井）
〒156-0041　東京都世田谷区大原1-63-9　恒心ビル801　株式会社プロテック内
http://www.smackgirl.com/
info@smack girl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014　神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/

■UFO　0467-82-2034
〒253-0053　神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F 株式会社エフ企画内

■UNW　03-3362-3014
〒164-0003　東京都中野区東中野4-4-5-311

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002　東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WJプロレス
03-3751-4546
〒146-0085　東京都大田区久が原3-31-1 いずみハイツ

■WMF　049-239-3520
〒350-0812　埼玉県川越市下小坂536-18
http://www.e-rain.co.jp/wmf

■WWS　0495-24-6900
〒367-0052　埼玉県本庄市銀座2-5-23 レインボー本庄106

■ZERO-ONE
03-5730-3401
〒105-0014　東京都港区芝2-30-11　寿ビル601
http://www.zero-one.to/top.html

■ZST　03-5321-9595
〒106-0023　東京都新宿区西新宿3-1-2 廣川ビル4F
http://www.zst.jp/

DVD&VIDEO　話題&最新作情報

"燃える闘魂"の集大成、アントニオ猪木全集DVD BOX発売!

DVD・本体価格 54000円（税抜）全13枚／東北新社／カラー／約2774分／127試合完全ノーカット
3月26日発売（予約締切日2月23日、予約特典・復刻版 猪木 vs アリ戦ポスター）5000組完全限定生産。

「いつ何時、誰の挑戦でも受ける」。アントニオ猪木38年に渡る激闘の歴史がここに極まる！　ゴッチ、シン、S小林、ロビンソン、アンドレ、ルスカ、ハンセン、ホーガン……今も語り継がれる伝説の闘いはもちろん、日プロ時代の若き日の激闘、そして初公開の秘蔵試合まで"燃える闘魂"の全てがここに集結。古館伊知郎の名調子や貴重な映像満載！　ここでしか見られない猪木史上最大にして最高の映像記録が遂に登場！

■TEL 03-5469-4880（10:00～18:00／土日、祝日は除く）

Music　話題&最新作情報

闘龍門・セーラーボーイズがCD発売!!

闘龍門第3のプロジェクト『TORYUMON・X』の"セーラーボーイズ"が、日本逆上陸第一弾興行で披露した『キープ・オン・ジャーニー』で、CDデビューすることが決定した！　写真は公開レコーディングでの1ショット。CDは1月25日の有明大会で先行発売済み。一般発売は2月の予定だ。

■問　TORYUMON SA.de C.V　078-747-3410

ビッグ・ボスマン来日!　我らがボスと夢の共演!!

絶賛発売中のCD「刑事魂～刑事ドラマソング・ベスト」（ユニバーサル）の発売記念記者会見が1月10日に行われた。IWAに乱入したビッグ・ボスマンが、「太陽にほえろ」の"ボス"こと石原裕次郎のそっくりタレントゆうたろうと共にCDをPR（ボスつながり）。本誌はボスマンにインタビューを敢行！次号で掲載します！　必読！

■HP　http://www.universal-music.co.jp/

And Others　その他情報

ターザン山本と吉田豪の格闘二人祭!!

全格闘技ファン絶対必見！　増々話題沸騰の最強タッグ・ターザン&吉田豪が、毎回乱入するマル秘豪華ゲストたちとガチで大激突する大ブレイク中の大人気格闘技トークバトル！　今回は誰が乱入するのか!?

■日時　2月4日（水）　開始19:30（開場18:30）
■会場　ロフトプラスワン　■料金　¥1800（飲食別）
■出演　ターザン山本、吉田豪、豪華マル秘ゲストたちが乱入予定!!

"豪傑"富豪2と"野武士"中野たつあきが映画出演!

高岡蒼祐、つぐみ主演の青春ラブストーリー『紀雄の部屋』に富豪2夢路が出演。さらに友情出演にはなんと中野たつあき！　2月7日より下北沢短編映画館トリウッドにてロードショー。富豪2と中野の活躍に注目だ!!

豪傑&野武士にはさまれる主演の高岡氏

■問　短編映画館トリウッド　03-3414-0433（火曜日休館）
■HP　http://jump-ni.hoops.ne.jp/

滑川が格闘技を直接指導!!

滑川康仁が道場を開設！　総合格闘技道場「蒼天塾」横浜道場のグラップリングクラス『RFC（ライズファイトクラブ）』を滑川が直接指導する。前田道場仕込みのテクニックを直伝してもらおう!!

■場所　〒225－0011 神奈川県横浜市青葉区あざみ野2―28―9 ルミナスミユキ2A（東急田園都市線「あざみ野」より徒歩5分）
■入会金　¥10000　■会費　¥10000　■HP　http://www.soutenjuku.com　■問　045－903－0144

紙プロHand　更新・最新情報

年末年始も休まない携帯サイト『紙プロHand』では、毎日発行のメルマガでその日の大会詳報・ニュースをお伝え！　サイトに加入している人は絶対申し込んでいたほうがお得だ。吉田豪コラム「入院させてよ！」は毎週木曜日更新。吉田豪ファンは、近況も分かるこのコラムを要チェック!!　2月1日アップの着メロは、黒田哲広のテーマ、M2Kのテーマ、『PRIDE』のオープニングテーマの3曲!!　写真は中川画伯のイラスト待画、闘龍門のドッティ修司&"brother"YASSHI。この他にもイラスト待画は多数！　加入してゲッツ!!

Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲	紙プロHand
au/TU-KA	トップメニュー	遊ぶ・楽しむ or インターネット	スポーツ	格闘技	紙プロHand
vodafone	ボーダフォンメニュー	ボーダフォン・ライブ	スポーツ・レジャー	その他スポーツ	紙プロHand

賀正！ 今年もよろしくお願いしたい読者ページ

紙プロ元気大学

謹賀新年！ あけましておめでとうございます。はなわが初笑いだった読者ページ担当・本業は電気部のささきぃです。大晦日三つ巴格闘技戦、1・4『ハッスル1』も終わり、やっと12月15日くらいになった気分です。今年も1年お世話になりました。えっ？ もう成人式終わってるの？ ……。昨年はたくさんハガキありがとう。今年は去年の倍よろしくお願いします。それでは、はじまりはじまり。

（神奈川県・葉チャン）「すいません格闘家じゃなくて……でも凡ちゃんのインパクトがすごいので書いてしまいました」➡先月のビジュアルクィーン（キング？）大木凡人さんです。最後まで描き上げたことに敬意を表してビッグサイズ掲載。何の雑誌だ。あけましておめでとうございます。今年もよろしくです。

内回校巡

『紙プロ』69号 面白かった記事

【ギョロ目もたじろぐハッスル劇場】
★あまりに面白過ぎなので。
（神奈川県・大類正和・31歳・会社員）
➡ビビッたか！ 先月のアンケート第1位は完全再録・ハッスル劇場でした。「その場の雰囲気がわかって良い（広島県・柏戸秀介）」「良くも悪くもプロレスが試されていると思う。無茶な強さをプロレスラーは示してくれるはず（大阪府・山内義久）」などの意見が多く届きました。以下、順不同でお送りします。

【大木凡人インタビュー】
★見た目は強くなさそうなのに実は強く、武勇伝も持っていたところが面白かった。
（石川県・浅田浩伸・33歳・団体職員）
➡「なぜ大木凡人？」という意見もありましたが、読んだ人にはその理由がわかるはず。衝撃的なビジュアルも含めて見事第4位でした。私は身長があんなに高い（180）ことをはじめて知りました。以上です、編集長。

【OH砲インタビュー】
★「ゲストに（榊原）郁恵呼んでこい」発言で、橋本のヤングライオン時代のニックネーム「闘う渡辺徹」を思い出したから。
（北海道・安部正典・31歳・無職）
➡榊原郁恵と渡辺徹の結婚はビックリしたなぁ。その後渡辺徹がどんどん太っていったのにも驚いたけど。

（群馬県・三瓶学）
➡ハガキ一面に書かれた筆書きのメッセージ。はたして本部長の意志はいかに。

（住所不明・青木雄大）➡「ごぶさたしてます」のメッセージとともに雄大画伯からイラストがー。内容のキレ味も変わっていませんね。あいかわらず住所が書いてありませんが、お元気でしょうか。来月も待ってますよー。

『紙プロ』69号 つまらなかった記事

【WJ日記】
『紙プロ』は、なぁ～にがやりたいんだ、コラッ！
（千葉県・湯浅謙司・33歳・会社員）
➡同様多数でした。おぼろげにご理解していただいている方もいらっしゃったようですが、チョロさんが原稿をアレしました。中には「面白い」とおっしゃってくださる方もいたんですが、よく読んでみると「コラ、コノヤローは面白い（愛知県・清水昭仁）」など、〝コラコラ問答〟が面白かったということらしいです。

【ターザンのやつ】
★むかつくけど読んじゃうんだよなぁ。
（埼玉県・深田康弘・?歳・職業未記入）
➡それがターザンマジック。ボヤキっぷりがいい感じです。

【『泣き虫』とは何か?】
★『泣き虫』表紙の高田の横の人は、どこのプロレスラーですか？
（埼玉県・石山雄紀・13歳・中学生）
➡タツヒト・カネコのリングネームで、『Number』という団体のリングで活躍しているレスラーです。……中途半端なウソをついてしまいました。『泣き虫』の著者である金子達仁さんです。しかし石山くん、今年の流行語が**「高田がUFCに出た時の第一声『ハロー、エブリバディ』」**って、けっこういいセンスだね。

今月の『紙プロHand』調べ 好きなレスラー人気ランキング!!

- 1位 田村潔司
- 2位 桜庭和志
- 3位 橋本真也
- 4位 CIMA
- 5位 マグナムTOKYO

今月も携帯サイト「紙プロHand」上でのランキングをご紹介～。上位3人は不動ですが、5位に闘龍門のUDG王者・マグナムTOKYOが初登場です。4位のCIMAを抜くか？ 6位以降にはノゲイラ、中邑真輔、近藤有己。この3人は年末以降に票を伸ばしています。上位3人が強いですが、このあたりの動き方が面白いですね。嫌いな選手はレギュラーの4人（いやなレギュラーだな）に加え、1月から票がのびた某柔道王がなぜかランクインしていました。一本！
（12/14～1/15アクセス分調べ）

紙プロ69号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

- 1位 ギョロ目もたじろぐハッスル劇場
- 2位 大木凡人インタビュー
- 3位 月刊Y2談
- 4位 佐竹雅昭インタビュー
- 5位 金子達仁インタビュー

1位はハッスル、ハッスル!! 『ハッスル1』会見の模様を完全収録した「ハッスル劇場」でした。最初にOHを「チキン、クソブタ」と呼んだのは天山広吉選手です（のはず）。2位は意外性とインパクトで大木凡人インタビュー。3位は大晦日三つ巴情報がどこよりも強い月刊Y2談、4位はまっすぐ蹴って佐竹インタビューがランクイン。続いて「『紙プロ』にこの人のインタビューが載るとは……」と、サッカーファンもビックリした金子達仁インタビューが5位。6位以降は超僅差で「プロレスへの愛情を感じた」スタン・ハンセンインタビュー、田村潔司インタビュー、OH砲インタビューと続きました。

その他のおたより

★猪木＆藤波のコントを見て、「ドリフ大爆笑」の「ご存じ！ 長介工事のバカ兄弟」を思い出した。
（『紙プロHand』投稿・おジャ課長）
➡いかりやの「あんちゃん」ですね。なぜ思い出したかはわからないが、なんか気持ちはわかる。

（東京都・ミタ・カイト）➡はじめまして。『猪木祭り』リングに火がついているのは、闘魂ではなくて「火の車」の意でしょうか。また投稿お待ちしてますよー。ダーッ！

（愛知県・たっつぁん）「大晦日はイノキボンバイエが一番おもしろかったのは私たけてしょうか？」➡そうでもないですよ。私は『PRIDE』へ行きましたが、一番状況が気になったのは『イノキボンバイエ』でした（プレデターとハワードの結果は別）。これはちゃんと『元気大学』あてに届いたおハガキです。自慢にはなりませんか。そうですか。

（静岡県・目ガ覚メタロウ）➡レッドデビル話ですね。最初にこの名称を聞いた時、坂本奈緒子選手のことが頭に浮かびました。「ヒョードルを見損なった」という意見がかなりたくさん来てます。事情はともかく、うちのTシャツを着ているところをあまり見かけなくなってさみしいです。それにしてもあっさり表現されたヒョードルですね。

レスラー・関係者からの年賀状大特集!!

今年も、『紙プロ』編集部、および吉田豪あてにレスラーや関係者のみなさんから年賀状をいただきました。ありがとうございます！　その一部をここに公開します。ここに載っていない佐々木健介さんの年賀状が一番インパクト大（インタビューページ参照）でしたが、他誌では見られないステキな年賀状を中心にセレクトしてみました。意外な年賀状もたくさん!?

↑アキラ兄さんこと、小路晃さんからの年賀状なんじゃーっ。『男祭り』では残念でした。小さく「統括本部　第一課　課長」という文字が入っています。そうだったのか……。

→「昨年末はお騒がせしました」。高山善廣さんからの年賀状です。多分、年賀状をお作りになった時は違う意味で書いた言葉だと思いますが、あのドタバタを振り返ると結果としてピッタリのような感じがします。いやや、高山さんがお騒がせされたというほうが適切でしょうか。お疲れさまでした。今年もよろしくお願いします。

ターザン山本さんの年賀状

→3枚も届いた上、内容も素晴らしいので別枠にしてみました。カラーでお見せできないのが残念です。上は編集部に届いたキティちゃん。「命、短かし恋せよ乙女…それを言うなら命、短かし恋せよターザン山本」。内容といい、プリクラが貼ってあるところといい、すっかり乙女化されているようです。かわいいもの大好き。

→こちらもかわいらしい絵はがきに書かれた、本誌スーパーバイザー吉田豪あての年賀状です。「いかす（格好いい）生かす（命をよみがえらせる）活かす（人を自分を活用する）イカス（女性を）」という、ずいぶんな「いかす四原則」を掲げてらっしゃいます。乙女と精力バツグン壮年男性の間をいったりきたりされている山本さん。でもこれもすべて、吉田さんを喜ばせるためなんだとさっきかかってきた電話でおっしゃってました（リアルタイム速報）。

→こちらが13日に届いた「他の人向け」の年賀状。吉田さんは特別なんだということを強調されてます。「ボクのすべてを知ってもらうため」。ラブレターみたいですね。

→誰でしょう？　アンザイ・グレイシーの異名を持つ格闘技ライター安西伸一さんから、これまた吉田豪あてに届いた年賀状です。宛名面のメッセージが異様に面白いのでそちらも掲載します。「こんな素晴らしい正月休みは、生涯初めてだね！」。吉田豪も「こういう面を雑誌に出してくれれば、もっと格闘技雑誌は面白くなる」と絶賛。グレイシー伝説復活を願う者のひとりとして、私もそう思います。いや、あの試合で気分が晴れたわけじゃないですよ。でも、そう思うだろ!?

→自由の女神がサルに！　日本の干支とアメリカの象徴が組み合わさった、素晴らしいセンスの年賀状です。誰から？　某団体の〝ジャンヌ・ダルク〟さんから、吉田豪に届いた素敵な年賀状でした。元気ですかーッ！

→プロレスとは関係ないのですが、あのロス疑惑三浦和義さんから吉田豪あてに届いた年賀状です。スゲェ。「多大なお世話になり」なんて書かれると、なんだかドキドキしますね。

↑ハルク・ホーガンから……ではなく、『FRIDAY』編集次長、仙波久幸さんからの年賀状です。『"プロレス少年心は人生すべての原点"です（笑）』。編集部にいらっしゃった時などに感じるのは、仙波さんは異様にアグレッシブということです。それこそプロレス会場を駆け回る少年のように。多分、自慢したい気持ちが少なからずあるように感じたので大きく載せてみました。

故・冬木弘道さんの秘書を務めていた、タレント久留須ゆみさん。「やったことある人間と、やったことない人間の差を見せたいと思います」という言葉とともに「芸能界のIWGP王者を目指します」という力強い宣言が、なぜかターザンとのツーショット写真で年賀状で届きました。IWGP王者を目指すのにその路線でいいのか、私には芸能界のことはよくわかりませんが、頑張ってください。チョロさんも熱いエールを送っていました。

↑桜庭和志さんからの年賀状。おや、どこかで見たことのあるイラスト。そうです、このページでもおなじみの中川画伯がイラストを担当しているのです！　うーん、カワイイ。

↑「今年こそ読者の裏をかく活字で勝負だ！　黄色い脳細胞をフルに活用せよ！」。年賀状から井上節は絶好調!!編集長こと、井上義啓さんです。今月のトークは相当面白いぞ。

↑ストロング小林さん、またの名を金剛さんです。新宿二丁目に住居をかまえる吉田豪にも年賀状を送ってくれました。ストロング小林さんインタビューは、『紙プロ』バックナンバー48号をチェック。必読です。

おとなしい普通の年賀状ですね。この名前でわかったあなたはプロレスマニア。そうです、ミスター高橋さんからの年賀状です。裏には「ミスター高橋」と一行。親切かつシンプル。

（大阪府・英加直純）

↓見果てぬ夢を追い続けるアントン総帥。こうして見るとお年をめした感がありますね。いやいや。今回も切り絵です。当然ですがいつも文字も切り絵なんですよ。スゴすぎ。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

今月は年賀状大特集でお届けしました。いかがだったでしょうか。ふつうのイラストや写真が全然載せられなくてごめんなさい。載せたいハガキも写真もいっぱいありました。今月は中川画伯のイラストさえ載せられない状態だったので、ボツになった人は来月を待ってください。それにしても『ほんとにジョーク』でも、『猪木祭り』ネタが非常に多かったですよ。さてさて、『紙プロ元気大学』では皆様のお便りを常時募集しています。毎月10日ごろまでにいただけると、掲載される率が非常に高くなります。『紙プロ』を読んで感じたこと、ご意見、大会の感想、お便りの他、イラスト、その他すべての宛先は

メールは radical@kamipro.com
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702
（株）ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部　紙プロ元気大学「入院先へ失礼します」係まで。
★☆★携帯サイト『紙プロHand』からの投稿も出来ます！★☆★

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！　プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載っちゃいます。匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです。

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第31回

コラコラ詐欺

なにがコラじゃ タコ、コラッ!!

今月イチバンおもしろかった作品とその作者

山形県天童市　クロコ・ミルコップ

★ミルコップさん、2回目の採用おめでとうございま～す!!　「アントン&辻結花」Tシャツ（M）。お楽しみに!!
★採用者の皆さん、『ほんとにジョーク』Tシャツの発送が遅くなってしまいスミマセンでした。今後気を付けます。
★ヒマこじらせてスランプど真ん中!!　ヴァ～!!　中川画伯の『ほんとにジョーク』にハガキを書こう!!　クァ～!!　抽選で5名様に「手づくり缶バッヂ」、採用された方には「手づくりTシャツ」をプレゼント!!　希望Tシャツはプロレスラーじゃなくてもノー問題です。いつ何時、誰のTシャツでもつくる!皆さん、ハガキをビッシビシ送ってください。
★IT革命です。毎日更新。犬とプロレスとイラストレーション。『中吉』http://chu-kichi.jp/

➲前号のTシャツ『ほんとにジョーク』チャンピオン・ベルト

応募方法

プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ（S･M･L･XL）をハガキに書いて下さい。〈例〉桜庭和志のXL

中村カタブツ君（40歳）、正月早々体が動かなくなり入院。原因は不明!

BEST OF THE スタピーコラム™

金ちゃんの *MONTHLY BOYA-KING COLUMN*

なんでよそ〜なるの!?

第6回

格闘技大晦日戦争〝男の中の男〟はニンジャとやった小路晃に決定!!

『紙プロ』読者のみなさん、あけましておめでとうございます。今年は自分にとって復活の年にしたいと思っているので、応援よろしくお願いします！

さて、大晦日はどこにも行かずに家でテレビを見たんだけど、やっぱり格闘技番組が3つもあると大変だよね。俺は『PRIDE』をビデオに録って、あとはチャンネル変えながら見てたんだけど、格闘技ファンもどこを見ていいか大変だったんじゃないかな。

今回はイチ視聴者として楽しませてもらったけど、3大会の中で一番印象に残ったのは、須藤元気君の入場シーンなんだよね。彼が入場してくるとき、チアガールの女の子が一緒に出てきたけど、その中の一人がバク転失敗して頭から落ちたじゃない？　あれが一番印象に残っちゃったよ（笑）。

で、試合前に俺が一番注目してたのは、大巨人ジャイアント・シルバ！　やっぱり俺もプロレスファンだからさ、「全盛期のアンドレこそ最強だ」っていう気持ちがあって、「仮想アンドレ」って感じでもの凄く期待してたんだよ。ホント、テレビ見ながら、あんなに応援したことなかったよ（笑）。

でも、実際やってみたらちょっとガッカリだったな〜。なんかあれ見たら「アンドレはそんなに強くなかったのかな」とか思っちゃって、寂しくなっちゃったよね。まぁ、ローキック一辺倒で闘ったヒーリングを見て、アンドレ相手にヒザをガンガン蹴った前田さんの戦法が正しかったと改めて感じたけどね。きっと前田さんは、あの試合を見ながら「こんなもん、俺が20年前にやっとるやんけ！」とか言ってるんじゃないかな（笑）。

『PRIDE・男祭り』は日本人選手がたくさん出てみんな良かったと思うけど、その中でも「男の中の男」と言えば、やっぱり小路晃だよね。彼は偉いよ！　だって、この前『武士道』で（マウリシオ・）ショーグンとやって、今度は（ムリーロ・）ニンジャででしょ？　しかも、カードが決まったの1週間前だっていうんだから、ホント彼こそ男の中の男だよ！

試合は負けたけど、ニンジャって、あのヒカルド・アローナが「2度とやりたくない」って言うくらいのやつだからね。そんなヤツとやるんだから、『男祭り』で一番〝男〟だったのは小路晃。これは間違いないよ！

そんな感じで俺の2003年は終わったんだけど、今年は俺も復活して大暴れしたいね。ようやくドクターから寝技の練習やっていいって許可が出たんで、正月からもうレスリングの練習始めて、それからちゃんと鹿島神社、香取神社に初詣にも行ってきたよ。

ショーグン、ニンジャだけでなく、スティーブリング、パウロ・フィリォ、ジェレミー・ホーンなど、地味な実力者を一手に引き受けている小路。結果はなかなか出ないが、今年こそ報われてほしい!

リングス時代は毎年4日に選手が前田さんの家に集まって、鹿島と香取に初詣するのが恒例で、「選手全員、朝5時にスーツ着て集まれ」って言われてね。正月の朝5時にスーツだよ！　それをリングスにいた4年間、毎年行ってたんだけど、リングスなくなってからここ2、3年行ってなかったんだよ。でも、今年は復帰に賭けてるから久々に行こうと思って行ってきたよ。

リングス時代は前田さんが行くと、特別室に案内されてさ、饅頭とお茶をごちそうになって、ありがたい説法を聞いて、祈祷してもらってたんだよね。それから前田さんって鹿島神宮行くと、最後にいっつもおみくじ引いてたんだよ。ところが、ある年「大凶」が出ちゃってさ、前田さんもショック受けたみたいで、帰りに鳥居から駐車場まで戻る間に「お前らゴミ拾え！」って言って、選手みんなでゴミ拾いして歩いたこともあったよ（笑）。

前田さんが「大凶」っていうことはリングスが大凶ってことでしょ？　だから、その年は離脱、引き抜き、裁判……とにかくいろいろありましたよ（苦笑）。俺はそれが怖いからおみくじは引かなかったけどね。

とにかく、今年は初詣も行ったし、いい年にしたいよね。では、今年もよろしくお願いします！　2004年が皆さんにとっても、良い年でありますように。

Kanehara Hiromitsu

2月11日（祝）、川崎で打撃セミナーを行います。詳しくはホームページ参照！
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

1・24ホーキが勝ったら、
あの人達はどうなるのかな

花くまゆうさく リングの汁 RADICAL

www.HANAKUMA.com

私はK-1を10年もやってませんよ
TOA

視聴率なんてどうでもいいことだけど、『イノキボンバイエ』だけ数字低かってオチ、最高！　数字取れると思い大金出してすぐ『猪木祭り』に食いついた日テレは、まさに「あわてる乞食はもらいがすくない」。日テレ、余計なことしないでもう手ひいてくれ。ノアとプロレスだけやっててくれ。見ないけど。

でも最高だったな『猪木祭り』、最高で最低。12月中ずっと番宣で「プロレス最強！」ってやってて、いざ始まると安田負けで始まり、永田の最高のオチ。こちらの期待どうりに負けてくれた永田ありがとう。日テレは、プロレス最強ってプロレスを前面に出したコンセプトが失敗だったのわかってんのかな。それで数字取れるんなら、いまプロレス人気こんなに落ちてないでしょ。若花田がかわいくやさしい声で「（永田は）グラウンドでいけば、（ヒョードルに）勝てた」とか気持ち悪いんだよ。そんなこと聞いて誰が喜ぶ？

日テレにはオエッときたが、ジャイアント・シルバには少しグッときた。プロレスラーとしては、ジャイアント・シルバのほうが必死さが伝わりがんばってたよ。上取ってもあっさりバック取られ負けていく姿は、北尾vsオタービオの再現だったけど。

『プライド』はまず美濃輪の試合流したが、美濃輪、今回ちと後ろ髪長すぎでは？　タイツがいつもより小さいからそう見えるのかしら？　なんか見た目が変。まるで、『週プロ』とかにいそうな記者みたい。ビジュアルでリアルプロレスラー目指さなくてもいいと思う。美濃輪にプロレスラーの恐ろしさ感じたのは、ウォーズでの山崎戦から菊田戦あたりまで。田村戦でガクッと落ちたけど、せっかく『プライド』出るんなら次は同じ階級の人とあたって、本来の魅力を出してほしい。

その後『プライド』で『ハッスル』のコントが始まったけど、『レッスル1』であれだけテロップ使ってたんだから、今回も「これは『ハッスル1』というプロレスの宣伝コントです」ぐらいのテロップ流してほしかったな。

そして吉田vsホイス。入場ん時に、チャンネル変えて戻ったらホイスが裸なんでビックリ！　一番びっくりしたのは吉田か？　柔道チャンプで体格も上な相手なら、ホイスが脱ぐのもしかたないか。前回落ちてはないけど、あれだけ圧倒されてたのに、今回やけに強気なコメントばかりしてるホイスに、なんでそんなに自信あるんだろうと不思議だったのだが、こういうことだったのか。今回の試合は見事にホイスのゲームで見ごたえあった。今回吉田は相当ホイスをなめてたので次やったらわからないけどね。でも次あるんなら吉田と同体格の柔術家でやってほしいな。お互いギつけて。

吉田vsホイスに見入ってるうちに、須藤元気vsバタービーンの放送は終ってたみたい。あとで見たら素晴らしいじゃないですか。ひとつで放送していれば、須藤元気の素晴らしさがもっと茶の間に伝わってたのに、これもすべて日テレが悪い！　まちがいない。

バーネットvsシュルト見てるうちに、フジは坂田vsダニエル始まり忙しい。フジはこの試合にまったく小池栄子を絡めないのが意外だな。今の日テレならとことん絡めてそうなのに。そんなこと思ってるうちに、バーネットのフィニッシュを見逃してしまった。それにしても、柴田の「バーネットを新日だと思ってる奴はバカだ」ってコメントいいね。

村上vsレコ始まり、TBSは中邑、フジは近藤登場とどれも見てえ。村上は太ったなあ、中邑はパスしないなあ、近藤強え〜な〜、となあなあ忙しいよ。これもすべて日テレのせいだ、まちがいない。それにしても近藤の得体の知れない強さ爆発。リアルジャンボ鶴田は、実在した？

そして本日最大の目玉　日テレによると新日最強の永田登場。猪木に命令されて仕方なく出るのはかわいそうだと思うが、日テレがプロレス最強ってうるさいから、ぶざまに負けてほしいなあと念力を画面へ送った。これが私的にメインだったので、藤田vsボクサーはどうでもよく、あとは曙と桜庭vsノゲ弟。目ひんむいた曙の奥さん見ると、条件反射的に曙がかわいそうになり、「残念ですね〜」とコメントするサダハルンバのコメントが悪魔の声に聞こえた。

大トリの桜庭。普通に一本取られるかもしれないノゲイラ相手に、本来出るはずでないのにこうして駆り出され闘う桜庭の姿を見て、「やはりすべては日テレが悪い、まちがいない」と思いこの年を終えました。

アツい！ヤバい！
まちがいない！
元祖・まちがいない
スーパーフリー和田サン

高田さんの泣き虫10万部かあ
ある プロレスラー
よーし オレも将来 暴露本出して もうけよう！
バンプ
しかし、将来 そんな事は、まったく 暴露にならなかった
プロレスの勝ち負け 決まってるなんて だれでも しってるよ
そんな本 売れないね
企画書
出版社にて

Hanakuma Yuusaku

そういや、イズを見かけなかったけど、いたの？　ジャングルファイト以降、見てないような気がする。

元『SRS・DX』

橋本宗洋のぶらり格闘一人旅 タイ編

こんな一回きりの記事がコラムのページに載っちゃって申し訳ないというか、ボク自身『業☆勝ちます』が読みたい気持ちでいっぱいなのだが、今回はお休みということなのでしばしお付き合い願いたい。

昨年12月26日、タイ・バンコクのショッピングモール『フューチャーパーク・ランシット』の特設会場で行われた女子ムエタイの試合を取材してきた。日本からはWINDY智美、NORIKO、渡邊久江の3選手が出場、それぞれインターナショナル女子ムエタイ王座決定戦に挑んだこの大会。テレビで生中継もされる、かなり大きなイベントである。

この大会にそこまでの注目度をもたらしたのは、渡邊の対戦相手であるナムワンノーイ・サックブンマーという選手だ。実は彼女、アイドルグループ『4teen』のメンバーだという。最初にその話を聞いた時は「まあ『キッスの世界』みたいなもんでしょ」と思っていたのだが、驚いたことに試合はもちろん前日の公開計量までテレビほぼ全局が取材するほどのメジャーアイドル。

しかもこのアイドル、計量前にカラオケで持ち歌を披露（しかも5曲くらい）。はっきり言って試合を控えた緊張感はゼロ。16歳という年齢以上に童顔だし、22戦18勝2敗2分という戦績を聞いても、とてもじゃないが強そうには見えない。渡邊も「油断はしないようにします」と言ってはいたものの、ちょっと拍子抜けした様子だった。

試合当日。一番手として登場したWINDYはダーオプラスック・ペットオパーに完封されて判定負け。NORIKOもヌアシアン・チョー・インスワンに勝ったものの、しつこい首相撲に再三苦しめられた。やっぱりムエタイは強い。そしてそれは、アイドルファイターも例外ではなかった。

メインで行われた渡邊vsナムワンノーイ。午後4時に始まった大会は、この試合の時にちょうど夕暮れ時を迎えた。夕陽をバックに殴り合い、蹴り合う女の子が2人……。気が付けば、応援ボードを手にしたナムワンノーイの〝おっかけ〟たちがリングサイドにひしめきあっている。心なしかジージャン率も高い彼らにもみくちゃにされ、頭がクラクラしながらも必死でシャッターを押した。

渡邊はナムワンノーイの鋭いミドルと抜群の距離感に、なかなかペースを掴むことができない。公開計量での無邪気な笑顔は、ありゃ罠だったのか？　そう思えるほどに〝アイドル〟は強くてうまかった。それでも、渡邊は気力を振り絞って前進、ローキックを効かせ、パンチの連打でロープ際に追い詰めてみせる。

一進一退のまま試合は終了。どう転んでもおかしくないジャッジの採点は、2-1の僅差で渡邊を支持した。渡邊は格闘技を始めて、まだたったの2年。それでタイのベルトを獲得したんだから大快挙だ。

ベルトを巻き、セコンドと喜びを分かち合う渡邊……と、そこに歌声が響き始める。ナムワンノーイだった。勝者を尻目に、マイクを握った敗者がカメラを独占して歌っていた。これがプロ根性、アイドル魂ってヤツか。いや、というより文化の違いだろう。アイドルが当然のようにガチンコで闘い、負けても平気で持ち歌を歌う。日本の基準からしたらデタラメでしかないのだが、そこで培われるいい意味での無頓着さは、試合における精神的タフさにも通じるものがあるはずだ。

日本人選手に、あれだけのタフさがあるだろうか。全てが整備された日本の大会は、デタラメとは無縁だしな。そんなことを考えながら取材を終えた。その数日後、ボクは大晦日の神戸でタイをも超える壮絶なデタラメっぷりを目の当たりにすることになるのだが、それはまた別の話ということで。

これが噂のアイドルグループ、タイで大人気の『4teen』。CDアルバムやPV集DVDはそこかしこのショップで見かけたし、試合会場でもポスターや販促グッズが配布されていた。最年少メンバーはモー娘。もビックリ、なんと8歳！

ムエタイ独特の間合いに苦しんだ渡邊だったが、懸命なローキックとパンチのラッシュで見事に勝利しベルトを獲得。初の海外遠征にもかかわらず「逆にやりやすい。タイに住みたいです」と持ち前のマイペースぶりを発揮していた。

タイで大暴れの
渡邊&WINDYも出場!
3・7『Girls SHOCK IV』
開催決定!!
午後1時開場／午後2時開始
東京・ニューピアホール
JR「浜松町」駅より徒歩7分、
ゆりかもめ「竹芝」駅より徒歩2分
◆出場予定選手
渡邊久江、グレイシャアAki、WINDY智美、妃口慧、彩丘亜紗子ほか
【問】Girls SHOCK事務局
TEL.03-5215-2641

渡邊はワイクーも実に堂々とこなしていた。試合前日、あのサムゴーにちょっと教わっただけだったんだが。ちなみにコスチュームはスポンサーのロゴ入りで、主催者が用意したもの。

タイスタイルには慣れているNORIKOだが、首相撲からの投げに手こずり、後半はVTばりにグラウンドでもつれあう場面も。それでもパワーを活かしたパンチ攻勢で判定をもぎ取った。

スポンサーの都合により、なぜか“TWINS智美”にリングネームを変更されたWINDY。試合もパンチを封じられ、首相撲に翻弄されて完敗。段取りが見えない中での第1試合というのも逆風になった。

●橋本宗洋（はしもと・のりひろ）　1972年茨城県出身。「SRS・DX」編集部でいろいろ担当、そして休刊。谷川さんに今後の相談をしたかったが多忙につき電話もロクにつながらず、なんとなくフリーに。

原タコヤキ君の 大阪プロレスファン通信

ナニワの中のナニワな人たちがお送りするダイナマイトな関西コラム

まいど！　昨年末は格闘技界のみならず、巷の話題を独占した曙のK-1デビューですが、今回はその曙の名付け親が大阪にいらっしゃるということで緊急キャッチ！　関西コラムでありながら、デルフィンと早坂好恵の結婚には目もくれず、ほな行きまっせ〜

★

——うわー、お相撲さんや芸能人のサインがいっぱいありますねえ！

萩原　お陰さまで皆さんにかわいがっていただいて（ニッコリ）。

——プロレスラーの写真もありますね。あ、藤波さんや！

萩原　藤波さんとは、先にかおり夫人と知り合っていまして、結婚される時、紹介されたんですよ。

見てみ！　若かりし頃のドラゴンwithかおり夫人。

——あ、かおり夫人は大阪の方ですもんね。

萩原　それでお会いしたら、とても好青年で素晴らしい方だと思いましたよ。プロレスラーの中でも藤波さんとは特に親しくさせていただいております。私はどちらかと言えば、大相撲の方が親しい方が多いのですが、藤波さんとは昔、選手をご紹介したことがありまして、えーっと……。

——もしかして、当時、藤波さんが団体内独立したドラゴン・ボンバーズの南海龍ですか？

萩原　そうですそうです。

——そういえばあの頃、藤波さんは部屋別制度をしきりに提唱してましたけど、あれはご主人のアドバイスだったのですか？

萩原　アドバイスだなんてとんでもない。ただ、私は藤波さんにいろいろと大相撲のシステムを聞かれて、お教えしただけですよ。

——ということで、今日はご主人に、曙選手のお話をいろいろとお聞きしたいと思います。まず、ご主人と曙選手の出会いはいつ頃ですか？

萩原　もう新弟子の頃ですね。昭和63年の2月です。この店に東関親方と一緒に来られたんです。

——第一印象はどんな感じでしたか？

萩原　やっぱり身長が高いのが印象的でしたね。よく細い細いと言われてましたが、写真を見るとそうでもないですよ（と写真を取り出す）。

——意外と体もできてますね。

萩原　それでまず四股名を考えてほしいと親方に言っていただいたので、大海洋（たいかいひろし）と付けたのです。それで初土俵を踏んだのですが、行司さんから「漢字は違うけど、同じ呼び名の力士がいるので、できれば変えてください」と言われたんですよ。それでもう一度考えて、出てきたのが曙だったんです。

——しかし、東関親方から四股名の命名を頼まれるなんて、凄いですよね。

萩原　私は後援会にも入っているわけでもなく、ただ大相撲が発展するように応援したいだけなんですが、昭和29年に潮錦関とお付き合いさせていただくようになってから、なにかと相撲関係者の方と親しくさせていただいているんですよ。

——曙という名前はどういう意味でお付けになったんですか？

萩原　やはりハワイ出身ということで、大きな海から朝日が昇るようなイメージで付けたんです。サンライズという意味ですね。

——やはり当時から他の新弟子とは違ってましたか？

萩原　ああ、やはり全然違いましたねえ。まずなにより向上心がありましたね。思ったことはすぐに表現するというか行動するというか。新弟子ですが堂々としていた記憶がありますね。

——思ったらすぐに行動するというのは、まさに今回のK-1デビューにも言えますよね。

萩原　はい。やはり今回は言いにくかったのでしょうか、本人ではなく、奥さんのお母さんからK-1のリングに上がるということを聞いたのですが、私は正直難しいだろうなというのがありましたよ。全然違う競技でしょう。餅は餅屋だと思います。

——ご主人は当日、会場には行かれたのですか？

萩原　いえ、仕事もありましたので行けませんでしたが、（曙は）最前列の席を3席用意してくださって。結局はテレビで観戦しました。もう勝ってほしいと祈るばかりでしたね。結果はああなってしまいましたが、でも前に出る姿は見られたと思います。やはり時間がほしいですね。それに膝がどうしても悪いじゃないですか。もっと体重を落とさないと難しいでしょうね。

——では最後に今後の曙選手に対してお願いします！

萩原　一度決めてしまったことですから、あとは精一杯頑張ってほしいと思います。横綱まで行った方ですからね。……こんな感じでよろしいのでしょうか？

——今日はどうもありがとうございました！

ザ・ちゃんこ!!　萩屋本場所　関西にはおいしいちゃんこ屋さんが少ないのだが、ここのちゃんこは絶品！　通ぶって言うと素材と素材がケンカしないというか。ホンマ、死ぬまでに一度は来てちょうだい！　毎週月曜日と第三日曜日が定休日です（大阪市天王寺区大道1-14-23／TEL 06-6779-5446）。

5th. GUEST

■萩原常弘（はぎはら・つねひろ）

ザ・ちゃんこ!!　萩屋本場所店主。大相撲関係者、芸能人の間では知らぬ者がいないというほど有名なちゃんこ屋さんを営まれているご主人。あまりに謙虚でいらっしゃるので、こちらが恐縮してしまいます。

タコヤキ日記

12.3　地元関西ということで、奥さんと『イノキボンバイエ』へ。なにをおいてもこれだけは言うとくで！　会場の暖房はどないなっとんねん！　全然暖房完備ちゃうやんけ！　リング上さながらの寒さに、震えながら観戦。関係者と話す機会があったのだけど、やはり招待券をバラまいていたそう。なるほど、確かにそこそこは入っている。最後のカウントダウンまでいようと思ったが、本当に風邪をひきそうだったので、藤田の試合が終わったところで急いで帰宅。で、おうちでK-1と『PRIDE』をザッピング。大晦日のMVPはサクだと思います。

1.4　仕事初めということで各所にご挨拶。特に必要ないのだが、なぜか島田裕二氏に電話。「お、悪のレフェリー！」とからかってやると、「いやあ、俺が失神している間に驚きだよね〜！」。……相次いで暴露本がリリースされる昨今、意外とこの人が一番プロレスを守っているのかもしれない。

1.5　『ハッスル1』をPPV観戦。あんまり言いたくないけど、『W-1』よりひどいと思います。深夜の新日本のドーム大会が全然よく見えたくらいやもん。

1.12　角田信朗さんからお誘いをうけて晩御飯会。いつもよくしていただいてまーす。

原タコヤキ君　ちっちゃい頃の『紙プロ』編集者。前田日明デコピン事件やダミー編集長就任が有名（?）。現在は地元大阪でテレビの制作会社に勤務。いつも井上きびだんご君（Tシャツアーティスト）の動向を気にしている。

"歌うシュート活字王"狂気の連載!!

タダシ☆タナカの『シュート活字劇場』

マット界舞台裏の裏(ウラ)

第6回

03年総括、そしてMVPは近藤有己に

北米ショービジネスの仕事始めは、ブリトニー・スピアーズが幼馴染とのラスベガス結婚が「本気か冗談か？」というアングルからスタートした。

芸能ニュースだけでなく、一般にも取り上げられたのだから素晴らしい。大衆感情操作（マスマニュピィレーション）こそが世界を明るくするのだとしたら、まだまだ日本マット界にはアイデアマンが不足していることになる。

Yahooなどのインターネットの検索件数では、ブリトニーやWWFは近年ずっとトップ10の人気を維持してきた。旧WWFが99年秋に株式公開した前後の数年間など、当時最強のプロバイダーだったAOLでは、WWFというキーワードの検索回数がダントツの一位だった。深夜放送に降格して久しい日本の状況からすれば、信じられないような世間への浸透ぶりが裏付けられたデータのひとつでもある。

それに比べれば、日本マット界の03年は転落を絵に描いたような悲惨な一年だった。プロレスの選手や団体名がネット検索の上位に入ったことなど皆無だろう。騙しの聖地ラスベガスでのブリトニーの広報ネタはファンタジーを与えてくれて楽しいが、日本の団体はひとつとして面白いストーリー展開も抗争カードも提供できなかった。崩壊寸前の団体の末期症状をアングルにした笑えないものばかりで、実情は余りにも暗かった。

一方、格闘技界も森下直人PRIDE社長の自殺からはじまり、K-1プロデューサー石井和義の脱税逮捕と続いたのだから、何をやってもコケてしまうかのようだった。ところが『PRIDE』はミルコ獲得や、吉田秀彦の活躍で息を吹き返し、K-1もマイク・タイソンや曙を担ぎ出すことで話題を振りまき、年末は一般紙も大晦日の3大興行戦争をこぞってとりあげるなど社会現象化して、格闘技ブームはひとつの頂点を迎えた。93年からシュート革命が勃発し、K-1、パンクラス、UFCが格闘技興行を偶然同時に発起したわけだから、十周年にして第一章は完結したといえるだろう。

その大晦日の戦争で、一般紙が『K-1プレミアム Dynamite!!』の曙vsボブ・サップ戦を取り上げるのは当然だが、専門誌の読者の多くは『猪木祭り』の舞台裏のゴタゴタを楽しみ、中身では『PRIDE 男祭り』に注目した。目玉扱いの吉田秀彦対ホイス・グレイシーの決着戦は、主催者側の予想と期待を裏切って吉田は大苦戦。ルール上引き分けたものの実質はホイスの勝利であった。この柔術家は細身の貧弱な肉体を初めて公開する戦術を用いて、総合格闘技十周年の大舞台で元祖の意地を見せ付けたのだ。

ただし前田日明、高田延彦、船木誠勝のU系格闘三兄弟に思い入れのある世代のファンなら、試合順で近藤有己、田村潔司、桜庭和志と続いた新世代UWF三銃士の揃い踏みこそが、感慨が特に大きかったのではなかろうか？　フジテレビの地上波放送では、番組スポンサーのPlaystation2がちょうど広告を入れていたソフト・タイトルのように、「仮面ライダー正義の系譜」がUWF革命の正しさを証明した一夜であった。「プロレスは無敵！」を宣言したUWFオタクのジョシュ・バーネットの裏番組での活躍を含めて、格闘技とプロレスがひとつのルーツの上に重なりあうという皆既日食現象を起こしたのである。

トリを務めた桜庭は、ケガに加えカードが二転三転する最悪の状況下で、結果こそ判定負けではあったが、まさしく「男の中の男」を体現する闘いを見せた。田村も総合の模範試合ともいえるファイトを披露し歴史的大会に花を添えた。しかし一番輝いていたのは近藤だろう。12kg。体重差のあるブラジル柔術界のドンことマリオ・スペイヒーを血祭りにあげ、観戦歴の浅い層が多いPRIDEファンのド胆を抜くことによって老舗パンクラスの歴史の重みを知らしめたからである。実生活でも大型バイクを乗りこなす仮面ライダー近藤が、UWFの正当な後継者であることを世間が悟ったカードでもあった。

5月18日の横浜文体で、絶対不利を予想されながら王者・菊田早苗に挑戦して引き分けに持ち込んだ攻防こそ、年間ベスト試合に上げる関係者やマニアは多い。イメージ戦略による「自称400戦無敗」とは違い、近藤の9年間の歴史はすべてビデオに記録されている。60戦近い過酷な戦いの相手は一流の格闘家ばかり。その中で7割という驚異的な勝率を残してきた本物の格闘技の達人が、ようやくパンクラスのエースから、日本マット界の切り札となった瞬間でもあった。

ガチンコ興行の歴史は約35年前に沢村忠が日本発のキックボクシングという名称の未知の競技を始めたことにさかのぼる。「打倒タイ」を目標に掲げたキックは、十年前にK-1が誕生して以来、アントニオ猪木のIWGP世界統一構想のスケールをも上回り、いかなるプロレス団体よりも大きな組織となっていった。格闘技の攻勢は、ついには瞬間視聴率で国民行事の『紅白歌合戦』をも抜き去るに至った。そして沢村が元祖となる〝真空飛びヒザ蹴り〟を武器とする近藤が、正義の系譜を伝承した。

2004年、もはやミドル級王者ヴァンダレイ・シウバとの戦いは避けられない。

2004年最も期待されるファイター、近藤有己。今年はシウバとのミドル級タイトル戦を始め、夢のカードが目白押しとなりそうだ。

ザ・検証

皆さん、大晦日はいかが、お過ごしでしたか？　ボクは年が明けるまで混乱が続いた『猪木祭り』に行ってました。大会終了後はホテルで盛大なパーティーを開催した『猪木祭り』。会場には闘い終わった選手だけでなくボンバイエガールズの小倉優子らの姿も。ボクは迷わずミヤトビッチと記念撮影しました。イエイッ！

【今月の検証　椎名基樹】

がんばれ総合格闘技

いまさらではありますが、明けましておめでとうございます。昨年中は恥ずかしいことの数々、今はただ反省の毎日を過ごしております。今年も、ご贔屓、お引き立てのほど、なにとぞよろしくお願いします。

瀬戸内海より　　椎名基樹

と、いうことで、日本の新年は、暴力の嵐の後に、朝日を迎えたのであった。多くの一般的な人々はモナ王にチャドが、みっともなくKOされる姿で。格闘技ファンは、日本格闘技界のエースと（弟）が《ノゲイラには（大）（小）（弟）の3種類がある》作り出す、スピードと緊張感の中で。そして、信者は「元気ですかおじさん」お得意の、不手際な世界で。それぞれ違うが、多くの人が一様に年末らしくない、年末を過ごした。

俺自身はというと、やはり迷わず『PRIDE』をチョイスしたのであった。そうなると、暴力がより純化された『PRIDE』である。いつものようにテレビ画面に向かい、子供が見たら泣き出すような、言葉を発しながらエキサイトしまくりで見ることとなり、もっとも年末らしくない年末を過ごすチョイスとなった。さらに、『PRIDE』には当然思い入れも強く、どう考えても他人事なのに、他人事とは思えず、このバブリーな格闘戦争の中、様々な考えが浮かんでは消え悶々とし、まったりとした幸福な年末感は、ついに微塵もなくなるのであった。俺って本当にバカだね。イエイッ！

その中でも桜庭vsノゲイラ（弟）は興奮と複雑な思いが入り交じる、試合であった。まず、ノゲイラが寝技でなく、打撃で勝負してきたのには驚かされた。と、同時に「なるほど～」と膝を打った。桜庭の打撃は、センス抜群の自己流を完成させている。左のハイ、左ローリングソバット、飛び込んで行ってのショートフックと他の人にはない、際だった攻撃もある。しかし、打撃の蓄積で相手をKOする類ではなく、1発KOはあるかもしれないが、あくまでタックルに繋げるものだ。さらに、ガードは甘く運動神経で、打撃をかわしている印象がある。一方ノゲイラは、正にキックボクシング。正統派である。さらに身長差も10cmあり、打撃では相当有利だ。寝技でなく、打撃でいった方がリスクが少ないと判断したのもうなずける。しかし、柔術家が、いわばミルコ戦術をとるとは、プライドを捨て、絶対に勝ちにいったのがわかる。そこに桜庭も少し虚を突かれた部分もあっただろう（ホイスのギなしほどではないが）。ノゲイラにとって大晦日はビッグチャンスだったのだ。

結果・桜庭は負けたワケだが、しかしなぜ桜庭が、日本の格闘技界の宝が、ビッグチャンスを与えなければならないのだろう？　この間、やっとの思いでランデルマンから、久々の1勝を上げたばかりなのに、もう黒星に変わってしまった。日本唯一の本物のスターが、アホ臭い興行戦争の犠牲になってしまったように写るのは、俺だけではないだろう。

しかし、桜庭の道は過酷だ。もしかしたら、桜庭の試合を見られるのは、もうそんなにたくさんないのかもしれない。桜庭の試合の思い出は、そのままVTに夢中になった思い出なので、桜庭の最近の試合は、なんか胸に迫るね。そういったところが、『紙プロ』大賞で俺がミルコvsノゲイラでなく、桜庭戦を選んだ理由です。に、しても桜庭がいなくなったら、変わりなんてどこにもいないけどね。桜庭の終わりが、『PRIDE』の終わりになる可能性もあると思うけど……。

その他、大晦日にあった試合で印象に残ったのは、パンクラス・近藤のビックリしちゃうくらいの強さ。あとは、ジョシュの試合ぶりは「スゲー！」と唸らされた。2m10cmを超えるシュルトに、ガンガン足関を狙うスタイルは他に見あたらず、VTでUWFスタイルを体現している唯一の男かもしれない。最後はキッチリ十字を取っちゃうし。正直、疑心暗鬼なところもあったのだが、この試合でジョシュは、ヒョードル、ノゲイラ、ミルコの3強に確実に割って入る存在だと確信。

しかし、今回の大晦日のありさまを見て、俺は、今まで青臭い夢を見ていたなあと、なんとなく思った。それは、日本で総合格闘技が最強を決めるスポーツとして、完成されて、世界に発信していくんじゃないかという夢だ。しかし、バターの塊を、少しづつみんなで削りとるような、ありさまを見て、「ああ、誰も未来のことなんて考えてないんだな」と感じた。

『PRIDE』の地上波放送で、なによりショックだったのは、一番楽しみにしていた、桜井〝マッハ〟速人vs高瀬大樹がまったく放送されなかったことだ。しょーがないので、後日友人にPPVの録画を見せてもらった。二人ともちょっと硬くなっていたように見えたが、ハイレベルな技術と意地がぶつかり合う、いい試合だった。そしてなにより印象に残ったのが、試合後の闘った両者、そしてセコンド両陣営のさわやかさだ。特に舌戦を繰り広げていた、長南とマッハのコミニュケーションの取り方が、あたかも仲間のように見えた。また青臭い夢を見たくなるような、そんな試合とその後の光景であった。

椎名基樹が選ぶ2003年のMVPは桜庭和志。2004年は『男祭り』で実現間近までいった田村戦が見られるのか？

【今月の検証　せき詩郎】争い

石井館長は、道場生を行きつけのクラブ「ゴールド」の個室に集めた。バブリーなクラブだ。ここで、解散についての話を石井館長は始めようとした。

俺は、マネージャーに言われるままに、このクラブに来たのだが、解散の話をこのクラブの個室で酒を飲みながらやるというので、完全にキレた。怒りが込み上げるなんてもんじゃなかった。いきなりテーブルをひっくり返していた。許せなかった。アマチュア時代から何年もやってきた正道会館をこんなバブリーなクラブの個室で解散させられるのかと思うと。しかも、酒を飲みながら。俺は絶対にこういうことダメ。筋が通らないもの。

高田がリングに上がり、マイクを持つ。いわゆる『高田劇場』だかいうものが始まる。

今回この高田劇場にはひとりのゲストが登場するはずだった。高田が一通り話し終えた後、そのゲストをリング上に呼び、マイクを渡し、挨拶をしてもらうはずだった。

しかし、高田はこの段取りをすっかり忘れてしまったのか、それとも話しすぎてしまったために時間が押して、自分の判断で予定を変更してしまったのか、ゲストの挨拶を省き、劇場に幕を下ろそうとしたのだ。

その時一人の男が高田の側へと近づいて行った。この男こそ挨拶するはずだったゲストであった。前日から何を話そうか考え、自分の出番をずっと待っていた野坂昭如であった。

高田に近づいた野坂はいきなりフックを一発はなった！

これに高田もすかさず応戦する。元はといえば高田に非があるのだが、頭に血が上り持っていたマイクで野坂の頭を殴り返した。会場に響き渡るマイクと頭が衝突した鈍い音……。

などということは行われるわけもなく、年末の男祭りでの高田劇場はいつものようにチャンネルを換える絶好の機会、もしくはトイレタイムとなった。

「なんで、解散って大事な話、酒飲んで、クラブの個室でやんなきゃなんねえんだよ？」

石井館長に怒りをぶつけた。もう殴っても構わないとさえ思った。奴にしてみれば、酒で、俺の心を懐柔させたかったのかもしれない。

石井館長は、俺がテーブルをひっくり返すのを見て、「マズった」という顔をした。正面からは、俺のことを見なかった。俺は石井館長にたたみかけるように、

「ここで、解散の話するなら帰る。ただ、ここでお前と酒飲むだけだったら、いるよ。酒飲んで、おねえちゃんと遊ぶだけならいるよ。だけど、解散の話するんだったら、時間と場所違うんじゃねえか？」

石井館長に言葉をぶつけているうちにまた、怒りが込み上げてきた。

そんな高田に関する一冊の本が昨年末発売された。もちろん読んではいない。私は星新一のショートショート以上の長いものが読めないのだから仕方がない。集中力のない子供でも楽しく読めるように漫画でわかりやすく書かれているのなら話は別なのだが。

私は最初、この本は暴露本だという噂を聞いたのだが、のちに暴露本という類いのものではないと意見が大多数を占めるようになっていた。読んでいないのだから実際のところどうなのかは知らない。だが、タイトルが『泣き虫』だし、暴露本ではないだろう。暴露本なら『高田延彦のぜ～んぶ言っちゃうぞ！　プロレス界』みたいなタイトルになるはずだからだ。タイトルから察するに、高田がトロッコで夢中に遊んでいるうちに、気づくと知らない場所に来ていて、しかも日が暮れてきたために、突如不安になって泣きそうな状態のまま家まで走った話なんかが書いてあるのかもしれないし、それ以外が書かれているのかもしれない。

そして、もう怒りも起きなくなったのは、そんな風に石井館長は自分で（K-1を）パッケージしておきながら、自らの管理が足りずに声を壊したことだ。しかも、興行中のマイクの時に、「今日はゴメン。ここんとこ忙しくて声つぶしちゃった。みんなごめん」なんて言い訳ばかりしていた。これには、あきれた。ステージにおいてあるペットボトルでいつ石井館長を後ろから殴ってやろうかと思っていたくらいだ。

――疲れているのは、お前だけじゃねえよ、石井館長。みんな一緒なんだよ！

これが俺が言いたかった正直な気持ち。

そして、石井館長は声がガラガラになった。こうなると、俺も人間だから心配になってくる。早く治したほうがいいんじゃないか、そのためには休養をできるだけ取った方がいいんじゃないかという具合に。

ところが石井館長は違った。俺が家族と焼肉屋で食事していると、たまたま石井館長が現れた。てっきり、休養していると思ったのに。さすがに石井館長はバツが悪そうになった。その日は病院まで行っているのだから、余計そうだっただろう。俺と会ってしまったことが、何かに襲われるという感覚に陥ったのだろうか、

「あのー、肉食って、あのー、精つけようかと思って」

完全に萎縮してしゃべり出した。石井館長はこういう奴だったのだ。

『泣き虫』とほぼ同時期に発売された佐竹の本。これは暴露本と言っても差支えのない本なのであろう。先程から引用しているように、佐竹と石井館長の確執を中心に書かれている。まさか石井館長が正道会館を解散しようとしていたなんて!?　衝撃的な事実が満載である……。

と思ったら、間違って佐竹の本じゃなくて高杢の本を引用しちゃってた！　大変、大変！　急いで書き直さないと！

しかし、私には時間がない。今月末に『ポケモン』と『逆転裁判３』が発売される。

最近買ったは良いが最後までやっていないゲームがたまっているのだが、この二つのゲームが出てしまうと、またしてもやる暇がなくなってしまう。やるなら今しかない。黒板五郎風に言うと「♪やるならいましかねえ～」だ。私は部屋に積みあがっているギャルゲーをひとつひとついつになく真剣に終わらせていかないといけない。なので書き直しはまた機会があればその時に必ずやることにしよう。

そういうわけで今回の検証は「争い」をテーマに書いてみたのだが、今月末になんとあのsham69が来日するらしい！　ということは、佐竹と石井館長の争いや、高杢とフミヤの争いを見た彼らが、涙を流し『IF THE KIDS ARE UNITED』を演奏すること間違いなし。するとみんな仲直りするはず！　そういうわけで1月31日は幕張に行くしかない。

おまけ

越中が個人事務所『K2』を構えた記念として私が勝手にTシャツを作ったので、興味ある人は買ってみましょうというお知らせです。詳しくはhttp://www.heiseiishingun.com/で。デザインは高確率で多少変更になります。

▼BACK

↓尻爆弾↓

▼FRONT

SAMURAI

KOSHINAKA

RADICAL CALENDAR

01 January

27 TUE.
全女■千葉・船橋運動公園体育館（18:30）

28 WED.
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
闘龍門■山口・山口リフレッシュパーク総合体育館（18:30）
DDT■東京・渋谷Club ATOM（19:00）

29 THU.
闘龍門■広島・佐伯区スポーツセンター（18:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（19:00）

30 FRI.
ZERO-ONE■大阪・大阪府立体育会館 第2競技場（18:30）
キャプチャー■福岡・さざんぴあ博多（19:00）
全女■千葉・八日市場ドーム（18:30）

31 SAT.
新日本■北海道・札幌テイセンホール（18:00）
ZERO-ONE■東京・ディファ有明（18:00）
みちのく■東京・八王子市民体育館（19:00）
闘龍門■東京・後楽園ホール（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）

02 February

1 SUN.
新日本■北海道・北海道立総合体育センター（15:00）
みちのく■埼玉・越谷桂スタジオ（15:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（19:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
GAEA■静岡・アクトシティ浜松（17:30）
AtoZ■千葉・富山町ふれあいスポーツセンター（14:00）
ダリアンガールズ■東京・クラブex（14:00）
『PRIDE.27』■大阪・大阪城ホール（15:00）
シュートボクシング■東京・後楽園ホール（17:30）
スマックガール■東京・ゴールドジム サウス東京ANNEX（13:30）

2 MON.
新日本■北海道・函館市民体育館（18:30）
NEO■東京・渋谷clubATOM（19:30）

3 TUE.
闘龍門■福岡・小倉北体育館（18:30）
全女■東京・後楽園ホール（18:30）

4 WED.
新日本■福島・福島市国体記念体育館 サブアリーナ（18:30）
闘龍門■大分・荷揚町体育館（18:30）
DDT■東京・渋谷clubATOM（19:00）
U-STYLE■東京・後楽園ホール（19:00）

5 THU.
新日本■山形・米沢市営体育館（18:30）
闘龍門■宮崎・延岡市民体育館（18:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（19:00）
WWE■広島・広島サンプラザ（19:00）

6 FRI.
新日本■宮城・宮城県スポーツセンター（18:30）
闘龍門■福岡・久留米リサーチパーク（18:30）
WWE■大阪・大阪城ホール（19:00）
パンクラス■東京・後楽園ホール（18:30）

7 SAT.
闘龍門■佐賀・諸冨町文化体育館（18:00）
WWE■埼玉・さいたまスーパーアリーナ（18:00）

8 SUN.
新日本■岐阜・岐阜産業会館（16:00）
みちのく■千葉・Blue Field（14:00）
闘龍門■福岡・博多スターレーン（16:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:00）
TAMA■東京・Z-ZONE永山（14:00）
JDスター■千葉・パワーステーション（16:00）
Love Impact■東京・ディファ有明（16:00）

9 MON.
新日本■奈良・なら100年会館（18:30）
闘龍門■熊本・興南会館（18:30）

10 TUE.
新日本■香川・善通寺市民体育館（18:30）
闘龍門■長崎・NCC&スタジオ（18:30）

11 WED.
新日本■大阪・大阪府立臨海スポーツセンター（15:00）
全日本■東京・後楽園ホール（12:30）
みちのく■茨城・古河市体育館（14:00）
闘龍門■長崎・佐世保市体育文化館（16:00）
WMF■東京・後楽園ホール（12:30）
DDT■神奈川・横浜赤レンガ倉庫（16:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
NEO■東京キネマ倶楽部（12:30）
JWP■東京キネマ倶楽部（16:30）
AtoZ■岐阜・岐阜商工会議所 大ホール（15:00）

12 THU.
新日本■富山・高岡テクノドーム（18:30）
みちのく■千葉・流山市民総合体育館（18:30）
冬木軍■東京・後楽園ホール（19:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（19:00）

13 FRI.
新日本■新潟・三条市厚生福祉会館（18:30）
みちのく■埼玉・深谷市民体育館（18:30）

14 SAT.
全日本■長崎・佐世保市体育文化館（18:30）
みちのく■埼玉・本川越ペペホール アトラス（18:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（19:00）

15 SUN.
新日本■東京・両国国技館（15:00）
全日本■福岡・博多スターレーン（16:00）
みちのく■静岡・ツインメッセ静岡（14:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館 第3競技場（13:15）
全女■神奈川・横浜文化体育館（15:00）
JDスター■大阪・NGKスタジオ（16:00）
AtoZ■東京・後楽園ホール（18:30）
『PRIDE 武士道』■神奈川・横浜アリーナ（15:00）
K-1 JAPAN■沖縄・沖縄コンベンションセンター（15:00）
パンクラス■大阪・梅田テラスホール（16:00）

16 MON.
全日本■熊本・熊本興南会館（18:30）

17 TUE.
全日本■山口・海峡メッセ下関（18:30）
GAEA■東京・後楽園ホール（19:00）
AtoZ■千葉・沼南町総合体育館（18:30）

19 THU.
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール（18:30）
全日本■大阪・はびきのコロセアム（18:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（19:00）

20 FRI.
ZERO-ONE■千葉・東金アリーナ サブアリーナ（18:30）
全日本■静岡・グランメッセ静岡（18:30）
NOAH■東京・後楽園ホール（18:30）

21 SAT.
ZERO-ONE■埼玉・熊谷市体育館（18:30）
NOAH■神奈川・相模原市総合体育館（18:00）
SUPER J-CUP■大阪・大阪城ホール（17:00）
PWC■東京・北沢タウンホール（18:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（19:00）

22 SUN.
全日本■東京・日本武道館（15:00）
NOAH■京都・ＫＢＳホール（17:00）
闘龍門■東京・ディファ有明（16:00）
みちのく■東京・後楽園ホール（18:30）
石川屋興行■埼玉・桂スタジオ（17:00）
GAEA■埼玉・本川越ペペホール（15:00）
JWP■東京・赤塚公会堂（17:00）
NEO■福岡・飯塚オートレース場（12:00）
DEMOLITION■東京・CLUB CUBE

23 MON.
NOAH■大阪・大阪市中央体育館（18:30）
闘龍門■神奈川・相模原市総合体育館（18:30）
PWC■東京・北沢タウンホール（19:00）
NEO■東京・渋谷clubATOM（19:30）

25 WED.
DDT■東京・渋谷clubATOM（19:00）
全日本キック■東京・北沢タウンホール

26 THU.
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ（19:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（19:00）

27 FRI.
ZERO-ONE■東京・東村山スポーツセンター（18:00）
大日本■東京・後楽園ホール（18:30）

28 SAT.
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
NOAH■茨城・水戸市民体育館（18:00）
闘龍門■千葉・千葉ポートアリーナ サブアリーナ（18:00）
大日本■茨城・ひたちなか松土体育館（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（19:00）

29 SUN.
新日本■愛知・名古屋レインボーホール（16:00）
ZERO-ONE■東京・両国国技館（16:00）
NOAH■茨城・古河市立体育館（17:00）
闘龍門■愛知・東海市民体育館（17:00）
大日本■千葉・BlueField（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
DDT■大阪・デルフィンアリーナ（17:30）
WWS■群馬・新田町総合体育館（18:00）
666■東京・バトルスフィア東京（17:30）
ターザン後藤一派■埼玉・春日部インディーズアリーナ
GAEA■大阪・大阪ドーム スカイホール（15:00）
JDスター■東京・後楽園ホール（18:30）
AtoZ■東京・後楽園ホール（12:00）
新日本キック■東京・ディファ有明

勝ったのは誰だ！

大晦日格闘大戦

12.31 PRIDE 男祭り さいたまスーパーアリーナ

アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ○ [3R 3-0 判定] ×桜庭和志

Antonio Rogerio Nogueira

遂に覚醒した 最強の遺伝子

アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ

「近藤よ、シウバへの挑戦権を賭けて、僕と闘おう」

最強の遺伝子を持つ男がついに覚醒！　PRIDEヘビー級暫定王者A・ホドリゴ・ノゲイラの双子の弟ホジェリオが、12・31『PRIDE・男祭り』のメインで桜庭和志を激闘の末判定で下し、見事大晦日決戦のトリを努め上げた。これまで兄の活躍の陰に隠れていた感があったホジェリオだが、この勝利によってミドル級戦線のトップに急浮上。激闘から一夜明けた元日、ホジェリオを直撃した！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／松本崇　試合撮影／菊池茂夫
designed by hisa (Two Three)

——昨日は、桜庭戦勝利おめでとうございます！

ホジェリオ　ありがとう！　凄く嬉しいよ。サクラバとは昔から闘いたかったし、憧れていた選手だった。そのサクラバと闘うチャンスを得て、しかも勝つことができたんだから、これまでの格闘家人生で一番嬉しい出来事だよ。

——激闘の傷跡か、目がかなり腫れてますけど大丈夫ですか？

ホジェリオ　パンチの傷は問題ない。それから目が赤いのはサクラバにやられたんじゃなくて、兄から結膜炎を伝染されたからなんだよ（笑）。

——激闘の傷跡ではなく、単なる結膜炎（笑）。

ホジェリオ　最初に兄が結膜炎になって、それがアンジェロ・アロウージョに伝染して、さらにアンジェロからボクに伝染ったんだ。大事な試合の前なのに勘弁してほしいよ（笑）。

——そんな理由でしたか（笑）。では、実際に闘ってみた桜庭選手はいかがでしたか？

ホジェリオ　思った通り、凄くいい選手だったね。彼はちょっとした隙も逃さずに関節を極めてくるし、スタンドのパンチも重かった。一時も気が抜けない、非常に緊張感のある闘いができたよ。

——「寝技対決になる」という戦前の予想に反して、スタンド中心の試合内容になったわけですけど、打撃勝負というのは、最初から考えていた作戦だったんですか？

ホジェリオ　打撃勝負を考えていたというより、スタンドでは打撃KO、グラウンドだったら関節技で一本を絶対に極めてやろうと思っていたんだ。結果的にスタンドの展開が多くなったけど、ボクは16歳のころからボクシングをやっているし、ムエタイの練習も4年間続けているから、打ち合いになっても動じることなく自分の力を発揮することができたよ。

——別に桜庭選手の寝技を警戒してスタンド勝負を挑んだわけではない、と。

ホジェリオ　桜庭の関節技は素晴らしいからもちろん警戒はしていたけど、恐れていたわけじゃない。ボクも寝技には自信があるからね。ただ、テイクダウンを奪おうとするとき、サクラバのアメリカーナ（相手にバックを取らせて極めるアームロック）が自分としては怖かったから、タックルにはいかずに引き込んでいこうとした。そしてガードポジションからアームバー（腕十字）やトライアングル（三角絞め）を極めようと思ったんだけど、彼は上手くそれを避けたね。

——ホジェリオ選手は桜庭選手のアームロックを警戒して、桜庭選手はホジェリオ選手のガードポジションからの攻めを警戒していたからこそ、ああいう展開になったと。

ホジェリオ　そう。だから見ている人は寝技の攻防が少ないように感じたかもしれないけど、お互い寝技が得意だからこそ入っていかなかったんだと思う。それでもボクはなんとか極めようと思っていたんだけど、彼はガードからエスケープするのが凄く上手いから、ことごとく逃げられてしまった。それは裏を返せば、彼がボクにガードポジションを取られたくなかったんだと思うよ。

——なるほど。関節技の達人同士だからこそ、立ち技勝負になってしまうこともあるんですね。

ホジェリオ　ボクはガードポジションから彼を極めることはできなかったけど、彼もまたボクから一度もパスガードを奪えなかった。だから、〝寝技対決〟に関しては、今回は引き分けといった感じかな。

——そしてスタンドでアドバンテージを奪い、判定勝ちしたわけですけど、正直言って、あんなに打撃が上手いとは驚きましたよ。こと打撃に関しては、お兄さんのミノタウロより上だという自信があるんじゃないですか？

ホジェリオ　いやぁ、別に兄よりボクの方が上だとは思わないよ（笑）。兄とは同じコーチに打撃を習っているし、同じ練習をやっているから、レベルは一緒じゃないかな。

兄が道を切り拓いてくれたから今のボクがある
ボクにとって兄はヒーローであり目標だよ

——ボクにはホジェリオ選手の方が上手いように見えますけどね（笑）。でも変な話、お兄さんが先にチャンピオンになって、有名になりお金持ちにもなったわけじゃないですか。そういったことでライバル意識やジェラシーはあるんじゃないですか？

ホジェリオ　そんな風には全然思ってないよ（笑）。兄のことは凄く尊敬しているし、いまのボクがあるのは、兄が道を切り拓いてくれたおかげなんだ。ボクは兄が作ってくれた道を後ろから歩くだけでいいけど、この道を作るのは大変だったと思う。だから兄には凄く感謝しているし、ボクのヒーローであり目標だよ。

——なるほど、そうですか。ただ、PRIDE王者ということで六本木に行っても兄だけモテるので、弟がジェラシーの炎を燃やしているという噂を小耳に挟んだもんで（笑）。

ホジェリオ　ハハハハ、そんなヤキモチは全然ないよ（笑）。だって兄はいま、フィジカル・セラピーをしているボクのガールフレンドのアシスタントと付き合ってるんだからね。

——え！　ホジェリオ選手の彼女のアシスタントが、お兄さんの彼女ですか⁉

ホジェリオ　うん。兄が一緒に住んでいた彼女と別れてつきあい始めたんだ。そんな関係だから僕らは凄く仲が良くて、いまはリオのピーチの前にある大きな家を借りて、4人で一緒に暮らしているんだ。

——そこまで仲がいいんですか（笑）。

ホジェリオ　だからジェラシーとかそういった感情は全然ない。兄がチャンピオンになったときは凄く嬉しかったし、ボクも彼と同じ道を進みたいよ。

——兄同様『PRIDE』のチャンピオンを目指すと。

ホジェリオ　そうだね。兄がヘビー級チャンピオンだから、ボクはミドル級のベルトを目指したい。去年、ヒジの手術をして8ヶ月ぐらい練習できなかったから、もう少し時間がかかると思うけど、これから兄と一緒にもっともっと練習して、チャンピオンになりたいと思う。

大晦日の桜庭戦で実に効果的だったホジェリオの打撃。兄ホドリゴはスタンドで苦戦することが多いが、立ち技を苦にしないホジェリオは、対戦相手にとって厄介な存在となるだろう。

Antonio Rogerio Nogueira

ホジェリオが得意の三角絞めを仕掛ければ、サクはそれを逃れ一気に腕十字へ。グラウンドになる機会は少なかったが、随所でこういったハイレベルな寝技の攻防が見られた。

―同じようにミドル級王座を狙っている選手に、昨日マリオ・スペーヒー選手に勝った近藤有己選手がいますけど、彼のことはどう評価していますか？

ホジェリオ　いい選手だと思うよ。スピードがあるし、バランスもいいし、危険な選手だと思う。ボクと闘ったらきっといい試合になるだろうね。

―トップチームのリーダーであるマリオ選手が負けたのはショックじゃなかったですか？

ホジェリオ　もちろん残念に思ってる。ゼ・マリオは練習をたくさんしていたし体調も良かったんだけど、試合は予期せぬアクシデントがあったり、何が起こるかわからないからね。今回はヒザが当たってしまい負けてしまったけど、ゼ・マリオは優れた格闘家だから、これからも誰と闘っても素晴らしい闘いをすると思うよ。

―マリオ選手の敵討ちをしたいとか、そういった気持ちはありませんか？

ホジェリオ　「敵討ち」とかそういった気持ちはないけど、コンドーはいい選手だから純粋に闘ってみたいと思うし、同じようにミドル級の頂点を目指しているのなら、自然と闘う日も来だろう。ヴァンダレイへの挑戦権を賭けて闘えたら最高だね。

―おぉ、ホジェリオvs近藤だったら、挑戦者決定戦として相応しいですよ！　近藤選手はなかなかグラウンドに持ち込ませないし、スタンドも強いですけど、ホジェリオ選手ならどう攻略しますか？

ホジェリオ　彼がテイクダウンを防ぐのが上手いのなら、ボクは無理して寝技に行こうとせず、彼と打撃で勝負してもいいよ。

―近藤選手ともスタンド勝負ですか⁉

ホジェリオ　うん。コンドーのパンチは重そうだけど、ボクもパンチの重さには自信があるし、ボクの方がリーチも長いから打撃勝負になっても、彼に勝てると思うからね。だからボクはグラウンドでもスタンドでもどちらでもいいよ。

―では、もちろんやれば勝つ自信があると。

ホジェリオ　うん。自分が勝てると信じているよ。ボクだけでなく、ムリーロ・ブスタマンチもコンドーとやりたがっているし、他にもトップチームのミドル級にはヒカルド・アローナもいる。だから、これからコンドーは大変なんじゃないかな（笑）。

近藤と闘うなら打撃勝負をしてもいい　ボクの方がリーチも長いし倒す自信はある

―近藤選手vsブラジリアン・トップチームという図式は、まだ始まったばかりということですね（笑）。ところで話は変わりますけど、昨日、吉田秀彦選手がホイス・グレイシーに大苦戦して日本のファンはみんな驚いたんですけど、ホジェリオ選手はあの試合ごらんになりました？

ホジェリオ　ビデオで見たよ。ホイスはよく考えていたね。ヨシダの方が力が強いし、ギの使い方も上手い。だからホイスは頭で勝ったんだと思う。もちろん、ホイスより強い柔術家はたくさんいるけど、あの作戦を考え実行したことは素晴らしいと思う。

―柔術家と闘う場合、吉田選手のように道着を着て闘うのは不利だと思いますか？

ホジェリオ　やっぱりギを着るということは、いい面と悪い面があると思う。これまでヨシダはギの使い方をよく知らない選手と闘ってきたから、それが有利に働いていたけど、柔術家相手に自分だけギを着るというのは、本当に危険なことだと思うよ。

―では、今後も道着を着続けるかどうか、今回で分岐点にさしかかったのかもしれませんね。

ホジェリオ　でも、ヨシダだったら、そういったことも克服していくんじゃないかな。彼の総合格闘家への順応ぶりは、これまでボクらも驚かされたからね。特に昨年11月のヴァンダレイ戦なんかは、自分にとっても凄く勉強になった。彼の勇敢な闘いぶりと、寝技に行ったら必ず極めに行く姿勢は素晴らしいと思う。ゼヒ一度、ヨシダとも闘ってみたいね。

―わかりました。では、2004年さらなる活躍を期待してます！

【04年1月1日／都内・某ホテルにて収録】

Antonio Rogerio Nogueira■1976年6月2日、ブラジル・バイア州出身。PRIDEヘビー級暫定王者ホドリゴ・ノゲイラの双子の実弟。兄の影響で柔術を始め、98、99ブラジル柔術選手権優勝。『PRIDE』では4戦全勝を誇る。ニックネームはミノトゥーロ。191cm、95kg。

Gary Googridge

さらば剛力
ゲーリー・グッドリッジ

「人生で最も素晴らしき6年間」

"PRIDEの番人"の異名で人気を博したグッドリッジが、
12·31『男祭り』ドン・フライ戦で、約6年間闘い続けた戦場に別れを告げた
群雄割拠の『PRIDE』マットにおいて、
彼が『1』から今日まで出場し続けられた要因とはなんだったのか。
引退試合の2日前、そのプロとしての哲学と『PRIDE』への想いを聞いてみた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／黒田史夫　試合撮影／菊池茂夫
designed by hisa（Two Three）

これまで〝強い〟と思った相手はバンナ、イゴール、ヒョードルの3人だ

ゲーリー引退試合はドン・フライとのまさに男と男の闘い。両者、「男Tシャツ」で入場し、ゴングと同時に真っ向勝負した結果、1R27秒、ゲーリーがハイキックで優秀の美を飾った。

――今回は突然の引退発表で驚いたんですけど、なぜいま引退しようと決意したんですか?

ゲーリー　引退を決意したのは個人的な理由だよ。ファイターは一生やれるような甘っちょろい商売じゃないんだ。やっぱり自分自身、それから自分の家族のためにも、いつかは決断を下さなければならない時が遅かれ早かれ来る。俺の場合、今回がそのタイミングだったということさ。

――力が衰えたようには見えないんですが、引退しようと決意したのは、一部で報道された「ヒョードル戦で限界を感じた」ということなんですか?

ゲーリー　そんな風に思われてるのか? 俺は一度の敗戦で自信をなくすようなヤワな男じゃないよ。ヒョードルに負けてしまったのは確かに残念だが、あの時は彼の最初のパンチでいきなり記憶が飛んでしまって、ほとんど無意識で闘っていたんだ。だから、それほどショックはない。ファイターとしてまだ自分は力があると思うし、まだまだ闘える気持ちはあるが、決断しなければいけないときがあるんだ。

――ご家族は今回の決断についてなんと言っていますか?

ゲーリー　子供たちは「ゲーリー・グッドリッジ」のファンなので、本心はどう思っているかわからないが、俺の決断を尊重してくれたし、母や妹は「よかったね」と言ってくれたよ。

――引退試合の相手がドン・フライ選手に決まりましたけど、これはゲーリー選手が希望されたんですか?

ゲーリー　ＹＥＳ。やはり最後の相手はドン以外にありえないという気持ちだったね。だから俺が直接ＤＳＥに希望を出して、ＯＫの返事をもらったので、この試合が決まったんだ。彼とは過去2回闘い、どちらも凄い試合だったんだが、残念ながら2回とも負けてしまった。だから、最後に俺にとっての〝高い山〟であるドンとやりたいと思ったんだ。

――ドン・フライとの最後の試合では、どんな闘いをみせたいですか?

ゲーリー　情熱とハート、それから意志を見せたい。俺とドンは、どちらも小細工なしの真っ向勝負をするファイターだから、エキサイティングな試合を約束するよ。

――最後も「ゲーリー・グッドリッジの闘い」をみせる、と。

ゲーリー　そうだ。俺は日本のファンが応援してくれたから『ＰＲＩＤＥ』で闘い続けることができたし、これまでずっと高いお金を払って見に来てくれるファンに、いいファイトを見せたいと思ってやってきた。それは最後まで変わらないよ。

――わかりました。では、引退を前にゲーリーさんのこれまでの歩みを振り返っていきたいと思うのですが、そもそも格闘技を始めたきっかけは何だったんですか?

ゲーリー　子供のころ、親父と一緒にモハメド・アリの試合を見たのがきっかけだったと思う。そのときはとにかくアリに憧れたから、ファイターになりたいというよりボクサーになりたかった。でも、俺は額に傷があるので、親父が「ボクサーになったら、その傷が開く」と言って松濤館空手の道場に入れたんだ。それが俺の格闘技のスタートとなった。

――ボクシングは結局やらなかったんですか?

ゲーリー　いや、19のころ少しかじって、25~6から本格的に始め、93年のカナダ・アマチュア王者になっているよ。

――その時はプロボクサーになろうとは思わなかったんですか?

ゲーリー　もちろんなりたかったよ。でも、始めたのが遅かったし、他に仕事も持っていたから実現しなかった。いまでもプロボクサーになるということは永遠の夢として、なつかしく思い出すことはあるんだが、俺は「プロボクサーになりたい」「金持ちになりたい」ということと同時に、「有名になりたい」「子供をちゃんと育てて自分の人生を作りたい」と思っていて、その夢に関しては叶ったんだよ。

――プロボクサーになって成し遂げたかったことが、『ＰＲＩＤＥ』ファイターとして実現できたわけですね。

ゲーリー　ＹＥＳ。俺は『ＰＲＩＤＥ』に出たおかげで、主に日本のファンの間ではあるが、凄く名を上げることができたし、多くの人が憧れる仕事ができた。そのことに対して、非常に満足しているんだ。

――では、そのプロ格闘家となった原点であるＵＦＣに出ようと思ったきっかけは何だったんですか?

ゲーリー　もともとは友達と一緒にテレビで『ＵＦＣ3』を見ていたときに、友達が「ゲーリー、お前なら勝てるから、出ろよ」と言ったのがきっかけだったんだ。でも、どうやって申し込めばいいかわからなかったから、番組の最後にグローブの通信販売の電話番号が出たからそこに電話して、「グローブを買いたいんじゃなくて、ＵＦＣに出たいんだ」って言ったら、当時ホリオン・グレイシーと一緒にＵＦＣを共同プロモートしていたアーサー・デイビーのオフィスの電話番号を教えてもらえた。そこに自分で売り込んだんだ。そしたらなんと、彼は俺のことを知っていたんだよ。

――どうして知っていたんですか?

ゲーリー　偶然、テレビで俺が優勝したアームレスリングの大会を見ていたらしくて、その大会でエマニュエル・ヤーブローみたいな馬鹿デカいヤツに勝って、そのあとマイクパフォーマンスをしていた俺のことを

Gary Googridge

「こいつはUFCが欲しいキャラクターにピッタリだ」と、そのときから思っていたって言うんだよ（笑）。だから、トントン拍子に話は進んだね。

――いきなり相思相愛でしたか（笑）。その当時はもちろん、総合格闘技の練習なんかしてなかったと思いますけど、それでも優勝する自信はあったわけですか？

ゲーリー　もちろん、自信があるから出ようと思ったんだ。しかも当時、UFCで一番有名だったのはホイス・グレイシーだったが、ホイスの動きってやつは、蛇みたいに絡みついて、いつの間にか極めてしまうような感じだったから、一般にはわかりにくい闘い方だったんだ。でも、それに対して俺のファイティング・スタイルはストレートにパンチでがんがん攻めていくスタイルだったんで、優勝する自信があるのと同時に、観客の支持を得てUFC最大のスターになれると思っていたよ。事実、1、2回戦は順調に勝ち上がったんだが、決勝でドン・フライに止められちまったんだ。それが今でも悔しいよ（笑）。

――当時はグラウンドの技術なんか全く知らなかったんですよね？

ゲーリー　ああ、でもそんなものなくても勝てると思っていた。

――ドン・フライに負けてから寝技もやろうと思ったんですか？

ゲーリー　いや、ドンに負けたあとも、寝技のトレーニングなんてやらなかった。俺が初めて寝技を練習したのは、97年にIVCトーナメントに出場するためにブラジルに行ったときだよ。ブラジルのファイターと一緒に練習する機会があったんだけど、そのとき初めてアームバー（腕十字）やチョークといった、自分の知らなかった世界を教えてもらって、興味を持ったんだ。でも、自分から関節技をやるんじゃなくて、知識として知っていれば、より自分の打撃を有効に使えるんじゃないかと思ってね。

――じゃあ、そのころからプロ格闘家として本格的にやっていこうと思っていたんですか？

ゲーリー　ああ、首を突っ込んだからにはトップになってやろうと思ってたよ。

――でも、こんなに長くやると思ってました？

ゲーリー　どっちかと言えば、あと2年ぐらい、40歳ぐらいまではできると思ってた。

――最初から、そんなにできると思ってましたか（笑）。

ゲーリー　まぁ、思い通りにいかないこともあるよな。

――それにしても、『PRIDE・1』に出場して以来、いままでずっとレギュラーとして『PRIDE』に参戦しているのはゲーリーさんだけですから、凄いですよ。これだけ長くレギュラーとして出場し続けられた理由はなんだと思いますか？

ゲーリー　やっぱり俺のお尻の形がかわいいから、日本のファンがそこを気に入ってくれたんじゃないかな（笑）。

――お尻が人気の秘訣でしたか（笑）。

ゲーリー　まぁ、それは冗談としても、ファンが応援してくれたおかげだと思うし、俺もファンの期待に応えたいといつも思っていたから、出続けられたんじゃないかな。

――ゲーリーさんは“PRIDEの番人”として、UFCやリングスなど、各団体のチャンピオンと真っ先に闘ってきましたけど、これまで闘ってきた中で、最も強いと思ったのは誰ですか？

ゲーリー　う～ん。たくさんいるので選ぶのが非常に難しいが、“強い”と思ったのは、ジェロム・レ・バンナ、エメリヤーエンコ・ヒョードル、イゴール・ボブチャンチンの3人だな。

――“最強”の呼び声も高いノゲイラはこの3人の中には入らないんですか？

ゲーリー　ノゲイラももちろん強いけど、彼の場合は“強い”というより“巧い”と言った方がいいだろう。試合に勝つための技術が優れているのと、“強い”ということは、似て非なるものだと思うんだ。だから、俺はグレイシーなんかはちっとも“強い”とは思わない。“強い”のは誰かと言えば、バンナ、ヒョードル、イゴール、そしてゲーリー・グッドリッジだろう（笑）。

――なるほど（笑）。では、一番印象に残っている相手は誰ですか？

ゲーリー　やはりイゴールだね。彼とは『PRIDE』で2回闘い両方とも負けてしまったが、どちらの試合も男と男の殴り合いができたので、試合後は一番充実感があったよ。ああいう闘いこそが“ファイト”と言うんだ。

――日本のファンにとって一番印象に残

俺が守ってきたPRIDEの門の鍵はボブチャンチンに渡そうと思っているよ

っているのは、小川直也戦と谷津嘉章戦だと思うんですけど、この2試合の印象を聞かせてください。

ゲーリー　オガワは俺が力で技を返しても返しても仕掛けてくる、タフな男だと思った。彼との試合は非常に楽しかったよ。それからヤツはドン・フライと同じような強さを感じたね。それから二人に共通して言えることは、殴っても殴っても試合を諦めないメンタルの強さを感じたよ。

——小川選手は柔道の世界王者で寝技が強いことで知られていますけど、ノゲイラと闘っているゲーリーさんは、二人を比較するとどういった評価になりますか？

ゲーリー　ノゲイラとオガワを比べるのはちょっと不可能だな。というのは、この2人とは闘った年代が全然違うからね。『PRIDE』は進化のスピードが速いから、例えば1年前に強かった人間でも、1年ファイトしないで戻ってきたとしたら、技術も戦術も変わっているし、周りはみんな強くなっているから太刀打ちできないと思うんだ。俺自身、オガワと闘ったときとノゲイラと闘ったときでは全然違うから、ちょっと比べようがないよ。

——でも、そう考えると、小川戦から2年経って、より強くなったゲーリーさんを3分足らずで極めてしまったノゲイラという

gridge

Gary Googridge PLAY BACK

"PRIDEの番人" 激闘 BEST 7

PRIDE.1　'97.10.11
vs ●オレッグ・タクタロフ
[1R 4'57" TKO レフェリーストップ]
記念すべき『PRIDE.1』では第6回UFCを制したタクタロフに剛腕を叩き込み失神KO勝ち！　現在、俳優のタクタロフに事実上の引導を渡した。

PRIDE.6　'99.07.04
vs ○小川直也
[2R 0'36" V1アームロック]
あの小川直也の『PRIDE』デビュー戦の相手を努めた一戦は、敗れたものの大興奮の名勝負に！この辺りから"PRIDEの門番"のイメージが確立された。

PRIDE GP 2000 開幕戦　'00.01.30
vs ●大刀光
[1R 0'51" ギロチンチョーク]
本誌でさんざん吹きまくり、相撲幻想を背負って登場した大刀光を全く問題にせず、"叩き込み"で転がした上で、ギロチンチョークで一掃。

のは、相当凄いんじゃないですか？

ゲーリー 短い時間で勝ったから強いというものじゃない。ノゲイラにはガードポジションからのトライアングル（三角絞め）を極められてしまったが、彼がアームバーやトライアングルを狙っているのはわかっていたから、俺がディフェンスに徹して試合を長引かせようと思ったら、いくらでも長くできたんだよ。でも、それじゃあ観客はつまらないだろうから、あえてリスクを承知で殴りにいった。だから試合時間が長い短いは関係ないよ。"殺るか殺られるか"の勝負が俺のモットーだからね。

――それはある意味、勝敗以上に試合内容を重要視していたということですか？

ゲーリー もちろん勝つためにリングに上がっているが、他の選手と違って、俺は負けを恐れていないということはあるかもしれない。負けを恐れないからこそ、アグレッシブに攻めることができるんだ。そんな俺のファイトをファンが気に入ってくれたから、俺は『PRIDE』の戦績が8勝9敗と負け越しているのに、再びオファーが来るし、"PRIDEの番人"というニックネームももらえたんだろう。

――"PRIDEの番人"と呼ばれることに対しては、本人的にはどう思っていたんですか？

ゲーリー "プライドの番人"という称号に対して誇りを感じていたし、そういうニックネームをもらえたことは嬉しかったよ。俺が、いつ、誰と闘ってくれと言われても必ず受け、エキサイティングな試合をしてきたからこそもらえた称号だからね。

――今度、PRIDEの番人が"退職"してしまうわけですけど、ゲーリーさんの跡を継いで、2代目・PRIDEの番人になれそうな人はいますか？

ゲーリー それは昨日考えたんだが、個人的にはイゴールがいいんじゃないかと思う。

――おお～、ボブチャンチンですか。

ゲーリー イゴールも相手を決して選ばないし、負けを恐れずアグレッシブな闘いができる。そういった意味で、彼こそ2代目・PRIDEの番人に相応しいだろう。だから今度彼に会ったら、俺が守ってきた門の鍵を手渡そうと思っているよ（笑）。

Gary Goodridge■1966年1月17日、トリニダート・トバゴ出身。96年"腕相撲世界一"の実績をひっさげ『UFC8』でデビュー、いきなり準優勝。97年にはブラジルUVFで優勝。『PRIDE』には「1」から出場。"PRIDEの番人"として人気を博した。右は日本で結婚式をあげたカレン夫人。

――ゲーリー選手は人気もまったく衰えていませんが、現役に未練はありませんか？

ゲーリー 自分がやり残してきたことはあるかも知れないが、「早い」とは思っていない。いままで休まず闘い続けて来たから、この辺りでちょっと自分の人生を振り返って、また何かできることがないか探していくよ。

――わかりました。では最後に。ゲーリーさんにとって、『PRIDE』とは何ですか？

ゲーリー 『PRIDE』とは俺の人生であり、家族であり、生活そのものだった。そして自分の人生を表現する場だった。自分の喜びであり、興奮であり、楽しみだったよ。そういった機会を与えてくれたDSEには本当に感謝している。だから今後は、DSEのためだったらなんでもやろうと思っているんだ。例えば「ゲーリー、来月こういうことをやってほしいんだ」と言ってきたら、二つ返事で飛んでくるよ。

――では、また半年後くらいに「もう一試合やってくれ」なんて言われたらやりますか？（笑）。

ゲーリー 『PRIDE』が本当に俺の力を必要とするなら拒まない。どんな相手であっても答えは「YES」だ。

――今度DSEが『ハッスル』というプロレスの大会を始めるんですけど、これからプロレスラーとして『ハッスル』でやっていく気はありませんか？

ゲーリー プロレスには非常に興味があるから、これからそういったエンターテイナーとしてやっていく気持ちはもちろんあるよ。以前、新日本プロレスなどで何試合かやって、難しさも実感したがやりがいもある。だから、今後は『PRIDE』のレフェリー、ジャッジなどと平行して『ハッスル』にも出たいと思う。だから日本にファンには、「いままでありがとう。そしてこれからもよろしく」と言いたいね（笑）。

――そうですか（笑）。それでは引退する人にこう言うのも変ですが、今後もさらなる活躍を期待しています！（笑）。

ゲーリー OK。ドゥ・ザ・ハッスル！（笑）

【03年12月29日／都内・某ホテルにて収録】

PRIDE GP 2000 決勝戦　'00.05.01
vs ○イゴール・ボブチャンチン
［1R 10'14" KO］
ゲーリーが「最も印象に残っている」と語った一戦。世界屈指のハードパンチャー同士がひたすら殴り合う『PRIDE』史に残るドツキ合いとなった。

PRIDE.11　'00.10.31
vs ●谷津嘉章
［1R 08'58" TKO］
「目ぇつぶって30秒！」44歳で『PRIDE』初出場をはたした谷津との一戦は、ゲーリーが容赦なくパンチをたたき、谷津がそれを必死に耐える名勝負となった。

PRIDE.14　'01.05.27
vs ●ヴァレンタイン・オーフレイム
［1R 2'39" KO］
リングスKOKトーナメント準優勝者オーフレイム兄にアームロックを取られかけるも、腕の力だけでそれを跳ね返し、剛腕パンチで逆転KO!

PRIDE.15　'01.07.29
vs ○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
［1R 2'37" 三角絞め］
コールマン負傷欠場により急遽ノゲイラ『PRIDE』デビューの相手を努めたゲーリーだが、ノゲイラのオモプラッタ→三角のフルコースの餌食に。

もう、終わってしまったことだぜ。すでに過去のことなんだよ。まるで「そんなことあったのかな」という世界だぜ。世の中のことなんか所詮、そんなものよ！

え？　なんのことかって？　わかってないなぁ。2003年大晦日の格闘技三大決戦のことだよ。NHKの「紅白歌合戦」のことだよ。あれは一体、なんだったんだよ。

あの日はなんだったんだよ？　2004年になった途端、もう、大晦日のことなんか、どうでもいいみたいな、そんな感じだろ。それでいいんだよ。何も間違ってなんかいないからな。俺たちは絶対に正しいんだから。

たった1回しか通用しない。たった1回しか意味がない。その1日しかなんの説得力も存在しない。それが〝大晦日〟の定義なのだ。文句あるか？　文句ないだろう。

ああ、俺たちはその日限りのことでしかないものに、夢中になっていたんだよ。熱狂していたんだよ。大騒ぎしていたんだよ。ウン、おめでたくていいよな。にぎやかでよかったよな。そう思わない？思うだろう。

だから言ったじゃないか？　「大晦日って正月を迎えるための噛ませ犬！」だって。ホントに本当に1日だけの命なんだよ。大晦日というのは、ネ。ネなんだよ、ネ！

オレ、ガンツから言われたから仕方なくこの原稿を書いているけど、心はさぁ、実を言うとさぁ、昨日、1月17日、東京ドームに行ってMISIAのコンサートを見てきたんだよ。MISIAのこと書きたいよぉぉぉ。

MISIAの公演リポートの方がはるかに面白いよ。でも、オレ、初めてMISIAのこと知ったんだけどさぁ、彼女、たぶん身長150センチちょっとの小さい人なんだよ。

それだけで俺は大、大、大、大、ビッグサプライズだったよ。それだけでもリポートのテーマは決まってくるじゃん。ドームはアリーナもスタンドもみんな、みんな、いっぱいなんだよ。プロレスや格闘技なんてあれじゃMISIAに完敗だよ、完敗だあぁ。

そう、あんなオンナのコの歌姫に俺たち負けていいの？　負けてるじゃん。あっそうそう、俺、前から3列目の席で見たんだよ。チケット代は7千円だよ。それがマット界では3万円とか5万円とか10万円するんだよ。そうまでしないと逆にだめなんだよなぁ。格闘技ってそういうもんさ、でも、安心しろよ。MISIAのファンは人生の沸点が65度だ。沸点が100度じゃないから俺の勝ちさ。

また、俺、勝っちゃったよ。どうしよう。MISIAは存在がバーチャルさ。ターザン山本は現実さ。比べようがないもんなぁ。これって俺の圧勝じゃないか？　なんなら、歌詞で勝負してもいいぜ。ガチンコでいくか？

望むところさ。本題に戻ろう。ガンツが俺に与えたテーマは「なぜ今回のホイスは大晦日のMVPと言えるのか？」なのだ。俺、それって週刊ファイトに書いたしさぁ。

もう、1回、同じことを書かすなよ。ガンツ、お前、ひょっとして、俺に答えを求めていないか？　俺、ファンにいつも言っているんだよ。「いいか俺に決して答えを求めるな。お前がお前自身で答えを出すんだ。それがプロレスだ！」とね。

人に答えを聞こうとするヤツは、人生がどしょっぱいぞ。ああ、また言ってしまった。〝しょっぱい〟はそれこそ差別用語なのだ。俺にその五文字を言わせるなよな。

ホイス・グレイシー

ああ、そうだよ。ガンツのせいで俺は今、沸点55度の原稿を書いているんだよ。ホイスの偉いところ？　凄いところ？　そんなことわかっているじゃないか？　あいつ一人さぁ、大晦日という大気圏の外にいたんだぜ。

そこだよ、そこ！　ポイントは。ホイスの辞書には〝大晦日〟という字がないのだ。そんなものはどうでもいいのだ。浮かれているヤツは浮かれろ。大晦日も考えてみりゃ、たかが1年の365分の1じゃないか？

それを特別の日に思っていること自体が、もう格闘家でもなんでもないのだ。そもそも格闘家たるものに大晦日なんて日は、あってはならないんだぜ。そうだろう？　ヤツらはさぁ〝非年中行事〟という時間と空間を、生きていないとおかしいじゃないか？

ハイ、正月です。ハイ、成人式です。ハイ、節分です。ハイ、桃の節句ですと。そんなものは行事だからさぁ、格闘家にとってはどうでもいいもんさ。それは二度と取りに行くことのない忘れ物と同じなんだよ。

大晦日も結局そうさ。思い出してみろよ。2003年12月31日を。あ～あ、日頃、格闘家を名乗っている男たちも、あの日は全員、なんだか大晦日気分だったもんなぁ。

「まぁ、今日はいいか…」みたいな、それが普通だよ。それが自然だよ。それで全然間違っていないよ。当然のことだよ。

大晦日って1年の垢と埃をみ～んな水に流してしまう。そういうことをさぁ、日本国民が全員、一致団結してやろうとしているのだ。まぁ、いうなれば借金を棒引きされたような気分にさせてくれるまことに便利な日なんだよ。

まやかしだらけの1日、それって庶民の知恵なんだよ。庶民はさぁ自力でも他力でも人生の解決方法がないからさぁ、大晦日の日にそれを完全にチャラにしてもらわないと、やってられないだろう。

新年を迎えないだろう。オイ、オイ、オイ、そんなごまかしの世界に格闘家が相乗りしていいと思っているのか？

それがちゃっかり乗っているんだよなぁ。ヒョードルだろう、藤田だろう、ホーストだろう、フィリォだろう、安田もそうさ。

悪いことじゃないぞ。たまには格闘家たちも世間の行事にはお付き合いしないとな。大晦日はその格好の場でもあるんだよ。

そういう予定調和された仲間意識がはびこってしまっている大晦日にだよ、憎っくき男を倒すことしか考えていない野郎（失礼！）がいたんだよ。天下のヤボチンスキ（野暮野郎）がいたんだよ。それがあのホイス・グレイシーさ。

そんなさぁ、大晦日をみんな、なぁなぁの世界にしようとしている所にさぁ、ひとりだけガチンコ野郎がいたんだぜ。ホイスは打倒・吉田秀彦しか頭になかったんだよ。

それこそヤツは「反大晦日人間」さ。反則じゃないか？　大晦日のルール違反だぜ。これがまたさぁ、相手の吉田秀彦が丸っきりの大晦日人間だったんだよ。

俺には勝負はやる前からわかっていたぜ。そう、ホイスは大晦日しか吉田に勝てなかったのさ。この意味、わかる？わからない？

ふん、もう説明不要だ。答えは自分で考えて出せだ。それがプロレス者のルールだからな。それともお前は世間が用意した答えの中で生きるのか？　どっちなんだよ、どっちがお前のアイデンティティなのかこの際、ハッキリさせろだあああああああああ！

ターザン山本が
その才能の全てを爆発させた
入魂の片手間原稿!

この男が12・31
三大格闘技戦争MVPだ!

反大晦日人間

文/ターザン山本

んあ～12.31『Dynamite!!』曙vsサップ
瞬間視聴率43%! 打倒・紅白達成!!

マット界の視聴率キング、今年の野望はこれだ!

今春、ボブ・サップをエースにした総合格闘技イベントを立ち上げま～す!

大晦日の曙vsサップが43%という驚異の瞬間最高視聴率を獲得し、4分間ながら見事史上初めて打倒・紅白を達成と、まさにマット界の視聴率キングに君臨したサダハルンバを久々に直撃! タイソン、ヒクソン、朝青龍の名前まで挙がる、今年のK-1はどんな野望を持っているのか、焼きそばパンを頬張りながら大いに語ってもらった。

聞き手&本文／中村カタブツ君　構成／堀江ガンツ　撮影／乾晋也
designed by matsu (Two Three)

ハルンバ" 貞治

んあ〜
K-1プロデューサー
就任後
『紙プロ』初登場!

谷川

"サダハル

――まずは『Dynamite!!』の大成功おめでとうございます。猪木さんに先んじて〝打倒紅白〟を果たしちゃいましたね。
谷川　ホントにねえ、これも皆様のおかげですよォ。
――全部、谷川さんの実力じゃないんですか（笑）。
谷川　いやいや、そんなことないですよォ！　でも、ホントに紅白を越えたのは驚きましたね。なんかNHKの会長が今日、言い訳してましたね。「視聴率そのものが信じられない」って。うふふふ。
――ワハハハ！　天下のNHK会長まで狂わせちゃったんですね（笑）。ということで、大成功に終わった『Dynamite!!』なんですが……。
谷川　須藤元気クンがやたら好評ですね。
――やっぱり小さい人がデカい人に勝つのってインパクトありますよね。
谷川　でも、ボク、あのカードについては試合の前日に後悔しましたよ。
――は!?　後悔？
谷川　だってねえ、カード発表した後に10キロも差あったことに気付いたんですよぉ！
――いまさら何を言ってるんですか（笑）。
谷川　いやぁ、『Dynamite!』はホントにルール問題で揉めましたからねぇ。前日のルールミーティングで、「10キロ以上の体重差があったら4点ポジションの蹴りはやめましょう」っていうことだったんだけど、気づいたら、全試合10キロ以上の差があるなって（笑）。
――それを前日に知った、と。
谷川　しかも、みんな凄い差があるんですよ！　ホント、びっくりしたなあ。
――カードを決めたのは誰ですか（笑）。
谷川　一応、ボクが決めたんですけどぉ、ああいうことはあんまりやっちゃいけないですよね（真顔で）。
――やっちゃいけないんでしょうけど、試合としてはそういうのが面白いし、今回の成功の秘訣もそこだと思うんですよね。他はやらないですもん（笑）。
谷川　まあ、元気くんは入場から感動しましたね。これから110キロ差がある人と闘うのに、ああいう格好をしてる姿にウルウルしましたよ。「元気くんはいいなあ」って。
――後悔したり、ウルウルしたり大変ですね（笑）。
谷川　元気くんはボクの手掛ける興行には全部出て欲しいですね！
――『K―1・MAX』の試合も全部分かり易くていいですもんね。
谷川　そう言えば、10月の『K―1・MAX』のときも、「年末はイージーな相手にするから」って言ってアルバート・クラウスと無理矢理やってもらったんですよ。デビュー戦ぐらいの人間にするからって。
――確かにバタービーンは総合デビュー戦でしたけど（笑）。ともかく、年末らしい、単純に見て楽しめるいい興行でした。
谷川　それはやっぱり、横綱に尽きますね。曙さんの入場もウルウルしたなあ。でも、終わった後は、「ボクはなんてこの人にひどいことをしたんだろう」って思ったんですよ。
――KO負けですからね。
谷川　でも、控室に行ったら、「いやあ、この2ヶ月間ホントに楽しかった！　サップ、強いけど気持ち良かった！」って言ってくれて救われましたね。
――いいことしましたねえ（笑）。
谷川　うん、いいことしたなあと思って。だって、去年、ボクが福岡に行ってなかったら、今頃は1月場所の切符を売ってたはずですからね。それが今、茶髪にしてねぇ（笑）。奥さんにも「ごめんなさい」って言ったんだけど、ケロっとしてましたね。「ワタシは何ともないわよ」って。
――ちなみにテレビ中継では奥さんのうしろにターザン山本さんがやたら映りこんでましたよね。あれは何だったんですか？
谷川　招待です！　山本さんはマスコミの記者申請の中に、「今回はテレビで見ます」って書いてあったんで、「それならぜひリングサイドの一番前でお見せしますんで」って、新幹線のチケットと招待券を送ったんですよ。
――新幹線はグリーン席まで用意したんですよね（笑）。
谷川　そう。そしたら「打倒・谷川の看板は降ろす！」って言ってたって、ゴングの金沢さんに聞いたんですけど（笑）。
――ホント、いろんなところに気を使って。
谷川　もちろんですよ（胸を張って）。試合内容はまだまだだけど、バラエティに富んだ年末らしい、コンセプト通りのものができましたね。ゲストも凄かったでしょ？
――スティービー・ワンダーですもんね（笑）。
谷川　スティービー・ワンダーなんて、セミファイナルぐらいまで「出る出ない」で揉めたんですよぉ。だって、車から出ないんですもん。
――そういえば会場の正面玄関に白いリムジンがずっと止まってましたね。
谷川　「自分の歌が歌いたい」とか、「ハーモニカにする」とか。
――それでハーモニカだったんですか（笑）。何で歌わないんだろうと思ってたんですよ。

『Dynamite!!』は気づいたら全試合10kg以上の体重差がある試合だったんですよ（笑）

TBSから「高視聴率御礼」の花がたくさん届いたK-1事務局で行った今回のインタビュー。焼きそばパンを持つ姿も貫禄が漂う。

リングサイドの豪華さでも『男祭り』、『猪木祭り』を圧倒！　解説席には曙のかつてのライバル貴之花。そして国歌吹奏では、スティービー・ワンダーがなぜかハーモニカで登場。一言も喋らなかったため「ニセモノ説」も出たが、間違いなく本物とのこと。

谷川貞治

このパンチの伸びを見ても、練習をしてきたことが伺えるボブ・サップ。今年のK-1のテーマはこのサップの新境地開拓と、曙のリベンジロード（K-1初勝利への道）が二本柱になっていくのか。

谷川　ギャラが凄い高いんですよ！

――もともと彼はK―1ファンなんですよね？

谷川　いや、タイソン・ファンですね。

――ずっとK―1を〝見てた〟とアナウンサーが言ってたらしいですね。

谷川　見てたんじゃないかなぁ。

――〝見てた〟のか（笑）。

谷川　スティービー・ワンダーの関係者も好きみたいですね。この辺は全部館長が動いてくれたんですけど、解説は貴乃花さんだし、「周りはボクが固めますよ」って感じで動いていただけました。ヒクソンさんもギリギリまで来るか、来ないかでいろいろあって。でも、ヒクソンさんは喜んで帰ってくれたなあ、嬉しいなあ。

――ヒクソンの話はあとで聞きますけど、その前に中邑選手の試合で一波乱ありましたね。

谷川　上井さん、怒ってましたね。でも、すぐにボクは寝ましたけどね、「申し訳ない」って（笑）。ただ、レフェリーストップはレフェリーの判断だから、早いも遅いもないと思うんですよ。もし、レフェリーが見て「危険だ」と思ったらレフェリーストップだし。だけど、途中でブレークが何回もあって、あれはホントに選手サイドとプロモーターサイドとレフェリー、ジャッジがみんなバラバラだったんですよ。そこは素直に反省しないとなって。

――そういう部分もあって、簡単に寝たと。

谷川　中邑くんの思いも強いしね。中邑 vs イグナショフの再戦もまた大きな話題になるし。うふふふ。

――ラッキーだと（笑）。

谷川　いろんなことを考えるとすべては簡単に折れたほうがいいなって（笑）。

――そこが成功の秘訣ですね（笑）。

谷川　いやいや。でも、中邑くんは偉いですよ。ボクは彼しかいないと思いますね。中邑くんが『Dynamite!!』に出てくれた時は、ドラフト1位を当てた気持ちでしたよ。やったぁ～って。

――しかもIWGPのチャンピオンを獲った形での出場でしたもんね。

谷川　そうですね。相手は最初、ピーター・アーツだったんですけど。

――ピーター・アーツは『イノキ・ボンバイエ』に出るっていう話もありましたね。

谷川　まあ、ホントに猪木さんは凄かったですね、裏の噂から表の噂まで。だから、今回一番良かったのは、周りのゴタゴタに巻き込まれずにイベントに集中できたことですね。ボク自身は『イノキ・ボンバイエ』サイドとも、『PRIDE』サイドと一切話もしてないから、逆に言うと話をして巻き込まれてたら、いいイベントなんてできてないですよ。だって、新聞見たらギリギリまでヒョードルだ、ノゲイラだとかやってたじゃないですか。

――『Dynamite!!』だけが、先行して全カードを出しましたからね。

谷川　それはやっぱり石井館長の力が大きいですよ。石井館長がしっかり話してくれたと思うんで、そこが一番の成功だと思いますね。イベントに集中できたことで、タイソンとかスティービー・ワンダーとか余計な企画まで思いつくじゃないですか。

――余計な企画って本当に大切ですよね。逆に、『イノキ・ボンバイエ』は余計な企画いうか、アクシデントばっかりというか。ゴングを会場に持ってくるのを忘れて試合開始時間が遅れたりとか（笑）。

谷川　だけど、見てみたら『イノキ・ボンバイエ』も面白いですよね。いろんな意味で面白いですよ。だって、3つのイベント

の中で一番先にビデオを見たの『イノキ・ボンバイエ』でしたから。『Dynamite!』より先に見ましたからね（笑）。

――火事場のやじ馬みたいなもんですよね。

谷川　そうそうそう。『PRIDE』で言えば、高田さんも凄いなぁって思いました。ボクはあんな所に登れないですよ～、高所恐怖症で。

――『PRIDE』の感想はそれですか（笑）。

谷川　あれは凄いなと思いましたよ。男の中の男だと思いましたね（笑）。あとはやっぱり中継に関しては三局の中で一番うまいですね。視聴率の取り方もうまいと思いましたね。ミルコvsノゲイラ戦を長く流して、「あれ、ミルコ、出てたのぉ～？」とか、ホントに錯覚しましたよ。うまいですね。

――そのへんの部分は今後の『Dynamite!!』にも生かしていくんでしょうね。いずれにせよ、いいお正月を迎えられましたね。

谷川　おかげ様で。

――それで、今後なんですが……。

谷川　（即座に）何も考えてないんだよねぇ。

『猪木祭り』はいろんな意味で面白かったなぁ 高田さんも高いところに登って凄いなぁ～

曙戦の勝利を機にいったんK-1ルールでの試合を封印し、今年は「K-1 MMA」のエースとして闘うサップ。タイソン戦を目指すこともあり、勝負の年となる。

――報道では3月28日にサップの試合がありそうだということですけど。

谷川　多分、サップの試合はないと思いますね。サップは総合格闘技のファイターになったほうがいいですよ。K―1の総合のエースですね。とりあえず総合のイベントをどう立ち上げるかわからないですけど、そこでサップを使っていきたいなって。

――総合に力を入れるってことが話題になってますよね。

谷川　総合はやりたいことがたくさんあるんですよ。サップもそうだし、イグナショフもアーツもいるし、中尾くんとかハハレイシビリも「また出たい」って言ってるし。

――ハハレイシビリはまだやりたいって言ってるんですか、あんな負け方しといて（笑）。ミルコはどうですか？

谷川　ミルコもぜひ出てもらいたいですね。元々はK―1が育てたという自負がありますからね。練習から何から全部、K―1がお金を出してるし、ミルコは出て欲しいですよね。

――今回の成功で選手からの売り込みもたくさん来てるんじゃないですか？

谷川　ホントに来てますね。

――柔道家なんかもいらっしゃるんじゃないんですか？

谷川　年末は井上康生さんが観に来てましたね。閉会式の時に、ハンマー投げの室伏広治さんと一緒にリングに上がってもらったんですけど、「来年は室伏さんはサップと、井上さんはヒクソンとやってくださいね～」って言ったら笑ってましたね。否定はしてませんでしたよ（笑）。

――谷川さんは、ホントにどこでも交渉しますよね（笑）。

谷川　解説席にいた時も、後ろにいた室伏さんには振り向いて交渉しましたから。

谷川貞治

「初めまして谷川です」って（笑）。

――凄いなぁ。そう言えば、プロレス大賞の会場でもノアの三沢さんと交渉してましたもんね。

谷川　あれは東スポの記者の楠崎さんが「三沢さん、小橋さんに挨拶に行ってくれ」って言ったんで行ったら、いつのまにかあんな大々的な報道になってたんですよ。

――それで連日一面ですか（笑）。

谷川　ラッキーですね。小橋vsサップ戦見たいですよね？

――見たいですよ！　チョップの連射を受けるサップ見たい！（笑）。

谷川　でも、サップは60分一本勝負なんて絶対できないんですよ。息がすぐに上がっちゃいますから。彼はね、試合になると息をしないんですよね。何で息を止めちゃうんだろうなと思って。

――あ、息止めちゃってたんですか。

谷川　元々、スタミナがあるタイプだから、走るのも速いんだけど、ムキになるとホントに呼吸を止めちゃうんですよね。

――バカな男ですねえ（笑）。

谷川　「声を出してやれ」って言ってるんですけどね。プロレスもスタミナがまだまだ心配ですね。

――でも、それがいいキャラクターになってますよね。一時は「インテリジェントモンスター」なんて呼ばれてましたけど、最近は「バカ・サップ」として、ホントにいい感じになってますよね。

谷川　ねえ（笑）。だけど、ボブ・サップは練習に専念させたいですね。暮れの試合でも、ホントに2回ぐらい泣いたらしいですよ、伊原会長に怒られて。「練習しなかったら、次はないぞ！」っていうぐらいに言われて。でも、結果を出したから、あれは練習させたら強くなりますよ。だって、いままで練習してないんですからね。

――実を言うと（笑）。

谷川　実を言うと、ホーストとかミルコとやった時って（笑）。

――ミルコ戦の時は5日しか練習してないんですよね。

谷川　5日ぐらいですよ。ぶっちゃけた話、やれば彼は凄いですよ！　キモ戦ぐらいから自分の人生を疑い始めてましたね。レミー・ボンヤスキー戦の時は全く自信を失ってたから、ちょっと弱気なところが目立っちゃってましたけど、でも、練習したら彼はもの凄い怪物になりますよ。

――じゃあ、そのMMA、プロレスはサップを中心に回るみたいですが、MMAの大会はいつぐらいから始動するんですか？

谷川　いや、もう春にはやりたいですよ。さいたまスーパーアリーナか、横浜アリーナぐらいの規模ではやりたいですね。

――そこにはタイソンは絡んで来ないんですか？

谷川　タイソンはビッグイベントで夏までに試合をやろうと思ってますけど。『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』の海外版みたいな感じでやりたいですね。

――5月って新聞では出てましたが？

谷川　5～6月をメドに頑張りたいですね。

――タイソンなんか「Ｋ―1は4億2800万もくれてありがとう」って言ってますけど、それについては？

谷川　そんなにあげてないよ（笑）。何でそんなこと言ってるんだろ。ケタが違うんじゃないかな？

――本人はそれぐらい貰うつもりなんじゃないですか（笑）。『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』の後にハワイで買い物したらしいじゃないですか。明らかにこれはＫ―1につけたなって思って（笑）。

谷川　まだ請求書は来てませんけどね（笑）。いくらかかるんだろうな～。タイソン自身は試合をやりたいんですけど、まわりの環境が凄い難しいからね。

――多分、日本では厳しいですよね。

谷川　日本は厳しいからハワイかロスかニューヨークでしょうね。

――相手はサップになりそうなんですか？

谷川　一回限りだったらそうですね。でも、「複数回やりたい」っていう話もあるんですよ。そしたら、もっといろんな人を当てていきたいなって。タイソン個人の気持ちは複数回なんですよ。で、「最後にサップがいい」って言ってるんですよ。

――他は誰と闘いと言ってるんですか？

谷川　いや、「誰でもいい」って言ってますね。

――曙とか、今回負けちゃったからあれですけど、アメリカでやるんなら「元横綱vsタイソン」のほうが売りやすいですよね。

谷川　曙とかいいんじゃないかと思いますね。

――また、誰か引っこ抜こうとしてませんか？

谷川　いやいや（笑）。

――朝青龍とか（笑）。

谷川　朝青龍は……いつか必ずこっちに来るでしょうね（キッパリ）。

――来そうですよね。

谷川　ただ、いまは横綱でやったほうがいいと思いますよ。

――いまはそう思いますけど、だけど動いてるんですよね？（笑）。

谷川　ホントに動いてませんよォ！　でも、相撲界では曙さんの次は彼でしょうね。それは曙さんとも話したんですけど、「絶対、もうちょっと相撲界にいたほうがいい」って言ってましたね。「まだ成りたての横綱だし、横綱でも全然稼げるし、やっぱり人間的にも相撲協会って揉まれるんで、そっとしておいたほうがいいですよ」っていうふうに言われましたね。ただ、才能は凄いですよね。曙さんの話だと武蔵丸さんはおっとりしてるんだって。元々、ファイターの性格じゃないというか。

――そんな感じはしますよね。

谷川　だって、曙さんは二場所休んだだけで、「次の場所は出たい」って思ったら、やめさせられたらしいですけど、武蔵丸さんって七場所休んだんでしょ？

――休めるなら休もうかって。

谷川　そういう感じの性格らしいですよ。だから、彼はいい形で後身の指導をしたほうがいいっていうのは曙さんの意見ですね。自分の後で、相撲界でキラリと光るのは朝青龍だと。

中邑vsイグナショフ戦の裁定が覆ってしまうなど、ルール面を含め、課題が多い「K-1MMA」。春に開催を予定しているイベントでは、どんな闘いをみせてくれるか？

谷川貞治

——まあ、タイソン絡みでいろんな対戦を見せてもらいたいなあと思うんですけど、先程話に出ましたヒクソンはどんな形を考えてるんですか？

谷川　ヒクソンさんは非常に機嫌良く帰ったと思いますよ。

——またお金がかかったんじゃないですか？

谷川　お金ももちろんかかりましたけど、やっぱり非常に気に入ってくれましたね。ヒクソンさんとは一緒に新しいイベントをやっていこうということと、「ヒクソンさんを負けさせることが狙いじゃないんだ」という話はしました。やるんであれば、新しいバーリ・トゥードの大会を開いていきたいけど、それを成功させるのはヒクソンさんが試合をしないとダメですよという話をしたら、凄く気に入ってくれましたね。

——ファイターとしてヒクソンが出ると。

谷川　そういうことは言ってます。ヒクソン自身は「この10年間でK—1は世界一の団体になったと思う。しかし、自分はエンターテインメント性なものが食傷気味なんで、武道的な大会を開催したい」と言ってましたね。

——そうするとサップが出るMMAとはまた別な形で？

谷川　別にやろうと思ってます。

——いやぁ、今年のK—1は凄いですね。

谷川　でも、全部実現する話だなと思いますよ。

——『K—1・JAPAN』はどうなるんですか？　いつもだったら1月には大会を開いてますよね？

谷川　2月15日に沖縄でやります。『K—1・JAPAN』はいま、武蔵が去年準優勝して盛り上がってる部分もあるんですけど、もう一人いい日本人が入ってこないと難しい部分はありますね。だから、イベント自体はそのまま残して、ボク個人としては総合に近いものになってくると思ってます。

——じゃあ、総合の試合が多くなるような大会になると？

谷川　総合を混ぜていくか、総合だけでもやっていこうと思ってますからね。

——そうすると、『K—1・JAPAN』と新日本の絡みは続けていくんですね。

谷川　それは全然いいと思うんですけどね。

——逆に、新日本の大会に選手を送り込んだりとかは？

谷川　それは全然大丈夫ですね。猪木さんとは1月4日に挨拶させていただいて、「仕切り直しでよろしくお願いします」って言ったら、凄い嬉しそうに喜んで頂いたんで。

——そういえば新日本の東京ドームで話をされたんですよね。

谷川　そうですね。猪木さんにはひさびさに会いましたよ。猪木事務所の伊藤さんも川村会長も倍賞さんもみんなとお話ができて嬉しかったです（笑）。

——「先に紅白打倒しゃがって！」って言われませんでした？

谷川　いえいえ、そんなの何も言われないですけど、「今年もよろしく」って。

パッと見で少し年を取った感があるヒクソン。2000年5月以来、すでに3年半もリングから遠ざかっているが、今年こそ試合はあるのか？　そして誰との対戦を承諾するのか？

——でも、今後は谷川さんが、猪木さんに嫉妬されるような存在になるかもしれないですね？

谷川　そんなことは絶対ありえないですよォォ。猪木さんをまだまだお手伝いしたいですよ！

——プロレス、総合格闘技を含めてキングになりそうですよね（笑）。

谷川　いやいや、滅相もない！　でも、猪木さんには本当にもっと輝いてもらいたいですね。お手伝いすることがあればホント、サポートさせてもらいたいなあって。

——あと、お聞きしたいのが、来週、石井館長の裁判の結果が出るわけですけど。

谷川　まだ、控訴すると思うんで、どんな結果であろうが一年ぐらいかかるんじゃないですか。まあ、それまでにみんなで力を合わせて、体制作りを一生懸命やらないとダメでしょうね。

——じゃあ、現時点ではそれほど心配していないと。

谷川　というか、まだ時間の余裕はあるなと思ってるんですけど、やっぱり石井館長がいないと去年のドタバタというか、ボクも厳しい一年だったんですけど。ちょうど今日ですよね、森下さんが亡くなられたのは。

——そうですねぇ……。

谷川　あれから、みんなが変わりましたよ。ボクの周りの人もそうだし、やっぱり『PRIDE』にしても交流がなくなっちゃったし、いろんな人が立場から気持ちから変わっちゃって、テレビ局もそうですけど、それが大混乱を招きましたね。その中でボクはホント、大人しくして与えられた事を一つ一つ、当たり前の事を当たり前にやろうと。それが結構難しいんですけど、そこだけに専念してたから最終的にいい結果を残せたなって。

K-1 MMAルール［5分3R］

クリストフ・ミドゥ　［1R4分21秒 チョークスリーパー］　**トム・ハワード**

ゼロワン外人のリーダー、我らがトム・ハワードが初VTに挑んだ一戦。ハワードはいつもの迷彩パンツで登場、一度はマウントを奪うシーンを作るもそこからの攻めがなく、バンナの総合格闘技のコーチとして知られるミドゥのチョークに敗れた

K-1 MMAルール［5分3R］

須藤元気　［2R0分41秒 ヒールホールド］　**バタービーン**

今大会のベストバウト。映画『メジャーリーグ』をモチーフに躍りながら入場してきた元気は、実に110キロの体重差を持ち前の動きで跳ね返し、2Rに入ってすぐ低空タックルからヒールホールドで一本勝ち！　元気株はまたまた上昇の一途だ

K-1 MMAルール［5分3R］

成瀬昌由　［1R4分40秒 チョークスリーパー］　**ヤン・ノルキヤ**

真っ先に大晦日出場をアントン総帥に直訴したものの、ギリギリまでお声がかからなかった成瀬が、その鬱憤を晴らす快勝！　試合後はリングスの先輩・長井、裏新日最強?）矢野通、そして元前田道場の森田トレーナーと喜びを分かち合った

1 MMAルール［5分3R］

ブ・レデター　［1R0分13秒 TKO］　**マウリシオ・ダ・シルバ**

祭り」のG・シルバが「もしアンドレがVTに出たら?」のバーチャルなら、プレデターはそのロディ」バージョン。体格差を武器にゴングと時に距離を詰め、パンチでKO勝ち！　チェーン振り回して帰る姿が最高だった！

ノワ・ボタ

覚をと
腕対決。
や、藤
の判定

――奇跡に近いというか、信じられないぐらい最高の結果がでましたよね。

谷川 だって、ミルコは『PRIDE』に取られるわ、ホーストからハントからジェロムからサップまでケガするわでしょ？ ラスベガス大会の時なんて、「角田さん、試合をして下さい」っていう状況ですからね（笑）。

――無茶ですよね（笑）。

谷川 ねぇ。正直言ってホントに苦しかったですよォ。いつ潰れてもおかしくなかったんですよォォ！

――でも、そんなふうには見えませんでしたよね。

谷川 全然、見せないようにしてたんですけど、内部も外部の環境もメチャクチャになっちゃいましたから、内情は凄いしんどかったです。だから、当たり前のことを当たり前にやって、マイナスを補うプラスの材料を何か見つけようとして、たまたま引っかかったのがタイソンさんと曙さんでしたよね。だから、今年は結構ラクだと思いますよ。

――そうやって気持ちに余裕が出てきたところで、『W―1』をまたやる予定はあるんですか？

谷川 『W―1』はいまのところないですけど、やっぱり武藤さんが凄く館長のこととか大切にしてくれるし、何かやらなければいけないなっていう感じはありますね。

――ノアのドーム大会にサップ参戦かって話もありますけど？

谷川 何にも話はしてないんですけど、それはもう何でもOKですよ。それはいいことだと思うし、K―1は過去にノアと何かがあったとかないですから。新日本、全日本、ZERO―ONEとかが試合をするのは難しいハードルがたくさんあるじゃないですか。でも、そういうのはK―1はないですからね。

――『PRIDE』との交流はどうですか？

谷川 『PRIDE』とは今のところ、ないと思いますね。

――まあ、当面いいライバル関係をつくっていったほうがいいのかなあと。

谷川 いいライバル関係というか、誰がどういう話し合いをするのかもわからないですからね。『PRIDE』に関してはホントにわからないです。

――あと、『Dynamite!!』は、年内に何回かやる予定なんですか？

谷川 『Dynamite!!』は大きなイベントということで、年末とで2回くらいやりたいですね。MMAを『Dynamite!!』にするのは違う気がするんで。またテレビ局もどこでやるかわかんないし。

――あ、そうなんですか。

谷川 でも、企画とか選手の数から見ればどこの局もやりたいと思いますよ。

――曙選手の今年の試合予定は？

谷川 昨日の夜に話した時は「4～5月には試合をしたい」って言ってましたからね。で、年間2回ぐらい試合をやって、もう一回サップとやりたいと。

――ちなみにいま三局ありますけど、曙はどこも出したいと思うんですけど。

谷川 いや、どこでもいいと思いますよ。

――ホントに、テレビ局からも引く手あまたで、谷川さんはキングになりましたね（笑）。

谷川 何言ってんの（笑）。

――だって、谷川さんをキングって言わないで誰をキングって言うんですか（笑）。

谷川 そんなことないって！（笑）。

――何か凄いアドバルーンを年末にまた上げるんでしょうね。

谷川 頑張って上げないとね。あ！ あと、曙さんが本を書いたらしいんですよ。

――『曙』ってタイトルですよね。

谷川 これ、結構、曙さんは語ってるんだけど笑えるんだよねえ。ボクが横綱に電話した時のこととかも詳しく書いていて、「電話ではちょっと話しにくいんで、親方申し訳ないですけど、出て来てくれませんか。ボク、いま稽古場の前の電信柱のところにいるんですよ」とか（笑）。

――電信柱!? なんてところから電話してるんですか（笑）。

谷川 で、一応、その時、契約書も持って行ったんですよね。

――まさか、電信柱の前で契約書をいきなり渡したんですか!?

谷川 そうそう。曙さんは、「K―1はいつもこういうやり方をするのか？」って驚いてましたね。普通、こんなやり方通るわけがないですよね（笑）。

――通らないですね。去年の成功は、谷川さんの人柄だってことが非常によくわかりました！（笑）。

【04年1月9日／K・1事務局にて収録】

左からハンマー投げの室伏広治、柔道の秋山成勲、井上康生も観戦に訪れた。この中の誰か一人でも格闘技に転向したら、とんでもないニュースとなるが……。五輪後、谷川マジックは再び炸裂するか!?

『PRIDE』はライバルと言うかホントわからないです

K-1 MMAルール［5分3R］

中尾芳広 ［2R1分13秒 ギブアップ］ **ダビド・ハハレイシビリ**

本誌編集部大推薦のリアル男の中の男、中尾がガファリ……もとい、ハハレイシビリを相手にプロデビュー。中尾は、リングス参戦時よりさらに逞しくなった巨腹を武器に向かってくるハハレイを真っ向から迎え撃ち快勝！ お前はオトコだ！

K-1 ルール［5分3R］

アーネスト・ホースト ［3R 判定 3-0］ **モンターニャ・シウバ**

I編集長ご推薦のアマゾンの大巨人、モンターニャがブラジルプロレス界の威信を懸けて（嘘）王者ホーストと対戦。結局フルマークの判定負けとなったものの、実はK-1キャリア半年ということを考えれば、凄いことなのかもしれない

K-1 ルール［5分3R］

フランシスコ・フィリョ ［3R 判定 2-1］ **TOA**

昨年7月のベルナルド戦で大きくミソをつけたフィリョが復活を期して、なぜか元アマ相撲王者と対戦。これまた豪快なKO勝ちが期待されたが、蓋を開けてみたら、TOAの頑張りばかりがやけに目立つ展開。ああ、極真幻想はどこへ……

K-1 ルール［5分3R］

藤本祐介 ［3R 判定 3-0］ **フランソワ・ボタ**

12月のK-1ワールドGPでは、アビディに不覚をとった元ボクシング王者ボタが、藤本と豪快な……ボタの豪快なKO勝ちが見れるかと思いきや、藤本にカウンターを合わされダウン！ まさかの判定負けを喫したボタはこれからどうする？

新日本プロレス復興のキーワード

〝殺し〟と木戸修

"活字フッカー" I編集長が
プロレスラー大晦日出陣を一刀両断!!

井上義啓

——さて、井上さん。今日は大晦日決戦について、お話を伺いたいと思ってるんですけど。今回はプロレスラーの参戦が目立ちましたが、残念ながらプロレス側にとっては芳しくない結果に終わりましたね。

井上　ま、一言で言うと時代の違いだろうな。

——時代の違いというと？

井上　つまり、いまの連中は〝殺し〟を知らんわけだよな！　ドン！（と、テーブルを叩いてるはず。以下同様）。

——こ、〝殺し〟ですか!?

井上　〝殺し〟と言っても、ホントの殺しじゃないよ。殺気をはらんだ試合ということなんだけども。いまの時代だと、そんな殺気が身に付かんわけですよ。

——時代性の違いはあるでしょうね。

井上　こんな平成のありがたい世の中で、喧嘩なんか町で酔っ払いがしてるのをたまに見るけれども、俺らが子供の頃は相手を殺しかねない勢いで喧嘩ばっかしてましたよ。学校に行ったら三カ所ぐらいで喧嘩があったわ！

——喧嘩だらけじゃないですか！

井上　相手が怒って折たたみ式のナイフを投げてきたときもあったからね。突き刺さっとったら死んどったよ！

——以前にも聞きましたけど、井上さんは喧嘩で相当鳴らしたんですよね。

井上　も～うやったわ！　あるときなんか空気銃で額を撃たれたわ！

——空気銃！　一歩間違えたら危ないじゃないですか！

井上　ちょっと額にめり込んでキズあとが残ってる程度やけど。1週間に1回は血ダルマになって喧嘩しとったよ。

——そういう時代だと、やっぱりマット界も殺伐としてたんですよね？

井上　当たり前ですよ、アンタ！　力道山の時代なんかすべてが恐怖ですよ！

——すべてが恐怖！　そんなに力道山は怖かったんですか？

井上　いや、力道山は殴りはしなかったけど、周囲にはたくさん怖い奴がおったからね。いっぺん奈良で試合があったときに、「オマエ大阪に帰るんか？　ちょうどいい。俺も車で帰るから乗してやる」って言われてな。それに乗り込んだら、ヤクザの親分がズラっておるわけですよ。もう怖いのなんのって！

——ガハハハ！　それはビックリしますねえ！

井上　もう万が一のことがあったらイカンってことでレスラーが用心棒しとってな。ドスかなんかを懐に忍ばせてるわけですよ！

——懐にドス！　不測の事態に備えていたわけですね。

井上　もう生きた心地がしなかったもんな、アレ！　ヤクザの親分たちが「ウチの若いのが指を落として」とかね、そんなことをワーワー言い合ってるわけですよ。

——ガハハハ！　耳を塞ぎたくなる話をしてるわけですか（笑）。

井上　そんな頃に力道山の付き人をやってたのが猪木でな。俺は猪木が力道山に殴られるのをしょっちゅう見てましたよ。芦屋の旅館だったか、力道山が黒のトレンチコートを着てサングラスをかけて出て来たのよ。も～うゴッドファーザーそのもの。ダブダブのトレンチコートや！

——思い切りその筋の方にしか見えなかったわけですね（笑）。

井上　そこで猪木が靴を差し出したんだけど、なんか気に入らんわけだ。持った靴ベラで「バカ野郎！」って殴られてましたよ！

——梶原先生の「プロレススーパースター列伝」にもそんなエピソードが載ってました（笑）。

井上　それに、猪木はブラジルで農園主に撃ち殺された死体をいくつも見たって言っとったもんな。そういう経験も積んでるわけですよ。

——日常から〝闘う〟雰囲気を身につけていったわけですね。

井上　モンスターマンや（チャック・）ウェップナーとやったときなんか、殺すか殺されんかという緊張感の中でやってるわけですよ！　ナンボ筋書きがあるとか言うたところでね、あんだけ忙しい大スターが毎日、佐山（聡）や藤原（喜明）と〝殺し〟の練習をして、モンスターマン戦に備えてるわけだ。たまたま俺は練習をよう見たけど、佐山がボクサースタイルでボンボン殴って蹴って、猪木がそれをかいくぐって飛び込んで、後ろに回ってスリーパーをやると。要するに、いまのバード（井上用語でVTの意）と一緒！　そこらへんが永田（裕志）や中西（学）あたりとの違いだよ！

——まるで永田や中西がバードの練習してないみたいですよ（笑）。

井上　いまは、相手を担ぎ上げたり、相手をロープに飛ばしてワーワーやっとるだけで、見せかけの練習しかしとらんだろ！（キッパリ）。

——見せかけの練習！　つまり、いい試合をするための練習ですよね。

井上　別にそれでもいいんだけど、だから永田や中西は平気で相手の射程距離に立つんだよな。「猪木の異種格闘技戦なんてみんな八百長だ！」とか言うバカな奴がおるけどね。言うちゃ悪いけど違うんだよ！　俺は何も懐古主義で猪木の肩を持ってるんじゃない。猪木という男は絶対に射程距離に入らない。それは普段から、ホントに相手を殺すための練習をやっとったからできるんや。

——生きてきた時代、そして練習方法も影響してるわけですね。

井上　とにかく、あの頃はホンモノの練習をやっとったんですよ。それをやってない永田がバードで勝てるわけがない！

——しかも相手は『PRIDE』ヘビー級王者でしたからね（笑）。

井上　ヒョードルにしたって殴ってないよ、アレ！

——なんだかセーブして殴ってる感じはしましたね（笑）。

井上　そりゃそうですよ。右手親指の骨折はまだ治ってないからね。力いっぱい殴れないからチョイチョイやってるうちに永田がポテーンといってしまっただ

【『猪木祭り』】
○ エメリヤーエンコ・ヒョードル（1R1分2秒　TKO）永田裕志●
ミルコ戦以来となるVTに挑んだ永田は“氷の拳”がかすっただけで戦意喪失！　最後は恐怖心のためか、亀の状態になったままピクリとも動かない恥ずかしい姿に。勝負ありと判断したレフェリーが試合を止めたが、VTの対応能力のなさ、ハートの弱さを露呈するかたちになった。

【『猪木祭り』】
○ステファン・“ブリッツ”・レコ
（1R1分8秒KO　右ハイキック）
村上和成●
立ち技ルールでレコに挑んだ村上は、試合前に武蔵から花束贈呈されるとその花束を殴り返す！　試合開始当初もレコへの挑発パフォーマンスで観客を大いに沸かせたが見せ場はそこまで。強烈な右ハイキックをモロに浴びてダウンし、そのまま起きあがれずに完敗！

平成のレスラーは〝殺し〟を知らない。百回やっても負けるわ！

けでしょ。いつどこでどうやってダメージを与えたかいまだにわからんわ!

――ガハハハ! 永田はダメージというよりは、恐怖心による戦意喪失って感じでしたね（笑）。

井上 死地で泳いでない連中がやったところでダメなのよ。それは永田だけじゃなくて、中西、蝶野、三沢、小橋でも一緒! あの連中に〝殺し〟はできませんよ。ハッキリ言うとくわ!（ドン）。

――いまの世のメインイベンターに〝殺し〟は無理ですか（笑）。

井上 それができるのが猪木であり、（ルー・）テーズや（ビル・）ロビンソンだったわけですよ。彼らはただのシューターじゃないからね。いざとなったら指一本へシ折ることができる。いわゆるフッカーなんだよな!

――シューターの上に存在するのがフッカーなんですね。

井上 ロビンソンたちが若かかりし頃だったら、ミルコにしたって、ヒョードルにしたって一発でやっつけてると言うのは強がりでも何でもないのよ。それだけ〝殺し〟の技を持ってるから。いまのファンは「ノゲイラが凄い」とかワーワー騒いでるようだけども、やっぱり（カール・）ゴッチのほうがスゲエぜ!

――ゴッチに比べれば、ノゲイラも甘いわけですか!

井上 ノゲイラ以上の使い手が、ゴッチでありテーズでありロビンソンですよ。ヒョードルなんか子供みたいなもんですよ、あんなもん。

――ヒョードルなんか子供ですか（笑）。

井上 俺の頭の中で想像する限りでは、フランク・ゴッチやジョージ・ハッケンシュミットとか、あの連中がやっとった時代が本当の〝殺し〟だからね。田鶴浜（弘）さんあたりも『ファイト』でそう書いとったから。

――田鶴浜先生はファンタジー活字の権化みたいな存在だったんじゃ……。

井上 昔を知らん連中がどんな記事を書いても、どんなトークをやってもダメなのよ。〝殺し〟を知らんのだから。キミだって〝殺し〟は知らんだろ!

――し、知らないです。

井上 田鶴浜さんは米マットの記事を『ファイト』で連載しとったから、しょっちゅう〝殺し〟の話をしとったんだよ。ガス灯時代の道端での〝殺し〟、あれこそがバードなんだと。それを見とった人間がおったら、いまのバードをどう言うんだろうな。

――ぜひお話を伺いたいですね（笑）。

井上 きっと「いまのバードマッチは2、3歳の赤ちゃんの遊び」と言い切るだろうな!

――そ、そこまで違いますか!

井上 昔のプロレスはそういうもんだったんだよ。ところが平成のプロレスラーにそれはできない。だから純プロレスをやらざるをえないのよ。バードじゃどうにもならん。格闘技で商売にならん。もう純プロレスをやるのが精一杯。言うちゃ悪いけどエンタメプロレスだ、『ハッスル』しかないと!

――破壊王は先駆けてハッスルしたわけですか（笑）。

井上 小橋vsサップをやるとか騒いでるけどプロレスだろ? 筋が違うから出られんけど、極端に言うと『ハッスル』に出るのとな～んも変わらんわけだよ。

――基本的には変わらないですよね。

井上 バードマッチだったら話は違いますけど、小橋あたりはバードなんかできないから。サップが本気で殴ったら一発で終わり! 昔の小橋だったらわからんけど、ヒザはガタガタしてるし満身創痍だからね。

――バード以上にハードヒットな試合を続けたことで、身体はボロボロになってますからね。

井上 もし小橋が「バードマッチでも自信がある。東京ドーム以外でバードマッチだ」と言ったとしたら、これはもう大いなる錯覚、大いなる幻影ってやつですよ。

――井上さん一押しの中邑真輔はどうでしょうか? これまた井上さんが惚れ込んでいるイグナショフに負けちゃいましたけど。

井上 イグナショフなんかまだまだ甘い! あんな甘ちゃんおらんわ!

――倒れた中邑にトドメを刺しにいきませんでしたね。

井上 トドメを刺さなかったというか、単純に甘い! 俺は買いかぶりすぎとったな。あんな甘い男は飴玉をしゃぶりながらやっとるんと違うかなと思ったわ、ホンマに!

――ガハハハ! そこまで見損ないましたか（笑）。

井上 中邑は8回以上もタックルしてるんだぜ。そんなに飛び込んだら上井（新日本執行役員）じゃないけどタイミングがわかりますよ。言うちゃ悪いけど、俺だったら3回目ぐらいでヒザ喰らわしてますよ!

――井上さんだったら3回目で中邑をノックアウト!（笑）。

井上 キミだって倒せますよ! やられた中邑も甘いですよ。8回も飛び込んでマウントを取りながら何もできない。〝殺す〟手段を知らないんだよな!

――グラウンドに持ち込んでも何もできなかったですからね。

井上 もう甘ちゃん同士の闘い。甘く

【『Dynamite!!』】
アレクセイ・イグナショフ（没収試合）中邑真輔

“疑惑の裁定”ばかりに目を奪われがちだが、“VT1ヶ月生”イグナショフのポテンシャルを高く評価する声もある。しかし、I編集長に言わせると「まだまだ甘い!」らしいので、よりいっそうの修行が必要だろう。

永田、村上、ジョシュ以外の試合も激闘三昧!!

12·31『猪木祭り』～神戸ウイングスタジアム～

○アリスター・オーフレイム
（1R36秒TKO　左ヒザ）
橋本友彦●

あのアリスターがDDTの橋本友彦と急遽対戦。得意の払い腰で投げようと組み付いてきた橋本をアリスターは難なく突き放し、必殺のヒザをボディに叩き込む! 橋本が悶絶したところに追い打ちをかけ、無難に勝利を飾った。

○アマール・スロエフ
（1R4分23秒TKO　顔面蹴り）
ディン・トーマス●

三島☆ド根性ノ助、ジェンス・パルバー、ステファン・パーリングらに勝利した実績を持つディン・トーマスだったが、レッドデビル所属で、かつてはUFCでチャック・リデルと拳を交わし、現在はロシアM-1で活躍している実力派ファイターの前にTKO!!

○エメリヤーエンコ・アレキサンダー
（2R4分28秒ドクターストップ　大出血）
アンジェロ・アロウージョ●

“ブラジリアン・トップチームの次期エース”アロウージョの巨体をあっさり投げ飛ばし、あっさりポジションを奪って殴り続けたアレキサンダー。前回のアンデウソン・シウバ同様、まだまだ底知れない実力を感じさせるから末恐ろしい!! さすがヒョードルの弟だ。

○レネ・ローゼ
（1R52秒TKO　マウントパンチ）
安田忠夫●

“負けたら自己破産”というチープなアングルを引っさげて安田が登場。セコンドに魔界倶楽部・星野総裁、リングサイドでは愛娘の彩美ちゃんが見守る中、ローゼを組み倒すことに成功しかけたがロープを掴まれ体勢逆転! そのままマウントを取られてパンチを喰らい不運のTKO。

ノア、橋本はエンタメでいい。新日本だけは〝殺し〟をやれと!!

ない男って言ったら格闘技界を眺め渡しても、ミルコやノゲイラ兄とか、（ヴァンダレイ・）シウバぐらいだと思うよ。
――井上さんのお眼鏡にかなうのはそのへんですか。
井上　吉田（秀彦）もサク（桜庭和志）も甘い！　現に吉田は、ホイスにキン●マ狙われて蹴られてるじゃないか！　ある記者が「アクシデントだ」って言うてましたけど、あれがアクシデントなら世の中アクシデントだらけですよ。列車の事故も飛行機の事故もぜ～んぶアクシデント！
――そこまで言うほどあの金的は故意に狙っていた、と（笑）。
井上　ホントは吉田が蹴らないといけないんだよ。サクもそうや！　それが彼らにはないでしょ？
――そこまでして勝つ精神状態にはならないでしょうね。
井上　ホイスも甘ちゃんだけど、ヒクソンの弟ですからね。柔道と柔術は途中で分かれていったけど、柔術なんて〝殺し〟の技を持ってたんですよ。人を殺すのはイカンというんで嘉納治五郎がスポーツ化したわけだろ。
――柔道はスポーツとして形を変えていきましたね。
井上　昔の柔術の流れを汲んでるのがヒクソンあたりでね。アイツらは〝殺し〟のテクニックを持ってるんですよ。だから安生（洋二）がやられたわけだ。安生はひょうけた男だけど、喧嘩をやったら強いんだよな。
――安生さんは「道場王」と呼ばれてましたもんね。
井上　道場破りなんかやらせたら藤原（喜明）なんかと同じで相当いけるんですよ。ホイスはその安生をやったヒクソンの弟なんだから〝殺し〟に近い場面を何回も見とるはずですよ。だからホイスは違うんです。その勝つべき〝殺し〟っていうものが吉田、サクにはない。まして平成のプロレスラーにあるわけない！（ドン！）。
――大晦日にプロレスラーたちが惨敗したのは当然なんですね。
井上　勝つべき者が負けたんと違うわ。100回やって100回負ける者がやってるんだ！　それが一番最初に言うた、時代が違うってことですよ。〝殺し〟の時代と見せ技だけやる時代とそりゃ違いますよ。だから、中嶋少年（勝彦）にしろ中邑にしろプロレスの練習はしない。

【『猪木祭り』】
○ ジョシュ・バーネット
（3R4分48秒　腕ひしぎ十字固め）
セーム・シュルト●
パンクラス無差別級選手権はジョシュが見事な一本勝ちで3度目の防衛をはたした。試合後「『PRIDE』、K-1、全部かかってこい！　俺は新日本のプロレスラーだ！」とアピール。『PRIDE』TOP3との対戦はぜひ実現してもらいたいが……。

道場でバードの練習だけをやると。で、プロレスにも出て行ったらいいんだよ。
――とにかくガッチガチの練習をすべきなんですね！
井上　『U―30』なんて甘いこと言わずに、俺に言わせれば『U―25』ですよ。25歳以上はもう知らん！　24歳までの連中にホントの意味での〝殺し〟ができる男に仕上げることですよ。
――それがホントの意味でのプロレス復興に繋がるわけですか？
井上　俺はプロレス復興なんかは言ってない。とにかく新日本復興！
――あくまで新日本への提言（笑）。
井上　そりゃそうですよ。ノアとか橋本なんてのはいまのままでいい。純プロレスでいいじゃないかと言う小川（直也）は正しいんだよ。
――純プロレスの方向性は正しい、と。
井上　エンタメを悪く言ってるわけじゃない。格闘技でメシを食うのは二つあって、ひとつは〝殺し合い〟。そうでなかったらエンタメだから。エンタメで客が入ってメシが食えたらこれほどありがたいものはないですし、プロ野球にしたってエンタメだからね。みんなスポーツっていうのはエンタメなんだから、〝殺し合い〟をする必要はないわけですよ。
――でも、新日本は〝殺し合い〟の方向に進むべきなんですよね？
井上　当たり前ですよ、アンタ！　新日本が一旦でもバードをやった以上、甘いことは言ってられませんよ。俺は言うちゃ悪いけど、バードは他の団体には期待してないのよ。
――新日本は〝キング・オブ・スポーツ〟を掲げていた団体でもありますからね。
井上　中邑あたりはホント言うと猪木に手ほどきしてほしい。猪木に〝殺し〟の技を教えてほしいんだよ。「こうやって指をへし折れ」「キン●マを潰せ」と。ゴッチなんかは「俺だったら青いアザなんか付けずにレバーだけ潰す」って言ってましたからね。それをやられたら「痛い痛い」と言いながらでも控室には帰れる。で、次に日に死ぬよと……。
――ガハハハ！　北斗神拳なみの殺人術ですね（笑）。
井上　それができるのがフッカー！　猪木は力道山の弟子でもありゴッチにも教えを受けたから、〝殺し〟を知っている。その猪木の教えを受けた木戸（修）も〝殺し〟知っとるはずですよ。
――平成のマット界に〝殺し〟は失われてなかったんですね。
井上　猪木が「忙しい」って言うんだったら、中邑、柴田は木戸に〝殺し〟を伝授してもらうことだな。他のレスラーはいいわ。やったところで話にならん。
――中邑と柴田以外は論外ですか（笑）。
井上　上井さんは木戸に2、300万積んでホントの〝殺し〟を教えてやって下さいと頼むべきですよ。藤原だってできるはずだけど、俺は木戸が一番の使い手だと思うわ。
――木戸さんはアパート経営なんかやってる場合じゃないですね（笑）。
井上　そういった〝殺し〟を覚えて、相手を窮地に落とし込んでいかんことには、言うちゃ悪いけど中邑も柴田も勝てないですよ。そこに新日本プロレスの今年の命運がかかってるんとちゃう？
――なるほど。よ～くわかりました！
井上　ま、そんなところでしょうな。〝殺し〟〝殺し〟と言いましたけど、柔らかくして載せてくださいよ。そうじゃなかったら「アイツはどんな恐ろしい男だ!?」ってことで警察が俺をパクるからな。やっぱりワッパをハメられたんじゃ原稿が書けない。ワッパをかけられてもいいけども、原稿を書けなくなるのが心配なんだよな！
――わかりました（笑）。捕まらない程度の表現で、今年はよろしくお願いします！

【03年1月某日／電話取材にて収録】

○ 藤田和之
（2R2分25秒　肩固め）
イマム・メイフィールド●
対戦相手が変更となった藤田。元ボクシング王者に対して、グラウンドに持ち込むも「寝技20秒限定」ルールの前に再三好機を阻まれたがなんとスタンド状態で肩固めにトライ！　後方に倒れ込むイマムの背中をヒザで支え、バックブリーカーの複合技で締め上げた!!

○ LYOTO
（2R1分KO　左フック）
リッチ・フランクリン●
〝呑気なアントン〟ことLYOTOがUFC無敗の強豪をブッ飛ばした！　LYOTOの存在自体がミステリアスなため、戦前予想ではLYOTO不利と目されていたが、得意の打撃でリッチを完封。噂に違わぬ実力を見せつけた。これでデビュー以来、無傷の3連勝！　ンムフフフ。

○辻結花
（3R　判定3-0）
カリオピ・ゲイツイドウ●
スマックガール提供試合として、『猪木祭り』にジョシカクファイターが初登場!!　キックの実力者と対戦した辻ちゃんは、タックルからの腕十字、ヒザ十字で攻め続け、一本こそは極められなかったが文句なしの判定勝利を収めた！　試合後はアントンから闘魂注入!!　次の舞台は海外か!?

○マイケル・マクドナルド
（2R46秒KO　右ハイキック）
天田ヒロミ●
なぜか猪木軍入りをはたし、総合ルールの挑戦も浮上した天田ヒロミだったが、相手はマクドナルドで立ち技ルールという、K-1のリングさながらのマッチメイク。1Rは押し気味に試合を進めるも、2Rに逆転KO負け!!

年越しカウントダウンイベント観客がリングジャック!

大晦日大混沌の結末!!

『猪木祭り』大暴動寸前!!

「ちょちょちょストップストップッ！」

大混沌の大晦日、最後は大暴動!? 『猪木祭り』全試合終了後に行われた年越しカウントダウンセレモニー。出場選手、そしてアントン総帥がリングに上がり、恒例の百八つビンタが行われたが、〝ルール無用〟のアントン総帥ですらたじろぐ騒動が勃発！ 地上波未放映、他誌では詳しく報道されなかった奇跡の光景を、本誌が誌上再録!!

猪木 えー、2003年『イノキ・ボンバイエ』も元気に、**滞りなく幕を閉じる**ことができます。元気な年を最後に、そして新しい年はますます元気！ ということで、選手全員が頑張ってくれました。ありがとっ！（選手たちに向かって）。

【会場拍手】

猪木 そして、あと何分でしょうかね？ もうちょっとで新しい年を迎えます。元気がなくなった日本に元気をということで、格闘技がみなさんに元気を送る、紅白では元気は送れない！ ということで、紅白も頑張れ、そして格闘技みんな頑張れということで、みんなが幸せになりますように！ それではいくぞー！ イチ、ニー、サンッ、ダーーーーッ!!

【会場大歓声。『炎をファイター』のテーマが鳴り響き、大「猪木」コール】

猪木 それではカウントダウンまでお付き合い下さい。（百八つビンタをやるので）まず12列目の31番の人、出て来て下さい。

毎年恒例「百八つビンタ」に先駆けて「ダーッ！」と大会を締めたアントン総帥。この時点ではゴキゲンだったが、その後に起きた珍騒動に徐々に表情を険しくしていき、大炎上を迎えることになる。

【12・23新日本後楽園大会に姿を現したアントン総帥は、『猪木祭り』ドラゴン引退式を実現すべく、ドラゴンに12列31番の『猪木祭り』チケットを手渡すパフォーマンスをみせていたが…　…12列31番のはずのドラゴンは登場せず！ もう東京に帰った？】

猪木 それから1列目の4番。番組が早く終わりすぎてしまったというか（笑）。今日は皆さんの試合が非常に白熱したために、ノックアウトシーンが多かったという。スタッフがとんだ誤算をしてしまったというか。えー、でもそれぞれが番組を閉じるということで、いまボブ・サップの試合も観てきました、裏のテレビで。2分何秒で曙が負けたようです。

【場内どよめきに包まれるが、**突然のネタバレに「バラすな！」と怒り**の声も。しかし、アントン総帥**はまったく気にせずネタバレを続ける！**】

猪木 そしてK—1に行きました中邑は断然優勢でしたが、訳の分からない負けを喫してしまいました。もう一つ、ノルキヤとやった成瀬という新日本の選手は勝利を収めました。ご報告申し上げておきます。

【観客拍手＆野次】

猪木 えー、それでは恒例になりましたけど、結構これは歳を喰ってくると体力がいるんだよなっていうことで（笑）。大阪で始まりました『イノキ・ボンバイエ』。4年前に百八つのビンタということでやりました。今日も恒例により頑張っていきたいと思います。そして皆さんと共に腹の底から元気にコブシを突き上げて、新しい年を迎えたいと思います。それでは、1番目は誰だあ？

【少年がリングイン】

猪木 何歳だ？

少年A 12歳です。

猪木 12歳。元気が出るおまじないというかね、どこに行ってもホントに恒例となってしまいましたが、それじゃあ、いくぞ！ ダッ！（パチンとビンタ）

【客席から悲鳴と拍手。続いて少年Bがリングイン】

猪木 はい、君は何歳だ？

少年B 10歳です。

【このあと数人に闘魂注入を授けたが、**段取りが悪く誰もリングに上がらない**】

猪木 えー、**あとが続かないですね、今日は。**『イノキ・ボンバイエ』も最初の時はいろいろ段取り通りいきませんがね。じゃあ、俺が指を差すよ。じゃあ君、**いま手を挙げた人！**

【**アリーナ席に向かって大雑把に指差す。**誰が指名されたか判断が付かないため、とりあえず観客がリングにぞろぞろと向かう】

猪木 あなた！ 2人！ **そこで赤いタオルを振ってる人、君だ！ 赤いタオル！**

【**縦横無尽に指を差しまくるアントン総帥。**観客が集まり始め、リング周辺が騒がしくなる】

猪木 君、手を挙げた人。**君が一番早かった。**あなたも！ そこの3人組！ はい、**辻（結花）クンの応援団！**『イノキ・ボンバイエ』の服を着てる人も！

リングアナ 猪木さん、猪木さん！ わたくしがお手伝いさせて頂きます。それでは皆さん！ 猪木さんに百八つのビ

ルールを守れや！ 殺すぞコノヤロウーーッ!!（怒）

ンタをブチ込まれたいという方、これから……**（リング周辺に集まった観客たちの異様な熱気に気付き）落ち着いて下さい。**じゃあ、猪木さんの方から指名を受けた方をリング上にお呼びしますから。猪木さん、どういう順番でいけばよろしいですか？**目立つ方からいっていいですか？**
猪木　**猪木のルールは一寸先はハプニング！ということで、何でもあり！**（リングの一方を指差し）そこに並んだ人から108人ということで。
リングアナ　じゃあ、並んだ方から108人までが……。
【「ルールは一寸先はハプニング！何でもあり！」の号令とともに**観客が一斉にリングに上がりかける**ばかりか、席で静観していた観客たちも続々とリングに集結し始める！】
猪木　（リングに上がり始める観客に）**ちょちょちょちょ！　ストップストップ！　そこでストップ!!**
リングアナ　（慌てて）ストップストップ！　ストップです！　ちょっと待って下さい！　係員の指示に従って下さい、係員の指示に従って下さい！
猪木　**ストップ！　そこにいる！　な!?**　で、俺が指を差した人から上がって来い。さっき指名した人、上がって来いよ！
【「さっき指名した人」とはいっても、アントン総帥は無造作に指名し続けたので誰に権利があるのかわかるわけがない。結局、アントン総帥が指定したエプロンも交通整理が付かないため、違う場所から一人一人観客をリングインさせることになるが……】
リングアナ　猪木さん、こっちは整理が付かないようであっちの方からいきましょう（と、観客をリングに上げる）。
猪木　（リングインした観客をビンタをしながら）いくつだ、これ！　**勘定してくれ、勘定！**　誰か勘定してくれないとわからん。何人目だぁ？（イラつき気味に）。
リングアナ　ちょっと待って下さい！　じゃあ、ここから年越しまで残り40分しかありません。**こっから108人、**大急ぎでいきましょう！　1人目！
猪木　ダッ！（パチンとビンタ）。
【先ほどとは打って変わってやる気のない闘魂注入を義務的に行うアントン総帥】
リングアナ　次、2人目！
猪木　ダッ！（パチンとビンタ）
【闘魂注入が行われる隙に、指定した以外のエプロンから観客たちがリングに上がり始める】
リングアナ　（異変に気付いて）リングに上がっちゃダメです！　リングに上がっては……。
【リングアナの注意をまったく聞かずに観客がリングに雪崩れ込む!!　そしてアントン総帥に群がる！】
猪木　（群がるファンに向かって）**バカヤロ————ッ!!　一列！　一列！　やめるぞ、お前らっ！　一列だって言ってんだろう！（大・激・怒！）**
【観客がリング上を埋め尽くす！　観客はアントン総帥に群がる！】
猪木　**下がれ————ッ！　慌てるな！（慌てながら）**
リングアナ　一旦……、猪木さんがビンタをできませんので……。
【それでも観客はアントン総帥に群がる！】
猪木　（群がる観客に）下がれコノヤロウ！　コノヤロウ。そこに立っとけ！
リングアナ　皆さん、一回降りて下さいっ！
猪木　**（それでも群がる観客に鉄拳制裁のポーズで）殺すぞコノヤロウ！　ルールを守れーッ!!**
リングアナ　降りて降りて降りて！
猪木　**（リング下の観客にストンピングしながら）入った奴は殺すゾ!!**
【**異変を察知したヒョードル、アレキサンダーたちは控え室に引き上げる**が、観客はまったくリングを降りず！　アントン総帥は群がる観客に無表情で闘魂注入を続ける】
猪木　**ハウスハウス！　ハウス！**
（※犬をしつける用語で「小屋に戻れ」の意）。
リングアナ　キチンとキチンと並ばないとダメです！　キチンと並ばないとカウントできません！
猪木　**上げるなって言ってんだろう！　下がれ一歩！　一歩下がれ、こうして行くから！　はい。よーし。慌てるな！　よし**（と、吠えながら闘魂注入を続ける）。
【観客の**交通整理をジョシュ・バーネット**が始め、**藤田がイラ立ち気味に観客にガンをつけながら**アントン総帥のボディガードを務める。アントン総帥は群がる観客に無表情で闘魂注入を続けること10分弱、リングアナの「一旦、中断」の呼び掛けが功を奏したか（奏すのが遅すぎるが）、潮が引くようにリング上から観客がいなくなる】
猪木　え～、ハプニング続きということで**ちょっとした混乱**が起きましたが、私もこのリングに上がった時に何にも考えないで、いま御挨拶をしてるということでですね、あと何分でしょう？
リングアナ　猪木さん、あと残り27分で新しい年2004年なんですが、実は今日、この会場**4万3000人**の中で、猪木さんの百八つのビンタを受ける権利を持つ抽選で当たった60名の方がまだいらっしゃるので……。
猪木　（まだやるのかといった表情で）はい。どうぞ並んで下さい。
リングアナ　その方々は、この赤い花道に60人並んで頂きたいということで。え～、その60人の方々は抽選の当選のカードをお持ちだと伺ってますが、**そういうことになってますよね？**（誰に問いかけるわけでもなく）。60名の方々、いらっしゃればぜひこの赤コーナーの花道に並んで頂きたいんですが。いらっしゃいませんか？
【観客ノーリアクション】
猪木　（イラつきながら）それでは、**赤い風船を持ってる人はここに並んで！　こっちへ！**
【なぜか**「赤い風船」**を指定したアントン総帥だが、まったく観客は集まらない】
猪木　もういいよ！　時間がないよ！（逆ギレ気味に）。**そこに並んで、上がってドンドン。はい、あなた！（と、またもや無作為に観客を指名する！）**
またもや混乱が起きるぞ、たわけがっ!!　再び観客がリングに雪崩れ込む！……展開が繰り返されることはなかった。選手&関係者が自発的に交通整理を行ったので、再開した百八つビンタは無事終了したのだ（あきらかに108回は超えていたが）。こうして〝アントンvs群衆〟の闘いは幕を降ろしたが、どーですかお客さん！　今年は新間〝魔性のリングジャック〟、橋本vs長州〝コラコラ問答〟、髙田vsOH砲の『ハッスル』トークなど、秀逸な人間劇場が多かったが、アントン劇場もやっぱり最高なのである！　来年も〝ルール無用〟の百八つビンタ、やりますかーッ!?　ンムフフフ！

8月 August

■10日 『猪木祭り』、フジテレビで中継!?

アントン総帥が『PRIDE』のリング上から、大晦日に『猪木祭り』を開催することを報告。**「一番、高い山から放送するのもいいかなと思います。ンムフフフ!」**と笑いながら、富士山と引っ掛けてフジテレビからの中継を示唆したが……。

11月11日の開催発表記者会見。「呼ばれれば紅白にも行きます」と仰天案をブチ上げれば「俺は『PRIDE』から一銭も貰っていない」と際どい発言も残していたアントン総帥。ンムフフフ!

11月 November

■11日 中継局は日本テレビに決定!

視聴率不正操作で揺れる日本テレビの社内にて、**「スキャンダルの船に乗って出航します!」**とアントン総帥が宣誓! 今年の『猪木祭り』は日本テレビで中継されることが発表された。日本テレビは『猪木祭り』と**3年契約**を結び、今後も総合格闘技イベントに携わっていくこともあかされた。また、ミルコの代理人であるミロ・ミヤトビッチ氏から、ミルコの参戦が正式発表された。

■13日 新日本プロレス勢が参戦へ

アントン成田会見に、ドラゴン、蝶野など新日本勢がお見送りに現れ、**『猪木祭り』の協力と引き換えに、1月4日ドーム大会の協力を要請**。これが永田裕志の無謀な参戦に繋がっていく。

■18日 ミルコ「俺が出たいのは『PRIDE』」

ミロ・ミヤトビッチ氏から『猪木祭り』参戦が発表されていたミルコが、クロアチア現地のスポーツ新聞で「『猪木祭り』には出ない。大晦日は『PRIDE』に出たい」とコメントする。

■21日 ミルコvs高山決定!

すでに参戦が発表されていたミルコの相手に高山善廣、ジョシュ・バーネットvsセーム・シュルトのパンクラス無差別級選手権のカードが発表された。シュルトを独占契約しているDSEからレンタルする交渉はしていたが、何ら進展もないままカードを発表していたことが後に発覚する。

船木誠勝、武蔵がゲスト解説に起用された実況席。ミルコ戦が消滅した高山も登場した。

■27日 ノゲイラも参戦!?

アントン総帥が「ノゲイラはもともとは猪木軍! **会えば俺に挨拶するしね**」と、『PRIDE』暫定王者の参戦を匂わした。また、同大会で**永久電機の始動発表会**がありえることを激白する。

■28日 アントン、コミッショナー制度確立を提唱

前日には選手の"引き抜き"を匂わせていたアントン総帥だったが、この日は**「選手の取り合いになって、ファイトマネーが高騰して興行自体の危機になる恐れがある」**と、一致団結してのコミッショナー制度確立を提唱した。

12月 December

■3日 「セフォーじゃなくて■レコです!(汗)」

アントン総帥が関係者に言われるがままに「村上和成vsレイ・セフォー」を発表。しかし、**村上vsステファン・レコの大間違い**であり、関係者は訂正に奔走した。

末代まで語り継ぎたい!!

『猪木祭り』騒動史

『Dynamite!!』の瞬間視聴率が紅白を越えたり、『PRIDE男祭り』に主催者発表掛け値なしの観客が訪れたらしいが、ズバリ言ってそんなことは来年の今頃には誰もが忘れてます。連日に渡るドタバタを経て、曙vsサップの同時刻には視聴率0.2%を記録し、"やろうと思って決してやれない"ことを無意識にやってのけた『猪木祭り』のほうがよっぽど記憶に残る! そんな『猪木祭り』の流れを一挙に紹介、ズバリ言って試験に出るからすべて暗記するように!!

構成/ジャン斉藤　designed by matsu (Two Three)

■5日 ヒョードルまさかの電撃参戦!

『PRIDE』ヘビー級王者の参戦が発表される。**「まだまだ来ます」**(アントン)とさらなる引き抜きも示唆する。

■8日 「DSEとの契約問題はない」

『猪木祭り』の電撃参戦が発表されたヒョードルが「ロシアン・トップチーム」とマネジメントに信用問題が発生したため、レッドデビルに移籍したことがミロ・ミヤトビッチ氏より発表される。移籍したことで**「『PRIDE』との契約問題はない」**こともあかされる。

■9日 驚愕の『猪木祭り』誓約書!!

アントン総帥が8月7日に**「百瀬博教氏プロデュース以外で『猪木祭り』はやりません」**と書いた誓約書が『FLASH』誌上にて掲載される。

ド派手な王冠と衣装に身を包み、サンバの踊り子を従えノリノリで登場したアントン総帥!! 王冠と衣装の制作費が1億円というから仰天だ!!

■10日 DSE、ヒョードルとの契約書を公開

DSEの榊原代表がヒョードルサイン入りの契約書を公開。『猪木祭り』の引き抜き行為、同じくDSEが独占契約を交わしているシュルトの出場を勝手に発表したことに怒りを表し、2人の出場を認めない声明を出す。

■13日 DSEとヒョードルは未契約!?

DSEの抗議に対して、ミロ・ミヤトビッチ氏は**「ヒョードルはDSEとグッズ以外の契約書は何も交わしていない」**と反論する。

■15日 ミルコ、正式に『猪木祭り』不出場を宣言!

ミルコが公式HPにて『猪木祭り』欠場を正式表明。アメリカより帰国したアントン総帥は安田忠夫vsレネ・ローゼを発表するも、"ヒョードル問題"については**「俺に持ってこられても困る!」**と"触ってない"立場を主張した。

■17日 DSE、法的処置に動く

DSEが『猪木祭り』側にヒョードル問題の抗議文を送ったが、5日以内という回答期限を過ぎたため、法的処置に動くことをあきらかにする。『猪木祭り』側は**「話し合いをする用意はある」**と交渉での解決を要求した。

■18日 ドラゴン引退式が浮上

アントン総帥が「ばかやらう(※原文ママ)元気があれば、何でもできるという本当の意味が分かっているのか。俺は君の引退の時は、最高の幕引きを考えていたんだ。引退式はイノキボンバイエでやれ」と、ドラゴンに直筆メッセージを送った。

アントンvsドラゴンのエキシビジョンマッチも実現!! 絞め落とされたハズのアントンがムクと起きあがり、おなじみ「道」を朗読してドラゴン引退の華としたが……結局ドラゴン引退は撤回!

祭り』には出ない。大晦日は『PRI

■19日　ドラゴン、引退相手にアントンを指名！

アントン総帥から直筆メッセージを受けたドラゴンが「**あれから猪木さんから連絡はない**が、もし対決を受けてくれるならリングシューズとコスチュームを持っていく気持ちはある」と返答。しかし、引退するつもりが毛頭ないドラゴンは、当日リングシューズとコスチュームを持参せず。

■20日　永田vsヒョードルが浮上

モンゴルより帰国したアントン総帥が、朝昇龍の『猪木祭り』来場、朝昇龍の兄・スミヤバザルの出場を示唆する。また、永田裕志が噂されるヒョードル戦について「**総合のノウハウはミルコ戦のときよりは上がっている**」と意欲をみせた。

■21日　アントン〝逃げる〟!?

『猪木祭り』側が記者会見を開催。公式HPにて不出場を宣言したミルコについて、「負傷のため現状での出場は不明」と発表した。ヒョードル問題に関しては、改めて「**DSEはヒョードルと独占契約してない**」ことを主張。なお、出席するはずだった**アントン総帥は姿を現さず。会見は1時間も遅延したうえに3分で終了する。**

■22日　ヒョードルの欠場決定！

前日に「DSEとヒョードルは独占契約してない」との見解を述べた『猪木祭り』側が、「**DSEの契約書を読んだが問題点はクリアされていなかった**」と前言を翻し、ヒョードルが欠場することを発表する。会見に遅れて姿を現したアントン総帥は、いきなり「**伊藤！どこにいった！**」と猪木事務所関係者をなぜか怒鳴り散らし、「**（ヒョードルの欠場は）俺も怒ってるんですよ！　いっぺんにカードを出せばいいものを関係者が小出しにしてるところもあるから。ね？　ね？**」と関係者に同意を求め、再び〝触ってない〟立場を強調。また、DSEとの会談によりセーム・シュルトが予定通り出場。永田裕志の参戦が正式発表される。

■23日　永田vsノゲイラ浮上

永田裕志がノゲイラ兄との対戦をオファーされてることをあかす。『ゴング』にも対戦決定扱いで掲載されるが、ノゲイラと契約を結んでいるDSEの榊原代表は「**『猪木祭り』より希望として名前はあげられたが、そこから話は進んでいない**」と、まったくの白紙であることが強調される。ちなみに今回の大晦日報道で榊原代表は、主催する『PRIDE男祭り』より『猪木祭り』関連の発言の方が多かったりする。

■イズマイウ、来日中止？

春頃より『猪木祭り』参戦を勝手に宣言し、「**『猪木祭り』に出ないか？**」と、ブラジル各地で選手の**引き抜きに暗躍していたイズマイウ**が、関係者&選手とのトラブルが発生したため来日しない公算が強まる。

■24日　藤田の相手は元ボクシング世界王者!!

藤田和之の対戦相手に元WBO世界ヘビー級王者レイ・マーサーが決定したことが発表される。

■25日　ミルコ、ノゲイラの参戦問題先送り

アントン総帥が会場となる神戸ウイングスタジアムで会見を行った。この会見でミルコ、ノゲイラの参戦問題について発表されるはずだったが、発表されたのは辻結花の参戦のみ。アントン総帥は「**もうミルコが出ようと出まいと、誰が出ようと関係ねえやって！**」と開き直り、「**俺は何も聞いてない。ウチは31日までが勝負！**」と問題を先送りした。

■26日　ミルコ欠場を発表！

ミルコの欠場が発表される！　大会プロデューサーの川又氏は「ミルコは試合ができなくても、会場に来てコメントくらい出すのが礼儀。最悪の場合は法的手段も辞さず」と語った。同日、神戸を行脚していたアントン総帥は、「**ミヤトビッチがやっていたから、正直分からないし、よく知らない**」と〝触ってない〟立場を再び強調。宙に浮いた高山の相手には「『Dynamite!!』に出る**中邑がダブルヘッダーでやったら面白い**」と、『猪木祭り』参戦を唐突に呼び掛けた。また、大仁田厚が「**猪木さんを助けられるのはオレしかいない**」と、毎年恒例の『猪木祭り』殴り込みを宣言。来場が実現するも、アントン総帥と握手するだけという、弱火な結末を迎える。

会場入り口でDSE笹原広報との押し問答が恒例となっていた大仁田の『猪木祭り』殴り込み！　4年越しの夢が叶い、やっと足を踏み入れたのに派手なパフォーマンスは不発かよ！

■〝橋本〟違い!?

アリスター・オーフレイムと対戦するDDTの**橋本友彦**のデータ収集をした『猪木祭り』関係者が、なぜか『SRS・DX』で活躍していたフリーライター**橋本宗洋**に身長&体重を訊ねる電話を入れた。不審に思った橋本宗洋が確認を入れたところ〝**橋本違い**〟だったことが発覚する。また、カードが決定しない『猪木祭り』のドタバタに、日本テレビ社内では「ラーメン特集番組」との差し替えが検討されたといわれる。

■28日　ノゲイラ兄の出場は消滅

ヒョードルが関西空港に極秘来日をはたす。アントン総帥がノゲイラ兄の出場について「**当日までわからねえって言ったじゃないか！**」と話しながらも、参戦が見送られたことを示唆する。都内・渋谷の闘魂SHOPで行われた永田裕志のサイン会に、元・髙田道場の浜中和宏が訪問。「永田さんのセコンドにつきたい」要望を出し、永田が受諾する。対戦相手が決定してない永田は「明日、神戸に向かう。**そこで提示される相手によって、出るかどうかを決める**」としたが、ヒョードルが来日したこと伝え聞くと、「**引っ張り出そうかな？**」と実力行使も辞さない構えをみせたが、引っ張り出さない方が良かった結末を迎える。

■29日　ヒョードル問題再燃！

日本テレビ「ズームイン！朝」「午後は○○おもいッきりテレビ」に出演したアントン総帥が、一度は欠場を発表したヒョードルの参戦を電撃発表（フライング説が有力とされている）。DSEの榊原社長は「『PRIDE』の契約を優先しようと確認してある」と完全否定したが……。また、藤田和之の対戦相手レイ・マーサーが「**飛行機に乗る寸前、ルールのことでトラブルになり、急遽そのまま引き返した**」事態が発覚。

■30日

DSEの榊原代表が「ヒョードルは『PRIDE』との独占契約に戻す」「『猪木祭り』への参戦はレギュラーではなく、今回1試合限りの参戦」というこの二つを正式に『猪木祭り』側から発表するという条件で、ヒョードルの参戦を許可。しかし、『猪木祭り』側の会見ではまったく触れられず、榊原代表は「**向こうは自分たちに都合の悪いことはまったく発表しないし、インチキといってもいいくらい**」と激怒。また、ヒョードルと対戦する永田は「何て馬鹿なという**非常識な闘い方**をする。**チャンスがあればナガタロックⅡ**も仕掛ける」と宣言。試合では亀になったまま動かないという、馬鹿で非常識な闘い方をする。

■31日　『猪木祭り』無事開催

手配していたゴングが到着しないため大会開始が遅れる。結局、ゴングは大阪在住の三島☆ド根性ノ介に持ってきてもらい大会がスタート。大会パンフレットに、同日『PRIDE男祭り』に出場中の**小路晃の写真が掲載**され、「**交渉中の段階で掲載した**」ことが発覚する。

大会後に選手&関係者出席による打ち上げパーティーが行われた。今年の大晦日を待たずして、次回『猪木祭り』開催が噂されているが……どうなる!?

1月 January

■1日

ミルコ・クロコップが12月31日付けの書面で、ミロ・ミヤトビッチ氏に「もう貴殿は私の最大のライバル（ヒョードル）の代理人になったわけですから、これから先は当然利害の衝突が避けられません」とし、事実上の絶縁を宣言。ミロ氏は「私は見ていない。どんな内容なの？」と困惑。

■12日

アントン総帥が『猪木祭り』のラスベガス4月開催を宣言。出場選手については「**ミルコやヒョードル、サップなんかはアメリカでバリューが低い**」と斬り捨て、ケン・シャムロック、高山善廣の名前を出場候補に挙げた。

今年の大晦日まで、まだまだ続くぞ、たわけがっ!!

RADICAL PRESENT

「INOKI-BOM-BA-YE 2003」辻ちゃん、なにげにメイン獲得記念!!

INOKI-BOM-BA-YE

『猪木祭り』で着用した辻ちゃんマスクをゲット!!　地上波放送では藤田vsメイフィールドが締めたが、興行のメインイベンターは辻ちゃん!　寝技30秒ルールに苦しむも、超強豪キックボクサーのカリオピ・ゲイツィドゥを完封勝利!　おめでとう!　そしてマスクありがとう!

コレ

SIDE　FRONT

★辻ちゃんマスク　1名様

★弁当の包み紙&プレスパス
プレスパスは拾ったものです。これだけだとアレなので粗品も付けます。

2名様

INOKI BOM-BA-YE 2003
KOBE WING STADIUM
2003.12.31
馬鹿になれ夢をもて
LUNCH BOX

激レア!

PRESS/CAMERA

HUSTLE 1

驚愕の新イベント『ハッスル1』のメインで、ヤドカリ野郎のインチキレフェリングでオーちゃんにズル勝ちしたゴーバー。しかしその圧倒的な存在感はやっぱりWWEのスーパースター!　ゴーバーの2004年初サイン色紙と、サイン入りTシャツをプレゼント!
【DSE提供】[URL] http://www.so-net.ne.jp/pride/

★ダスティ・ローデスサイン色紙　1名様

★ハッスルスティック　¥600　1名様

ハッスル ハッスル

★ゴールドバーグサイン色紙　3名様

WWE Hustle 1! Jan 4, 2004

★泣き虫呼んでこいTシャツ
Black　¥3800
SIZE S / SIZE M / SIZE L / SIZE XL

★ドゥ・ザ・ハッスルTシャツ
Black　¥3800
SIZE S / SIZE M / SIZE L / SIZE XL

各1名様

泣き虫

ドゥ・ザ・ハッスル!!

BACK
ハッスルするぞ!!

GOLDBERG hustle!

Hustle 1

★ゴールドバーグ Tシャツ Ver.2
Black　¥4000（サイン入り）
SIZE S / SIZE M / SIZE L

3名様

RADICAL No.70 応募券

PRIDE

近藤というスターを誕生させた『PRIDE.男祭り』。新しい波が押し寄せる中、引退を決意したグッドリッジのサイン色紙をプレゼント! 【DSE提供】
[URL] http://www.so-net.ne.jp/pride

★ゲーリー・グッドリッジのサイン色紙

Thank you very much for the support over the years, and in taking me in as one of your own. I have always felt comfortable and at home in Japan. I hope my fans have enjoyed me as much as I have enjoyed my fans. Never forget
Gary "Big Daddy" Goodridge.

★男お守り (会場にて発売)
Blue&Red ¥1000

★シュートボクセステッカー
¥1000

★シュートボクセニットキャップ
Black ¥3500

★PRIDEニットキャップ
Black ¥3000

★MMAパーカー
Gray ¥7000
SIZE M / SIZE L / SIZE XL

★MMA Tシャツver2
White ¥3800
SIZE S / SIZE M / SIZE L / SIZE XL

各1名様

★PRIDE Tシャツ
White&Black ¥3800
SIZE S / SIZE M / SIZE L / SIZE XL

IWA

5名様

★プロレス 怪人の館
〜外人スーパースター伝説
3000円
四角いマットに絶叫を呼ぶ古今東西の怪奇派レスラー入場曲を集めた最恐のアルバム! ブラックハーツ、レザー、キマラ、ルーシファーなどIWAの怪人たちが大集結!! 【IWA提供】
[TEL] 03-3352-3366

SQUAT

1名様

★サスケパーカー
Black ¥11800
サスケマスクがフードにガッチリ刺繍された高級感溢れる逸品が仙台のスクワットから登場! みちのくに密航してでも手に入れるべきですよ!! 【スクワット提供】 [TEL] 022-264-8160

ZST

セットで1名様

★モリカビュチスTシャツ&ZST・GP決勝大会パンフレット
ZSTエセ四兄弟が全滅! 波乱の『ZST・GP決勝戦』パンフレットと、開幕戦で記者にばらまいてたモリカTシャツをセットでプレゼント!! 【モリカビュチス&ZST事務局提供】

GREAT ANTONIO

1名様

★ドン・フライTシャツ
¥4000
SIZE XS / SIZE M / SIZE L / SIZE XL
ドンさん(©北斗晶)御本人も大絶賛のドン・フライTシャツ登場! 引退するグッドリッジに敗北してしまったが、それでも闘うことを諦めないドンさんこそ男の中の男だ! 【グレートアントニオ提供】
[URL] http://www.great-antonio.jp/ [TEL] 03-3219-9550

JD STAR

かわいい選手が増殖中のJDスター。チョロさんに届いたJDスター2004年カレンダーを、すかさず読プレ担当・斎野がゲット!! 【JDスター提供】
[URL] http://www.jdstar.co.jp/

★JDスター2004年カレンダー
3名様

INSPIRE

驚きの超リアルグッズ登場! 最近元気のない魔界倶楽部。唯一のマスクマンとなった魔界1号の正体を、ドラゴンが「お前○○だろう!」とバラさないことを祈ろう

各1名様

★魔界倶楽部マスクキーホルダー
(1号、4号、5号、旧4号、旧5号)
[1/6スケール] 各¥1000 ©新日本プロレスリング
[TEL] 03-5629-3920 [URL] http://www.inspire.co.jp

★グレート・ムタヘッドキーホルダー
[1/6スケール] ¥1000 ©2003 LEG LOCK

★グレート・ムタフィギュア
[1/6スケール:約30cm] ¥8800
©2003 LEG LOCK

★武藤敬司フィギュア
[1/6スケール:約30cm] ¥8800
©2003 LEG LOCK

応募要項

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名 ③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦好きなレスラー
⑧『ハッスル1』について

【宛先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「うまいチキンはイン・ザ・リング」係まで
※締切は2004年2月24日(火)当日消印有効

BOOKS

5名様

★憎まれる生き方 悪玉
¥1500+税
『悪役(ザ・ヒール)』に続く尾崎魔弓の自叙伝第2弾。『紙プロRADICAL』No.67でも書評した、尾崎の美学が全開の衝撃本! 【出版文化社】

3名様

★ドクターストップ!
¥1500+税
K-1、PRIDEなど様々な大会のリングドクターを務める中山健児氏が明かす、ファイターたちの意外にして興味深いエピソード。格闘技ファン必見の1冊だ! 【BNN提供】

PAMPHLET

年末年始5大会のパンフレットをコンプリート! これさえあればややこしい興行戦争も一目瞭然。便利でお得なセットだ! 【編集部提供】

セットで1名様

★『INOKI BOM-BA-YE 2003』
★『K-1 Dynamite!!』
★『PRIDE 男祭り』
★新日本プロレス『WRESTLING WORLD 2004』
★『ハッスル1』

衣料部5周年記念!
『紙プロ』福袋絶賛発売中!

普段手に入らない非売品がいっぱい入ってこのお値段!

サイズ	価格
Sサイズ	¥3,000（限定20）
Mサイズ	残りわずか! ¥5,000（限定20）
Lサイズ	¥5,000 SOLD OUT（限定20）

※Sサイズは『紙プロ』グッズ総額1万円以上、M/Lサイズは総額2万円以上の商品が入ってます。

リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉
¥~~4,500~~ ➡ SALE ¥2,500 S or M or SOLD OUT

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or L or XL
残りわずか!

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L
残りわずか!

赤いキャップの頑固者Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL

ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈ホワイト〉
¥3,800 SOLD OUT or M or L or SOLD OUT

ハシフ・カーンパーカー『破不可』
¥6,000 SOLD OUT or SOLD OUT or XL
残りわずか!

Mr.フレッド『TWOOO』パーカー
¥6,000 M or L or SOLD OUT
残りわずか!

Kapraパーカー〈ネイビー〉
¥6,000 M or SOLD OUT

トートバック〈ブラックor ネイビー〉
¥1,500

ニット帽〈ブラックor ネイビー〉
¥1,500

ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉
¥3,000 XS or S or M or L or XL

マット・ガファリTシャツ〈キナリ〉
¥3,500 S or M or L or SOLD OUT

紙のプロレス RADICAL
No.70
2004年2月25日発行

No.71は
2月下旬発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎（ハッスルディーバにハッスルし過ぎて非番）

見習い
斉野政智

スーパーバイザー
吉田豪

助っ人
片山ボン
ジャイ子

電気部
ささきぃ
スモーノブ

アートディレクター
出田さん（TwoThree）

デザイン
ヒサくん
マツくん
タニやん
ブンちゃん
ノグッチー
しらき（以上TwoThree）

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上さおとめの事務所）

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島俊彦
福島勝儀

試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝

体調
プリン体・入江（TwoThree）

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

ロシアン・トップチームは死なず!!
“ロシア軍最強の男”をはじめ新戦力が続々来襲!!(予定)

セルゲイ・ハリトーノフ

『紙プロ』通販グッズは電話注文できます!!
TEL.03-3403-5142
【平日15:00〜22:00】

商品	価格	サイズ
ロシア『RTT』Tシャツ〈レッド〉	¥3,800	S or M or L or XL
ロシア『RTT』Tシャツ〈ホワイト〉	¥3,800	S or M or L or XL
ロシア『RTT』Tシャツ〈グレー〉	¥3,800	S or M or L or XL
ヒョードル『ラスト・エンペラー』Tシャツ〈ホワイト〉	¥3,800	S or M or L or XL
ヒョードル『ラスト・エンペラー』Tシャツ〈ブラック〉	¥3,800	S or M or L or XL
エメリヤーエンコ・ヒョードルTシャツ〈ホワイト〉	¥3,800	S or M or L or XL
エメリヤーエンコ・ヒョードルTシャツ〈ネイビー〉	¥3,800	S or M or L or XL
『ヒョードル』キーホルダー	¥1,200	
『ロシアン・トップチーム』キーホルダー	¥1,200	
ロシアン・トップチームTシャツ〈ホワイト〉 残りわずか!	¥3,800	S or M or L or XL
ロシアン・トップチームTシャツ〈レッド〉 残りわずか!	¥3,800	S or M or L or XL

『紙プロ』通販方法

★TPOにあわせて選べる通販方法
★消費税サービス
★全国どこでも送料一律500円(離島、山間部は除く)
★代引御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★通販は『紙プロHand』でも可能です。

代引
郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
まで送り下さい。
申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料一律¥500(何枚でも可。離島、山間部は除く)。代引手数料約¥315がかかります(代引金額によって異なります)。御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

現金書留
希望商品の代金+送料一律¥500(何枚でも可。離島、山間部は除く)を現金書留で
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
まで送り下さい。郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

郵便振替
希望商品の代金+送料一律¥500(何枚でも可。離島、山間部は除く)を郵便振替で送り下さい。
郵便振替の宛先は
00130-3-769154
(株)ダブルクロス
郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

電話注文もできます!!
平日15:00〜22:00
(株)ダブルクロス 03-3403-5142

通販完売商品は直販店にある!?
【『紙プロ』ウェア常備ショップ】★チャンピオン(TEL.03-3221-6237) ★東京イサミ(TEL.03-3352-4083) ★リングソウルZ神戸(TEL.078-393-3514) ★宮城・スクワット(TEL.022-264-8160) ★大阪・少年ジェッター(TEL.06-6541-3551) ★福岡天神ビブレGROUND COBRA(TEL.092-711-1021) ★三恵格闘技SHOP長崎(TEL.095-824-8658) ★三恵格闘技SHOP諫早(TEL.0957-22-4646) ★浜松市・Buddy(TEL.053-450-7888)

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK242
2004 NO. 70

何とでも言ってくれ!
俺たちはハッスルする!!

平成16年2月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社 定価：本体838円+税

皇帝閣下の新作あります。

エメリヤーエンコ・ヒョードル

The last emperor
Emelianenko Fedor

『PRIDE』HPで絶賛販売中!!
http://www.so-net.ne.jp/pride/
『紙プロHand』でも購入可能!!

大好評につき新アイテムが続々登場!!

NEW
BACK
ヒョードルSARU Tシャツ
Cream Yellow / ¥3,800 S or M or L or XL

NEW
ヒョードル・マグカップ
¥1,200

BACK
『RTT』パーカー
Charcoal Gray / ¥6,000 M or L or XL

BACK
ヒョードル・パーカー
Navy / ¥6,000 M or L or XL

【通販方法】世界最強の男のグッズはもちろん『紙プロ』通販でも買えますよ!!【電話注文もできます】(株)ダブルクロス　TEL.03-3403-5142（平日15:00〜22:00まで）

【代引き】郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールをkapra@kamipro.comまで送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）代引手数料約¥315がかかります。（代引金額によって異なります）。）御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

【現金書留】希望商品の代金+送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）を現金書留で〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロスまで送り下さい。郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を必ず表記してください。

【郵便振替】希望商品の代金+送料一律¥500（離島、山間部は除く）を郵便振替で送り下さい。郵便振替の宛先は00130-3-769154（株）ダブルクロス、郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を必ず表記してください。

9784898297223
ISBN4-89829-722-6
C9476 ¥838E
1929476008381
雑誌　69860—42

©DOUBLECROSS 2004 Printed in Japan

印刷：図書印刷株式会社